2023年度
大学院経営学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2023/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

凡例　その他属性

〈他〉：他学部公開科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ
〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

修士課程（昼間）授業科目【X7002】経営学基礎論［福島　英史］春学期授業/Spring 1
修士課程（昼間）授業科目【X7007】経営組織特論Ⅰ 春学期授業/Spring 2
修士課程（昼間）授業科目【X7008】経営組織特論Ⅱ 秋学期授業/Fall 3
修士課程（昼間）授業科目【X7010】人的資源管理特論Ⅱ ［藤本　真］秋学期授業/Fall 4
修士課程（昼間）授業科目【X7013】国際経営特論Ⅰ ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 6
修士課程（昼間）授業科目【X7014】国際経営特論Ⅱ ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 8
修士課程（昼間）授業科目【X7017】会計学入門春学期授業/Spring 10
修士課程（昼間）授業科目【X7018】財務会計論Ⅰ ［川島　健司］春学期授業/Spring 11
修士課程（昼間）授業科目【X7019】財務会計論Ⅱ ［川島　健司］秋学期授業/Fall 13
修士課程（昼間）授業科目【X7022】経営分析論Ⅰ ［福多　裕志］春学期授業/Spring 15
修士課程（昼間）授業科目【X7023】経営分析論Ⅱ ［福多　裕志］秋学期授業/Fall 17
修士課程（昼間）授業科目【X7024】財務諸表分析［髙橋　美穂子］春学期授業/Spring 19
修士課程（昼間）授業科目【X7025】管理会計特論Ⅰ ［福田　淳児］春学期授業/Spring 20
修士課程（昼間）授業科目【X7026】管理会計特論Ⅱ ［福田　淳児］秋学期授業/Fall 21
修士課程（昼間）授業科目【X7027】ミクロ経済論Ⅰ ［金澤　匡剛］春学期授業/Spring 23
修士課程（昼間）授業科目【X7028】ミクロ経済論Ⅱ ［金澤　匡剛］秋学期授業/Fall 25
修士課程（昼間）授業科目【X7031】組織経済学［奥西　好夫］春学期授業/Spring 27
修士課程（昼間）授業科目【X7034】ファイナンス入門［岸本　直樹］春学期授業/Spring 29
修士課程（昼間）授業科目【X7035】ポートフォリオ理論入門［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 31
修士課程（昼間）授業科目【X7036】デリバティブ入門Ⅰ ［山嵜　輝］春学期授業/Spring 33
修士課程（昼間）授業科目【X7037】デリバティブ入門Ⅱ ［山嵜　輝］秋学期授業/Fall 35
修士課程（昼間）授業科目【X7038】国際経済学Ⅰ ［髙橋　理香］春学期授業/Spring 37
修士課程（昼間）授業科目【X7039】国際経済学Ⅱ ［髙橋　理香］秋学期授業/Fall 39
修士課程（昼間）授業科目【X7040】国際金融論特論Ⅰ ［横内　正雄］春学期授業/Spring 41
修士課程（昼間）授業科目【X7041】国際金融論特論Ⅱ ［横内　正雄］秋学期授業/Fall 42
修士課程（昼間）授業科目【X7042】産業組織論Ⅰ ［大木　良子］春学期授業/Spring 43
修士課程（昼間）授業科目【X7043】産業組織論Ⅱ ［大木　良子］秋学期授業/Fall 45
修士課程（昼間）授業科目【X7044】日本経済特論Ⅰ ［平田　英明］春学期授業/Spring 47
修士課程（昼間）授業科目【X7045】日本経済特論Ⅱ ［平田　英明］秋学期授業/Fall 49
修士課程（昼間）授業科目【X7046】統計学Ⅰ ［猪狩　良介］春学期授業/Spring 51
修士課程（昼間）授業科目【X7047】統計学Ⅱ ［高橋　慎］秋学期授業/Fall 53
修士課程（昼間）授業科目【X7052】物流管理特論Ⅰ ［李　瑞雪］春学期授業/Spring 55
修士課程（昼間）授業科目【X7053】物流管理特論Ⅱ ［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 57
修士課程（昼間）授業科目【X7056】経営学演習Ⅰ ［吉田　健二］春学期授業/Spring 59
修士課程（昼間）授業科目【X7057】経営学演習Ⅱ ［吉田　健二］秋学期授業/Fall 60
修士課程（昼間）授業科目【X7058】経営学演習Ⅰ ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 61
修士課程（昼間）授業科目【X7059】経営学演習Ⅱ ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 62
修士課程（昼間）授業科目【X7060】経営学演習Ⅰ ［李　瑞雪］春学期授業/Spring 63
修士課程（昼間）授業科目【X7061】経営学演習Ⅱ ［李　瑞雪］秋学期授業/Fall 64
修士課程（昼間）授業科目【X7062】経営学演習Ⅰ ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 65
修士課程（昼間）授業科目【X7063】経営学演習Ⅱ ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 66
修士課程（昼間）授業科目【X7064】経営学演習Ⅰ ［長岡　健］春学期授業/Spring 67
修士課程（昼間）授業科目【X7065】経営学演習Ⅱ ［長岡　健］秋学期授業/Fall 68
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7066】企業家養成演習［金　容度］春学期授業/Spring 69
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7067】企業家養成演習［金　容度］秋学期授業/Fall 70

修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7068】企業家養成演習春学期授業/Spring 71
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7069】企業家養成演習秋学期授業/Fall 72
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7070】企業家養成演習［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 73
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7071】企業家養成演習［二階堂　行宣］秋学期授業/Fall 74
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7072】企業家養成演習［福島　英史］春学期授業/Spring 75
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7073】企業家養成演習［福島　英史］秋学期授業/Fall..... 76
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7074】企業家養成演習春学期授業/Spring 77
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7075】企業家養成演習秋学期授業/Fall 78
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7076】企業家養成演習春学期授業/Spring 79
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7077】企業家養成演習秋学期授業/Fall 80
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7600】企業家養成演習（代表シラバス）［福島　英史］春学期授業/Spring 81
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7601】企業家養成演習（代表シラバス）［福島　英史］秋学期授業/Fall 82
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7078】ワークショップ（企業家養成）［金　容度］春学期授業/Spring 83
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7079】企業家活動［稲垣　京輔］秋学期授業/Fall 85
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7080】企業家史［二階堂　行宣］春学期授業/Spring 87
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7081】経営史［韓　載香］秋学期授業/Fall..... 89
修士課程（夜間）授業科目_企業家養成コース【X7082】経営戦略論［吉田　健二］春学期授業/Spring 91
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7086】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］春学期授業/Spring 92
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7087】人材・組織マネジメント演習［西川　真規子］秋学期授業/Fall 93
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7088】人材・組織マネジメント演習春学期授業/Spring 94
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7089】人材・組織マネジメント演習秋学期授業/Fall 95
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7090】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］春学期授業/Spring 96
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7091】人材・組織マネジメント演習［長岡　健］秋学期授業/Fall..... 97
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7092】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］春学期授業/Spring 98
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7093】人材・組織マネジメント演習［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 100
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7094】人材・組織マネジメント演習［岸　眞理子］春学期授業/Spring 102
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7095】人材・組織マネジメント演習［岸　眞理子］秋学期授業/Fall 103
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7096】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 104
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7097】人材・組織マネジメント演習［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 105
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7098】人材・組織マネジメント演習春学期授業/Spring 106
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7099】人材・組織マネジメント演習秋学期授業/Fall 107
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7100】人材・組織マネジメント演習春学期授業/Spring 108
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7101】人材・組織マネジメント演習秋学期授業/Fall 109
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7602】人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 110
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7603】人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）［佐野　嘉秀］秋学期授業/Fall 111
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7102】ワークショップ（人材・組織マネジメント）［長岡　健］秋学期授業/Fall 112
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7103】人的資源管理論［佐野　嘉秀］春学期授業/Spring 114
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7104】キャリアマネジメント論［小川　憲彦］春学期授業/Spring..... 116
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7105】人事制度論［奥西　好夫］春学期授業/Spring 118
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7106】労働市場論［藤本　真］春学期授業/Spring . 119
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7107】労使コミュニケーション論［呉　学殊］秋学期授業/Fall 121

修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7109】組織行動論［西川　真規子］秋学期授業/Fall　123
修士課程（夜間）授業科目_人材・組織マネジメントコース【X7110】経営情報論［岸　眞理子］秋学期授業/Fall . .　124
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7113】マーケティング演習［西川　英彦］春学期授業/Spring　125
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7114】マーケティング演習［西川　英彦］秋学期授業/Fall . .　126
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7115】マーケティング演習［田路　則子］春学期授業/Spring　127
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7116】マーケティング演習［田路　則子］秋学期授業/Fall . .　128
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7117】マーケティング演習［木村　純子］春学期授業/Spring　129
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7118】マーケティング演習［木村　純子］秋学期授業/Fall . .　130
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7119】マーケティング演習春学期授業/Spring.....　131
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7120】マーケティング演習秋学期授業/Fall.....　132
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7121】マーケティング演習［長谷川　翔平］春学期授業/Spring　133
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7122】マーケティング演習［長谷川　翔平］秋学期授業/Fall　134
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7123】マーケティング演習［猪狩　良介］春学期授業/Spring　135
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7124】マーケティング演習［猪狩　良介］秋学期授業/Fall . .　136
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7125】マーケティング演習［竹内　淑恵］春学期授業/Spring　137
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7126】マーケティング演習［竹内　淑恵］秋学期授業/Fall . .　138
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7127】マーケティング演習春学期授業/Spring.....　139
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7128】マーケティング演習秋学期授業/Fall.....　140
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7604】マーケティング演習（代表シラバス）［田路　則子］春学期授業/Spring.....　141
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7605】マーケティング演習（代表シラバス）［田路　則子］秋学期授業/Fall.....　142
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7129】ワークショップ（マーケティング）［朝岡　崇史］秋学期授業/Fall.....　143
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7130】マーケティング論［竹内　淑恵］春学期授業/Spring .　145
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7131】消費者行動論［新倉　貴士］秋学期授業/Fall.....　147
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7132】マーケティング・リサーチ論［西川　英彦］春学期授業/Spring.....　149
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7133】製品開発論［田路　則子］春学期授業/Spring.....　151
修士課程（夜間）授業科目_マーケティングコース【X7136】流通システム論［木島　豊希］春学期授業/Spring ...　153
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7140】アカウンティング･ファイナンス演習［髙橋　美穂子］春学期授業/Spring.....　155
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7141】アカウンティング･ファイナンス演習［髙橋　美穂子］秋学期授業/Fall.....　157
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7142】アカウンティング･ファイナンス演習春学期授業/Spring.....　158
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7143】アカウンティング･ファイナンス演習秋学期授業/Fall.....　159
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7144】アカウンティング･ファイナンス演習春学期授業/Spring.....　160
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7145】アカウンティング･ファイナンス演習秋学期授業/Fall.....　161
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7146】アカウンティング･ファイナンス演習春学期授業/Spring.....　162
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7147】アカウンティング･ファイナンス演習秋学期授業/Fall.....　163
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7149】管理会計論［福田　淳児］秋学期授業/Fall.....　164
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7150】財務会計論［倉田　幸路］春学期授業/Spring.....　166
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7151】税務会計論［金子　友裕］秋学期授業/Fall.....　168
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7152】会計情報論［坂上　学］春学期授業/Spring　169
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7153】経営分析［福多　裕志］春学期授業/Spring　171
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7155】基礎ファイナンス［山嵜　輝］春学期授業/Spring.....　172

修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7156】実証ファイナンス入門［金　璿晋］秋学期授業/Fall 174
修士課程（夜間）授業科目_アカウンティング・ファイナンスコース【X7159】コーポレート・ファイナンス［岸本　直樹］秋学期授業/Fall 175
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7160】経営学基礎［福島　英史］春学期授業/Spring 176
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7161】会計学基礎［川島　健司］春学期授業/Spring 177
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7164】情報学特論［児玉　靖司］秋学期後半/Fall(2nd half) 179
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7167】統計データ解析［猪狩　良介］秋学期授業/Fall 180
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7170】国際経営論［洞口　治夫］秋学期授業/Fall 182
修士課程（夜間）授業科目_コース共通【X7173】地域経済研究（アジア）［苑　志佳］春学期授業/Spring 185
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7401】博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 187
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7402】博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 188
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7403】博士演習ⅡＡ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 189
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7404】博士演習ⅡＢ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 191
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7405】博士演習ⅢＡ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 193
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7406】博士演習ⅢＢ（シラバス用代表コード）［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 194
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7410】博士演習ＩＡ［坂上　学］春学期授業/Spring 196
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7411】博士演習ＩＢ［坂上　学］秋学期授業/Fall 197
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7412】博士演習ＩＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 198
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7413】博士演習ＩＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 199
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7414】博士演習ＩＡ春学期授業/Spring 200
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7415】博士演習ＩＢ秋学期授業/Fall 201
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7421】博士演習ⅡＡ［坂上　学］春学期授業/Spring 202
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7422】博士演習ⅡＢ［坂上　学］秋学期授業/Fall 203
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7423】博士演習ⅡＡ［北田　皓嗣］春学期授業/Spring 204
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7424】博士演習ⅡＢ［北田　皓嗣］秋学期授業/Fall 205
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7425】博士演習ⅡＡ春学期授業/Spring 206
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7426】博士演習ⅡＢ秋学期授業/Fall 207
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7430】博士演習ⅢＡ［長岡　健］春学期授業/Spring 208
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7431】博士演習ⅢＢ［長岡　健］秋学期授業/Fall 209
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7432】博士演習ⅢＡ［金　璿晋］春学期授業/Spring 211
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7433】博士演習ⅢＢ［金　璿晋］秋学期授業/Fall 212
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7434】博士演習ⅢＡ［田路　則子］春学期授業/Spring 214
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7435】博士演習ⅢＢ［田路　則子］秋学期授業/Fall 215
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7436】博士演習ⅢＡ［新倉　貴士］春学期授業/Spring 216
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7437】博士演習ⅢＢ［新倉　貴士］秋学期授業/Fall 217
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7438】博士演習ⅢＡ［安藤　直紀］春学期授業/Spring 218
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7439】博士演習ⅢＢ［安藤　直紀］秋学期授業/Fall 220
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7440】博士演習ⅢＡ［西川　英彦］春学期授業/Spring 222
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7441】博士演習ⅢＢ［西川　英彦］秋学期授業/Fall 223
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7442】博士演習ⅢＡ［小川　憲彦］春学期授業/Spring 225
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7443】博士演習ⅢＢ［小川　憲彦］秋学期授業/Fall 226
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7444】博士演習ⅢＡ春学期授業/Spring 227
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7445】博士演習ⅢＢ秋学期授業/Fall 228
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7446】博士演習ⅢＡ春学期授業/Spring 229
博士後期課程授業科目_論文指導科目【X7447】博士演習ⅢＢ秋学期授業/Fall 230
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7450】博士コースワークショップＩＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 231
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7451】博士コースワークショップＩＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 233

博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7452】博士コースワークショップⅡＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 235
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7453】博士コースワークショップⅡＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 237
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7454】博士コースワークショップⅢＡ［経営学専攻　専任教員］春学期授業/Spring 239
博士後期課程授業科目_選択必修科目【X7455】博士コースワークショップⅢＢ［経営学専攻　専任教員］秋学期授業/Fall 241

MAN500F1 － 0187

経営学基礎論

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，修士論文・リサーチペーパーを翌年に書くための準備として関連する経営学研究の基礎的な知識を習得し，論文の読み方（基本的な構成・各研究の問題設定・方法・結論・研究間の関係）を学ぶことにあります。経営学は幅広い研究領域を持ちますが，本年度は，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマに据えます。

【到達目標】
一般に，修士課程学生は大きな問題意識・志はあるものの，論文・リサーチペーパーとしてのフォーカス・問題設定に時間がかかる傾向にあると思われます。そこで先人達の問題設定と答えを見ていくことで，自分の論文の位置づけ，論文構成イメージを構築できることが到達目標です。基礎的な経営学研究を現代の経営問題につなげて考えられることが，期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では研究の基礎となる文献（英語または日本語の論文等）の輪読を行います。受講者全員が，文献を読んでレジュメを準備します。人数によってはレポーター制とします。レジュメには内容の要約とディスカッション・ポイントをまとめていただき，授業ではこれらについて議論します。概念と現実の往復を念頭に，現象面の関心事にひき付けて理解し，議論します。教員のコメントや解説が行われます。できれば Academy of Management Journal や Strategic Management Journal などの定評ある論文を読みたいと考えます。受講生の関心と学力に応じて調整します。以下に，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマとした授業計画を示します。各トピックスはそれ自体修士論文・リサーチペーパーのテーマになるような研究の広がりを持ちます。文献・論文は受講者の関心も聞いた上で決定したいため，第１回目の授業に必ず参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	問題意識の共有と文献の選定
第 2 回	新規事業開発	内部開発と買収
第 3 回	ドミナントロジック	経営層の信念
第 4 回	多角化戦略	多様化と収益性
第 5 回	アンビデクスタリティ	イノベーションのための組織
第 6 回	探索と活用	組織学習
第 7 回	垂直統合と水平分業	事業の範囲
第 8 回	イノベーションとステークホルダー	資源依存アプローチ
第 9 回	イノベーションと認知	資源能力と分業構造
第 10 回	イノベーションと補完的資産	市場地位への影響
第 11 回	資源戦略論・動的企業能力	広義のシナジー効果
第 12 回	オープンイノベーション	ＣＶＣ・スピンオフ
第 13 回	事業プラットフォーム	多面市場・競争と協調
第 14 回	まとめ，最終課題	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
議論する論文を事前に読み，レジュメにおいて，要約を書き，疑問点や問題点を明確にしておきます。準備学習に 4 時間・復習に 1 時間を要します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。教材として論文を輪読します。

【参考書】
イノベーションと戦略に関する基本的な知識を補いたい場合は，以下のテキストをご参照下さい。
Grant, R. M. 2016. Contemporary Strategy Analysis, 9th ed., Wiley.（加瀬公男監訳『現代戦略分析第２版』中央経済社, 2019）
Burgelman. R. Christensen. C. Wheelwright S. 2008. Strategic Management of Technology and Innovation, 5th ed., McGraw-Hill.（青島矢一監修『技術とイノベーションの戦略的マネジメント 上下』翔泳社, 2007）

【成績評価の方法と基準】
レジュメの評価（35 %），授業中の発言（35 %），最終課題（30 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時，ディスカッション時間をしっかりとります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに，急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は，予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合，fksmhs@gmail.com へご相談ください.

【担当教員の専門分野】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on business administration. We focus on the management of innovation and strategies. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of innovation and strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be five hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on regular assignments (35%), in-class contribution (35%) and
semester-end assignment (30%).

MAN500F1 － 0149

経営組織特論Ⅰ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN500F1 － 0150

経営組織特論Ⅱ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN500F1 － 0152

人的資源管理特論Ⅱ

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の企業が実践する人的資源管理の基本的な考え方を学び、その特殊性（海外の企業及び制度との国際比較）について議論していきます。
取り上げるテーマは、人材の募集・採用、人材の配置・異動、評価・賃金制度、能力開発、労働時間管理、労使関係管理、人材の多様化管理（非正規化・国際化）、退職・解雇などです。これらの領域について現状と歴史、主要な議論を把握するとともに、参加者は、各領域に対応するケースや論文を取りまとめ、その構造や課題について報告・議論します。
こうした学習活動を通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人的資源管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としています。

【到達目標】
①人的資源管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。
②人的資源管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。
③そのうえで、日本企業における人的資源管理の特殊性について理解・評価する。
④身近な人的資源管理の事例について考察する視点を得る。
⑤人的資源管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。
⑥修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．授業は、①人的資源管理の各領域に関する基本的な考え方や、議論の動向についての講義と、②参加者による課題についての報告・ディスカッション、とを組み合わせて進める予定です。毎回、講義形式の部分に加えて、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・議論の準備が課題となります。
３．およそのスケジュールは授業計画のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明
第２回	オリエンテーション	参加者の問題関心の共有と、人的資源管理の基本枠組みについての説明
第３回	採用のマネジメント	採用の目的、採用管理の基本、新卒採用・中途採用の意義、採用と定着
第４回	配置と異動	配置・異動の目的、初任配置、企業を超えた配転
第５回	昇進と昇格	昇進管理の目的、昇進における「選抜」「育成」「動機づけ」の関係、社員の格付け、昇格と昇進
第６回	多様な雇用・就業形態の活用	正社員以外の雇用・就業形態で働く人々の配置と処遇、「同一労働・同一賃金」に向けた取り組み
第７回	働く時間のマネジメント	労働時間管理の基本的枠組み、長時間労働・「サービス残業」の背景、ワーク・ライフ・バランス
第８回	仕事ぶりの評価	人事評価の目的・方法、様々な評価要素（コンピテンシーなど）、人事評価に伴う課題
第９回	賃金管理（１）－賃金決定と福利厚生の枠組み－	賃金の基本的な枠組み、賃金がもつ機能、賃金の総額管理と個別賃金管理、福利厚生
第10回	賃金管理（２）－様々な給与形態－	「年功主義的」賃金の成立過程と課題、近年における評価・賃金制度の模索と課題
第11回	能力開発とキャリア形成のマネジメント（１）	仕事上の能力開発の目的、能力開発の方法、能力開発とキャリア形成・管理
第12回	能力開発とキャリア形成のマネジメント（２）	配置・異動とキャリア形成、「新しい」異動の仕組みと課題、「キャリア自律」に向けた取組み
第13回	女性の仕事とキャリア形成	女性の採用・配置・処遇の現状、性別職域分離とその解消に向けた取組み
第14回	退職のマネジメント	退職管理、早期退職優遇制度、定年制、「70 歳までの雇用・就業」に向けての取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各１時間を標準とします。
各回の事前に配布する講義用のレジュメを熟読しておくこと。特に、留学生の参加者は、自国の制度・実態との差異と今後の課題について、意見・議論できるように準備しておくこと。
また、各回で発表の指名を受けた参加者は、発表課題について内容をまとめたレジュメを作成しておくこと。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。各回の授業の前に、講義で用いるレジュメを配布します。

【参考書】
各回のテーマによって、以下の文献を参考文献として使用します。
①今野浩一郎、佐藤博樹 [2020]『人事管理入門（第３版）』，日本経済新聞社.
②佐藤博樹、藤村博之、八代充史 [2019]『新しい人事労務管理（第６版）』，有斐閣.
③平野光俊、江夏幾多郎 [2018]『人事管理～人と企業，ともに活きるために』，有斐閣ストゥディア.
④守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著 [2018]『価値創発 (EVP) 時代の人的資源管理』，ミネルヴァ書房.
⑤八代充史 [2019]『人的資源管理論～理論と制度 (第３版)』，中央経済社.
⑥上林千恵子編著 [2012]『よくわかる産業社会学』，ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】
１．第２回以降の出席を「授業における学習姿勢」として評価 (40%)
２．報告の担当回での報告内容の評価 (30%)
３．授業における議論への参加の評価：内容、積極性を評価 (30%)
以上の３項目を総合して、最終的な評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
１．人的資源管理とは、「①社会環境上の、または組織における様々な制約条件のもと、②人材と仕事・役割をマッチングしつつ、③個々の人材がパフォーマンスを発揮できるように取り組み、④組織としてのパフォーマンスを挙げる」ための営みと、捉えることができます。授業の中では、各回のテーマに沿う形で、この①～④の要素についての理解が進むように、講義で話題提供と問題提起を行い、報告・ディスカッションを通じて、検討を行っていきます。
２．この授業は、海外から進学してきた大学院生が多く履修しているため、日本企業の人的資源管理についての理解を深めるとともに、海外企業と日本企業との共通点や違いがなぜ生まれるのかについて、考察できる機会にしていきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理

②中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
③転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
④能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
＜主要研究業績＞
（書籍）
○労働政策研究・研修機構編 [2012]『中小企業における人材育成・能力開発』(共著), 労働政策研究・研修機構.
○藤本真・佐野嘉秀・高見具広・山口塁 [2017]『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』, 労働政策研究・研修機構.
○梅崎修・池田心豪・藤本真編著 [2019]『労働・職場調査ガイドブック』, 中央経済社.
○藤本真・田中秀樹・清原悠［2022］『ミドルエイジ層の転職と能力開発・キャリア形成』, 労働政策研究・研修機構.
（論文）
○藤本真・大木栄一 [2010]「ものづくり現場における技能者育成方法の変化―「OJT 中心・Off-JT 補完型」から「OJT・Off-JT 併用型」へ」, 日本労働研究雑誌 No.595.
○藤本真 [2011]「60 歳以降の勤続をめぐる実態―企業による継続雇用の取組みと高齢労働者の意識・行動」, 日本労働研究雑誌 No.616.
○藤本真 [2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」, 日本労働研究雑誌 No.691.

【Outline (in English)】
【Outline】
Students will learn the basic concept of human resource management practiced by Japanese companies and discuss their characteristics through international comparison with overseas companies and systems.
The topics covered in this class are recruitment, placement/transfer, evaluation, wage system, human resource development, working time management, industrial relations, diversification of human resources, retirement, and so on. Participants are required to understand the main issues on these topics, and to report and discuss examples and papers corresponding to each topic.
Through these learning activities, the goal is for participants to acquire the ability to think about the current status and issues of human resource management.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do the followings:
(1) To understand the breadth of the subject area of human resource management theory and its basic concepts.
(2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management.
(3) To understand and evaluate the particularities of human resource management in Japanese companies.
(4) To gain a perspective from which to examine familiar human resource management case studies.
(5) To gain a viewpoint from which to critically examine papers related to human resource management.
(6) To obtain hints for research themes for master's thesis.
【Learning activities outside of classroom)】
Before each class meeting, students are expected to do the followings. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
(1) Students are expected to read carefully the lecture resume distributed in advance.
(2) International students should be prepared to discuss the differences between the system and the actual situation in their home countries and the future issues.
(3) Participants who are appointed to give a presentation in each session should prepare a resume summarizing the contents of the presentation topic.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports: 30% and in-class contribution ： 70%.

MAN500F1 － 0155

国際経営特論Ⅰ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、リアルタイムオンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出と E メールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	講義概要とオリエンテーション
2	Methodology	社会科学の研究方法の検討
3	The environment of international business (1)	制度的環境に関する検討
4	The environment of international business (2)	文化的環境に関する検討
5	Institutional theory	制度理論の検討
6	Emerging economies	新興経済における制度の検討
7	FDI	FDI の現状と類型に関する検討
8	Theory on internationalization	企業の FDI を説明する理論に関する検討
9	Strategies of MNEs(1)	Global strategy に関する検討
10	Strategies of MNEs(2)	Multidomestic strategy に関する検討
11	Emerging economies' MNEs	新興国を本国とする多国籍企業に関する検討
12	Internationalization and the performance of MNEs	多国籍企業の国際化の程度とパフォーマンスとの関係に関する検討
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（１）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1 回　学部で学習したことを復習する
2 回　社会科学の方法論に関して調査する
3-4 回　多国籍企業が海外で直面する制度的、文化的環境を調査する
5 回　Institutional theory に関して調査する
6 回　多国籍企業が新興国で直面する制度的環境に関して調査する
7-8 回　FDI の理論に関して調査する
9-10 回　多国籍企業の戦略の類型に関して調査する
11 回　新興国を本国とする多国籍企業に関して調査する
12 回　国際化の程度が多国籍企業の業績に与える影響を調査する
13-14 回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., & Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. In press. International Business Review. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies. This course introduces students to traditional and new research topics in international business studies. They will learn key concepts and frameworks of international business studies and theories behind them.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies. Students will gain a better understanding of primary research topics in international business studies. They will also understand theories used in international business studies and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to develop hypotheses of and analyze firms' success and failure in foreign countries, applying theories of international business.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1 － 0156

国際経営特論Ⅱ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本国で競争力のある企業が、必ずしも海外で成功するとは限りません。本国と外国とのさまざまな違いが、本国における成功要因の有効性を下げてしまうことが理由として考えられます。それでは企業は外国でどのように競争したらよいのでしょうか。これが国際経営の主要な研究課題です。本講義では、国際経営において伝統的に重要な研究領域、および近年注目されている研究領域を概観します。学生は、国際経営における重要なトピックを、経営学で頻繁に適用される理論と関連させながら学びます。

【到達目標】
１．国際経営における主要な研究分野で、どのようなトピックが近年研究されているのかを理解し、各トピックに関する知識を深めます。
２．国際経営の研究に活用される主要な理論を理解し、自らの研究に活用できるようになります。
３．国際経営の研究方法を理解し、理論を活用して仮説構築や事例分析ができるようになります。
４．国際経営に関する論文を読むスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義の授業形態は、対面形式とします。内容により、一部、リアルタイムオンラインでも行います。オンライン授業への参加方法は、学習支援システム（Hoppii）内でお知らせします。
授業計画に示したトピックについて、ます基本的な事項（理論や研究動向など）を講義します。その後、トピックに関連した課題やディスカッションを行います。また、トピックに関連した調査を行い、報告を行います。
学期の中盤にプロジェクトの課題を提示します。課題について各自研究を行い、研究成果のプレゼンテーションを行います。
課題の提出等は学習支援システムを通した提出と E メールによる提出を併用します。課題や質問、意見等に対するフィードバックは、適宜講義内で行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Entry mode(1)	参入方式の類型の検討
2	Entry mode(2)	参入方式の選択の検討
3	Transaction cost theory	取引費用理論の検討
4	Intraregional diversification(1)	多国籍企業の地域内拡大に関する検討
5	Intraregional diversification(2)	多国籍企業の地域内拡大とパフォーマンスの関係に関する検討
6	International HRM	海外子会社の人材戦略の検討
7	Agency theory	Agency theory と海外子会社の人材配置に関する検討
8	Localization	海外子会社の人材現地化の効果に関する検討
9	Language barriers	多国籍企業が直面する言葉の壁の検討
10	International alliance(1)	国際戦略的提携の締結に関する検討
11	International alliance(2)	国際戦略的提携のマネジメントに関する検討
12	International alliance(3)	国際戦略的提携のリスクに関する検討
13	Presentation(1)	プロジェクトの成果発表（１）
14	Presentation(2)	プロジェクトの成果発表（２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間外に、資料を読んだり、課題に取り組んだり、プレゼンテーションの準備をしたりすることが求められます。
講義のための準備・復習時間は、各回４時間を標準とします。
下記に取り組むと、講義の理解が深まると思います。
1-2 回　エントリー・モードに関して調査する
3 回　取引費用理論に関して調査する
4-5 回　多国籍企業の地域内拡大に関して調査する
6 回　国際人材戦略に関して調査する
7 回　Agency theory に関して調査する
8 回　人材の現地化に関して調査する
9 回　多国籍企業における言語の役割に関して調査する
10-12 回　国際戦略的提携に関して調査する
13-14 回　プロジェクトの成果発表の準備をする

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない予定です。詳細は、最初の講義で指示します。

【参考書】
下記に参考書を示しますが、より新しい版が出版されているものもあります。
Cavusgil, S.T., Knight, G. & Riesenberger, J.R.2008. International Business: The New Realities (2nd ed.). Prentice Hall: NJ.
Cullen, J.B. & Parboteeah, K.P. 2008. Multinational Management: A Strategic Approach. South-Western: OH.
Collinson, S., Narula, R., & Rugman, A.M. 2020. International Business. Pearson Education: Harlow, UK.
Peng M. & Meyer, K. 2019. International Business (3rd ed.). Cengage: UK.
Shenkar, O. & Luo, Y. 2008. International Business (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
下記の比率で評価します。
プロジェクト：６０％
クラスへの貢献：４０％
プロジェクトの評価には、ペーパー自体と、ペーパーに関するプレゼンテーションの評価を含みます。
クラスへの貢献には、課題の準備、課題に関する報告、ディスカッションへの貢献等を含みます。クラスへの貢献に含まれる課題は、プロジェクトとは別の、講義内で提示される課題です。

【学生の意見等からの気づき】
理論と関連したケースをより多く紹介します。
ケース分析及びディスカッションに配分する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインによる講義を受講可能な情報機器が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. In press. International Business Review. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)

Firms that are competitive in their home country often fail overseas. This is partially because the environment of the host country, which is different from that of the home country, reduces the value of their firm-specific advantages. How should firms compete overseas? This is a primary research agenda in international business studies. This course introduces students to traditional and new research topics in international business studies. They will learn key concepts and frameworks of international business studies and theories behind them.
(Learning objectives)
The goal of this course is to understand basics of international business studies. Students will gain a better understanding of primary research topics in international business studies. They will also understand theories used in international business studies and build skills to read academic papers. At the end of this course, students are expected to improve an ability to develop hypotheses of and analyze firms' success and failure in foreign countries, applying theories of international business.
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to read materials, complete assignments, and prepare for presentations and discussions. Time for preparatory study and review will be at least 4 hours for each class.
(Grading Criteria/Policies)
Students will be evaluated on a term project (60%) and in-class contribution (40%).

MAN500F1 － 0127

会計学入門

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN500F1 － 0128

財務会計論Ⅰ

川島　健司

備考（履修条件等）：**学部主催「財務会計論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に学習する。財務会計の学習では、財務諸表の「作り方」と「読み方」を同時に学ぶことが効率的であり、本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して、財務会計の実務を理解することを目指す。

財務諸表の作り方の視点を通じては、基本的な会計原則と会計基準を解説する。これには、財務会計の目的と機能、複式簿記の原理、利益計算の考え方、会計規制の考え方、資産評価の考え方、会計情報の質的特性、資産・負債・収益・費用の各概念に関する財務会計の議論などが含まれる。時間の制約上、授業内で各項目について詳細に学ぶことには限界があるが、各項目間の関係性を理解し、財務会計の体系全体を俯瞰することを目標にする。

財務諸表の読み方の視点を通じては、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を解説し、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について講義する。近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生は実際に投資家の視点で財務諸表を読む経験を通じて、財務会計情報の特性や限界について考察することを目指す。

【到達目標】

①各取引をどのように会計処理すべきかについて会計に関する語彙（概念）を用いて考察する力、さらにはそれを他者に対して説明する力を習得する。
②日本の会計基準、および IFRS（国際財務報告基準）を読解することに必要な基礎概念について理解する。
③会計数値の背後にある財務諸表作成者の意図を読み解く力を習得する。
④財務諸表（英文財務諸表を含む）から企業実態を推論する力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的にオンラインによるオンデマンド方式で行う。

【各回の授業構成】

各回とも授業は前半と後半に分割する。前半では財務会計の制度・理論・歴史について解説する。簿記や会計というと技術的・制度的な印象を強くもたれがちだが、本講義ではこれらの側面を踏まえながらも、さらに各取引内容の理解とその会計処理の背後にある理論的根拠や歴史的経緯に触れながら講義を進める。

後半では実際の公表財務諸表を用いて会計処理や企業実態の様子を観察・分析する。財務会計の制度と理論にもとづいて、それらを企業が実際にどのように適用して財務諸表を作成しているかを観察する。また、主要な財務指標を解説したうえで、財務諸表から企業実態を推論・分析する。とくに、公表された財務数値が企業によってどのように作られ、そこにそこからどのような企業の意図が読み取れるかを分析することに主眼を置く。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率 (ROE)、1 株当たり当期純利益 (EPS)、時価簿価比率 (PBR)、経済的付加価値 (EVA)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	財務会計とは何か、どのように学ぶか	講義全体の学習内容と講義計画を説明。会計システムの構造を解説し、財務会計の主な論点を認識する。
2	起業ストーリーⅠ：会社の創業	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が創業する時点のケースから理解を深める。
3	会社経営と財政状態	財政状態の意味と記録法を説明する。また、財務会計の目的と役割を明確化し、利害調整と情報提供という目的観を併せて解説。
4	収支計算と損益計算	日常でも実践される収支計算と、営利企業で行われる損益計算について、両者の相違に焦点をあてながら解説。
5	複式簿記の方法	複式簿記の原理を理解した上で、簿記一巡の手続きについて解説。
6	複式簿記の実践	実際の会社の取引に基づいて、簿記一巡の手続きを実践する。
7	起業ストーリーⅡ：会社の拡大	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が事業拡大するケースから理解を深める。
8	利益計算の会計	損益法と財産法の特性を考察する。収益・費用の認識基準について、現金主義と発生主義を対比させながら解説。
9	資産の会計	資産の認識・測定・開示の方法について解説する。
10	負債と資本の会計	負債と資本の認識・測定・開示の方法について解説する。
11	会計学の実践	実際の会社の取引にもとづき、会計学の考察法に基づいて会計処理を実践する。
12	簿記・会計の発展史	明治期から現在に至る日本の簿記・会計の歩みを概観する。
13	CFO との対話実践	経営者を招き、簿記・会計の知識にもとづいた対話を実践する。
14	簿記・会計の学びの先へ	簿記・会計の知識をいかに発展・活用していくかについて解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

企業の IR 資料を教材として活用する。受講生は各自、企業のホームページから教材として指定された書類を入手・持参すること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年.

※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2022 年 4 月現在の最新版.
2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2022 年 4 月現在の最新版.
3 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993 年.

4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第9版, 中央経済社, 2015 年. 同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』 第 9 版, 中央経済社, 2015 年.
5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版, 白桃書房, 2010 年.
6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社, 2008 年.
7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
以下の 4 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。
①授業動画の視聴状況（10 %）
②各回の確認テスト（40 %）
③各回の課題作文（30 %）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
④指定教科書の書き込み状況（20 %）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があり、対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】
・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくとよい。未学習の受講生には、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第 202 巻, 第 1 号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第 198 巻, 第 6 号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.
Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.
With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.
The goals of this lecture are as follows.
(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.
The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)
(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN500F1 － 0129

財務会計論Ⅱ

川島　健司

備考（履修条件等）：**学部主催「財務会計論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務会計の制度・理論とその活用方法を体系的に学習する。本講義では財務諸表の作り手と読み手の双方の視点を通して財務会計の実務を理解することを目指すが、この財務会計論Ⅱでは特に後者の視点を通じて、代替的な会計処理の手続きの種類とその選択に関する財務諸表作成者の動機のパターンを解説し、公表された会計数値の意味をいかに解釈するかについて議論する。また、代表的な財務指標を学び、実際の公表財務諸表から企業実態を推論する技法について習得する。

近年、財務会計の主要な目的は「投資家の意思決定に資する有用な情報を提供すること」とされており、受講生は実際に投資家の視点で伝統的な財務諸表分析の技法から企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用するまでの知見を踏まえて、財務会計情報の特性や限界について考察する。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、企業が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

秋学期の全体を以下の 2 つのパートに分割する。「財務諸表分析」（秋学期・第 1 回～第 7 回）、「会社の価値分析」（秋学期・第 8 回～第 14 回）

会社の価値分析は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。なお、財務会計論Ⅰと財務会計論Ⅱは、どちらの順番で履修しても差し支えない。

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は毎回の講義で、理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業の目標と構成	本授業の概要を説明する。
2	起業ストーリーⅢ：会社の上場	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場するケースから理解を深める。
3	貸借対照表の読み方	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
4	損益計算書の読み方	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROS や損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用する ROA、回転率、ROE などの指標を学ぶ。
5	キャッシュ・フローの分析	キャッシュフロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC 分析により資金回収の速さを評価する。
6	財務分析の実践	実際の財務データを題材に、財務分析の活用機会を認識したうえで、財務データを用いた仮説・検証の分析を実践する。
7	起業ストーリーⅣ：ポスト IPO	財務会計の対象である経営実態について、実際の会社が株式上場した後の経営（ポスト IPO）に関するケースから理解を深める。
8	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの意味や計測方法について学習する。
9	DCF モデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれる価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である現存会計や退職給付会計の解説も行う。
10	残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルをその利点とともに理解する。
11	価値分析の実践	実際の財務データと証券市場データにもとづき、実際に価値の測定と評価を競合会社との比較を通じて実践する。
12	財務分析・価値分析の歴史	財務分析・価値分析の歴史を財務会計と関連づけて概観する。
13	経営者との対話実践	実際に活躍される経営者を授業に招き、財務分析・価値分析の知識を用いて対話を実践する
14	まとめ	本授業の全体をまとめ、実務での活用とキャリア形成について議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードする。入手方法の詳細は授業内で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社, 2021 年.
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【参考書】

・伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2022 年 4 月現在の最新版.
・伊藤邦雄『新・企業価値評価』日本経済新聞社, 2022 年 4 月現在の最新版.
・中村忠『新稿・現代会計学』九訂版, 白桃書房, 2005 年.
・新田忠誓・佐々木隆他『会計学・簿記入門』第 12 版, 白桃書房, 2014 年.
・中野誠『戦略的コーポレートファイナンス』日経文庫, 2016 年.
・岸本直樹・池田昌幸『入門・証券投資論』有斐閣ブックス, 2019 年.

【成績評価の方法と基準】

以下の 4 点にもとづいて評価する。括弧内はウエイト。
①授業動画の視聴状況（10 %）
②各回の確認テスト（40 %）

③各回の課題作文（30 %）：各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form で提出する。その内容は、匿名にして全受講生で共有する。
④指定教科書の書き込み状況（20 %）：上記③の課題文章と同様に、書き込み状況の画像を提出し、受講生間で共有する。
※「その他の重要事項」に記載した注意点を確認すること。

【学生の意見等からの気づき】
演習問題を増やしてほしいという要望があった。対応する。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業動画を視聴するための PC。表計算ソフトの Excel。

【その他の重要事項】
・課題作文・指定教科書への書き込みの状況は成績評価の対象であるため、自分自身が書いたものでないものを提出した場合には「不正行為」として厳重に対処する。
・日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくとよい。未学習の受講生には、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第 202 巻, 第 1 号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第 198 巻, 第 6 号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
This lecture explains the system and theory of financial accounting and its application method. In learning of financial accounting, it is efficient to learn "how to make" and "how to read" financial statements at the same time, and this lecture aims to understand accounting practices through both viewpoints of the financial statement preparers and readers.
Regarding how to prepare financial statements, I will explain basic accounting principles and accounting standards. This includes discussions on the concepts of financial accounting purposes, functions of double entry bookkeeping, concept of profit calculation, concept of accounting regulation, concept of asset valuation, and qualitative characteristics of accounting information, assets, liabilities, income and expenses.
With regard to how to read financial statements, I will discuss the types of alternative accounting procedures and the motivation patterns of financial statement preparers on their choices, and discuss how to interpret the meaning of the published accounting figures. In addition, I will explain representative financial indicators and techniques to infer the realities of companies from the actual published financial statements.
The goals of this lecture are as follows.
(1) Acquire the ability to consider how each transaction should be accounted for using accounting vocabulary (concepts), and the ability to explain it to others.
(2) Understand Japanese accounting standards and the basic concepts necessary for reading IFRS (International Financial Reporting Standards).
(3) To acquire the ability to understand the intention of the financial statement preparers behind the accounting figures.
(4) Acquire the ability to infer the actual state of the company from financial statements.
The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.
Evaluate based on the following two points. Weights in parentheses. (1) Confirmation test for each lesson (50%)
(2) Composition for each assignment (50%): Students submit questions and impressions on the Google Form after each lesson. The descriptions will be anonymous and shared with all students.

MAN500F1 － 0130

経営分析論Ⅰ

福多　裕志

備考（履修条件等）：**学部主催「経営分析論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】
本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、（1）財務諸表分析の基本手続き（2）データベースを利用した財務指標の算出、（3）安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

[重要]
第 1 回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第 1 回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第 3 回	財務諸表の枠組み：BS と IS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第 4 回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標－流動比率、当座比率等の説明
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標－自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標－総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標－ ROS、ROE、ROA 等について説明
第 10 回	収益性：その 2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第 11 回	損益分岐点分析の基本	固変分解、最小二乗法
第 12 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 1	損益分岐点比率、安全余裕率
第 13 回	損益分岐点分析－短期利益計画への応用：その 2	エクセル上での損益分岐点分析の展開
第 14 回	成長性および総括	代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022 年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999 年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002 年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994 年.
6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012 年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996 年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第 2 版』東洋経済新報社, 2006 年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003 年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
・期末筆記試験 60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%
・受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞

・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000 年.
・「売上高経常利益率の 1 次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007 年.

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】
感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅰ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria for graduate students]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

MAN500F1 － 0131

経営分析論Ⅱ

福多　裕志

備考（履修条件等）：**学部主催「経営分析論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。
本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、製造業の財務諸表データに基づき幾つかの財務比率を計算し、その後、企業の合理的な経済的意思決定モデルと創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】
本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、（1）株価関連指標、（2）総合評価の方法、（3）リスクおよび不確実性の下での意思決定モデル、（4）創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

[重要]
第 1 回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第 1 回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期講義計画および株価関連指標：その 1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第 2 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第 3 回	外国企業の財務諸表分析：その 1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第 4 回	外国企業の財務諸表分析：その 2	EDGAR より米国企業の財務情報を入手し、日米企業の財務体質比較
第 5 回	総合評価：その 1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第 6 回	総合評価：その 2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第 7 回	経営分析の応用：その 1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第 8 回	経営分析の応用：その 2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第 9 回	経営分析の応用：その 3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 10 回	経営分析の応用：その 4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 11 回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第 12 回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第 13 回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第 14 回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】
1) 青木茂男編著『要説　経営分析　六訂版』森山書店, 2022 年.
2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書　その作成と分析・評価』中央経済社, 1999 年.
4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社, 2002 年.
5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房, 1994 年.
6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版, 2012 年.
7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社, 1996 年.
8) 西山茂『企業分析シナリオ　第 2 版』東洋経済新報社, 2006 年.
9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析　全訂版』税務経理協会, 2003 年.
10) 宮川公男『新版　意思決定論　基礎とアプローチ』中央経済社, 2010 年.

【成績評価の方法と基準】
【大学院生の評価方法】
・期末筆記試験 60%、平常点（学習事項に関し、自ら調査・研究した報告書）40%
・受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】
実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】
【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000 年.

・「売上高経常利益率の 1 次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007 年.

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。
関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】
感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis Ⅰ' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis Ⅱ' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria for graduate students]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

MAN500F1 － 0132

財務諸表分析

髙橋　美穂子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、企業が公表する財務諸表を用いて、収益性・安全性・成長性の側面から企業を分析する方法を学びます。授業では、はじめに財務諸表の見方を説明し、続いて企業特性を把握するための各種の財務比率の内容とその計算方法を解説します。さらに、主要な財務比率が株主価値にどのような影響を与えるのか、すなわち財務比率と株主価値の理論的関係についての理解を促すため、株主価値評価モデルの基礎理論を説明します。これにより、学生が財務諸表を用いた企業分析の方法を理解し、実践できるようになることを目的とします。

【到達目標】
この授業の到達目標は、次の３つです。
１．企業活動と関連付けて財務諸表が理解できる
２．財務比率の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
３．財務比率と株主価値の理論的関係が理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・授業は対面で実施します
・授業に関する連絡は学習支援システム（Hoppii）のお知らせで行います。履修希望者は初回授業開始前に Hoppii のお知らせを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方，財務諸表の役割と仕組みを理解する
第 2 回	財務諸表の入手方法	財務諸表の入手方法、決算発表の仕組みを理解する
第 3 回	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方を理解する
第 4 回	損益計算書の見方	損益計算書の見方を理解する
第 5 回	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方を理解する
第 6 回	会計方針の注記	注記事項の種類と主要な注記事項の内容を理解する
第 7 回	財務諸表分析の視点と手法・収益性の分析①	財務諸表分析の視点と手法を理解する。収益性を分析するための指標や比率を理解する
第 8 回	収益性の分析②	収益性を分析するための指標や比率を理解する
第 9 回	安全性の分析	安全性を分析するための指標や比率を理解する
第 10 回	成長性の分析	成長性を分析するための指標や比率を理解する
第 11 回	株式価値評価モデル①	株式価値評価の基礎理論を理解する
第 12 回	株式価値評価モデル②	株式価値評価の基礎理論を理解する
第 13 回	レポートの個人発表①	レポートの発表内容に基づくディスカッションとフィードバック
第 14 回	レポートの個人発表②	レポートの発表内容に基づくディスカッションとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に該当する教科書の章を読んでください。授業の後は理解を定着させるために授業内容を復習してください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
桜井久勝著，『財務諸表分析』，中央経済社，最新版.

【参考書】
指定しない。受講生からの質問に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート内容の発表（50 %）と提出（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム（Hoppii) に接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。
レポートの作成および報告を行う際は，Word や PowerPoint などを使用してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－、同文舘出版,『会計・監査研究の展開』、第 3 章所収、p57-71、2021 年 1 月

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course, students will learn how to analyze business firms using financial statements. After learning how to read financial statements, students will learn financial ratios to understand the underlying corporate characteristics. In addition, the basic stock valuation models will be explained in order to promote understanding of the theoretical relationship between financial ratios and shareholder value.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students are expected to do the following:
1.Understand financial statements in relation to corporate activities
2.Understand and utilize financial ratios
3. To understand how financial ratios relate to shareholder value
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to read the relevant chapter of the textbook before class and to review the contents after class. Students study and review time for this class are 2 hours each.
（Grading Criteria）
Grades will be based on presentation (50%) and submission (50%) of the term paper.

MAN500F1 － 0161

管理会計特論Ⅰ

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では，学生がマネジメント・コントロール・システムに関するこれまでの一連の研究の流れを整理し理解すること，また特に業績評価システムに焦点を当て，その歴史的な展開とその背景，またそれぞれの業績評価指標の特徴を理解できることを目的とする。

【到達目標】
管理会計に関する学術論文を独力で読むことができ，その内容を理解し批判的に検討することができる。特に，マネジメント・コントロール・システムの利用方法に着目したいくつかの研究をレビューすることで，マネジメント・コントロールの諸概念およびその利用方法を習得する。また，様々な業績測定尺度のついてその長所および問題点を自分の言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は対面で行います。講義では、事前に指定した論文を輪読する形で行ないます。毎回，報告者が指定された論文のについて報告を行い，その内容について教員が補足説明を行なうとともに，受講者全員で議論を行なう事で理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	会計学の二つの領域である管理会計と財務会計について説明する。さらに、この講義で扱うテーマについて概略的な説明を行なう。
2	マネジメント・コントロール・システムの利用方法　（1）	Simons (1990) の論文を手掛かりに MCSs の利用方法の違いおよびそれが着目された理由について検討する。
3	マネジメント・コントロール・システムの利用方法　（2）	インターアクティブなコントロールと診断的なコントロールの特徴について検討する。
4	マネジメント・コントロール・システムの下位システム間の関係	Malmi and Brown (2008) のコントロール・パッケージについて議論する。
5	組織における業績測定システムの役割	Henri (2006) に基づいて，業績測定システムの役割を検討する。
6	業績評価指標の特徴	Casas-Arce et al. (2017) の論文を手掛かりに業績評価指標の特徴について検討する。
7	財務的な業績評価指標の特徴	ROI や EVA などの財務的な業績評価指標を取り上げ，その特徴を議論する。
8	非財務的な業績評価指標（1）	Evans Ⅲ et al. (2010) を手掛かりに非財務的な業績評価指標の特徴を検討する。
9	非財務的な業績評価指標（2）	非財務的な業績評価指標の特徴について，財務的な業績評価指標との対比で検討する。
10	バランス・スコアカード（1）	Kapalan and Norton の一連の書籍または論文に基づいて BSC の特徴を明らかにする。
11	バランス・スコアカード（2）	BSC の適用されたケースについて検討する。
12	相対的な業績評価（1）	相対的な業績評価の特徴とその適用について検討する。
13	相対的な業績評価（2）	相対的な業績評価の利点またその適用範囲について検討する。
14	春学期の学習の取りまとめ	MCSs の特徴および PMS の特性について整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の事前及び事後の学習のための時間は、各 2 時間を標準とします。受講者は，報告者に限らず指定された論文を必ず事前に読んで授業に出席してください。その際に，当該論文の貢献とその限界また方法論上の問題点などを整理しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
管理会計に関わる日本語の基本的な文献としてはたとえば櫻井通晴 2015 年『管理会計第６版』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
講義での報告担当箇所の内容に基づく評価 30 点、講義中の議論への参加の状況 20 点、最終レポートの内容 50 点で評価を行います。講義中の議論への参加については積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げているテーマについてできるだけ実例を紹介したいと思います。

【その他の重要事項】
学部レベルの管理会計を履修していることが前提です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「スタートアップ企業における MCS の採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第 11 号，pp.3-23, 2019。
②「ambidextrous 組織におけるマネジメント・コントロールの設計について」『経営志林』第 55 巻第 4 号, pp.19-43，2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第 27 巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The aim of this class is to review the historical development of management control systems. We will focus on the performance evaluation systems, clarifying their historical development and the characteristics of each evaluation criteria.
(Learning objectives)
At the end of this class, students are expected to read academic papers on management accounting on their own, understand their contents, and critically examine them. In particular, by reviewing several studies focusing on the use of performance management systems, students are expected to master the various concepts of performance evaluation criteria and how to use them. In addition, to be able to explain in one's own words the advantages and problems of various performance measures.
(Learning activities outside of classroom)
The standard amount of time for pre- and post-activity for this class is 2 hours each. Students are required to read the assigned papers in advance and attend the class. At that time, they should organize the contributions of the paper, its limitations, and methodological issues.
(Grading criteria)
The evaluation will be based on the content of the part to be reported in the lecture (30 points), your participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points). Active participation in the discussion during the lecture will be evaluated.

MAN500F1 － 0162

管理会計特論Ⅱ

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マネジメント・コントロール・システムとイノベーションまた組織の創造性との関連性についての近年の議論を理解する。マネジメント・コントロール・システムが製品またプロセス・イノベーションに果たす役割を理解し、議論できる。また、マネジメント・コントロール・システムが個人レベル、組織レベルの創造性に及ぼす影響について議論できる。

【到達目標】
マネジメント・コントロールがイノベーションまた組織の創造性に及ぼす影響についての近年の議論について，批判的に検討し，整理ができる。また，このために必要とされる管理会計またその関連領域の諸概念や分析手法を習得するとともに理解できる。また実際にいくつかの学術論文をレビューすることで近年の管理会計研究の展開を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は対面で実施します。事前に指定した論文を輪読する形で授業を行ないます。毎回，報告者が指定された論文のについて報告を行い，その内容について教員が補足説明を行なうとともに，受講者全員で議論を行なう事で理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の進め方、また評価方法、さらに本授業のテーマについて概略的な説明を行なう。
2	MCSs とイノベーションにかする伝統的な視点	MCSs とイノベーションに関わる伝統的な議論の根拠について議論する。
3	製品イノベーションと MCSs との関係	Bisbe and Otley (2004) の論文を手掛かりに製品イノベーションと MCSs との関連性を検討する。
4	プロセス・イノベーションに果たす MCSs の役割	Akroyd (2022) の論文を手掛かりにプロセスイノベーションと MCSs の関係についての議論を行う。
5	イノベーションと MCSs との関係性について新しい視点	Barros and Ferrería (2022) を手掛かりに従来の研究で明らかになっていない点についての議論を整理する。
6	MCSs と組織のイノベーティブネス	Endenichi et al. (2022) の議論を手掛かりに MCS と組織のイノベーティブネスについて議論する
7	組織スラックと創造性（1）	Nohria and Gulati (1996) および Wiersma (2017) の研究をレビューする。
8	組織スラックと創造性（2）	Nohria and Gulati (1996) および Wiersma (2017) の研究を比較、検討する。
9	チームの創造性と MCSs（1）	Cools et al. (2017) を取り上げ、チームレベルの創造性に MCSs の設計が及ぼす影響を議論する。
10	チームの創造性と MCSs（2）	前回の論文に基づいて、クラス内でディスカッションを行う。
11	業績管理システムが個人レベルの創造性に及ぼす影響（1）	Kachelmeier et al. (2008) の論文を精読し，議論を行う。
12	業績管理システムが個人レベルの創造性に及ぼす影響（1）	Kachelmeier et al. (2010) の論文に関する議論を行う。
13	MCSs と個人レベルまた組織レベルの創造性との関係	ここまでの授業で取り上げた研究に基づいて、MCSs の個人レベルまた組織レベルの創造性との関係性を議論する。
14	秋学期の学習のまとめ	MCSs がイノベーションまた創造性に及ぼす影響について整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の事前及び事後の学習のための時間は、各 2 時間を標準とします。受講者は，報告者に限らず指定された論文を必ず事前に読んで授業に出席してください。その際に，当該論文の貢献とその限界また方法論上の問題点などを整理しておくこと。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
管理会計に関わる日本語の基本的な文献としてはたとえば櫻井通晴 2015 年『管理会計第６版』中央経済社がある。

【成績評価の方法と基準】
講義での報告担当箇所の内容に基づく評価 30 点、講義中の議論への参加の状況 20 点、最終レポートの内容 50 点で評価を行います。講義中の議論への参加については積極性を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ受講者とのインターアクティブな講義を心がけます。

【その他の重要事項】
学部レベルの管理会計を履修していることが前提です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「スタートアップ企業における MCS の採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第 11 号，pp.3-23, 2019。
②「ambidextrous 組織におけるマネジメント・コントロールの設計について」『経営志林』第 55 巻第 4 号, pp.19-43，2019。
③「純粋持株会社における全体最適と部分最適」『管理会計学』第 27 巻第２号, pp.27-44，2019。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The purpose of this class is to understand the recent debates on the relationship between management control systems (MCSs) and innovation and organizational creativity. It will also enable students to understand and discuss the role that management control systems play in product and process innovation. Furthermore, the purpose of this class is to be able to discuss the impact of management control systems on creativity at both the individual and organizational levels.
(Learning objectives)
Critically review and organize recent discussions on the impact of management control systems on innovation and organizational creativity. The student will also be able to acquire and understand the concepts and analytical methods of management accounting and related fields that are necessary for this purpose.
(Learning activities outside of classroom)
The standard amount of time for pre- and post-activity for this class is 2 hours each. Students are required to read the assigned papers in advance and attend the class. At that time, they should organize the contributions of the paper, its limitations, and methodological issues.
(Grading criteria)

The evaluation will be based on the content of the part to be reported in the lecture (30 points), your participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points). Active participation in the discussion during the lecture will be evaluated.

ECN500F1 － 0163

ミクロ経済論Ⅰ

金澤　匡剛

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
（2）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（4）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（5）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけを与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：ミクロ経済学とは？	ミクロ経済学の特徴と全体像を解説した後にこれを学ぶ意義について議論する。
第 2 回	需要・供給と市場均衡 (1)	教科書 4 章に基づいて，需要と供給の振る舞いおよび需要と供給による取引内容（数量・価格）決定メカニズムについて学びます。
第 3 回	需要・供給と市場均衡 (2)	教科書 5 章に基づいて，価格の変化が需要と供給に及ぼす変化の程度（弾力性）が取引内容の変化に及ぼす影響について学びます。
第 4 回	問題演習 1	第 2 回と第 3 回の内容に関する問題演習を行います。
第 5 回	消費者の理論 (1)	教科書 21 章に基づいて，消費者の意思決定に関する理論の基礎について学びます。
第 6 回	消費者の理論 (2)	教科書 21 章に基づいて，消費者の意思決定に関する理論の応用について学びます。
第 7 回	問題演習 2	第 5 回と第 6 回の内容に関する問題演習を行います。
第 8 回	生産者の理論 (1)	教科書 13 章に基づいて，企業による生産に関わる費用について学びます。
第 9 回	生産者の理論 (2)	引き続き，教科書 13 章に基づいて，企業による生産に関わる費用について学びます。
第 10 回	問題演習 3	第 8 回と第 9 回の内容に関する問題演習を行います。
第 11 回	生産者の理論 (3)	教科書 14 章に基づいて，競争市場における企業の生産量決定について学びます。
第 12 回	生産要素市場	教科書 18 章に基づいて，労働・資本・土地といった生産要素の市場取引について学びます。
第 13 回	問題演習 4	第 11 回と第 12 回の内容に関する問題演習を行います。
第 14 回	期末テスト	春学期に学習した内容に関するテストを実施し，その後，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを使用する予定である。
マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社，2019 年（あるいはその原著）

【参考書】
［1］坂井豊貴『ミクロ経済学入門の入門』岩波書店，2017 年
［2］伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣，2012 年
［3］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014 年
＊［1］と［2］は上記の教科書よりも易しい入門向けのテキスト，［3］は上記教科書よりも難しい発展的なテキストです。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献）30 %，宿題・問題演習 30 %，期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので，これらを使うために必要な情報端末（PC，タブレットなど）と通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
学習支援システムを利用して授業に関する情報をこまめに確認するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞実証ミクロ経済学（特に，産業組織論，医療経済学）
＜研究テーマ＞
各市場の制度がその需要構造に与える影響の研究
＜主要研究業績＞
[1] "Displacement Effects of Public Libraries," Journal of the Japanese and International Economies, Volume 66, 101219, December 2022.（川口康平氏との共著）
[2] "AI, Skill, and Productivity: The Case of Taxi Drivers," NBER Working Paper No. 30612, October 2022.（川口大司氏、重岡仁氏、渡辺安虎氏との共著）
[3] "Quantifying Health Shocks Over the Life Cycle," RIETI Discussion Paper Series 18-E-014, March 2018.（深井太洋氏、市村英彦氏との共著）

【Outline (in English)】
【Course outline】
You will learn the foundation of microeconomics, which is a theory to analyze individuals' and firms' decision-making and those interactions, and conduct problem exercises with some economic problems around you.
You can learn the fundamental thinking and analyzing methods of microeconomics, which can be the basis for learning the respective fields of business administration.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the foundation of microeconomics, which is a theory to analyze individuals' and firms' decision-making and those interactions.

【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting and to complete the required assignments weekly or bi-weekly. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%, Exercises and homework assignments: 30%, in-class contribution: 30%.

ECN500F1 － 0164

ミクロ経済論Ⅱ

金澤　匡剛

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個人や企業などの意思決定プロセスやそれらの相互作用に関する学問体系であるミクロ経済学についての講義を受け，問題演習を行う。経営学の諸分野を学ぶ上で基礎となるミクロ経済学の考え方・分析手法を身につける。

【到達目標】
以下のような事項について理解し，応用できるようになる。
（1）消費者は何をどれだけ購入しようとするか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすか。
（2）企業は何をどれだけ使って，何をどれだけ販売しようとするのか。また，その決定にモノの値段やその他の要因がどのような影響を及ぼすのか。
（3）モノの値段がどのように決まるのか。また，その決定にどのような要因がどのような影響を及ぼすのか。
（4）短期的な意思決定と長期的な意思決定の違いは何か。
（5）人々の行動が相互に影響を及ぼしあうような状況ではどのように意思決定したらよいのか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基礎となる理論について講義した後に問題演習を行う。講義の際には，聴くだけにならないようにするため，考えるきっかけ与えたり，理解を確認したりするような質問を投げかける。問題演習の際には，各自が自ら考える時間を確保するとともに，必要に応じて，正解に導くような助言を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習と秋学期の展望	春学期の内容の復習をするとともに，秋学期に扱う内容について概観します。
第 2 回	効率性と市場の失敗	教科書 7 章に基づき，取引内容の望ましさの指標として，余剰という概念を学びます。更に，市場取引により効率的な結果（余剰の合計が最大になるような結果）が実現する場合とそうならない場合について学びます。
第 3 回	外部性	教科書 10 章に基づいて，取引が当事者以外の経済主体の利害に影響を及ぼすときの取引内容に関して学びます。
第 4 回	情報の非対称性	教科書 22 章を参照しつつ，当事者間で情報量が異なる場合に起こる問題とそれに対する対応策について学びます。
第 5 回	問題演習 1	第 1 回から第 4 回の内容に関する問題演習を行います。
第 6 回	独占	教科書 15 章に基づき，独占企業の生産量決定について学びます。
第 7 回	独占的競争	教科書 16 章に基づき，各企業が違いのある製品を生産している場合の企業行動について学びます。
第 8 回	問題演習 2	第 6 回と第 7 回の内容に関する問題演習を行います。
第 9 回	寡占・ゲーム理論 (1)	教科書 17 章に基づき，市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動について学びます。また，このような市場における企業行動を分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。
第 10 回	寡占・ゲーム理論 (2)	引き続き，教科書 17 章に基づき，市場の企業数が 2 社以上だが少数である場合の企業行動と，それを分析するために利用できるツールであるゲーム理論について学びます。
第 11 回	寡占・ゲーム理論 (3)	ゲーム理論について更に学びます。
第 12 回	問題演習 3	第 9 回から第 11 回の内容に関する問題演習を行います。
第 13 回	その他のトピックス／まとめ	受講者の関心に合わせて，ミクロ経済学の分野のその他のトピックスについて補足説明します。最後に，全体のまとめを行います。
第 14 回	期末テスト	秋学期に学習した内容に関するテストを実施し，その後，解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は事前に以下のテキストを読んでくることが求められます。また，毎週あるいは隔週程度で課される宿題を解くことが求められます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
以下のテキストを使用する予定である。
マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 4 版）』東洋経済新報社，2019 年（あるいはその原著）

【参考書】
［1］坂井豊貴『ミクロ経済学入門の入門』岩波書店，2017 年
［2］伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣，2012 年
［3］神取道宏『ミクロ経済学の力』日本評論社，2014 年
＊［1］と［2］は上記の教科書よりも易しい入門向けのテキスト，［3］は上記教科書よりも難しい発展的なテキストです。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加・貢献）30 %，宿題・問題演習 30 %，期末テスト 40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので，これらを使うために必要な情報端末（PC，タブレットなど）と通信環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済論Ⅰ (春学期) の受講ないしその授業範囲の理解を前提とします。
学習支援システムを利用して授業に関する情報をこまめに確認するようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞実証ミクロ経済学（特に，産業組織論，医療経済学）
＜研究テーマ＞
各市場の制度がその需要構造に与える影響の研究
＜主要研究業績＞
[1] "Displacement Effects of Public Libraries," Journal of the Japanese and International Economies, Volume 66, 101219, December 2022.（川口康平氏との共著）
[2] "AI, Skill, and Productivity: The Case of Taxi Drivers," NBER Working Paper No. 30612, October 2022.（川口大司氏、重岡仁氏、渡辺安虎氏との共著）
[3] "Quantifying Health Shocks Over the Life Cycle," RIETI Discussion Paper Series 18-E-014, March 2018.（深井太洋氏、市村英彦氏との共著）

【Outline (in English)】
【Course outline】
You will learn the foundation of microeconomics, which is a theory to analyze individuals' and firms' decision-making and those interactions, and conduct problem exercises with some economic problems around you.
You can learn the fundamental thinking and analyzing methods of microeconomics, which can be the basis for learning the respective fields of business administration.
【Learning Objectives】
The goal of this course is to understand the foundation of microeconomics, which is a theory to analyze individuals' and firms' decision-making and those interactions.
【Learning activities outside of classroom】
Students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting and to complete the required assignments weekly or bi-weekly. Your required study time is at least two hours for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 40%, Exercises and homework assignments: 30%, in-class contribution: 30%.

ECN500F1 － 0125

組織経済学

奥西　好夫

備考（履修条件等）：**学部主催「組織経済学」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的な手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。
・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】
・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。
・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。
・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。
・なお、大学院の受講生については、学部生以上に深いレベルでの理解や応用力を求める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。
・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。
・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	講義概要、人間の行動原理（1）	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
2.	人間の行動原理（2）	・経済合理性
3.	人間の行動原理（3）	・経済非合理性
4.	人間の行動原理（4）	・不完全情報下の経済合理的行動
5.	取引・組織の評価基準（1）	・効率性 ・公正性に関するアンケート
6.	取引・組織の評価基準（2）	・さまざまな公正性概念
7.	コースの定理（1）	・効率性概念の応用
8.	コースの定理（2）	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
9.	組織デザイン（1）	・組織構造
10.	組織デザイン（2）	・コーポレート・ガバナンス
11.	組織デザイン（3）	・職務設計 ・多様性管理
12.	インセンティブ問題（1）	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
13.	インセンティブ問題（2）	・賃金制度への応用
14.	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。
・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。
・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・単一のテキストは特に用いない。
・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。
・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】
・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。
・エドワード・P・ラジアー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。
・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。
・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。
・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。
・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。
・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】
・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験（期末試験）として行う可能性がある（コロナの収束状況等による）。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。
・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】
・大学院科目としては初の開講となる。学部生と合同の開講であるが、積極的に参加、質問等をしていただきたい。

【学生が準備すべき機器他】
・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】
・担当教員は、1980 ～ 89 年、（旧）労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】
・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

· Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

· Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

· Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently. The standard time for those activities per class will be more than 4 hours.

· The final grade depends on the total points of the assignments.

ECN500F1 － 0133

ファイナンス入門

岸本　直樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では，ファイナンスの入門的な内容を講義します。一部の学生にとってこの授業の内容は馴染みがないものかもしれません。しかし，ファイナンスで学ぶ金融取引や証券投資の知識は，社会に出る皆さんにとって必須です。なぜならば，ひとつには，金融機関あるいは企業の財務部門においてファイナンスの知識が必須だからです。また，個人としても，債券，株式，投資信託等への投資のほか，年金のタイプによってはその運用のための投資の知識が欠かせないからです。本講義で皆さんは，金融取引や証券市場の仕組み，将来価値と現在価値の概念と計算方法，債券および株式に関する初歩的な分析手法を学びます。さらに，デリバティブ，リスクとリターンのトレードオフ，効率的市場仮説についても初歩的な内容を学習します。

【到達目標】
受講者は次に挙げた知識や技術を学びます。
①金融・証券の基礎知識に基づき，金融に関連するニュースを正しく理解できる。
②利子率や将来価値，現在価値の概念を理解し，それらに関する基本的な計算ができる。
③債券の仕組みを理解し，利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
④株式の仕組みを理解し，配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。
⑤主要なデリバティブである先渡取引と先物取引，さらにオプションの基本的な仕組みと初歩的な利用方法を理解する。
⑥リスクとリターンのトレードオフという考え方を理解する。
⑦情報が資産価格に及ぼす影響を効率的市場仮説と呼ばれる仮説に基づいて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。授業中にパソコン上で Excel を使った計算を説明します。したがって，Excel がインストールされたパソコンを持参するか，大学から借りてください。もちろん，Excel はタブレットやスマートフォンでも利用できるので，パソコンの代わりにタブレットかスマートフォンを持参してもよいです。ただし，タブレットやスマートフォン上における Excel の操作は，パソコンのそれと，若干異なります。時間の制約があるため，授業では，それらの点について説明しません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションおよび金融・証券市場の概観	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。さらに，金融市場を概観する。
2	利子率，将来価値，現在価値（1）	将来価値，現在価値の計算ほか，複利と単利の違いを学習する。
3	利子率，将来価値，現在価値（2）	将来価値，現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
4	債券市場と債券入門（1）	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。また，債券市場を概観する。
5	債券入門（2）	最終利回りの定義式を学習する。
6	債券入門（3）	最終利回りの性質を学習する。
7	債券入門（4）	債券投資のリスクを学習する。
8	株式市場の概観および株式入門（1）	株式市場を概観した後，株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
9	株式入門（2）	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する。
10	デリバティブ入門（1）	先渡取引と先物取引の仕組みのほか，これらの取引の利用方法を学習する。
11	デリバティブ入門（2）	オプションの仕組みや初歩的なオプションの利用方法を学習する。
12	リスクとリターンのトレードオフ	Capital Asset Pricing Model を学習する。
13	効率的市場仮説と資産の評価方法の概観	効率的市場仮説を学習した後に，資産の価格付けを概観する。
14	期末テスト	この科目で学習した内容全般についてテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定テキスト（教科書）の予習・復習をしっかり行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，2019 年，有斐閣（製本されたもののほか，e-book もある）

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価では，期末テストが 70%，授業中に実施するクイズと授業参加が 30%のウィエトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
さらに分かりやすい授業になるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
Excel がインストールされたパソコン，タブレット，あるいは，スマートフォンを用意してください。

【その他の重要事項】
授業中は私語等を控え，講義に集中してください。なお，担当教員は，博士課程に入学する前に，東京およびニューヨークにおいて日系証券会社の調査部門で日米の証券市場の調査に従事した。

【関連科目】
夜間コースのファイナンス基礎，コーポレート・ファイナンス，経営学部のポートフォリオ理論入門，デリバティブ入門Ⅰ/Ⅱ。

【Outline (in English)】
Outline: This course provides an introduction to finance. Its content may be unfamiliar to some students. However, the knowledge taught in this course is essential for those who will enter the workforce. This is because, for one thing, finance theory is essential for both financial institutions and finance departments of nonfinancial corporations. In addition, the knowledge on finance is essential for individuals to invest in bonds, stocks, mutual funds, and pension funds. In this course, you will learn the basics of financial transactions and securities markets, the concepts and calculation methods of future value and present value, and elementary analysis for bonds and stocks. In addition, you will learn the rudiments of derivatives, risk and return tradeoff, and efficient market hypothesis.
Objectives: Students will learn the following knowledge and skills.
(1) To be able to understand financial news properly based on essential knowledge of financial markets and securities.
(2) Concepts of interest rates and the basic calculations of future values and present values.
(3) Institutional knowledge of bonds and elementary analysis of bonds.
(4) Institutional knowledge of stocks and elementary analysis of stocks based on dividend discount model.
(5) Basic institutional knowledge of forwards/futures contracts and options.
(6) Risk and return tradeoff.

(7) Relationship of information and asset prices in terms of what is called the efficient market hypothesis.
Learning activities outside of classroom: Students are expected to read the designated sections of the textbook before class and review the contents covered in class after class. The standard preparation and review time for each class is four hours.
Grading Criteria: The final exam will account for 70% of the grade, and quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN500F1 － 0134

ポートフォリオ理論入門

岸本　直樹

備考（履修条件等）：**学部主催「ポートフォリオ理論入門」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
金融資産は、学生にとってはまだ馴染みが薄いでしょうが、卒業後、確定拠出年金等への投資を通じて直接運用に関わらざる得なくなるでしょう。「ポートフォリオ理論入門」の前半では，投資に当たって，投資対象である資産のどの点に注目し，どのような方法で意思決定すればよいのかについて，学術的に標準アプローチとして知られる手法を学習します。次に，「ポートフォリオ理論入門」の後半では，CAPM と呼ばれるモデルを使って，様々な資産の間に成立していると考えられるリスクとリターンの関係を学習します。

【到達目標】
「ポートフォリオ理論入門」の前半では，資金をどのように資産に配分するかという問題についてよく知られているアプローチ（ポートフォリオ理論）を学習します。また，後半では，CAPM と呼ばれる，資産のリスクとリターンに関する理論モデルを学習します。具体的には、次の点を達成することを目標とします。
①資産に投資した結果得られる収益率について期待値、標準偏差、共分散、さらに、相関係数を計算できる。
②ポートフォリオ理論の概要を理解し，第三者に説明できる。
③資産のリスクとリターンの関係を資本資産評価モデル (CAPM) に沿って説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式です。ただし、授業時間中に学生各自が練習問題を解く時間を設け、ランダムに学生に質問します。また、学期中に授業内小テスト（クイズ）を実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	収益率の期待値，分散，標準偏差	収益率，確率変数を説明した後、期待値，分散，標準偏差の計算方法を学習します。
2	共分散	異なる資産の収益率の同方向あるいは逆方向の変動の特徴を捉える共分散について概観し，計算方法を学びます。
3	相関係数	相関係数について学習します。
4	ポートフォリオ理論（1）	投資家が投資資金を各資産にどのように配分するのがよいかという問題について、マーコウィッツが提唱した方法 (ポートフォリオ理論と呼ばれる) を概観します。また、ポートフォリオ理論の仮定を学習します。
5	ポートフォリオ理論（2）	ポートフォリオの収益率の期待値，分散，標準偏差を計算する公式を学習します。
6	ポートフォリオ理論（3）	安全資産が存在しない場合について投資機会集合を学習します。
7	ポートフォリオ理論（4）	安全資産が存在する場合について投資機会集合を学習します。
8	ポートフォリオ理論（5）	安全資産が存在する場合の投資機会集合の議論を続けます。
9	ポートフォリオ理論（6）	ポートフォリオの最適化について学習します。
10	ポートフォリオ理論（7）	ポートフォリオ理論の応用とメッセージを概観します。
11	資本資産評価モデル（1）	投資家は資産のリスクが高ければより高い期待収益率を要求するだろうとの直観を、一定の仮定の下で妥当とする資本資産評価モデルを概観します。またその仮定も学習します。
12	資本資産評価モデル（2）	市場ポートフォリオとベータについて学習したあと，資本資産評価モデルの導出について学習します。
13	効率的市場仮説	情報が資産価格に及ぼす影響を，効率的市場仮説の観点から検討します。
14	授業内容全体の復習	この授業で学習した内容を概説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の予習及び復習。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業ごとに 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岸本直樹・池田昌幸共著，『入門・証券投資論』，有斐閣

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
評価は，期末テストが 70%，授業で実施する小テストと授業参加が 30%のウェイトを占める。

【学生の意見等からの気づき】
より分かりやすい講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
〔予備知識〕
授業で期待値、標準偏差、共分散を使いますが、これらは授業中に説明するので、それらの予備知識は必ずしも必要ではありません。
〔注意事項〕
「投資入門」は「ポートフォリオ理論入門」の理解を助けるので、「ポートフォリオ理論入門」の履修を予定する学生は「投資入門」を必ず履修するようにしてください。なお，「ポートフォリオ理論入門」は「積み上げ式」です。すなわち、授業に毎回出席していなければ授業内容を十分に理解することが難しくなります。したがって、授業に毎回出席することを強く求めます。
なお、授業中の私語やその他の授業の迷惑になる行為は厳に慎んでください。悪質な場合は、適切に注意し、場合によっては教室から退室して貰ったり、授業評価に反映することがあります。

【関連科目】
ファイナンス入門、投資入門、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】
Course outline: Not many students are familiar with financial assets, yet they will face situations where they have to make investment decisions for their defined contributions and etc. In this course, students learn an approach that helps them to understand what features of assets dto look at and how to decide on when they make investment decisions. Next, students study the relationship that is expected to hold between risk and return on various assets from the point of view of what is called the CAPM.
Learning objectives: In Introduction to Portfolio Theory, students will learn about the well-known approach to the problem of how to allocate funds among assets (portfolio theory). In addition, students will learn a theoretical model of risk and return on assets, called the CAPM. Specifically, the course aims to achieve the following objectives.

(1) To be able to calculate the expected value and the standard deviation of the rate of return on an asset, as well as covariance and correlation coefficient between the rates of return on a pair of assets.
(2) To understand the portfolio theory and to be able to explain it to a third party.
(3) To be able to explain the relationship between risk and return of assets in accordance with the Capital Asset Pricing Model (CAPM).
Learning activities outside of classroom: Preparatory study and review of materials provided by the instructor. Students are expected to spend about four hours on it for each class.
Grading criteria/policy: The final exam will account for 70% of the grade, while quizzes and class participation will account for 30% of the grade.

ECN500F1 － 0135

デリバティブ入門Ⅰ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**学部主催「デリバティブ入門Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主な目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
（1）金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
（2）先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
（3）無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
（4）金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第２回	金融・証券市場の基礎知識（1）	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第３回	金融・証券市場の基礎知識（2）	デリバティブ市場の概説
第４回	キャッシュフローと現在価値（1）	将来価値と現在価値の概念
第５回	キャッシュフローと現在価値（2）	複利、付利期間、割引因子などの概念
第６回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第７回	先渡取引（1）	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第８回	先渡取引（2）	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第９回	先物取引（1）	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引（2）	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係（1）	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係（1）	スポットレート、パーレート、短期金利
第13回	先渡取引（3）	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引（4）	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。1 回の授業ごとの学習時間は、予習 2 時間、復習 2 時間、合計で 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】
（1）岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
（2）フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
（3）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
（4）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
基礎ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　金融テクノロジー、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“Recovering Subjective Probability Distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（2）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021 年 3 月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター
（3）“A General Control Variate Method for Levy Models in Finance,” *European Journal of Operational Research*, Vol.284, No.3, 2020, Elsevier

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1 － 0136

デリバティブ入門Ⅱ

山嵜　輝

備考（履修条件等）：**学部主催「デリバティブ入門Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げます。
(1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
(2) スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
(3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
(4) 金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第２回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先渡取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第３回	スワップ取引（1）	IRS とその活用方法
第４回	スワップ取引（2）	通貨スワップとその活用方法
第５回	スワップ取引（3）	スワップレートの決定理論
第６回	オプション取引（1）	コールとプット、プット・コール・パリティ
第７回	オプション取引（2）	オプションの活用方法
第８回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第９回	オプション価格理論（1）	１期間２項モデルによるオプション価格の算出
第10回	オプション価格理論（2）	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第11回	オプション価格理論（3）	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第12回	オプション価格理論（4）	２期間２項モデルによるオプション価格の算出
第13回	オプション価格理論（5）	動的複製ポートフォリオとデルタ
第14回	オプション価格理論（6）	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料の復習をしっかり行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。1 回の授業ごとの学習時間は、予習 2 時間、復習 2 時間、合計で 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】
(1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
(2) フィナンシャルバンクインスティチュート編、『うかる！ 証券外務員一種 必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
(3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
(4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】
学期末に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】
金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】
講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】
基礎ファイナンス、コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、ポートフォリオ理論入門

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　金融テクノロジー、資産価格理論
＜主要研究業績＞
(1) “Recovering Subjective Probability Distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
(2)「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021 年 3 月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター
(3) “A General Control Variate Method for Levy Models in Finance,” *European Journal of Operational Research*, Vol.284, No.3, 2020, Elsevier

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than four hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN500F1 － 0137

国際経済学Ⅰ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：**学部主催「国際経済論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化が進む中で、国際取引やその取引を支えるルールや世界の枠組みが大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間では現在どのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われており、これらがどう変化してきたのかを考察することで、現実の経済に対する理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持ち、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。
※修士課程の学生には、適宜問題演習の機会を設けます。詳細は初回の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の概要とルール
2	日本の貿易の特徴	データで学ぶ日本の貿易
3	貿易と市場 1	市場メカニズム（需要・供給分析）
4	貿易と市場 2	市場の資源配分（余剰分析）
5	貿易と市場 3	貿易による利益と市場競争
6	技術の違いと貿易パターン 1	データで学ぶ国際分業と日本の比較優位
7	技術の違いと貿易パターン 2	比較優位理論
8	技術の違いと貿易パターン 3	比較優位と貿易
9	新しい貿易理論と日本の貿易 1	消費の多様性と貿易
10	新しい貿易理論と日本の貿易 2	生産工程の細分化と貿易
11	新しい貿易理論と日本の貿易 3	企業の技術力の違いと貿易
12	生産要素の国際間移動 1	日本の外国人労働
13	生産要素の国際間移動 2	生産要素の国際移動の理論
14	まとめ	春学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんには、別途、問題演習とそのディスカッションの機会（Zoom）を設ける場合があります。詳細は、第 1 回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ　第 2 版』有斐閣、2013 年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世社、2022 年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023 年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」第 5 版』創成社、2022 年。
友原章典『理論と実証から学ぶ　新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第 10 版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017 年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉- 』慶應義塾大学出版会、2016 年。
田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と 21 世紀の国際経済』ミネルヴァ書房、2015 年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート： 40 %
期末テスト： 60 %
宿題・レポート・期末テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題は Microsoft Word, Excel, Powerpoint やそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、併せて履修することを勧めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究

＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40 %
Final Examination: 60%

ECN500F1 － 0138

国際経済学Ⅱ

髙橋　理香

備考（履修条件等）：**学部主催「国際経済論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、グローバル化が進む中で、国際取引やその取引を支えるルールや世界の枠組みが大きく変わろうとしています。本授業では、理論的な分析ツールや諸資料を活用しながら、日本と諸外国の間では現在どのような国際取引がどのようなルール・枠組みの下で行われており、これらがどう変化してきたのかを考察することで、現実の経済に対する理解を深めます。国際経済論Ⅰでは主に貿易の基本構造や労働・資本の国際間移動について、国際経済論Ⅱでは主に貿易政策や国際通商システムについて、理論・実証・歴史的な観点から分析し、現代の国際社会において重要とされるトピックスをとりあげて問題点を解明します。

【到達目標】
この授業を通して、以下のスキルを身につけます
1. 現代の複雑な国際経済のメカニズムをシンプルなモデルを用いて理論的に考察できる。
2. データを用いて日本と世界の経済取引や経済政策の在り方を考察できる。
3. 日本と世界の経済取引や経済政策の歴史的経緯と現代の国際経済の諸問題を関連付けて考察できる。
4. これらの学習を通じて、現実におきている国際経済にまつわる出来事に関心を持つ、課題を見つけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンデマンド形式の講義を行います。各回の講義ノートを配布した上で、パワーポイントのスライドを使って講義を展開します。理解を深めるために、統計データなどの諸資料も参照しながら解説します。国際経済に関する時事的なトピックスとして、新聞記事（日本語・英語）を紹介しながら解説します。また、宿題の解説などを行うこともあります。また、学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを通じて、受講者とインタラクションを持つ機会を設けます。授業に関する告知や講義ノート・宿題の問題等は、学習支援システムを使って配信しますので、各自が適宜確認してください。
※修士課程の学生には、適宜問題演習の機会を設けます。詳細は初回の授業で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	データで学ぶ日本の貿易政策
2	日米貿易摩擦と日本の貿易政策の変遷	歴史的観点から学ぶ日本の貿易政策
3	関税政策 1	関税政策の理論
4	関税政策 2	日本と外国の関税政策の実態
5	非関税障壁 1	輸入数量制限と日本の農業
6	非関税障壁 2	輸出自主規制と日本の自動車産業
7	国内不完全競争政策 1	国内不完全競争政策と日本の流通市場
8	国内不完全競争政策 2	国内不完全競争政策と関税政策の比較
9	戦略的貿易政策	戦略的相互依存関係と世界の航空産業
10	ダンピング 1	ダンピングの不当性
11	ダンピング 2	日米関係におけるアンチダンピング政策
12	国際経済システム 1	多角間交渉（GATT/WTO）
13	国際経済システム 2	地域経済統合（RTA, TPP, RCEP)
14	まとめ	秋学期の内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。宿題を出しますので、指定された日時までに必ず解いて提出してください。また、学習支援システムを通じて配信された講義ノートを各自ダウンロード・印刷して授業時に持ってきてください。
また、本授業は、経営学部とのコードシェア科目です。修士課程の学生の皆さんとは、別途、問題演習や問題の解き方に関するディスカッション（Zoom）の機会を設ける場合があります。詳細は、第 1 回目の授業の際にお知らせします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。毎回配布する授業ノートを基に進めていきます。ただし、下記の参考書のうち、少なくともどれか 1 冊を入手して読むことを勧めます。参考書の特徴や難易度については、春学期・秋学期それぞれ第 1 回の授業で説明しますので、その説明を聞いてからどれを読むかを決めるのが良いと思います。

【参考書】
【テキスト】
石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ　第 2 版』有斐閣、2013 年。
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世紀社、2022 年。
伊藤萬里・田中鮎夢『現実からまなぶ国際経済学』有斐閣、2023 年。
多和田眞・近藤健児『国際経済学の基礎「100 項目」第 5 版』創成社、2022 年。
友原章典『理論と実証から学ぶ　新しい国際経済学』ミネルヴァ書房、2018 年。
古沢泰治『国際経済学入門』新世社、2022 年。
若杉隆平編『基礎から学ぶ国際経済と地域経済』文眞堂、2020 年。
クルーグマン, P.R., M. オブストフェルド, M. J. メリッツ『クルーグマン国際経済学- 理論と政策- 〔原書第 10 版〕上・貿易編』山形浩生・守岡桜訳、丸善出版、2017 年。
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2022) *International Economics: Theory and Policy,* 12th edition, Pearson.
【読み物】
阿部顕三『貿易自由化の理念と現実』NTT 出版、2015 年。
飯野文『WTO FTA CPTPP-国際貿易・投資のルールを比較で学ぶ』弘文堂、2019 年。
小林友彦ほか『WTO・FTA 法入門- グローバル経済のルールを学ぶ』法律文化社、2016 年。
椋寛『自由貿易はなぜ必要なのか』有斐閣、2020 年。

【成績評価の方法と基準】
宿題・レポート： 40 %
期末テスト： 60 %
宿題・レポート・テストの詳細については、学習支援システム上で適宜お知らせします。各自、注意して確認下さい。

【学生の意見等からの気づき】
現実のトピックに関心を持つ学生が多いことから、国際経済学にまつわる新聞記事の紹介と簡単な解説を行います。

【学生が準備すべき機器他】
毎回の授業を動画配信しますので、音声・動画を視聴できるデバイスを準備してください。また、授業ノートや資料の配信・課題の提出・連絡事項は学習支援システムを使います。宿題・課題は Microsoft Word, Excel, Powerpoint やそれらに準ずるソフトを用いて作成することが求められます。

【その他の重要事項】
① ⅠとⅡを通年で履修することを強く勧めます。
② ミクロ経済学の知識があったほうが良いでしょう。
③ 経済学入門・日本経済論・国際金融論・産業組織論と関連していますので、卒業までに併せて履修することを勧めます。

【担当】
＜専門領域＞国際経済学
＜研究テーマ＞日本の農業貿易政策に関する理論と実証研究

＜主要研究業績＞"Welfare Losses from Non-Tariff Barriers: The Beef Quota Case," Japanese Economic Review, Vol. 56 No. 4, pp.457-468, December 2005 (with Makoto Yano and Hideo Mizuno).

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this class is to understand international transactions conducted in Japan and other countries and to focus how such transactions have changed these economies by using theoretical analysis tools and various materials. In International Economics I, we will learn the basic and fundamental structures of trade and international movement of labor and capital, and in International Economics II, we will learn trade policies and the international economic system theoretically and historically.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students will be expected to:
(1)Understand key trade models.
(2)Understand key concepts with respect to trade.
(3)Analyze and evaluate daily life topics and current and past news topics from the viewpoint of trade theory and policy.
(4)Solve problem sets.
(5)Read newspaper articles written in English.
【Learning activities outside of classroon】
Students are expected to download, print out, and read assigned handouts before class and do homework after class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
Office hours may occasionally be held during the first period of Thursday. Although these are for master's students, undergraduate students are also welcome to participate.
【Grading Criteria】
Homework and Exercises: 40 %
Final Examination: 60%

ECN500F1 － 0169

国際金融論特論Ⅰ

横内　正雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバリゼーションが進展し、金融化現象（金融グローバル化）が世界経済に大きな影響を与えてきている。本講義において、学生はグローバリゼーション下の国際金融の問題を主として理論の側面から学ぶことになる。具体的には、前半で国際収支、外国為替、金利平価の概念を学び、後半では為替相場の理論、国際収支の理論などを学ぶことになる。また、講義の中で学生は理論を使った基本的な問題を解くことになる。学生はこの講義を通じて国際金融の諸問題の本質について理解を深めることが出来るようになると考える。

【到達目標】

現在生じている様々な国際金融の現象について、その基本概念と理論を理解することを目標とする。これによって、経営学・経済学を学ぶ大学院生が、現代の国際金融の問題について理解を深めるとともに、自分の力で現在の問題を捉えることができるようになればよいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

講義は、対面での講義を基本とする。パワーポイントを使った講義で、資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	外国為替相場 (1)	外国為替相場について概説する。
第 2 回	外国為替相場 (2)	外国為替相場に関する基本問題と応用問題を解く。
第 3 回	国際収支 (1)	国際収支に関して概説する。
第 4 回	国際収支 (2)	国際収支に関する基本問題と応用問題を解く。
第 5 回	金利平価 (1)	金利平価の理論について概説する。
第 6 回	金利平価 (2)	金利平価に関する基本問題と応用問題を解く。
第 7 回	外国為替相場の理論Ⅰ (1)	外国為替相場の決定に関する古典理論について講義する。
第 8 回	外国為替相の理論Ⅰ (2)	外国為替相場の古典理論に関する文献を講読する。
第 9 回	外国為替相場の理論Ⅱ (1)	外国為替相場の決定に関する近代理論であるアセットアプローチについて講義する。
第 10 回	外国為替相場の理論Ⅱ (2)	外国為替相場の決定に関するアセットアプローチに関する文献を講読する。
第 11 回	国際収支の理論Ⅰ (1)	国際収支に関する弾力性アプローチに関して講義する。
第 12 回	国際収支の理論Ⅰ (2)	弾力性アプローチに関する文献を講読する。
第 13 回	国際収支の理論Ⅱ (1)	国際収支に関する貯蓄投資バランスアプローチについて講義する。
第 14 回	国際収支の理論Ⅱ (2)	貯蓄投資バランスアプローチに関する文献を講読する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。事前の準備として横内正雄『国際金融論Ⅰ』（通教テキスト）を事前に読んで講義に参加することが望まれる。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない. 担当教員が作成した印刷物（レジュメ、資料等）を配付する。

【参考書】

· M.Melvin and S.C.Norrbin, *International Money and Finance*, 8th Edition, Elsevier, 2013.
· P.R.Krugman and M.Obstfeld, *International Economics : Theory and Policy*,10th Edition, Pearson Education, 2014.
· 小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016 年.
· 高木信二『入門 国際金融』[第 4 版] 日本評論社、2011 年.
· 横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020 年.

【成績評価の方法と基準】

レポートに加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。レポート 50 %、授業中の参加の度合・貢献度 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

一般に国際金融論は難解であるとの感想が寄せられることが多い。本講義は出来るだけ平易に国際金融の理論等を解説したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

講義に際して学生が準備すべき危機等は特にない。

【その他の重要事項】

特にない。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞
国際金融・金融史
＜研究テーマ＞
国際銀行の歴史的研究
＜主要研究業績＞
·「グローバリゼーションと国際通貨ドル」·「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME 編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：Ⅰ世界経済の構造と動態』 御茶の水書房 2003 年
·「1990 年代の香港金融市場における邦銀」 法政大学経営学会『経営志林』第 40 巻第 1 号, 2003 年
·『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020 年

【Outline (in English)】

In the modern world, globalization has progressed, and the phenomenon of financialization (financial globalization) has had a major impact on the world economy. This lecture attempts to analyze global financial issues under globalization from a theoretical perspective. Through this lecture, students will be able to understand the nature of ongoing financial globalization. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are expected to read Masao Yokouchi's "International Finance I" in advance and participate in the lecture. Grades will be based on a comprehensive evaluation, taking into account the degree of participation and contribution during the class, in addition to reports.

ECN500F1 － 0170

国際金融論特論Ⅱ

横内　正雄

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義で、学生は国際金融に関する制度、歴史、実態について学ぶことになる。学生は、最初に国際金融のトリレンマについて学ぶことになるが、これは本講義の枠組みとなる基本的な考え方である。次に国際通貨制度について固定相場制と変動相場制に分けてその仕組みと歴史について理解することになる。その後、為替リスクの管理、国際通貨、通貨統合、通貨危機といった国際金融の実態について学ぶ。学生はこの講義を通じて国際金融の歴史的・制度的などの側面についての理解を深めることが出来ると考える。

【到達目標】
国際金融の現状を知るには理論のみではなく制度や歴史についての理解が不可欠である。この講義を通じて、日々のニュースなどで言及される国際金融の問題に関して、その制度や歴史的背景を知ることを通じて自らの力でより深い考察ができるようになることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義は、対面での講義を基本とする。パワーポイントを使った講義で、資料や講義ノートは事前に学習支援システムにアップロードされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済政策と国際金融 (1) －マンデル・フレミング・モデル	間 m 出るフレミング・モデルの基本的な考え方につて講義する。
第 2 回	マクロ経済政策と国際金融 (2) －国際金融のトリレンマ	マンデル・フレミングモデルから導き出される国際金融のトリレンマの考え方について講義する。
第 3 回	固定為替相場制度 (1) －国際金本位制	固定相場制としての国際金本位制について講義する。
第 4 回	固定為替相場制度 (2) －ブレトンウッズ体制	固定相場制としての戦後のブレトンウッズ体制について講義する。
第 5 回	変動為替相場制度 (1) －変動為替相場制度の長所と短所	変動為替相場制のメリットとデメリットについて講義する。
第 6 回	変動為替相場制度 (2) －各国の為替相場制度と中間的為替相場制度	変動為替相場制度と固定為替相場制度の中間にある為替相場制度について講義する。
第 7 回	為替リスクとその管理 (1) －為替リスクの種類	為替リスクの種類について講義する。
第 8 回	為替リスクとその管理 (2) －オプションとスワップ	為替リスクのヘッジ手段としてのオプションとスワップについて講義する。
第 9 回	国際通貨 (1) －国際通貨の理論	国際通貨が発生するメカニズムについて講義する。
第 10 回	国際通貨 (2) －国際通貨の現状	国際通貨の現状について講義する。
第 11 回	通貨統合 (1) －最適通貨圏の理論	最適通貨圏の考え方について講義する。
第 12 回	通貨統合 (2) －欧州通貨統合	欧州通貨統合の歴史とユーロの現状について講義する。
第 13 回	通貨危機 (1) －通貨危機の理論	通貨危機の理論について講義する。
第 14 回	通貨危機 (2) －アジア通貨危機と世界金融危機	1990 年代に生じた通貨危機について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。事前の準備として横内正雄『国際金融論Ⅰ』（通教テキスト）を事前に読んで講義に参加することが望まれる。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない. 担当教員が作成した印刷物（レジュメ、資料等）を配付する。

【参考書】
・M.Melvin and S.C.Norrbin, *International Money and Finance*, 8th Edition, Elsevier, 2013.
・P.R.Krugman and M.Obstfeld, *International Economics : Theory and Policy*,10th Edition, Pearson Education, 2014.
・小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016 年.
・高木信二『入門 国際金融』[第４版] 日本評論社、2011 年.
・横内正雄『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020 年.

【成績評価の方法と基準】
レポートに加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し、総合的に判断する。レポート 50 %、授業中の参加の度合・貢献度 50 %。

【学生の意見等からの気づき】
国際記入の講義はとかく難しいと思われているが、本講義では国際金融の理論だけでなく、実態を含めてデータを用いながらわかりやすく講義する。

【学生が準備すべき機器他】
講義に際して学生が準備すべき機器類はない。

【その他の重要事項】
特にない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際金融・金融史
＜研究テーマ＞
国際銀行の歴史的研究
＜主要研究業績＞
・「グローバリゼーションと国際通貨ドル」・「国際資本移動とアジア通貨危機」SGCIME 編『グローバル資本主義と世界編成・国民国家システム：Ⅰ世界経済の構造と動態』 御茶の水書房 2003 年
・「1990 年代の香港金融市場における邦銀」 法政大学経営学会『経営志林』第 40 巻第 1 号, 2003 年
・『国際金融論Ⅰ』法政大学通信教育部、2020 年

【Outline (in English)】
Financial globalization has had a significant impact on the world economy in the modern era. The knowledge of international finance is essential for understanding the modern world economy. This lecture deals with the institutions, history and reality of international finance, whereas Advanced Theory of International Finance I dealt with theory. The aim of this lecture is to enable students to consider the issues of international finance that are mentioned in the daily news through knowledge of the institutional and historical background of international finance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are expected to read Masao Yokouchi's "International Finance I" in advance and participate in the lecture. Grades will be based on a comprehensive evaluation, taking into account the degree of participation and contribution during the class, in addition to reports.

ECN500F1 － 0171

産業組織論Ⅰ

大木　良子

備考（履修条件等）：**学部主催「産業組織論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。
Ⅰでは、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方・ものの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。
The goal is for students to be able to apply the basic ideas and perspectives of industrial organization theory to their own business analysis about specific companies and markets.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
経営学部「産業組織論Ⅰ」との共同開講授業である。オンデマンド型オンライン授業として、全 14 回、YouTube による動画配信で授業を実施する。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。
学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また学部生と同じ期末試験を同じ日時に行う。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。
大学院生のみ対象とした課題の提出が求められる。また必要に応じて大学院生のみを対象とした補講を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
2	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
3	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
4	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
5	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
6	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
7	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
8	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争）企業の数が変化していくと競争はどのように変わっていくか？
9	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（ベルトラン競争） クールノー競争との違い
10	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
11	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。
12	ゲーム理論（3）	ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
13	競争政策と産業組織論・事例分析	競争政策の基礎を学ぶ。 現実に競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。
14	問題演習	春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students are required to review after class in order to prepare for the midterm and final exam. Proactive study with the references introduced for each topic is also expected. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018 年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、 日本評論社、2018 年
『入門　ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『プラクティカル　産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
『産業組織の経済学　第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年
『競争政策論　第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年
『経営の経済学　第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】
宿題 20 %（大学院生のみを対象とした課題を含む）
中間試験 15 %
期末試験 65 %
Grading:
Homework: 20% (Including assignments for graduate students only)
Mid-term Exam: 15%
Final Exam:65%

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。
また、学習支援システムを通じて、大学院生のみを対象とした課題や補講についての連絡を行うので、必ずチェックしてください。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

【関連科目】
ミクロ経済論Ⅰ／Ⅱ

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　競争政策の経済分析
＜研究テーマ＞　プラットフォーム市場におけるマルチホーミングと競争との関係
＜主要研究業績＞
Exclusive Content in Two-sided Markets, Journal of Economics and Management Strategy, (with Akifumi Ishihara) Volume 30, Issue 3, Fall 2021, pp. 638-654.

【Outline (in English)】
This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.
Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.
Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and
homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN500F1 － 0172

産業組織論Ⅱ

大木　良子

備考（履修条件等）：**学部主催「産業組織論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかする力をつけることを目指す。
具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。
Ⅱでは、春学期の産業組織論Ⅰで学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的取引制限など現実的によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】
産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
経営学部「産業組織論Ⅰ」との共同開講授業である。
オンデマンド型オンライン授業として、全 14 回、YouTube による動画配信で授業を実施する。
全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。
学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また学部生と同じ期末試験を同じ日時に行う。
学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。大学院生のみ対象とした課題の提出が求められる。また必要に応じて大学院生のみを対象とした補講を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
2	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
3	製品差別化と競争（1）	差別化の源泉は何か？（立地、ブランド）
4	製品差別化と競争（2）	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
5	製品差別化と競争（3）	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
6	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどのように決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
7	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響
8	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う
9	垂直的取引制限（1）	垂直的取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
10	垂直的取引制限（2）	様々な垂直的取引制限と市場競争との関係を理論分析する
11	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
12	ネットワーク外部性（1）	ネットワーク外部性の定義とそれらが見られる具体的な市場の紹介（検索エンジンや SNS のビジネスモデル）
13	ネットワーク外部性（2）	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介
14	事例研究	これまでの学習内容を最近の競争政策上問題とされた企業の事例を用いて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。
『産業組織とビジネスの経済学』花薗誠著　有斐閣　2018 年
『ミクロ経済学』伊藤元重著、 日本評論社、2018 年
『入門　ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
『プラクティカル　産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
『産業組織の経済学　第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年
『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年
『競争政策論　第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年
『経営の経済学　第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】
宿題 20 %　（大学院生のみを対象とした課題を含む）
中間試験 15 %
期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。
また、学習支援システムを通じて、大学院生のみを対象とした課題や補講についての連絡を行うので、必ずチェックしてください。
学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】
ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。
産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

【関連科目】
ミクロ経済論Ⅰ／Ⅱ

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　競争政策の経済分析
＜研究テーマ＞　プラットフォーム市場におけるマルチホーミングと競争との関係
＜主要研究業績＞

Exclusive Content in Two-sided Markets, Journal of Economics and Management Strategy, (with Akifumi Ishihara) Volume 30, Issue 3, Fall 2021, pp. 638-654.

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four
hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and
homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN500F1 － 0139

日本経済特論Ⅰ

平田　英明

備考（履修条件等）：**学部主催「日本経済論Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程は学期始めに示します。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業説明 財政問題 1	授業計画の紹介と 7 章について講義します。
2	財政問題 2	7 章の続きを講義します。
3	講演 1（財務省）	財政に関する問題について、財務省の役人にお話し頂きます。
4	財政問題 GS	財政問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
5	マクロ的視点からの経済の捉え方 1	1 － 3 章について講義します。
6	マクロ的視点からの経済の捉え方 2	1 － 3 章の続きを講義します。
7	マクロ的視点からの経済の捉え方 GS	マクロ的視点からの経済の捉え方に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
8	日本の企業とその特徴 1	4 章について講義します。
9	日本の企業とその特徴 2	4 章の続きを講義します。
10	日本の企業とその特徴 GS	日本の企業とその特徴に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
11	講演 2（医者）	医療スタートアップの実例について、ご講演頂きます。
12	グローバル化と景気の国際連動	グローバル化と景気の国際連動の基本理論を理解します
13	グローバル化と景気の国際連動 GS	グローバル化と景気の国際連動に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
14	春学期の復習	春学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』(有斐閣、2020) を必ず購入してください。旧版ではなく最新版の第６版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題によって評価を行います

　中間レポート課題（２回）　３０％ × ２

　期末レポート課題（１回）　４０％

更に講演に関するレポート等については加点をする場合があります。また、期末レポート課題は、学部生も受験する期末試験を受けて頂く可能性もあります。

なお、同時聴講する学部生は試験方式で評価を行うので、そちらと混同しないようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

担当教員の専門領域：マクロ経済学、経済統計

担当教員の研究テーマ：国際景気変動、オルタナティブデータと公的統計

担当教員の主要研究業績：

Choi, Yoonseok, Hideaki Hirata, and Sunghyun Henry Kim. 2017. “Tax Reform in Japan: Is It Welfare-enhancing?” Japan and the World Economy, 42: 12-22.
Hirata, Hideaki, and Keisuke Otsu. 2016. “Accounting for the economic relationship between Japan and the Asian Tigers.” Journal of the Japanese and International Economies, 41: 57-68.
Hirata, Hideaki. 2014. “Preference Shocks, International Frictions, and International Business Cycles.” Journal of Asian Economics, 34: 92-104.
Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata. 2014. “Differentiated Use of Small Business Credit Scoring by Relationship Lenders and Transactional Lenders: Evidence from Firm – Bank Matched Data in Japan.” Journal of Banking & Finance, 42: 371 – 380.
Hasumi, Ryo, and Hideaki Hirata. 2014. “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan.” Journal of Small Business Management, 52 (3): 555-568.
Yamamoto, Ryuichi, and Hideaki Hirata. 2013. “Strategy Switching in the Japanese Stock Market.” Journal of Economic Dynamics and Control, 37 (10): 2010 – 2022.

【関連科目】

Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。金融論、ファイナンス入門、国際経済学、国際金融特論、産業組織論等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan’s macroeconomic problems.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on report assignments

Mid-term reports (2 times) 30% x 2
Final report (1 time) 40%

In addition, points may be given for reports on lectures and other related topics. In addition, students may be required to take a final examination instead of the final report assignment. Undergraduate students who attend lectures at the same time will be evaluated just by the final exam, so please do not get confused.

ECN500F1 － 0140

日本経済特論Ⅱ

平田　英明

備考（履修条件等）：**学部主催「日本経済論Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界的に有名な投資家のジム・ロジャースはインタビューで「長期的には（日本経済について）かなり悲観的だ。」「もし私がいま 10 歳の日本人ならば……この国を去ることを選ぶ」「いま 10 歳の日本人は、これからの人生で大惨事に見舞われるだろう」という衝撃的な発言しています。その一方で、毎年初に注目されるユーラシア・グループによる「世界 10 大リスク」の最新版では、日本経済に関する「リスク」は全く指摘されていません。日本経済は「（良い意味で）ヤバイ」のでしょうか、それとも「（悪い意味で）ヤバイ」のでしょうか。

海外との取引の拡大している中で日本の経済は影響をどのように受け、どのような影響を与えるのでしょうか。Covid-19 の経済への影響は？ ウクライナ戦争を受けた分断の下の諸政策の影響は？ そして、これらの影響をどう分析すればいいのでしょうか。

皆さんは経営学部に所属していますから、将来、企業人として活躍されることを展望されていると思います。それならば、企業を取り巻く環境、つまり日本と世界の経済のポイントを押さえておく必要があることは自明だとご存じのはずです。あのアップルやユニクロであっても、経済情勢に経営は大きく影響されます。そして、上述のように、あいにく経済の見通しに関する見立てには"the answer(s)"があるわけではありません。ですから、自社の置かれた立場を踏まえて、自ら分析する能力が必要です。

この授業はなぜ様々な主張があり得るのか、その背後にある考え方を理解し、自らの力で日本の経済、世界の経済を俯瞰できる素養を身につけることを目的とします。

【到達目標】

究極的には「企業経営者や企画戦略を練るような企業の中枢の人々が、経営的な視点から経済の何をみる（べきな）のか、どう見る（べきな）のか」について多角的に学生が理解できるようになることが目標です。大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかると思います。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。

ただ、皆さんがそのような立場になるまでにはかなりの時間を要するでしょう。その意味では、目先の目標として「学生が経営学の各分野と日本経済の関わり方を理解できるようになる」ことも意識します。そもそも経営学は経済学から発展した学問分野であり、経営学の各分野は、全て何らかの形で日本経済と関わっています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

今年度はオンデマンドと対面の組み合わせで授業を行います。正式な日程は学期始めに示します。オンデマンドは、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。対面はアクティブラーニングを中心に行います。

授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

例年、授業内で数回講演してもらっています（過去の登壇者の例：国会議員、政府・日銀の要人、実務家、学者など）。皆さんの意見も踏まえ、今年度は財務省の役人と医療スタートアップを手がける医師にご講演頂く予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業説明 労働問題１	授業計画の紹介と５章について講義します。
2	労働問題２	５章の続きを講義します。
3	講演 1（未定）	労働に関する問題について、財務省の役人にお話し頂きます。
4	労働問題 GS	労働問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
5	社会保障問題１	６章について講義します。
6	社会保障問題２	６章の続きを講義します。
7	社会保障問題 GS	社会保障の問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
8	金融の基本１	８章について講義します。
9	金融の基本２	８章の続きを講義します。
10	金融の基本 GS	金融の基本関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
11	講演 2（未定）	金融の実務家に、ご講演頂きます。
12	国際間の貿易１	９章について講義します。
13	国際間の貿易 GS	国際貿易の問題に関する資料を読み、グループを組んで議論を行います。
14	秋学期の復習	秋学期の学習内容を振り返ります

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で配布するスライドや資料は、全て授業支援システム上に掲載予定です。予習を前提とはしません。代わりに学生の皆さんは復習に重点を置いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅子・飯塚・篠塚『入門・日本経済』(有斐閣、2020) を必ず購入してください。旧版ではなく最新版の第６版を購入してください。

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題によって評価を行います

　中間レポート課題（２回）　３０％ × ２

　期末レポート課題（１回）　４０％

更に講演に関するレポート等については加点をする場合があります。また、期末レポート課題は、学部生も受験する期末試験を受けて頂く可能性もあります。

なお、同時聴講する学部生は試験方式で評価を行うので、そちらと混同しないようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の方式を複数用意し、多くの学生のニーズに応えられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでのスタンダードな授業環境を用意してくれれば大丈夫です。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

担当教員の専門領域：マクロ経済学、経済統計

担当教員の研究テーマ：国際景気変動、オルタナティブデータと公的統計

担当教員の主要研究業績：

Choi, Yoonseok, Hideaki Hirata, and Sunghyun Henry Kim. 2017. “Tax Reform in Japan: Is It Welfare-enhancing?” Japan and the World Economy, 42: 12-22.

Hirata, Hideaki, and Keisuke Otsu. 2016. “Accounting for the economic relationship between Japan and the Asian Tigers.” Journal of the Japanese and International Economies, 41: 57-68.

Hirata, Hideaki. 2014. “Preference Shocks, International

Frictions, and International Business Cycles." Journal of Asian Economics, 34: 92-104.
Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata. 2014. "Differentiated Use of Small Business Credit Scoring by Relationship Lenders and Transactional Lenders: Evidence from Firm - Bank Matched Data in Japan." Journal of Banking & Finance, 42: 371 - 380.
Hasumi, Ryo, and Hideaki Hirata. 2014. "Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan." Journal of Small Business Management, 52 (3): 555-568.
Yamamoto, Ryuichi, and Hideaki Hirata. 2013. "Strategy Switching in the Japanese Stock Market." Journal of Economic Dynamics and Control, 37 (10): 2010 - 2022.

【関連科目】

Ⅰ、Ⅱを連続履修することを薦めます。金融論、ファイナンス入門、国際経済学、国際金融特論、産業組織論等が関連科目ではありますが、事前履修は必須ではありません。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to current economic issues of Japan and to basic macroeconomic principles and methods with a bunch of examples. I try to help you understand why they can be so very powerful. By January, you should be able to use the analysis taught in the course to form your own opinions about Japan's macroeconomic problems.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
Evaluation will be based on report assignments

Mid-term reports (2 times) 30% x 2
Final report (1 time) 40%

In addition, points may be given for reports on lectures and other related topics. In addition, students may be required to take a final examination instead of the final report assignment. Undergraduate students who attend lectures at the same time will be evaluated just by the final exam, so please do not get confused.

ECN500F1 － 0173

統計学Ⅰ

猪狩　良介

備考（履修条件等）：**学部主催「経営のための統計学Ⅰ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経営／ビジネスの現場において統計学とデータ分析のニーズが非常に高まっています。経営／ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があり、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎的な理論と統計モデリングを学ぶとともに、それを経営分野のデータに応用することを目的としています。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】
・統計理論および様々な統計モデルを習得し、他の人に説明できる。
・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・講義資料に沿って進めます。資料は Hoppii の「教材」より配布します。
・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。
・この授業は対面で実施する予定です。
※授業の進め方はシラバス作成時点の予定ですので、今後変更になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／Rのインストール	講義概要について説明します。また、統計ソフト R のインストールについて紹介します。
2	記述統計／ R の基本操作 (1)	データの特徴を見るための、平均・分散・標準偏差などを学びます。また、統計ソフト R の基本的な使い方を勉強します。
3	相関／ R の基本操作 (2)	複数の変数間の関係性を分析する共分散や相関について学習します。また、統計ソフト R の基本的な使い方を勉強します。
4	確率変数と確率分布	確率変数と主要な確率分布について学習します。
5	統計的推定	母集団と標本について学習します。また、点推定と区間推定について学習します。
6	仮説検定 (1)	母平均と母比率の仮説検定について学びます。
7	仮説検定 (2)	2 つの母集団の母平均と母比率の差の検定について学びます。
8	単回帰分析 (1)	単回帰分析と母数の推定法である最小 2 乗法について学びます。
9	単回帰分析 (2)	回帰係数の検定と決定係数について学びます。
10	重回帰分析 (1)	重回帰分析について学びます。
11	重回帰分析 (2)	多重共線性や変数選択について学びます。
12	ロジスティック回帰分析 (1)	2 値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。また、最尤法について学習します。
13	ロジスティック回帰分析 (2)	ロジスティック回帰分析の予測値や的中率の算出方法、AIC などについて学びます。
14	まとめ	本授業の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
本橋永至 (2015)「R で学ぶ統計データ分析」オーム社

【参考書】
・小暮厚之 (2009)「R による統計データ分析入門」朝倉書店.
・金明哲 (2017)「R によるデータサイエンス -データ解析の基礎から最新手法まで　第 2 版」森北出版.

【成績評価の方法と基準】
・演習レポート (2～3 回を予定) ： 50%
・期末レポート： 50%

【学生の意見等からの気づき】
データを用いた演習に重点を置き、より実践的な内容を扱います。

【学生が準備すべき機器他】
フリーの統計ソフト R を利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
経営学研究科に所属する学生以外の履修は認めません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス、広告論、経営統計学
＜研究テーマ＞
統計モデルを用いた消費者行動の分析、広告効果測定、メディア利用行動分析
＜主要研究業績＞
・猪狩良介・竹内真登 (2023).「COVID-19 の脅威とメディア利用行動の変化－消費者セグメントの遷移の把握－」『オペレーションズ・リサーチ』68(3), 138-146.
・猪狩良介・星野崇宏 (2023).「異質性の動的変化を考慮した競合リスクモデルによる購買間隔のモデリング：複数チャネルにおける消費者購買行動の分析 」『日本統計学会誌』52(2), 269-293.
・Igari, R. and Takeuchi, M. (2023). A Dynamic Model for Ranking-Based Conjoint Analysis with No-Choice Options. Behaviormetrika, 50(1), 263 – 286.
・竹内真登・猪狩良介 (2021).「文脈効果を考慮したコンジョイント分析による購買予測」『流通研究』24(2), 17-32.
・Igari, R. and Hoshino, T. (2018). A Bayesian Data Combination Approach for Repeated Durations under Unobserved Missing Indicators: Application to Interpurchase-Timing in Marketing. Computational Statistics & Data Analysis, 126, 150-166.

【Outline (in English)】
[Course outline]
In recent years, the skills of Statistics and data analysis are required even in the management / business field. In addition, to properly make decisions in the management / business context, it is necessary to make objective judgments based on statistical theory and data, and that requires knowledge of statistics. In this course, we will learn about basic theory of Statistics and some statistical modeling, and apply them to data in the management field. In addition, we sill acquire practical skills by performing actual data analysis using free statistical software R.
[Learning Objectives]
Students learn statistical theory and various statistical models, and can explain them to others.

Students learn how to use the statistical software R, and can perform actual data analysis.
Students can interpret the results of analysis and explain them to others.
[Learning activities outside of classroom]
Students are required to submit reports on the exercises given in the class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Exercise reports (several times): 50%.
Final report: 50%.

ECN500F1 － 0174

統計学Ⅱ

高橋　慎

備考（履修条件等）：**学部主催「経営のための統計学Ⅱ」と合同**

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
統計データ分析は、分野を問わず重要なスキルです。本講義では、経済学や経営学を含む社会科学で扱うさまざまな種類のデータ（横断面・パネル・時系列・空間・テキストデータ）の分析について、基本理論と実証手法を学びます。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】
・統計データ分析の理論を習得する。
・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・スライドを利用した講義形式で授業を進めます。
・授業で学習した内容について、演習課題を行い理解を深めます。
・演習課題の提出期限後の授業で、解答と解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要について説明します。また、データ分析の流れとデータの種類を概観します。
2	春学期の復習 1	統計ソフト R の基本操作と記述統計について復習します。
3	春学期の復習 2	回帰分析と一般化線形モデルについて復習します。
4	パネルデータ分析 1	差の差分析を学びます。
5	パネルデータ分析 2	固定効果モデル、変量効果モデルを学びます。
6	時系列分析 1	時系列データの種類、自己相関関数を学びます。
7	時系列分析 2	自己回帰法とモデルの診断方法を学びます。
8	時系列分析 3	移動平均法、自己回帰移動平均法、モデルの選択方法を学びます。
9	空間データ分析 1	地図による空間パターンの視覚化を学びます。
10	空間データ分析 2	空間パターンのアニメーションを学びます。
11	テキストデータ分析 1	未加工のテキストの前処理、文書-用語行列、トピックの発見を学びます。
12	テキストデータ分析 2	テキストの類似性による著者の予測、予測の正確性を評価する手法（交差検証）を学びます。
13	データ分析事例の紹介	授業で扱った分析手法に関連する事例を紹介します。
14	まとめ	授業で扱った内容を復習し、発展的トピックを紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・演習課題を解いて授業内容の復習と知識の定着を図ります。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
・山本勲 (2015)『実証分析のための計量経済学』中央経済社
・今井耕介（著）、粕谷祐子、原田勝孝、久保浩樹（訳）(2018)『社会科学のためのデータ分析入門（上）（下）』岩波書店
・本橋永至 (2015)『R で学ぶ統計データ分析』オーム社
・授業内でも適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
演習課題： 50%
期末課題： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
実践的な内容を多く取り入れます。

【学生が準備すべき機器他】
フリーの統計ソフト R を利用するパソコンが必要です。

【その他の重要事項】
・統計学 I の知識を前提とします。
・「授業の進め方と方法」および「授業形態」は、状況によって変更することがあります。
・「授業計画」は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
・受講人数が多い場合は、小テストを行い、その結果をもとに履修制限を行うことがあります。

【関連科目】
統計学 I

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
計量ファイナンス
＜研究テーマ＞
金融時系列データの統計分析
＜主要研究業績＞
1. Forecasting Daily Volatility of Stock Price Index Using Daily Returns and Realized Volatility, 2021, Econometrics and Statistics, in press. https://doi.org/10.1016/j.ecosta.2021.08.002
2. On the evaluation of intraday market quality in the limit-order book markets: a collaborative filtering approach, 2021, Japanese Journal of Statistics and Data Science, 4, 697-730. https://doi.org/10.1007/s42081-021-00116-0
3. Volatility and quantile forecasts by realized stochastic volatility models with generalized hyperbolic distribution, 2016, International Journal of Forecasting, 32(2), 437-457. https://doi.org/10.1016/j.ijforecast.2015.07.005
4. News impact curve for stochastic volatility models, 2013, Economics Letters, 120(1), 130-134. https://doi.org/10.1016/j.econlet.2013.03.001
5. Estimating stochastic volatility models using daily returns and realized volatility simultaneously, 2009, Computational Statistics and Data Analysis, 53(6), 2404-2426. https://doi.org/10.1016/j.csda.2008.07.039

【Outline (in English)】
Statistical data analysis is an important skill in any field. In this course we learn the basic theory and empirical methods for analysing different types of data (cross-sectional, panel, time series, spatial and textual data). We will also acquire practical skills by performing real data analysis using the free statistical software R.
The main aims of the course are: to learn the theory of statistical data analysis; to learn how to use the statistical software R and to perform actual data analysis; and to be able to interpret and explain the results of the analysis to others.
You will be required to submit reports on the exercises. The standard preparation and revision time for this course is 2 hours each.

Grades will be based 50% on the exercises and 50% on the final reports.

MAN500F1 － 0178

物流管理特論Ⅰ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ロジスティクスとサプライチェーンマネジメントに関する概論的講義です。ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの概念・理論とロジスティクス・オペレーションに関する基礎的理解と分析能力を養うことを主たる目的とします。具体的には、ロジスティクス・マネジメントとサプライチェーン・マネジメントに関する基本概念を学んだうえで、企業におけるロジスティクス・オペレーション、サプライチェーンマネジメントがどのように行われるかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーション、サプライチェーン・マネジメント、物流管理に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	（1）ビジネス・ロジスティクスの定義、概念の起源と変遷（2）企業におけるロジスティクスの役割（3）主なロジスティクス活動（4）ロジスティクス活動のトレードオフと統合、トータルコストの概念（5）ロジスティクスと企業収益の関係（6）経済におけるロジスティクスの重要性
2	サプライチェーンマネジメント	（1）サプライチェーンマネジメントの定義、ロジスティクスとの相違（2）延期戦略と投機戦略（3）サプライチェーンマネジメントとスピードの経済性、サプライチェーンの応答性、ERP(効率的な顧客対応) と QR(迅速な顧客反応) の概念、ブルウィップ効果、（4）サプライチェーン・ネットワーク構造（5）サプライチェーン・ビジネス・プロセス,（6）サプライチェーンマネジメントの経営要素,（7）サプライチェーンと競争的パフォーマンス
3	ロジスティクス/サプライチェーンマネジメントの戦略とプランニング	（1）全社戦略とロジスティクス/サプライチェーンマネジメント戦略,（2）プロセス・ベースの戦略指向、マーケット・ベースの戦略指向、チャネル・ベースの戦略指向のロジスティクス戦略,（3）機能的ロジスティクス戦略と外部指向のロジスティクス戦略（4）ロジスティクス/サプライチェーン・プランニング (Logistics / SC Planning),（5）プランニングの次元,（6）主要なプランニング領域,（7）ロジスティクス/サプライチェーンの計画問題の概念化,（8）戦略策定のためのガイドライン
4	顧客サービス	（1）顧客サービスの定義,（2）顧客サービスの要素,（3）顧客サービス戦略の策定方法: トレードオフ分析とＡＢＣ分析、顧客サービス調査,（4）グローバル顧客サービスの問題
5	ケーススタディ	ケースを用いる受講生のプレゼンとディスカッション
6	ロジスティクス・オペレーションⅠ：在庫管理	（1）在庫の機能範囲,（2）在庫の定義と種類,（3）在庫保持コスト,（4）在庫計画,（5）注文管理,（6）ABC 分析と在庫管理,（7）ベンダー主導の在庫管理（VMI）、連続自動在庫補充（CRP）、共同計画・予測・在庫補充（CPFR）
7	ロジスティクス・オペレーションⅡ：輸送インフラと輸送業務	（1）リンク、ノード、モード、キャリア,（2）輸送モードとモーダルシフト,（3）輸送規制（Transportation Regulation）,（4）輸送サービス：混載, 複合輸送, 運賃構造, 船荷証券, ロジスティクス業務統合, 宅配便, サードパーティロジスティクス（3PL）,（5）輸送管理システム（TMS）,（6）国際輸送
8	ロジスティクス・オペレーションⅢ：保管	（1）保管施設の種類,（2）保管機能と保管業務 ,（3）自社倉庫と営業倉庫,（4）ダブル・トランザクション・システム（Double Transaction System: DTS）,（5）倉庫管理システム , クロスドッキングとミルクラン,（6）倉庫の統廃合,（7）バイヤーズ・コンソリデーション,（8）保管サービスと物流金融
9	ロジスティクス・オペレーションⅣ：包装と荷役	（1）包装の機能,（2）包装材料の選択,（3）ユニットロードシステム、パレッチゼーション、コンテナリゼーション ,（4）荷役活動,（5）荷役機器,（6）デザイン・フォ・ロジスティクス
10	ケーススタディ	ケースを用いる受講生のプレゼンとディスカッション
11	製造戦略と調達戦略	（1）生産戦略の類型、（2）マスカスタマイゼーション、（3）生産工程の基本タイプ (Basic Manufacturing Processes)、（4）製品・工程マトリックス、（5）生産性ジレンマ、（6）４つの調達方式、（7）TCO の最小化、（8）調達戦略のマトリックス

12	ロジスティクス組織	（1）効果的なロジスティクス組織の重要性,（2）ロジスティクス組織構造の多様性,（3）ロジスティクス組織の有効性に影響する要素 ,（4）ロジスティクス人材の育成問題
13	グローバル・ロジスティクス	（1）海外市場進出の戦略形態,（2）グローバル市場における制御不可能な要素（,（3）輸出活動に関わる事業者,（4）貿易条件、インコタームズ（INCOTERMS）,（5）主要国の国際物流パフォーマンス指標,（6）グローバル企業のロジスティクス・マネジメント ,（7）世界主要地域のロジスティクス特徴）（8）主要新興国の物流環境,（9）モード選択の戦略,（10）新興国市場におけるロジスティクス要素技術の導入戦略,（11）基礎的キャパシティの確保と独自の高度な能力構築のジレンマ,（12）機能的なロジスティクス戦略と外部指向型のロジスティクス戦略の組み合わせ
14	総括ディスカッション、質疑、期末テスト	総括ディスカッション、質疑、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料などを使って予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。本授業の準備・復習の時間は週に 4 時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理と SCM の実践』ミネルヴァ書房（2022 年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション (20%)、ディスカッション (20%)、期末テスト (60%) を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023 年（論文）、『業界別物流管理と SCM の実践』2022 年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021 年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021 年（論文）など

【Outline (in English)】
This course deals with logistics management and supply chain management. The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN500F1 － 0179

物流管理特論Ⅱ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、ロジスティクスよびサプライチェーンマネジメント(SCM) に関する概論的講義です。ビジネス・ロジスティクス・マネジメントの概念・理論とロジスティクス・オペレーションに関する基礎的理解と分析能力を養うことを主たる目的とします。具体的には、ロジスティクス・マネジメントとサプライチェーン・マネジメントに関する基本概念を学んだうえで、企業におけるロジスティクス・オペレーション、サプライチェーンマネジメントがどのように行われるかを検討します。

【到達目標】
企業経営におけるロジスティクス・マネジメント、ロジスティクス・オペレーション、サプライチェーン・マネジメント、物流管理に関する全般的な知見の習得を目標とします。また、ケースメソッドや現場観察などを通して、ロジスティクス実務に関わる分析能力と立案能力につながる知的基盤の形成を狙います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に講義方式で行いますが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。事前にレジュメやケースなど講義資料を配布し受講生の予習を求めます。また、毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	前期授業のレビュー	(1) ロジスティクス、サプライチェーンマネジメントの概念と戦略, (2) 顧客サービス, (3) 在庫管理, (4) 輸送管理, (5) 保管・荷役・包装, (6) 製造戦略・調達戦略, (7) グローバルロジスティクス
2	後期授業のイントロダクション	後期授業のイントロダクション
3	統合的なオペレーションズプランニング	(1) サプライチェーン・プランニング, (2) S&OP, (3)APS, (4)CPFR, (5) 予測
4	ロジスティクス・ネットワーク・デザイン	(1) 企業全体の拠点ネットワーク, (2) 倉庫施設, (3) システム・コンセプトとシステム分析, (4) トータル・コスト, (5) プランニング手法
5	ケーススタディ	ケースを用いる受講生のプレゼンとディスカッション
6	リレーションシップ・マネジメント	(1) 企業内ロジスティクス・リレーションシップの構築と管理, (2) サプライチェーン・リレーションシップの構築と管理
7	パフォーマンスの測定と改善	(1) パフォーマンス測定システムの目的・目標, (2) 業務上のアセスメント, (3) 財務上のアセスメント, (4) パフォーマンスの改善
8	企業見学	企業の物流センターの現場を見学し、現場責任者とディスカッションを行う
9	ロジスティクス・クラスター	(1) 産業クラスターとロジスティクス・クラスター, (2) ロジスティクス・クラスターの経済性, (3) ロジスティクス・クラスターの形成と拡大, (4) ロジスティクス・クラスターの活用
10	共同物流	(1) 垂直的協業と水平的協業, (2) 共同物流の類型, (3) 共同物流の経済性と阻害要素, (4) シンクロモーダリティ, (5) フィジカル・インターネット
11	サプライチェーンのトレンド	(1) サプライチェーンマネジメントとリスクマネジメント, (2)EC 拡大とロジスティクス, (3) 新技術とロジスティクス, (4) 人手不足とロジスティクス, (5) 環境とロジスティクス
12	ケーススタディ	ケースを用いる受講生のプレゼンとディスカッション
13	ケーススタディ	ケースを用いる受講生のプレゼンとディスカッション
14	総括ディスカッション、質疑、期末テスト	総括ディスカッション、質疑、期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料などを使って予習、復習を行います。ケーススタディの発表とディスカッション問題のために、事前に報告資料を準備します。指定リーディング内容を読んでおきます。本授業の準備・復習の時間は週に 4 時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
『業界別　物流管理と SCM の実践』ミネルヴァ書房（2022 年）

【参考書】
Global Logistics and Supply Chain Management, 4th Edition, John Mangan, Chandra Lalwani, Agustina Calatayud, Wiley, 2021
The Handbook of Logistics and Distribution Management: Understanding the Supply Chain, 7th Edition, Alan Rushton, Phil Croucher, Peter Baker, Kogan Page, 2022
Logistics Management and Strategy: Competing through the Supply Chain, 6th Edition, Alan Harrison, Pearson, 2019
E-Logistics: Managing Digital Supply Chains for Competitive Advantage, 2nd Edition, Yingli Wang, Stephen Pettit, Kogan Page, 2021.
Supply Chain Logistics Management,5th Edition, Donald Bowersox, David Closs, M. Bixby Cooper, McGraw Hill, 2019.

【成績評価の方法と基準】
基本的に講義方式で行うが、受講生によるプレゼンとディスカッションの際にはケースメソッドを採用します。毎回、教材・参考書のリーディング部分を指定し、予習・復習を求めます。プレゼンテーション (20%)、ディスカッション (20%)、期末テスト (60%) を総合して成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
スライドの切り替えが速いとか、リーディング資料が多すぎるとかいった意見がありました。受講生の理解度を確認しながら、適宜スピードを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
春学期の物流管理特論Ⅰを受講したうえで秋学期の物流管理特論Ⅱを履修するのがベターです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023 年（論文）、『業界別物流管理と SCM の実践』2022 年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021 年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021 年（論文）など

【Outline (in English)】

This course deals with logistics management and supply chain management. The main aim is to help students acquire basic knowledge and analytical ability regarding the theories and frameworks of logistics/supply chain management and operations. At the end of the course, students are expected to have basic abilities to plan and analyze logistics/supply chain strategies, organizations, and operating systems based on knowledge acquired from this course. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and handout uploaded on the HOPPII system. During each class meeting, students will be welcomed to contribute to the discussion and Q&A. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 60%, Presentation: 20%, Contribution in class: 20%.

MAN500F1 － 0182

経営学演習Ⅰ

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、企業家・経営戦略分野の領域に関わるテーマの修士論文の作成と、これを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。
授業の内容は、基本文献の輪読と修士論文の指導という二本立てで運営される。
夜間企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会（7～8 月に実施予定）に参加し、修士論文の構想を発表することが望ましい。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行論文について検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表のための報告スライドの準備を行う。
第 14 回	中間発表後のフィードバックを行う。	中間発表会のコメントから新たに論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %、修士論文の中間発表の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門領域等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞
① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help students acquire academic skills to study entrepreneurship and strategic management.
At the end of the course, students are expected to write up their interim reports of the master’s theses.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(50%) and interim report of the master’s thesis(50%).

MAN500F1 － 0183

経営学演習Ⅱ

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、企業家・経営戦略分野の領域に関わるテーマの修士論文の作成と、これを通じた当該分野における研究作法の習得を目的とする。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。
授業の内容は、基本文献の輪読と修士論文の指導という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期と比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	収集データを分析し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %、修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門領域等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞
① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline (in English)】
The aim of this seminar is to help students acquire academic skills to study entrepreneurship and strategic management.
At the end of the course, students are expected to write up their master’s theses.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(50%) and final report of the master’s thesis(50%).

MAN500F1 － 0182

経営学演習Ⅰ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定の各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	修士論文作成の年間計画を作成する
第２回	修士論文テーマの決定（１）	修士論文のテーマについて議論する
第３回	修士論文テーマの決定（２）	修士論文のテーマを発表する
第４回	先行研究のレビュー（１）	先行研究のリストを作成する
第５回	先行研究のレビュー（２）	先行研究をレビューし報告する
第６回	先行研究のレビュー（３）	追加的な先行研究のレビューを報告する
第７回	リサーチ・クエスチョンの導出	先行研究のレビューに基づきリサーチ・クエスチョンを導出する
第８回	仮説構築（１）	先行研究のレビュー結果を整理する
第９回	仮説構築（２）	仮説構築に必要な理論的基盤を決定する
第10回	仮説構築（３）	仮説構築のために追加的な先行研究のレビューを行う
第11回	仮説構築（４）	仮説を導出する
第12回	調査方法の検討（１）	仮説検証に適切な調査方法を調査する
第13回	調査方法の検討（２）	仮説検証に適切な調査方法を決定する
第14回	リサーチ・プロポーザル	リサーチ・プロポーザルを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定に必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
リサーチ・プロポーザル：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
リサーチ・プロポーザルは、リサーチ・クエスチョン、先行研究のレビュー、仮説、研究方法の提示までを含む。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. In press. International Business Review. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
This seminar instructs students how to conduct research and write a master's thesis. Guidance is given for each stage of research, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and interpretation of results.
(Learning Objectives)
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct literature review
2. To deduce a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design research
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to conduct literature review, decide a research question, develop hypotheses, and design a method to test hypotheses. These are conducted outside the classroom. Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
(Grading Criteria /Policy)
Contribution to the seminar: 50%
Research proposal: 50%

MAN500F1 － 0183

経営学演習Ⅱ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、修士論文作成のための研究指導を行う。先行研究のレビュー、仮説の構築、データの収集、仮説の検証、検証結果の検討など、論文作成の各段階を指導する。経営学演習 II では、修士論文を完成させる。

【到達目標】
１．先行研究のレビュー方法を習得する。
２．リサーチ・クエスチョンを導出する。
３．仮説の構築方法を習得する。
４．仮説検証の方法を習得する。
５．データ収集の方法を習得する。
６．データ分析の方法を習得する。
７．仮説検証の結果からインプリケーションを導出する。
８．修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データの収集、データの分析、分析結果の解釈、ライティングの各段階について、学生は報告を行う。報告に基づき、どのように修正していくかを学生と議論する。
授業形態は対面とするが、受講生と授業形態について話し合いを持ち、変更することもありうる。
フィードバックは、授業の中で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	これまでの進捗状況を報告する
第 2 回	データの収集（1）	データ収集の方法を決定する
第 3 回	データの収集（2）	データ収集を実施する
第 4 回	データの収集（3）	データ収集を完了させる
第 5 回	データの整理（1）	分析のためのデータベースを作成する
第 6 回	データの整理（2）	データベースを分析可能な形にする
第 7 回	データの分析（1）	データ分析の方法を決定する
第 8 回	データの分析（2）	データ分析を実施する
第 9 回	データの分析（3）	追加的なデータ分析を実施する
第 10 回	分析結果の解釈（1）	仮説の検証を行う
第 11 回	分析結果の解釈（2）	仮説検証の結果を解釈する
第 12 回	分析結果の解釈（3）	仮説検証の結果からインプリケーションを導出する
第 13 回	論文完成（1）	修士論文を書き終える
第 14 回	論文完成（2）	修士論文作成を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のレビュー、リサーチ・クエスチョンの導出、仮説の構築、仮説検証方法の決定、データ収集、データ分析、結果の解釈、ライティングに必要な作業を行う。
授業時間外の学習時間は、毎日最低２時間とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
Bailey, K.D. 1994. Methods of Social Research (4th ed.). Free Press: NY.
Yin, R.K. 1994. Case Study Research: Design and Methods (2nd ed.). Sage Publications: CA.

【成績評価の方法と基準】
演習への貢献：５０％
修士論文：５０％
演習への貢献には、準備状況、報告内容、ディスカッション等を含む。
修士論文は、完成した修士論文のことである。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン等、研究遂行に必要な機器を準備する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. In press. International Business Review. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
This seminar instructs students how to conduct research and write a master's thesis. Guidance is given for each stage of research, including literature review, hypothesis development, data collection, hypothesis testing, and interpretation of results. Students complete a master's thesis.
(Learning Objectives)
The goals of this seminar are the following.
1. To learn how to conduct literature review
2. To deduce a research question
3. To learn how to develop hypotheses
4. To learn how to design research
5. To learn how to collect data
6. To learn how to analyze data
7. To learn how to draw implications from the results of the analysis
8. To complete a master's thesis
(Learning activities outside of classroom)
Students are required to conduct literature review, decide a research question, develop hypotheses, design a method to test hypotheses, collect data, analyze data, interpret the results of data analysis, and write a master's thesis. These are conducted outside the classroom.
Students are expected to spend at least 2 hours daily on research.
(Grading Criteria /Policy)
Contribution to the seminar: 50%
Master's thesis: 50%

MAN500F1 － 0182

経営学演習Ⅰ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な作法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文という成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、クラスではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
高水準を有する経営学分野の修士論文を完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめる学術論文の作成を含む一連のプロセスを着々と歩む必要があります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告し、指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	学術論文の基本を理解し、演習の進め方を決定します。
第 2 回	研究計画の作成指導	問題関心と関連の予備知識を確認し、実行可能性を検討します。
第 3 回	研究計画の作成指導	研究テーマの検討と決定を行います。
第 4 回	研究計画の作成指導	採用すべき研究手法および研究目的を検討します。
第 5 回	先行研究のレビュー	先行研究の調べ方や絞り方などを学びます。
第 6 回	先行研究のレビュー	先行研究から必要な情報や知見を集める方法を学びます。
第 7 回	先行研究のレビュー	先行研究から集めた情報や知見の整理方法を学びます。
第 8 回	先行研究のレビュー	先行研究の知見を踏まえて研究課題を設定します。
第 9 回	仮説ないし命題の検討	研究課題について、仮説ないし命題を構築します。
第 10 回	調査対象の検討	仮説や命題の検証を行うためのデータや情報のソースについて検討します。
第 11 回	調査計画の検討	具体的な調査計画を検討します。
第 12 回	調査計画の検討	具体的な調査計画を検討し決定します。
第 13 回	予備調査について	パイロット調査の結果を踏まえて調査計画を修正します。
第 14 回	調査計画の決定	夏季休暇中の本格的な調査実施に向けて調査計画を決定し、準備状況を点検します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究のサーベイやパイロット調査の実施などの作業は授業時間外で行います。そのための時間を十分に確保する必要があります。修論研究のためには毎週 10 時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究テーマと研究手法に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の進捗状況に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究計画の水準と進捗状況、研究への姿勢などの平常点 50 %、修士論文の水準 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
RefWorks をパソコンにインストールしておきます。毎回の演習にパソコンを持参します。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023 年（論文）、『業界別物流管理と SCM の実践』2022 年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021 年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021 年（論文）など

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information. As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the student's class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 － 0183

経営学演習Ⅱ

李　瑞雪

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、経営学における学術研究の基本的な作法を学んだうえで、具体的な研究課題を選定し、しかるべき一連の研究活動を通じて修士論文という成果物を出して特定領域についての知識体系に新たな知見を加えることを目的とします。データの収集や分析などの具体的な研究活動は授業外の時間で行いますが、クラスではステップバイステップで研究の指導・アドバイスを受けます。

【到達目標】
高水準を有する経営学分野の修士論文を完成することが本授業の目標です。そのためには、経営学分野における研究テーマの設定、研究テーマに関連する先行文献のサーベイと整理、先行研究のレビュー基づく研究課題の設定と仮説の構築、仮説検証のための方法論の選定とデータ収集、収集したデータの分析、分析結果をまとめる学術論文の作成を含む一連のプロセスを着々と歩む必要があります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究計画に沿って、毎回の演習で進捗状況を報告し、指導とアドバイスを受けます。基本的には教室で対面方式を採りますが、フィールド調査の実施期間中においてはオンライン方式などで柔軟に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 15 回	調査実施結果の確認	調査結果を報告し、データ・情報の量と質を検討します。
第 16 回	仮分析と追加調査について	仮分析の結果を確認し、必要な追加調査の実施方法を検討します。
第 17 回	追加調査について	追加調査の対象と項目について確認します。
第 18 回	追加調査について	追加調査の進捗状況を確認します。
第 19 回	追加調査について	追加調査の結果を検討します。
第 20 回	調査結果の検討	調査から得たデータや発見を分析した結果を検討します。
第 21 回	論文執筆の進捗確認と指導	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第 22 回	論文執筆の進捗確認と指導	先行研究のレビューとリサーチクエスチョンの部分
第 23 回	論文執筆の進捗確認と指導	研究方法、調査内容、発見事実の部分
第 24 回	論文執筆の進捗確認と指導	分析結果、考察の部分
第 25 回	論文執筆の進捗確認と指導	分析結果、考察の部分
第 26 回	論文執筆の進捗確認と指導	結論、含意、限界、積み残された課題の部分
第 27 回	論文執筆の進捗確認と指導	導入部分、要旨、文献リスト、文末注、付録などを確認します。
第 28 回	論文執筆の最終確認	論文全体の論旨の整合性、語句の統一、体裁、執筆要領の順守などを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
調査、分析、執筆などの作業は基本的に授業時間外で行います。授業では作業の結果と進捗状況を報告し、指導を受けます。修士論文の作業のために、毎週 15 時間以上を確保しましょう。

【テキスト（教科書）】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【参考書】
研究の内容に合わせて適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】
研究への姿勢、取り組みなどの平常点 50 %、修士論文の完成度・水準 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、パソコンを持参します。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉ロジスティクスマネジメント論、経営戦略論、国際経営論　〈研究テーマ〉ロジスティクス・クラスターの形成メカニズム、新興市場における企業のロジスティクス戦略、水平的ロジスティクス・コラボレーション　〈主要研究業績〉「ロジスティクス・クラスター形成のメカニズム：システマティック・リテラチャー・レビューに基づいて」2023 年（論文）、『業界別物流管理と SCM の実践』2022 年（著書）、「自動車部品の荷姿設定におけるフロントローディングの類型とメカニズム」2021 年（論文）、「自動車部品の荷姿最適化の規定要因に関する研究：質的比較分析（fsQCA）によるアプローチ」2021 年（論文）など

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of conducting academic research in the social sciences, including formulating research questions, reviewing relevant literature, and collecting and analyzing appropriate data and relevant information. As a result of a series of research activities, students must complete a master's thesis. All the research activities must be done before/after each class meeting. Students will get advice and instruction in class step by step through the research process.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the student's class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 － 0182

経営学演習Ⅰ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士課程の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週 100 分間、あるいは、隔週に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	研究の構成を検討する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サーキュラーエコノミー,　サステナビリティ情報開示

【担当教員の主要研究業績】
- Kitada, H., Tennojiya, T., Kim, J., & Higashida, A. (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems, 6, 100089.
- Nishitani, K., Kokubu, K., Wu, Q., Kitada, H., Guenther, E., & Guenther, T. (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219.
- Kokubu, K., Nishitani, K., Kitada, H., & Ando, M. (2022). Emergent Responsible Management. Springer, Singapore.
- Kitada, H., & Takehara, M., (2022). Circular Economy in Climate-related Disclosures. Proceedings of the First Australian International Conference on Industrial Engineering and Operations Management, Sydney, Australi

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 － 0183

経営学演習Ⅱ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、修士課程の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週 100 分間、あるいは、隔週に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	研究の構成を検討する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
　サステナブルマネジメント
＜研究テーマ＞
サーキュラーエコノミー,　サステナビリティ情報開示

【担当教員の主要研究業績】
- Kitada, H., Tennojiya, T., Kim, J., & Higashida, A. (2022). Management practice of material flow cost accounting and its discontinuance. Cleaner Environmental Systems, 6, 100089.
- Nishitani, K., Kokubu, K., Wu, Q., Kitada, H., Guenther, E., & Guenther, T. (2022). Material flow cost accounting (MFCA) for the circular economy: An empirical study of the triadic relationship between MFCA, environmental performance, and the economic performance of Japanese companies. Journal of Environmental Management, 303, 114219.
- Kokubu, K., Nishitani, K., Kitada, H., & Ando, M. (2022). Emergent Responsible Management. Springer, Singapore.
- Kitada, H., & Takehara, M., (2022). Circular Economy in Climate-related Disclosures. Proceedings of the First Australian International Conference on Industrial Engineering and Operations Management, Sydney, Australi

【Outline (in English)】
【Outline】
・This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
・Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
・Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
・The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 － 0182

経営学演習Ⅰ

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは、研究活動の実践を通じて、経営学（特に、人材・組織マネジメント）に関する研究を遂行するために必要な知識、スキル、考え方を学んでいく。受講者は教員の指導を受けながら主体的に研究活動に取り組み、その成果を修士論文として執筆する。

【到達目標】
経営学という学問分野における高水準な修士論文を執筆することを到達目標とする。具体的な学習目標は次の通り。
(1) 研究テーマに関する高度な専門知識を幅広く持っている。
(2) データ（質的データ／量的データ）を収集することができる。
(3) データ（質的データ／量的データ）を分析することができる。
(4) 分析結果について解釈・考察を行い、新たな知見を紡ぎ出すことができる。
(5) 研究結果を論文としてまとめ、報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
少人数グループでゼミを行い、その中で論文指導を行う。毎回のゼミにおいて、受講者は研究活動に関する進捗報告や、他の受講者とのグループ討議を行いながら、調査・分析、論文執筆に関する指導を受ける。ただし、学習者の関心領域と進捗状況に合わせて、柔軟な指導を行っていく。また、プロポーザル発表会（４月上旬）及び中間報告会（９月中旬）では、人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受け、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第２回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第３回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第４回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第５回	先行研究の検討①	先行研究の調べ方
第６回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第７回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第８回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第９回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第10回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第11回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第12回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第13回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第14回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究調査、データ収集、データ分析、解釈・考察、報告書（論文）の執筆という一連の研究活動については、基本的に各自が自主的に進めていく。授業では、各自が時間外に進めている研究について報告を行う。

【テキスト（教科書）】
(1) 佐藤郁哉 『フィールドワークの技法』 新曜社
(2) 伊丹敬之 『創造的論文の書き方』 有斐閣
(3) 研究進捗状況等に合わせて適宜提示する

【参考書】
(1) 中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイヤモンド社
(2) 松尾睦 『経験からの学習』 同文舘出版
(3) ロビンス，S. P.『組織行動のマネジメント』 ダイヤモンド社
(4) 研究進捗状況等に合わせて適宜提示する

【成績評価の方法と基準】
（１）授業への参画度： 25 %
　【評価基準】出席頻度／議論での積極性／授業への貢献度
（２）研究活動を通じての学習成果： 25 %
　【評価基準】テーマに関する知識習得／調査スキルの習得
(3) 修士論文の内容評価： 50 %
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性

【学生の意見等からの気づき】
(1) 研究方法論に関する学習指導を丁寧に行う。
(2) 学生同士のグループ討議を積極的に行う。

【学生が準備すべき機器他】
（１）調査に使用する機器やアプリ（ソフト）は各自で準備する。
（２）資料配布・課題提出等に「学習支援システム」を利用する。

【その他の重要事項】
（１）今年度は基本的に対面で論文指導を行う。
（２）受講者の人数、関心、研究の進捗を勘案し、受講者と相談の上で、指導の内容や進め方を修正する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
　組織社会学、経営学習論、質的調査法
〈研究テーマ〉
　組織と学習、組織エスノグラフィー、
　創造的なコラボレーションのデザイン
〈主要研究業績〉
　『みんなのアンラーニング論』（単著）
『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
　『企業内人材育成入門』（共著）
　『越境する対話と学び』（共著）
〈ウェブサイト〉
　http://www.tnlab.net/

【Outline (in English)】
The objective of this seminar is to write a dissertation for the degree of MBA. For this purpose, you will learn the basics of research such as reviewing relevant studies, collecting data, analyzing data, and reporting the output.

MAN500F1 － 0183

経営学演習Ⅱ

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このクラスでは、研究活動の実践を通じて、経営学（特に、人材・組織マネジメント）に関する研究を遂行するために必要な知識、スキル、考え方を学んでいく。受講者は教員の指導を受けながら主体的に研究活動に取り組み、その成果を修士論文として執筆する。

【到達目標】
経営学という学問分野における高水準な修士論文を執筆することを到達目標とする。具体的な学習目標は次の通り。
(1) 研究テーマに関する高度な専門知識を幅広く持っている。
(2) データ（質的データ／量的データ）を収集することができる。
(3) データ（質的データ／量的データ）を分析することができる。
(4) 分析結果について解釈・考察を行い、新たな知見を紡ぎ出すことができる。
(5) 研究結果を論文としてまとめ、報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
少人数グループでゼミを行い、その中で論文指導を行う。毎回のゼミにおいて、受講者は研究活動に関する進捗報告や、他の受講者とのグループ討議を行いながら、調査・分析、論文執筆に関する指導を受ける。ただし、学習者の関心領域と進捗状況に合わせて、柔軟な指導を行っていく。また、プロポーザル発表会（４月上旬）及び中間報告会（９月中旬）では、人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受け、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第２回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第３回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第４回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第５回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第６回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第７回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第８回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第９回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第10回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第11回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第12回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第13回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第14回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究調査、データ収集、データ分析、解釈・考察、報告書（論文）の執筆という一連の研究活動については、基本的に各自が自主的に進めていく。授業では、各自が時間外に進めている研究について報告を行う。

【テキスト（教科書）】
(1) 佐藤郁哉 『フィールドワークの技法』 新曜社
(2) 伊丹敬之 『創造的論文の書き方』 有斐閣
(3) 研究進捗状況等に合わせて適宜提示する

【参考書】
(1) 中原淳ほか 『企業内人材育成入門』 ダイヤモンド社
(2) 松尾睦 『経験からの学習』 同文舘出版
(3) ロビンス，S．P.『組織行動のマネジメント』 ダイヤモンド社
(4) 研究進捗状況等に合わせて適宜提示する

【成績評価の方法と基準】
（１）授業への参画度： 25 %
　【評価基準】出席頻度／議論での積極性／授業への貢献度
（２）研究活動を通じての学習成果： 25 %
　【評価基準】テーマに関する知識習得／調査スキルの習得
(3) 修士論文の内容評価： 50 %
　【評価基準】議論内容／構成の妥当性/新規性/進歩性/明快性

【学生の意見等からの気づき】
(1) 研究方法論に関する学習指導を丁寧に行う。
(2) 学生同士のグループ討議を積極的に行う。

【学生が準備すべき機器他】
（１）調査に使用する機器とアプリ（ソフト）は各自で準備する。
（２）資料配布・課題提出等に「学習支援システム」を利用する。

【その他の重要事項】
（１）今年度は基本的に対面で論文指導を行う。
（２）受講者の人数、関心、研究の進捗を勘案し、受講者と相談の上で、指導の内容や進め方を修正する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
　組織社会学、経営学習論、質的調査法
〈研究テーマ〉
　組織と学習、組織エスノグラフィー、
　創造的なコラボレーションのデザイン
〈主要研究業績〉
　『みんなのアンラーニング論』（単著）
『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
　『企業内人材育成入門』（共著）
　『越境する対話と学び』（共著）
〈ウェブサイト〉
　http://www.tnlab.net/

【Outline (in English)】
The objective of this seminar is to write a dissertation for the degree of MBA. For this purpose, you will learn the basics of research such as reviewing relevant studies, collecting data, analyzing data, and reporting the output.

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 1 時間 40 分（100 分間）、あるいは、隔週土曜日に 3 時間 20 分（200 分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、春学期は、基本文献の輪読の比重が高い。7 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	プロポーザルの作成指導 (1)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を検討する。
第 3 回	プロポーザルの作成指導 (2)	修士論文のテーマと執筆計画の概要を確定する。
第 4 回	先行研究の調査、報告、議論 (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。
第 5 回	先行研究の調査、報告、議論 (2)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 6 回	先行研究の調査、報告、議論 (3)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 7 回	先行研究の調査、報告、議論 (4)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 8 回	先行研究の調査、報告、議論 (5)	教員の助言を受けて、さらに別の先行研究を調べて報告し、議論する。
第 9 回	先行研究の調査、報告、議論 (6)	先行研究の調査を踏まえて、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究の調査、報告、議論 (7)	前回の議論を、さらに深める。
第 11 回	中間発表会準備 (1)	企業家養成コースで行われる中間発表会の準備を行う。
第 12 回	中間発表会準備 (2)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備をさらに進める。
第 13 回	中間発表会準備 (3)	教員の助言を受けて、中間発表会の準備を完成させる。
第 14 回	中間発表後の改善案検討	中間発表会の時に受けたコメントを論文作成に反映するための案をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が 50 %、発表・報告（修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む）が 50 %である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
無し。

【Outline (in English)】
▼ Course outline
In this seminar, the guidance will be given on the preparation for the master's thesis for the second year students of Entrepreneur Training Course.
▼ Learning Objectives
The objectives of this seminar is to complete to write the master's thesis.
▼ Learning activities outside of classroom
Outside of classroom, searching for and reading documents, creating resumes, collecting data and writing activities are required.
▼ Grading Criteria/Policy
The evaluation criteria are as follows: 50% for attendance and contribution to the class and 50% for midterm presentation and draft of master's thesis.

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 1 時間 40 分（100 分間）、あるいは、隔週土曜日に 3 時間 20 分（200 分間）の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期は、修士論文の指導のウェートが高い。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回	仮説の検討と調査計画の確定 (1)	修士論文の仮説を検討し、今後の調査計画についても検討を行う。
第 2 回	仮説の検討と調査計画の確定 (2)	教員の助言を受けて、仮説と調査計画を確定する。
第 3 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (1)	調査の依頼状況を報告し、助言を受ける。
第 4 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (2)	調査の依頼状況と、実施済みの調査の結果を報告し、助言を受ける。
第 5 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (3)	調査結果を報告し、助言を受ける。
第 6 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (4)	調査の依頼・実施状況を確認し、今後の方針を確定する。
第 7 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (5)	調査結果および分析結果の報告・ディスカッションを行う。
第 8 回	調査の依頼・実施状況の確認と分析結果の検討 (6)	調査結果および分析結果についてディスカッションを行い、修士論文のアウトラインを確定する。
第 9 回	修士論文執筆のチェックと助言 (1)	修士論文執筆状況のチェックと、内容に関するディスカッションを行う。
第 10 回	修士論文執筆のチェックと助言 (2)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加された内容に関するディスカッションを行う。
第 11 回	修士論文執筆のチェックと助言 (3)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関するディスカッションを行う。
第 12 回	修士論文執筆のチェックと助言 (4)	修士論文執筆の進捗状況をチェックし、追加・修正された内容に関する追加のディスカッションを行う。
第 13 回	修士論文執筆のチェックと助言 (5)	修士論文執筆が完一通り完了したことを確認し、修正された内容に関するディスカッションを行う。
第 14 回	修士論文の最終チェック	修士論文の内容に関して最終的なチェックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動等は、各自授業外で行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集)。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、授業への積極的な貢献度（出席等）が 50 %、修士論文の草稿が 50 %である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
無し。

【Outline (in English)】
▼ Course outline
In this seminar, the guidance will be given on the preparation for the master's thesis for the second year students of Entrepreneur Training Course.
▼ Learning Objectives
The objectives of this seminar is to complete to write the master's thesis.
▼ Learning activities outside of classroom
Outside of classroom, searching for and reading documents, creating resumes, collecting data and writing activities are required.
▼ Grading Criteria/Policy
The evaluation criteria are as follows: 50% for attendance and contribution to the class and 50% for draft of master's thesis.

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞経営戦略とイノベーション
＜研究テーマ＞戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果—時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master’s thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master’s thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞経営戦略とイノベーション
＜研究テーマ＞戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master’s thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master’s thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習（代表シラバス）

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション テーマの選定 (1)	修士論文執筆の年間計画を検討する。
第 2 回	テーマの選定 (2)	論文のテーマについて検討し詳細を絞り込む。
第 3 回	テーマの選定 (3)	修士論文のテーマに関する先行研究について概観し、検討する。
第 4 回	プロポーザルの作成 (1)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 5 回	プロポーザルの作成 (2)	修士論文のテーマと執筆計画を具体化する。
第 6 回	先行研究のレビュー (1)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 7 回	先行研究のレビュー (2)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 8 回	先行研究のレビュー (3)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 9 回	先行研究のレビュー (4)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 10 回	先行研究のレビュー (5)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 11 回	先行研究のレビュー (6)	修士論文のテーマに関する先行研究を調べて報告し、議論する。また、研究テーマに合った調査の方法について議論する。
第 12 回	中間発表会の準備 (1)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 13 回	中間発表会の準備 (2)	中間発表会のための報告資料を準備する。
第 14 回	中間発表後のフィードバック	中間発表会のコメントから論文を再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN600F1 － 0042

企業家養成演習（代表シラバス）

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では、夜間修士課程 (企業家養成コース) の 2 年生を対象に、修士論文の作成について指導を行う。

【到達目標】
実務的・学術的に価値の高い修士論文の完成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習の実施日時や進め方は担当指導教員によって異なるが、一般的には、毎週土曜日に 100 分間、あるいは、隔週土曜日に 200 分間の授業が行われる。授業の内容は、修士論文の指導と基本文献の輪読という二本立てで運営されるが、秋学期には、春学期に比べ、修士論文の指導のウェートが高まる。
毎年 7～8 月には、企業家養成コースの 2 年生全員による修士論文の中間発表会が行われる。この中間発表会には、原則的に、企業家養成コースの全学生と教員が参加する。
なお、下記の授業計画は修士論文指導の一つのモデルケースである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文の構成の検討	夏休みからの研究の発展を報告する。
第 2 回	調査ノートの作成 (1)	調査計画を策定する。
第 3 回	調査ノートの作成 (2)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 4 回	調査ノートの作成 (3)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 5 回	調査ノートの作成 (4)	調査の実施によりデータを収集し、成果を報告する。
第 6 回	論文の執筆と課題の確認 (1)	論文の執筆と添削を行う。
第 7 回	論文の執筆と課題の確認 (2)	論文の執筆と添削を行う。
第 8 回	論文の執筆と課題の確認 (3)	論文の執筆と添削を行う。
第 9 回	論文の執筆と課題の確認 (4)	論文の執筆と添削を行う。
第 10 回	論文の執筆と課題の確認 (5)	論文の執筆と添削を行う。
第 11 回	論文の執筆と課題の確認 (6)	論文の執筆と添削を行う。
第 12 回	論文の完成に向けた調整 (1)	論理の整合性を確認する。
第 13 回	論文の完成に向けた調整 (2)	論理の整合性を確認する。
第 14 回	最終報告会	完成論文を報告し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
先行文献の探索や読み込み、レジュメの作成、データ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、調査ノートの作成、データ分析、論文執筆は、各自が授業時間外に行う。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いない。

【参考書】
『研究成果集』(毎年、経営学専攻の優秀な修士論文が掲載される論文集) を参照のこと。

【成績評価の方法と基準】
成績の評価基準は、出席 (50 %)、発表・報告 (50 %)。修士論文の中間発表や修士論文の草稿等を含む) である。
発表・報告の評価基準は、先行研究の読破、正確で分かりやすい論点整理、論理的な首尾一貫性、実証分析の手堅さ、テーマの斬新性、文章の読みやすさ、質疑に対する応答の適切さなどである。

【学生の意見等からの気づき】
本演習は、前年度の授業改善アンケートの対象外であった。

【学生が準備すべき機器他】
各自でパソコンを準備すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門分野＞
＜研究テーマ＞

【担当教員の主要研究業績】
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
【Outline】
· This class aims to discuss and find out the theme for entrepreneurial activities and make develop master's thesis.
· Each participant voluntarily carries out empirical investigations and research related to business science and economics under the guidance of the supervising teacher and reports on the results at any time during class.
【Learning Objectives】
· Aim to complete a master's thesis with high practical and academic value.
【Learning Activities outside of Classroom】
· The standard preparatory study and review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
· Grades will be based on a total of the following: Ordinary points (50%)+presentations and reports (50%).

MAN500F1 － 0043

ワークショップ（企業家養成）

金　容度

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業家養成ワークショップは、第一線で活躍されている企業家をお招きして、設定したテーマに関する講演とその後の質疑応答やディスカッションを通じて、企業家活動についての理解を深めます。2023年度のテーマは「企業家の決断」です。

【到達目標】
企業家は、企業を立ち上げるとき、その企業の成長に向けて新しい一歩を踏み出すとき、また海外への展開に踏み切るときなど多様な局面で重要な決断をしなければなりません。しかも、決断しなければならないことが次々と起るのが常態です。したがって、このような連続的な決断こそが企業家活動の本質といってよいです。この企業家の決断についての企業家の講演と、その後の質疑応答及びディスカッションによって、企業家の決断の本質について説明できるようになることが本ワークショップ授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
今年度のワークショップは、新たな企業を立ち上げた経営者はもちろん、既存企業内で新規事業を立ち上げた方、スタートアップ企業の支援に携わる方など、多彩な「企業家」をゲスト・スピーカーとしてお招きしてお話をうかがい、その後に質疑応答やディスカッションを行うことによって、「企業家の決断」についての理解を深めます。
ワークショップでは、学生が積極的に質問して、ゲスト・スピーカーの生の声を聞き出すようにして下さい。
なお、ワークショップで学んだことをＡ４サイズで１枚のレポートにまとめ、次の週までに提出していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	イントロダクション①	授業の概要と進め方等の説明、履修者の自己紹介。
第２回	イントロダクション②	ゲスト・スピーカーの概要等についての説明
第３回	ゲスト・スピーカー①	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー①の講演
第４回	ゲスト・スピーカー①	ゲスト・スピーカー①との質疑応答、ディスカッション
第５回	ゲスト・スピーカー②	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー②の講演
第６回	ゲスト・スピーカー②	ゲスト・スピーカー②との質疑応答、ディスカッション
第７回	ゲスト・スピーカー③	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー③の講演
第８回	ゲスト・スピーカー③	ゲスト・スピーカー③との質疑応答、ディスカッション
第９回	ゲスト・スピーカー④	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー④の講演
第10回	ゲスト・スピーカー④	ゲスト・スピーカー④との質疑応答、ディスカッション
第11回	ゲスト・スピーカー⑤	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー⑤の講演
第12回	ゲスト・スピーカー⑤	ゲスト・スピーカー⑤との質疑応答、ディスカッション
第13回	ゲスト・スピーカー⑥	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー⑥の講演
第14回	ゲスト・スピーカー⑥	ゲスト・スピーカー⑥との質疑応答、ディスカッション
第15回	ゲスト・スピーカー⑦	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー⑦の講演
第16回	ゲスト・スピーカー⑦	ゲスト・スピーカー⑦との質疑応答、ディスカッション
第17回	ゲスト・スピーカー⑧	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー⑧の講演
第18回	ゲスト・スピーカー⑧	ゲスト・スピーカー⑧との質疑応答、ディスカッション
第19回	ゲスト・スピーカー⑨	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー⑨の講演
第20回	ゲスト・スピーカー⑨	ゲスト・スピーカー⑨との質疑応答、ディスカッション
第21回	ゲスト・スピーカー⑩	「企業家の決断」に関するゲスト・スピーカー⑩の講演
第22回	ゲスト・スピーカー⑩	ゲスト・スピーカー⑩との質疑応答、ディスカッション
第23回	ディスカッション①	ゲスト・スピーカー①～⑤についての振り返りとディスカッション
第24回	ディスカッション②	ゲスト・スピーカー⑥～⑩についての振り返りとディスカッション
第25回	まとめ①	「企業家の決断」についてのまとめとディスカッション
第26回	まとめ②	授業のまとめ
第27回	修士論文の中間発表①	企業家養成コースの２年生による修士論文のテーマや問題意識等の発表
第28回	修士論文の中間発表②	企業家養成コースの２年生による修士論文のテーマや問題意識等の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
インターネット等を使って、事前にゲスト・スピーカーやその企業について調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に使用しません。

【参考書】
参考書は特に使用しませんが、ゲスト・スピーカーについての資料などは、授業支援システムを通じて提供します。

【成績評価の方法と基準】
配分：レポート提出（50 %）、出席およびディスカッションへの貢献（50 %）
評価基準：単位取得のためには、7 回以上のレポート提出が求められます。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は担当していないので、特に無し。

【学生が準備すべき機器他】
特に無し。

【その他の重要事項】
ゲスト・スピーカーや具体的な講義スケジュールは、第１回目の授業で説明します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本経営史、日本経営論、企業間関係論
＜研究テーマ＞企業間関係史、企業システムの国際比較
＜主要業績＞
1. 金容度 (2023)『日本経営論』博英社。
2. 金容度 (2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣。
3.Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships:Markets and Organization in Japan.Edward Elgar Publishing Ltd..
4.Kim,Yongdo(2012).“Interfirm Cooperation in Japan’s Integrated Circuit Industry,1960s － 1970s,”Business History Review(Harvard Business School), Vol.86 Issue 4.

5. 金容度 (2006)『日本 IC 産業の発展史:共同開発のダイナミズム』東京大学出版会。

【Outline (in English)】

In Workshop in Entrepreneurship, ten entrepreneurs lecture on their experience and thinking as well as discuss specific topics on the lectures with participants of workshop. The objective of this workshop is to acquire the ability to see through the essence of entrepreneurship.

The main topic of Workshop in Entrepreneurship in 2023 is the " Entrepreneurs and Models of Growth of Firms".

It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

MAN500F1 － 0044

企業家活動

稲垣　京輔

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国内外で発展してきた起業家やベンチャーに関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。

【到達目標】
1) 講義の後半部分から新たなテーマについて講義をおこなうことで、起業家活動の分析に関する方法論を学びあい、議論を深めます。
2) すぐれた文献を読むことによって、問題の捉え方と分析視角の設定を中心に、修士論文を執筆する上で必要な知識を習得します。
1) By giving lectures on new themes from the latter half of the lecture, we will learn the methodology of analysis of entrepreneurial activity and deepen the discussion.
2) By reading excellent prior works, we will acquire the knowledge necessary for writing a master's thesis, focusing on how to grasp the problem and set the analytical viewing angle.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義部分においては、次の３つの分析視角に基づいて、企業家活動を分析する視点を養います。最初の 3 回は、「合理的意思決定プロセスとしての企業家活動」、次の 3 回は「環境適応プロセスとしての企業家活動」そしてその次の 3 回は「利害関係の超越としての企業家活動」をテーマとします。
これら３つの主要テーマにおいて、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。
それぞれの回で、課題となる事例を探索し、スライドにまとめて報告していただき、ディスカッションを行います。最後の５回は関連文献を輪読します。各回の課題に対する準備には約２時間を要します。
We consider various management phenomena related to business creation from three main analytical perspectives. In each session, we will explore cases that will be issues, summarize them on slides, and have a discussion.　In the final five sessions, we will read some papers related literature on entrepreneurship and innovation.It takes about two hours to prepare for each task.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス授業	自己紹介 問題関心の設定と導入講義
第 2 回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動１	事業創造における市場獲得のプロセス
第 3 回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動２	事業創造における組織内部のマネジメント
第 4 回	合理的意思決定プロセスとしての企業家活動３	社内ベンチャーと企業家支援プログラム
第 5 回	環境適応プロセスとしての企業家活動１	企業家活動の正当性と資源動員
第 6 回	環境適応プロセスとしての企業家活動２	制度的企業家とは何か
第 7 回	環境適応プロセスとしての企業家活動３	社会的関係の調整と企業家のエフェクチュエーション
第 8 回	利害関係の超越としての企業家活動１	社会的ネットワークとソーシャルキャピタルの構築
第 9 回	利害関係の超越としての企業家活動２	企業家の協働と学習
第 10 回	利害関係の超越としての企業家活動３	場づくりとしての企業家活動＝点から面へ
第 11 回	テキストの輪読１	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第 12 回	テキストの輪読２	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第 13 回	テキストの輪読３	方法論と事例分析のスキルを学ぶ
第 14 回	まとめ	企業家活動の分析視角を再度レビューする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、グループ毎に課題を提出し、報告してもらいます。
Every week, each group submits and reports on their assignments.

【テキスト（教科書）】
テキストは初回に指示します。

【参考書】
金井壽宏『起業者ネットワーキングの世界』白桃書房。
佐藤郁哉『質的データ分析法』新曜社。
長谷川博和『ベンチャーマネジメント入門』日本経済新聞社。
山岡徹『変革とパラドックスの組織論』中央経済社
W. ベーカー『ソーシャル・キャピタル』ダイヤモンド社。
S. サラスパシー『エフェクチュエーション』中央経済社。
J.R. カッツェンベルグ『インフォーマル組織力』税務経理協会　他

【成績評価の方法と基準】
配分
評価基準
出席点 (20 点)
報告点 (60 点)
積極的なコミットメント（プラス α）
出席点は、ただ出席するだけでは評価の対象にならず、議論への積極的な参加によって加点します。報告点は、課題に応じたケースを検索し、分析の深さによって判定します。また、質問点は、論点を定め、議論をどれだけ盛り上げることができるかによって判定します。
Evaluation criteria
Attendance points (20 points)
Report points (60 points)
Positive commitment (plus α)

【学生の意見等からの気づき】
後半の輪読では、受講者の間でもディスカッションができるように、いくつかの論点を提示します。

【学生が準備すべき機器他】
各自、報告の際には、データを入れたメモリーか、あるいはパソコン本体を持参してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞組織社会学、経営組織論
＜研究テーマ＞企業間協力における能力構築と産業クラスター形成に関する研究
＜主要研究業績＞
稲垣京輔・高橋勅徳（2010）「産業クラスター形成における地理的近接に基づく関係構築プロセス:大阪扇町界隈におけるインキュベーション・マネジャーとクリエイター間の関係性の変化」『組織科学』第 44 巻, 第 3 号, 21 ― 36 頁。
高橋勅徳・稲垣京輔（2015）「我が国における産業クラスター政策の推進による組織 フィールドの形成:大阪市扇町界隈における扇町クリエイティブ・クラスターの形成」『経営と制度』第 13 号,25 ― 46 頁 .

【Outline (in English)】

This lecture aims to try understanding the entrepreneurial activities which are not only the business creation but also the innovation and institutional change process, referring to the theoretical frameworks and case studies of entrepreneurs and ventures that have developed on the field of business studies and sociology research.

MAN500F1 － 0045

企業家史

二階堂　行宣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・この授業は、市場経済の均衡を破壊・創造する力を持つ「革新」の遂行者である企業家に注目することで、経済発展の長期的なダイナミズムを考察することを目的とする。
・J. シュンペーターは『経済発展の理論』(1912 年) において、企業家を「創造的破壊」による「新結合」の実現者と定義し、企業家の「革新」行動によって均衡状態が攪乱されることで経済発展のダイナミズムが生じるとした。さらに A. H. コールらは、企業家の非連続的・飛躍的側面だけでなく、連続的・漸進的な側面にも注目し、均衡から不均衡を創り出すこと (創造的破壊) だけでなく、不均衡から均衡に向かう過程 (競争) によって経済発展が生み出されると論じた。
・こうした企業家をめぐる理論・仮説は、実際の歴史の中でどのように観察されるのだろうか。この授業では、企業家の革新行動とその定着過程としての企業発展を、具体的な事例に基づきながら、長期の歴史的な文脈の中で考えていきたい。

【到達目標】
・近現代日本の経済・経営発展の歴史について知識を習得し、企業家活動の前提となるそれぞれの時代の経済環境を、明確に把握する。
・その上で、企業家がある時代背景と外部環境の中で、どこにビジネス・チャンスを見出し、それをいかにして掴もうとしたのか、ケース・スタディを用いながら考える。
・以上を通して、長期的な視野にもとづく戦略的行動とは何かを学び、歴史的な思考様式を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定している。
　①学習支援システムから教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
　②学習の到達度を確認するため、定期的に対面または Web 上でディスカッションを実施する。その際、参加者は自身の論点や疑問点を明確にしたレジュメを用意する。
　③最終評価にあたっては、特定の起業家に関するレポートを提出していただくことを想定している。
・初回授業の際に、参加者の確定と、授業のスケジュールを決定する。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・企業家分析への歴史的視点 ※対面で実施予定
第 2 回	幕末維新期の経営	・概説：幕末維新期の日本経済
第 3 回	幕末維新期の経営	・新興商人の登場 ・遠隔地交易の活性化
第 4 回	明治前期の経営	・概説：明治前期の日本経済
第 5 回	明治前期の経営	・政商の登場 ・「大店」の明治維新 ・企業家活動の組織化
第 6 回	産業革命期の経営	・概説：日本の産業革命
第 7 回	産業革命期の経営	・専門経営者の台頭 ・地方からの産業革命
第 8 回	第一次世界大戦期の経営	・概説：第一次大戦ブーム
第 9 回	第一次世界大戦期の経営	・大戦ブームと商社 ・好況時のリスク管理
第 10 回	両大戦間期の経営	・概説： 1920～30 年代の日本経済
第 11 回	両大戦間期の経営	・都市型産業の登場 ・新興コンツェルンの成長
第 12 回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・概説：戦時統制経済から戦後改革へ ・概説：高度経済成長と大衆消費社会
第 13 回	戦後復興期～高度経済成長期の経営	・流通革命 ・東海道新幹線
第 14 回	授業内容の復習	・ケース・スタディをふまえ、近現代日本の企業家活動の特徴について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とする。
・授業内容をふまえたディスカッションでは、積極的に発言することが求められる。

【テキスト（教科書）】
・使用しない。

【参考書】
①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』有斐閣、2004 年。
②宮本又郎・阿部武司・宇田川勝・沢井実・橘川武郎『日本経営史［新版］』有斐閣、2007 年。
③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧　補訂版』東京大学出版会、2010 年。
④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』有斐閣、2011 年。
⑤三和良一『概説日本経済史　近現代（第 3 版）』東京大学出版会、2012 年。
⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』名古屋大学出版会、2012 年。
⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』中央公論新社、2013 年。
⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』有斐閣、2016 年。
⑨武田晴人『日本経済史』有斐閣、2019 年。

【成績評価の方法と基準】
・現時点では、①定期的に実施されるディスカッションでの発言・資料内容 (40 %)、②最終レポートの内容（60 %）、の 2 点で評価することを想定している。
・成績評価の際は、企業家に関する知識の習得よりも、企業家活動を長期的・俯瞰的視野から体系化し、歴史的に位置づける能力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】
・単なる「企業家列伝」のような授業は行わないことを心がけたい。
・むしろ、近現代の政治史・経済史の流れをふまえ、各時代の企業家をその流れの中に位置づけることで、経済・経営発展のダイナミズムを理解することに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】
・なし

【その他の重要事項】
・定期的なディスカッションは、教室での対面形式で実施する予定である。ただし、感染状況や受講者の希望によっては、Web 上でのディスカッションに切り替える可能性がある。
・初回授業では、授業の概要説明、参加者の確定、授業スケジュールの決定を予定している。履修希望の学生は必ず出席すること。
・どうしても初回授業に出席できない場合は、事前に必ず担当教員に知らせること。
・ゼミ形式という授業の性格上、参加者数は最大でも 8 名程度を想定している。そのため、履修登録に際しては、企業家養成コースの学生を優先する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
・日本経営史
・日本経済史
＜研究テーマ＞
・鉄道事業経営と運輸政策に関する歴史研究
・オーラル・ヒストリー
＜主要研究業績＞
・二階堂行宣（2020）「三陸鉄道をめぐる危機と希望―地域公共交通経営の普遍性・特殊性―」『地域の危機・釜石の対応』東京大学出版会。
・二階堂行宣（2020）「日本国有鉄道と東海道新幹線―計画期における組織内業務運営とマネジメント―」『経営志林』第 56 巻第 4 号。
・二階堂行宣（2017）「陸運業の展開」『日本経済の歴史 4（近代 2）』岩波書店。
・二階堂行宣（2015）「戦間期鉄道貨物輸送システムの形成」『経営史学』49 巻 4 号。
・二階堂行宣（2014）「鉄道貨物輸送における設備・営業業務の形成」『鉄道史学』32 号。

【Outline (in English)】
【Course Outline】
・The purpose of this course is to look at the long-term dynamism of economic development by paying attention to entrepreneurs who are the performers of "innovation" with the power to destroy and create the equilibrium of market economy.
・In this lesson, I would like to consider the innovative behavior of entrepreneurs and the development of enterprises as a process of consolidation based on concrete examples in a long-term historical context.
【Learning Objectives】
・Acquire knowledge about the history of modern Japanese economy and business development, and clearly grasp the economic environment of each era, which is the premise of entrepreneurial activities.
・On top of that, use case studies to think about where entrepreneurs have found business opportunities and how they tried to seize them in the background of the times and the external environment.
・Through the above, learn what strategic behavior is based on a long-term perspective and acquire a historical way of thinking.
【Learning activities outside of classroom】
・The standard preparatory study / review time for this class is 2～3 hours each.
【Grading Criteria /Policy】
・Evaluation will be made based on two points:
(1)Remarks and material content in regular discussions
(2)Final report content.

· When evaluating grades, prioritize the ability to systematize entrepreneurial activities from a long-term, bird's-eye view and position them historically, rather than acquiring knowledge about entrepreneurs.

MAN500F1 － 0008

経営史

韓　載香

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、経営史学に関する基礎的且つ体系的知識を身につけることを目的とします。多様性を重視する経営史学ですが、企業、組織、企業家、技術、産業、システムなど様々な内容を対象としながら、地域や分野を超えて共通してみられる組織内の編成やその方向性、市場・産業内で影響しあいながら環境自体を変えていく企業活動のダイナミズムを注視します。
具体的には、19 世紀から 20 世紀までにおける欧米及び日本の企業や、それらを取り巻く環境、制度・システムに注目し、組織の在り方の多様性を通じてみえる原理を理解します。加えて、市場の秩序を変えてきた特筆すべき変化を捉え、それが何故起き、どのように展開し、どのような影響を残したかを考えていきます。

【到達目標】
1. 多様性 (特徴) 及び共通性を区別しながら、地域 (国) の組織原理を解説することができる。
2. 大企業への成長に伴われる組織編成の変化について、要因とともに説明することができる。
3. 企業活動について、制度の束としてのシステムとの関連で理解できる具体例を提示することができる。
4. 国を超えて影響が広がった企業の在り方やシステムについて、事例を挙げて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
指定テキストに内容に即して進めていきます。教員による簡単なポイントの解説、受講者による論点提示の後、ディスカッションを行って理解を深めていきます。受講者には【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】に説明するような要領で発表をしていただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	第一に、「経営史を学ぶとは？ －今における『新しい』を発見する」というトピックで授業の意義について解説します。第二に、テキスト及び学習方法や、受講者の参加の仕方などその他の概要を説明します。
第 2 回	第 2 回～第 6 回 市場経済の発達とビジネス	資本主義の発祥地であるヨーロッパを対象として、19 世紀における市場経済の発展やビジネスを動かした動因について学びます。 工業化と多元的発展 (鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。以下同様)：近代工業、在来産業、金融—サービスの台頭について学びます。
第 3 回	市場経済の発達とビジネス	市場経済とビジネスの発展方向：専門化・産業地域・競争について考えます。
第 4 回	市場経済の発達とビジネス	19 世紀の金融・サービス：株式会社の登場と金融の在り方に注目します。
第 5 回	市場経済の発達とビジネス	19 世紀の労働と雇用：近代工業と在来産業の管理にみる働く姿はどのようなものだったでしょうか。
第 6 回	市場経済の発達とビジネス	大量生産体制のへの途： 19 世紀アメリカにおける試みから、20 世紀を展望します。
第 7 回	第 7 回～第 13 回 大企業の形成 (20 世紀初頭)	19 世紀末から 20 世紀初頭においてアメリカで台頭した大企業に光を当て、各地の勃興についてみます。製造業における大量生産がいかに組織の在り方を変え、どのような新しい手法のマネジメントが定着したか、その影響はどのようなものであったかについて学びます。 垂直統合とアメリカの現代企業：大量生産と大量販売の時代を切り開いたアメリカの大企業の経営を取り上げます。
第 8 回	大企業の形成	アメリカ企業と経営階層組織：専門経営者に登場してもらい、マネジメントが要求した変化を吟味します。
第 9 回	大企業の形成	アメリカにおける経営者企業の成立：多角化戦略における部門間調整とは何でしょうか。
第 10 回	大企業の形成	ヨーロッパにおける現代企業の登場：大企業の展開において政府はどのように関わったのでしょうか。
第 11 回	大企業の形成	ヨーロッパ大企業の組織と管理：持株会社とは？ その管理に注目します。
第 12 回	大企業の形成	日本における大企業の登場：産業革命期における日本のビジネス
第 13 回	大企業の形成	日本の企業と財閥：両大戦間期、産業構造の変化に対する日本の企業の対応
第 14 回	受講者の発表①	研究書の批評発表
第 15 回	第 15 回～23 回　大企業体制のビジネス	各地に出現した大企業体制とは何かを理解しつつ、そのもとで展開したビジネスの在り方を比較しながら、地域別の特徴について考えていきます。 アメリカの大企業体制：大企業・大労組・大きな政府
第 16 回	大企業体制のビジネス	新産業の誕生と先端技術開発：先端技術産業と政府の役割
第 17 回	大企業体制のビジネス	戦後ヨーロッパの大企業：揺れる大企業体制
第 18 回	大企業体制のビジネス	金融センターの興亡：大企業体制下の金融・サービス
第 19 回	大企業体制のビジネス	中小企業、産業地域、クラフト：大企業体制下において消える存在？
第 20 回	大企業体制のビジネス	日本の大企業 (1) ：戦略と発展類型における日本の特殊性
第 21 回	大企業体制のビジネス	日本の大企業 (2) ：組織と雇用にみる特徴
第 22 回	大企業体制のビジネス	日本のビジネス・システム：市場と組織の在り方（いわゆる日本的経営の再検討）
第 23 回	大企業体制のビジネス	日本の企業間競争と市場：競争的市場と中小企業、産業集積、在来産業

第 24 回	第 24 回～第 27 回 大企業体制後のビジネス	大企業の地位における揺らぎなど、ビジネス界に見られた変容は、今を理解するうえでも興味深いものです。1960 年から 80 年までのアメリカ、欧州、日本での動きは多様ですが、時期を異にしながらも大きな流れとして共通点を導き出すことができます。大企業淘汰の背景と実態とともにその意味についていくつかの見解を理解しましょう。 経営者企業の動揺：国際競争力の低下と M&A
第 25 回	大企業体制後のビジネス	アメリカ企業の復活：半導体とパーソナル・コンピュータ
第 26 回	大企業体制後のビジネス	金融・サービスの復活：金融・サービスセンターの競争
第 27 回	大企業体制後のビジネス	産業地域の再生：地場産業システムと中小企業から地域を見つめなおします。
第 28 回	受講者の発表②	研究書の批評発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストの該当内容を読み、疑問点及び論点をまとめて提出していただきます。
課題：受講者には教員が提示した【参考文献】リストから 1 冊を選び、内容紹介および批判の発表 (1 回) をしていただきます。＊この報告のため、受講者の参加人数により、講義計画は調整されます。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年

【参考書】
鈴木良隆『経営史――イギリス産業革命と企業者活動』同文館出版、1982 年
S. ポラード（鈴木良隆・春見濤訳）『ヨーロッパの選択』有斐閣、1990 年
小野塚知二『クラフト的規制の起源』有斐閣、2001 年
D.A. ハウンシェル（和田一夫ほか訳）『アメリカン・システムから大量生産へ』名古屋大学出版会、1998 年
A.D. チャンドラー, Jr.（鳥羽欽一郎・小林袈裟治訳）『経営者の時代――アメリカにおける近代企業の時代』上・下、東洋経済新報社、1979 年
A.D. チャンドラー, Jr.（三菱経済研究所訳）『経営戦略と組織――米国企業の事業部制成立史』実業之日本社、1967 年（『組織は戦略に従う』ダイヤモンド社、2004 年）
L. ハンナ（湯沢威・後藤伸訳）『大企業経済の興隆』東洋経済新報社、1987 年
大河内暁男・武田晴人編『企業者活動と企業システム』東京大学出版会、1993 年
A.D. チャンドラー, Jr.（安部悦生・川辺信雄・工藤章ほか訳）『スケール・アンド・スコープ』有斐閣、1993 年
石井寛治『情報・通信の社会史』有斐閣、1994 年
武田晴人『財閥の時代』新曜社、1995 年
S. ハイマー（宮崎義一編訳）『多国籍企業論』岩波書店、1979 年
兵藤釗『日本における労使関係の展開』東京大学出版会、1971 年
M. ピオリ＝ C. セーブル（山之内靖・永易浩一・石田あつみ訳）『第二の産業分水嶺』筑摩書房、1993 年
橋本寿朗『日本企業システムの戦後史』東京大学出版会、1996 年
小池和男『仕事の経済学』東洋経済新報社、1991 年
米国商務省（室田泰弘訳）『ディジタル・エコノミー 2002/2003』東洋経済新報社、2002 年
J.C. アベグレン（井尻昭夫訳）『日本の企業社会』晃洋書房、1989 年
R.P. ドーア（山之内靖・永易浩一訳）『イギリスの工場・日本の工場』筑摩書房、1987 年
J.P. ウォマック＝ D. ルース＝ D.T. ジョーンズ（沢田博訳）『リーン生産方式が世界の自動車産業をこう変える』経済界、1990 年
L.H. リン（遠田雄志訳）『イノベーションの本質：鉄鋼技術導入プロセスの日米比較』東洋経済新報社、1985 年

【成績評価の方法と基準】
論点提示、議論への参加度 (60 %) 及び研究書の批評発表 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】
進行方法については、学期中に一度参加者の意見を収集し、改善します。
議論に求められることは何かわからない、という学生の意見を聞きます。議論の目的について丁寧に説明し、新しい発見につながり、力を向上する方法について提案いたします。

【担当教員の専門分野等】
＜日本現代経済史＞
＜在日韓国・朝鮮人企業の産業経済史、産業史＞
＜主要研究業績＞『在日企業の産業経済史』（名古屋大学出版会、2010 年）、『パチンコ産業史』（名古屋大学出版会、2018 年）

【Outline (in English)】
【Course outline】
The purpose of this course is to acquire basic and systematic knowledge about business history. On one hand the business history emphasizes diversity, but on the other hand it should be understood from the perspective of dynamism by farm's activities that changes sometimes its environment interacting constantly with the market, the structure within the organization and its direction that can be seen in common across regions and fields. I will cover various contents in this course such as companies, organizations, entrepreneurs, technologies, industries, and systems. Specifically, I will focus on Western and Japanese companies from the 19th century to the 20th century, the environment surrounding them, the systems. You will understand the principles that can be seen through the diversity of organizational structures. In addition, I will capture notable transforms that have changed the order of the market and consider why they happened, how they developed, and what impacts they had.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students should be able to do following:
To explain the organizational principles of a region (country) by distinguishing between diversity (characteristics) and commonality
To explain the changes in organizational structure along with the growth of a company, and factors.
To be able to give an example that can be understood in relation to the system as a bundle of systems regarding corporate activities.
To present an example the ideal way and system of a company whose influence has spread across countries.
【Learning activities outside of classroom】
Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook. Students are expected to suggest points at issue to discuss regarding the textbook in class. Students should prepare to do an academic review and give a presentation once in class.
【Grading Criteria /Policy】
The final grade will be calculated according to the following process.
・In-class contribution (discussion etc.) 50 percent
・Presentation regarding bibliography 50 percent

MAN500F1 － 0046

経営戦略論

吉田　健二

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】
経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、ハイフレックス授業形式で行います。対面授業をオンラインでもリアルタイムで配信します。ただし、受講者の人数や希望、新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業形式になるかもしれません。
授業の前半では文献のレビューに努め、後半ではそれらが実際にどのように企業において応用されているのかを学生に発表してもらったり、ビデオを見たりします。その後、皆でディスカッションを行います。
授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第２回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第３回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第４回	経営理念と企業ドメイン	経営理念、企業ドメイン
第５回	外部環境分析（１）	顧客分析、競争業者分析
第６回	外部環境分析（２）	業界分析、マクロ環境分析
第７回	自社能力分析	自社能力分析
第８回	事業戦略（１）	３つの基本戦略
第９回	事業戦略（２）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（３）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（１）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（２）	垂直統合戦略
第13回	企業戦略（３）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定された部分を事前に読むこと。
発表者は、発表の準備を行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002 年。
②沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔新版〕』有斐閣、2008 年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】
①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011 年。
②清水勝彦『戦略の原点』日経ＢＰ社、2007 年。
③三谷宏治『経営戦略全史』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2013 年。
④ジェイ・バーニー、ウィリアム・ヘスタリー『[新版] 企業戦略論（上・中・下）』ダイヤモンド社、2021 年。
⑤マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 ＜改訂新版＞』センゲージラーニング、2014 年。
⑥M. E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995 年。
⑦M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985 年。
①②④⑤は経営戦略論のテキストで、③は 100 年の経営戦略論の流れを描いた本で、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。
他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
配分：クラス参加 (15%)、プレゼンテーション (25%)、レポート (60%)
評価基準：４回以上欠席した場合には、単位は与えられません。プレゼンテーションは、テキストの要約と自分の会社（組織）のケースを発表します。レポートは、自分の会社の経営戦略を分析します。詳細は、第１回目に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、学生の発表時間をコントロールすることなどによって、授業の時間管理に努めます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営戦略論
＜研究テーマ＞経営戦略の策定と実行
＜主要研究業績＞
① “Perceptions about Teamwork: An Empirical Comparison of Japanese, Mexican, and American Faculty,” Association on Employment Practices and Principles: Proceedings of the 2002 Annual International Conference, pp.14-19, 2002 (with coauthors).
② “Differences in Culture and Attitudes toward Teamwork: An Empirical Comparison of Perceptions among Chinese, Japanese, Mexican, and American Faculty,” American Society of Business and Behavioral Sciences: 2006 Proceedings, pp.136-142, 2006 (with coauthors).
③ “Work Performance and Group Harmony: An Empirical Comparison of Japanese and Other Cultural Attitudes toward Teamwork,” The 2007 International Conference in Management Sciences and Decision Making: Proceedings, pp.1-16, 2007 (with coauthors).

【Outline (in English)】
This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.
At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and to prepare for their presentation. Your required study time is at least four hours for a class.
Final grade will be decided based on in-class contribution(15%), presentations(25%) and term-end report(60%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、学術研究の基本を学習することを目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しい知見であるかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。
The purpose of this seminar is to learn fundamentals needed for academic studies. Academic or scientific studies are meant to add something new to a knowledge system in a certain field. You need to utilize existing knowledge of your study field (i.e., previous studies including theories) to know what something new is in the field. Accordingly, you have to independently explore, read, summarize, and constructively critique articles concerning your theme, which should be premised for academic studies, and to find room for academic contributions (adequate research questions). In this seminar, you will acquire instruction, advice, and suggestions for advancement of your study.

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）
The goal of this seminar is to write a superior master thesis on HRM (which includes OB, HRD, or Organization theories).
You need to:
(1) read extensively and also understand, sort, organize, and constructively critique previous studies concerning your theme,
(2) set adequate research questions based on critical literature review on the subject you study,
(3) design an empirical study including deciding the research method, data type, ways to analyze, and proposing an analytical framework consist of hypotheses,
(4) select and find a research target suitable for your theme and questions
(5) implement research practices
(6) document and report the results as a master thesis.
Although we also accept theoretical studies as well as empirical studies, studies using your own resources such as an affiliation you work for and/or workplace would be suitable for night-course students who have a lot of hands-on working experiences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施されますが、平日夜や土曜日を利用して行われることが多いようです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。
A seminar for one or a small number of students is usually opened on Saturday or weekday nights in accordance with study progress, schedule, available time before the due date of the master thesis, and others.
The method of instruction depends on the number of students, instruction policy, methodology used, and others. The format for conducting the class (in person, online, or hybrid of them) also depends on situations such as COVID-19.
Note: It is mandatory for students in the HRM course to attend and give presentations at both regular course meetings in early April and September. There will be opportunities, not only to receive advice from various professors in our course, but to recognize your progress compared to other students, and to reconsider your research from new points of views or alternative approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。
Although it is obvious to read articles and publications designated by your instructor, you should read previous studies or other related documents spontaneously and initiatively. Studying analytical methods by yourself is also encouraged.

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 4 割、修士論文の評価 6 割で総合的に評価します。

Your overall grade in the seminar will be decided on (1) attendance and attitude, assignments, progress reports, and others in seminar (40%), and (2) the manuscript of your master thesis (60%).

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
対面の場合はクラス人数分の報告資料。オンラインの場合は事前に電子データの送付。長文を見てほしい場合は１週間前には電子メールで送付しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to learn fundamentals needed for academic studies. Academic or scientific studies are meant to add something new to a knowledge system in a certain field. You need to utilize existing knowledge of your study field (i.e., previous studies including theories) to know what something new is in the field. Accordingly, you have to independently explore, read, summarize, and constructively critique articles concerning your theme, which should be premised for academic studies, and to find room for academic contributions (adequate research questions). In this seminar, you will acquire instruction, advice, and suggestions for advancement of your study.

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、学術研究の基本を学習することを目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しい知見であるかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。
The purpose of this seminar is to learn fundamentals needed for academic studies. Academic or scientific studies are meant to add something new to a knowledge system in a certain field. You need to utilize existing knowledge of your study field (i.e., previous studies including theories) to know what something new is in the field. Accordingly, you have to independently explore, read, summarize, and constructively critique articles concerning your theme, which should be premised for academic studies, and to find room for academic contributions (adequate research questions). In this seminar, you will acquire instruction, advice, and suggestions for advancement of your study.

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）
The goal of this seminar is to write a superior master thesis on HRM (which includes OB, HRD, or Organization theories).
You need to:
(1) read extensively and also understand, sort, organize, and constructively critique previous studies concerning your theme,
(2) set adequate research questions based on critical literature review on the subject you study,
(3) design an empirical study including deciding the research method, data type, ways to analyze, and proposing an analytical framework consist of hypotheses,
(4) select and find a research target suitable for your theme and questions
(5) implement research practices
(6) document and report the results as a master thesis.
Although we also accept theoretical studies as well as empirical studies, studies using your own resources such as an affiliation you work for and/or workplace would be suitable for night-course students who have a lot of hands-on working experiences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施されますが、平日夜や土曜日を利用して行われることが多いようです。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。
A seminar for one or a small number of students is usually opened on Saturday or weekday nights in accordance with study progress, schedule, available time before the due date of the master thesis, and others.
The method of instruction depends on the number of students, instruction policy, methodology used, and others. The format for conducting the class (in person, online, or hybrid of them) also depends on situations such as COVID-19.
Note: It is mandatory for students in the HRM course to attend and give presentations at both regular course meetings in early April and September. There will be opportunities, not only to receive advice from various professors in our course, but to recognize your progress compared to other students, and to reconsider your research from new points of views or alternative approaches.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。
Although it is obvious to read articles and publications designated by your instructor, you should read previous studies or other related documents spontaneously and initiatively. Studying analytical methods by yourself is also encouraged.

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 4 割、修士論文の評価 6 割で総合的に評価します。

Your overall grade in the seminar will be decided on (1) attendance and attitude, assignments, progress reports, and others in seminar (40%), and (2) the manuscript of your master thesis (60%).

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
対面の場合はクラス人数分の報告資料。オンラインの場合は事前に電子データの送付。長文を見てほしい場合は１週間前には電子メールで送付しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】
The purpose of this seminar is to learn fundamentals needed for academic studies. Academic or scientific studies are meant to add something new to a knowledge system in a certain field. You need to utilize existing knowledge of your study field (i.e., previous studies including theories) to know what something new is in the field. Accordingly, you have to independently explore, read, summarize, and constructively critique articles concerning your theme, which should be premised for academic studies, and to find room for academic contributions (adequate research questions). In this seminar, you will acquire instruction, advice, and suggestions for advancement of your study.

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

岸　眞理子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

岸　眞理子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習並びに学術研究の性質の理解、進め方、年間計画
第 2 回	研究計画書の作成指導①	研究リソースや研究関心の確認
第 3 回	研究計画書の作成指導②	テーマ設定について
第 4 回	研究計画書の作成指導③	研究方法や研究意義について
第 5 回	先行研究の検討①	先行研究の渉猟方法
第 6 回	先行研究の検討②	先行研究の読み方
第 7 回	先行研究の検討③	先行研究のまとめ方
第 8 回	先行研究の検討④	先行研究全体の批判的検討と研究課題の特定
第 9 回	調査方法の検討①	仮説構築とそれに基づく調査対象の検討
第 10 回	調査方法の検討②	分析枠組みと分析方法に関する検討
第 11 回	調査方法の検討③	調査の具体的項目に関する検討
第 12 回	調査方法の検討④	調査実施にあたっての注意事項や調査倫理について
第 13 回	調査方法の検討⑤	パイロット調査の報告
第 14 回	コース中間報告会の準備	発表報告資料やプレゼンへの助言

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN600F1 － 0065

人材・組織マネジメント演習（代表シラバス）

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材・組織マネジメントに関する研究の実践を通じて、研究のイロハの学習を目的とします。大学ないし大学院における研究とは、適切な方法に基づいて、ある領域についての知識体系に新しい知見を加えることです。何が新しいかを判断するためには、既存の知識の学習が必要です。研究の前提となる学習や研究活動は、自分自身で行う必要があります。クラスではその指導・アドバイス等を行います。

【到達目標】
「人材・組織マネジメントに関する高水準な修士論文を執筆すること」を到達目標とします。そのためには、①人材・組織マネジメントの観点に即した研究テーマの設定、②研究テーマに関連する先行研究の探索、内容理解、論点整理、および批判的考察に基づく研究課題（問い）の設定と仮説の構築、③研究課題を明らかにするための、あるいは仮説を検証するための調査対象の選定、研究デザイン及び研究方法の検討とその実施、④収集したデータの分析、⑤学術論文として文書化すること、等が必要となります。
（理論的研究を妨げるものではありませんが、一般に社会人学生の場合、自らのリソースである職場や所属組織を活用できる経験的研究が望ましいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
演習は１～3 名程度の少人数で個々の学習・進捗状況に合わせて柔軟に実施され、多くは平日夜や土曜日を利用して行われます。指導スタイルは、履修者数、指導教員の方針や方法論、研究テーマ等に応じて様々です。
また、授業方式についても「対面授業」と「オンライン授業（リアルタイム配信型）」を状況に合わせて柔軟に使い分けながら進めていきます。
ただし、4 月上旬のプロポーザル発表会と 9 月頃に行われる秋の中間報告会への参加は全員に義務付けられています。人材・組織マネジメントコースの全教員からアドバイスを受けると同時に、他の学生の進捗を見ることで、多様な視点から研究テーマを掘り下げていく機会となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 15 回	中間報告会の振り返り	アドバイス内容に基づく研究計画の改善
第 16 回	調査実施状況の確認①	調査進捗の報告に基づく基本的フィードバック
第 17 回	調査実施状況の確認②	研究課題とデータの整合性に関するフィードバック
第 18 回	調査実施状況の確認③	必要な追加調査や調査項目の修正への助言
第 19 回	調査結果の検討①	仮分析に基づく結果の批判的検討
第 20 回	調査結果の検討②	分析結果（発見事実）と先行研究の知見との比較
第 21 回	調査結果の検討③	分析結果の理論的、実践的貢献とその含意に関する検討
第 22 回	調査結果の検討④	分析結果の限界と今後の課題に関する検討
第 23 回	論文執筆の基本的指導①	論文作法の確認、章立てや構成について
第 24 回	論文執筆の基本的指導②	個別章ごとの議論内容と注意点について
第 25 回	論文内容の指導①	問題意識と先行研究ならびに研究課題までの展開について
第 26 回	論文内容の指導②	研究方法と分析結果ならびに考察までの展開について
第 27 回	論文内容の指導③	全体の整合性の確認および文献表とアブストラクトの確認
第 28 回	論文の最終チェック	発見事実に関する批判的見直しと論文体裁等全体の最終確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
具体的課題に指示された文献等はもちろんですが、テーマに関連する先行研究や分析方法に関する文献は随時自発的に読み学習を進めること。

【テキスト（教科書）】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【参考書】
履修者の研究進捗状況等に合わせて指導教員が個別に提示します。

【成績評価の方法と基準】
報告内容、課題対応や進捗状況などの平常点 5 割、修士論文の評価 5 割で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出期日は年明けすぐであり、一切融通は利きません。したがって、提出一か月前までには初稿完成を目指します。

【学生が準備すべき機器他】
クラス人数分の報告資料。

【Outline (in English)】
Course Outline
Students will learn the basic knowledge and skills of doing research such as posing good questions, reviewing relevant studies and learning appropriate methods. It is students who actually conduct research, and the instructor will advise them to proceed on the right track.
Learning Objectives
The goal of this course is to write a high-quality paper in the field of human-resource and organizational management. In doing so, students will 1) set their own theme, 2) survey, examine and summarize relevant literature, 3) propose research questions and hypotheses, 4) find appropriate research methods, 4) gather and examine data, and 5) summarize the results as an academic paper.
Learning activities outside of classroom
Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials.
Grading Criteria/Policy
Grading will be based on the quality of the students' class performance (50%) and of the final paper (50%).

MAN500F1 － 0066

ワークショップ（人材・組織マネジメント）

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人材と組織のマネジメントにおいて、「変化」は避けることのできない現象である。ビジネス環境の変化、戦略の転換、組織内に発生する硬直化などに伴い、大小さまざまな規模で「変化への対応」が絶えず要求されている。この授業では、実務家や研究者をゲスト講師として招き、様々なビジネス分野における事例や、実践的研究について紹介してもらう。そして、「ビジネス環境の変化にいかに対応するか」という問題意識を起点として、これらの事例／実践的研究に対する検討を進める。今年度は、「組織変革の戦略と方法」、「ダイバーシティ推進の可能性と課題」、「人材／組織マネジメントの新潮流を探る」という３つの視点から、今日の人材／組織マネジメントが直面する諸問題に対する洞察力を磨いていくことをめざす。

【到達目標】
1）授業で取り上げた「組織変革戦略／方法」の事例を分析し、
　その組織マネジメント上の可能性と課題を理解する。
2）授業で取り上げた「ダイバーシティ推進」の事例を分析し、
　その人材マネジメント上の可能性と課題を理解する。
3）授業で取り上げた事例の分析／検討を通じて、
　人材／組織マネジメントの今日的課題の所在を知ると共に、
　その背後にある社会環境の変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
1）〈ゲスト講義〉〈担当教員の講義〉はオンライン、〈グループ発表〉は対面で実施する。
2）一方向的な講義形式ではなく、双方参加型の授業運営を行う。
3）〈ゲスト講義〉〈担当教員の講義〉の基本的な進め方は以下の通り。

- ゲスト講義（事例の紹介）　：100 分
- 検討課題についてのグループ討議　：40 分
- グループ討議の結果報告＆全体討議　：40 分
- 教員による総括（まとめ講義）　：20 分

〈グループ発表〉では、少人数のグループで「ゲスト講義の要約」「興味深かった点」「疑問点/問題点」を検討し、20 分程度の発表を行う。加えて、クラス全体でのディスカッション、及び、担当教員による関連する理論の解説を通じて考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	導入講義	〈担当教員の講義 1〉 ・授業のねらいと進め方 ・ビジネスにおける実践と研究の関係
第 2 回	組織変革の戦略と方法 (1)	〈ゲスト講義 1〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第 3 回	組織変革の戦略と方法 (2)	〈ゲスト講義 2〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第 4 回	組織変革の戦略と方法 (3)	〈ゲスト講義 3〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第 5 回	組織変革の戦略と方法 (4)	〈ゲスト講義 4〉 組織変革の戦略と方法に関する事例の紹介と検討
第 6 回	中間報告会 (1)	〈グループ発表 1〉 ゲスト講義１～４についてのグループ発表とまとめ講義
第 7 回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (1)	〈ゲスト講義 5〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第 8 回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (2)	〈ゲスト講義 6〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第 9 回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (3)	〈ゲスト講義 7〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第 10 回	ダイバーシティ推進の可能性と課題 (4)	〈ゲスト講義 8〉 ダイバーシティ・マネジメントに関する事例の紹介と検討
第 11 回	中間報告会 (2)	〈グループ発表 2〉 ゲスト講義５～８についてのグループ発表とまとめ講義
第 12 回	人材／組織マネジメントの新潮流を探る (1)	〈ゲスト講義 9〉 人材マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
第 13 回	人材／組織マネジメントの新潮流を探る (2)	〈ゲスト講義 10〉 人材マネジメントの新潮流に関する事例の紹介と検討
第 14 回	まとめ講義	〈担当教員の講義 2〉 ・ゲスト講義の総括 ・研究の進め方に関する講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1）授業内での検討をもとに、ゲスト講義に関する気づきをまとめ、
　「リフレクションシート」を個人で作成する。
2）ゲスト講義について、授業時間外にグループで議論を行い、
　「中間報告会」において，グループ発表を行う。
2）全授業終了後、授業全体を振り返った上で、気づきをまとめ、
　「最終レポート」を個人で作成する。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しない。

【参考書】
講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業（14 回）への参画度　：10 %
　（評価基準）出席頻度；議論での積極性；授業への貢献度.
2）リフレクションシート（10 回）　：50 %
　（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ；考察内容の深さ.
3）中間報告会（2 回）　：20 %
　（評価基準）ゲスト講義についての理解の深さ；；表現の明快性.
3）最終レポート　：20 %
　（評価基準）考察内容の妥当性/新規性/進歩性；表現の明快性.

【学生の意見等からの気づき】
「参加型」の授業運営を進めるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】
1）資料配布や課題提出のために、授業支援システムを利用する。
2）受講者グループによる中間発表を行う。

【その他の重要事項】
受講者の人数、関心、理解の進度を勘案し、受講者と相談の上で、内容や構成を修正する場合がある。

【担当教員の専門分野等】
《専門領域》

組織社会学、
経営学習論、
ポストモダン・エスノグラフィー
《研究テーマ》
組織と学習、
組織エスノグラフィー、
創造的なコラボレーションのデザイン
《主要研究業績》
『みんなのアンラーニング論』（単著）
『越境する対話と学び』（共著）
『ダイアローグ　対話する組織』（共著）
『企業内人材育成入門』（共著）
《ウェブサイト》
http://www.tnlab.net/

【Outline (in English)】
[Couse Outline]
In the areas of human resource management and organisation management, “change” is an indispensable phenomenon. In fact, business persons are ceaselessly required to cope with “changes” of various sizes, from a small team level to a large-scale corporate group level, in their organisational lives. Therefore, it can be said that the theme of “organisational change” has practical value in the field of organisation studies
In this course, 10 guest speakers, including university-based researchers, business persons, and practitioners of NPO, deliver lectures on “organisational change” in various aspects, as they relate to the cases and/or the studies that the guest speakers are involved in. By discussing and analysing those cases and studies, we try to deepen our understanding of “organisational change”, and to find practical lessons learnt about how to cope with “change” issues in business organisations.
[Leearning Objectives]
The main objectives of this course are to deepen our understanding of the following three points, 1) strategies and methodologies for organisational change, 2) diversity management in business organisations, and 3) new trend in the areas of human resource management and organisation management.
[Learning Activities outside of Classroom]
The learners in this course are expected to complete the required assignments, as well as to attend the class meetings. The required assignments are the term-end academic essay, short academic essays about 10 guest lectures, and team presentations about learning objective 1) and 2) mentioned above.
[Grading Criteria/Policies]
Grading is decided based on term-end academic essay (20%), short academic essays about 10 guest lectures (50%), team presentations about 2 learning objectives (20%), and in-class contribution (10%).

MAN500F1 － 0067

人的資源管理論

佐野　嘉秀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人的資源管理の基本的な考え方を学ぶとともに、個別の人的資源管理の分野、すなわち雇用区分、社員格付け、採用、教育訓練、配置転換、昇進、人事評価、賃金管理、福利厚生等について、主要な議論を把握する。また、そうした知見にてらして、参加者は、各人の身近にある企業や職場の事例をとりあげ、対応する実態や課題について報告・議論する。これらを通じ、人的資源管理にかかわる理論や議論をふまえて、人事管理の現状や課題について考える力を身につけることを目標としたい。

【到達目標】
①人事管理論の対象領域の広がりと基本的な考え方を知る。②人事管理の個別分野に関する基礎的な理論や議論を理解する。③以上を踏まえ、身近な事例について考察する視点を得る。④人事管理に関連する論文について批判的に検討する視点を得る。⑤修士論文等で研究するテーマについてのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業時間（月曜 6 限・7 限）に対面ないしリアルタイムのオンライン授業を行います。授業は、①人的資源管理論の基本的な理論・考え方・議論に関する講義と、②参加者による課題文献・事例の報告とディスカッションによる演習を組み合わせて進めます。できるだけ毎回、講義形式の部分に加えて、演習の部分があるようにし、参加者に深く考え、発言してもらう機会を設けます。報告・ディスカッションの準備が課題となります。授業内容に関するおよそのスケジュールは下記（授業計画）のとおりです。ただし、各テーマの授業時間の配分等については、参加者の関心に応じて柔軟に変更する可能性があります。また、順序を適宜、入れ替えることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：人的資源管理の考え方と「理論」	人的資源管理の機能と担い手、「伝統的」人事管理と人的資源管理（ＨＲＭ）のちがいや「理論」について学ぶ
第 2 回	雇用区分の多様化と人材ポートフォリオ	雇用区分の多様化の現状、人材ポートフォリオの理論について理解する
第 3 回	雇用区分の設計とキャリア管理	異なる雇用区分のあいだの仕事・キャリアの設計、雇用区分間の転換の仕組みについて考える
第 4 回	社員格付け制度の機能と多様性	社員格付け（等級）制度にもとめられる用件、格付け基準の多様性について理解する
第 5 回	社員格付け制度の変化と「成果主義」	「能力主義」および「成果主義」のもとでの社員格付け制度の特徴と合理性について考える
第 6 回	労働市場の変化と採用	採用の前提となる労働市場の変化について理解する、育成（make）か採用（buy）かの選択およびＲＪＰの理考え方について検討する
第 7 回	人的資源管理のなかの人材育成（ＨＲＤ）	人的資源管理のなかの人材育成の位置づけ、教育訓練の機能、配置転換の人材育成機能について理解する
第 8 回	人的資源管理の変化と人材育成	「投資」としての教育訓練の性格、変化する人的資源管理のもとでの配置転換・教育訓練について考える
第 9 回	昇進管理の機能と多様性	昇進の機能、国際的にみた日本の昇進管理の特徴、早期のエリート選抜について考える
第 10 回	昇進管理の変化と専門職制度	「フラット化」・高齢化のもとでの昇進の課題、専門職制度について検討する
第 11 回	変化のなかの賃金管理	賃金管理の基礎、「成果主義」化のなかでの賃金管理の特徴、雇用区分間の均衡処遇について考える
第 12 回	評価制度の課題と福利厚生	人事評価制度の課題のほか、福利厚生に関する近年の変化について考える
第 13 回	まとめ：人的資源管理の変化とライン・マネジャーの役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでのラインマネジャーの役割 (人事部門との連携関係) について総括的に検討する
第 14 回	まとめ：人的資源管理の変化と人事部門の役割	この授業で学んだことを踏まえて、変化する人的資源管理のなかでの人事部門の役割 (ライン・マネジャーとの連携関係) について総括的に検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各回のテーマに関連する課題の論文を授業内に提示します。受講者は、事前に論文を読んで、論点を把握し、疑問点やコメントを考えて授業にのぞんでください。それをもとに授業内で議論し、テーマに関する理解を深める予定です。また、各回について、1～2 名程度の代表者に課題論文についてのレジュメ作成を行ってもらいます。

【テキスト（教科書）】
テキストはとくに設定しません。学習支援システムに掲載するパワーポイント資料（PDF 形式にて配布）をもとに授業を進めます。

【参考書】
①日本労働研究雑誌（　http://www.jil.go.jp/institute/zassi/　）
②佐野嘉秀『英国の人事管理・日本の人事管理―日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会
③今野浩一郎・佐藤博樹『人事管理入門（第３版）』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度（20 点）、文献・事例の報告（30 点）、議論への貢献（30 点）、最終レポート（20 点）
授業への参加度、報告の担当回での報告内容のほか、授業内での議論への貢献度を評価します。最終的には、各自の問題関心に即した人的資源管理に関するレポートを提出してもらいます。以上を総合して最終的な評価を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
人事管理の基礎に関する体系的な講義編成、学習支援システムによる配布資料の共有、参加者の実務を踏まえたディスカッションなど、高く評価していただいている本授業の良さを大事にしたいと思います。

【その他の重要事項】
授業で利用するパワーポイント資料は、学習支援システムにて事前に入手できるようにします。適宜、プリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしてください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞人的資源管理・産業社会学
＜研究テーマ＞雇用システムの日英比較、就業形態の多様化と人事管理、人事部門とライン管理者の人事管理上の連携 等
＜近年の主な業績（市販書籍のみ）＞
①『英国の人事管理・日本の人事管理－日英百貨店の仕事と雇用システム』東京大学出版会、2021 年

②「生産職種の請負・派遣社員の就業意識」佐藤博樹・大木栄一編『人材サービス産業の新しい役割』有斐閣、2014 年
③「企業内キャリアと人事管理」上林千恵子編『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、2012 年
④『実証　日本の人材ビジネス－新しい働き方と人事マネジメント』（共編著）日本経済新聞社、2010 年
⑤「非典型雇用の人材活用－非典型雇用の仕事とその割り振り」佐藤博樹編『人事マネジメント』ミネルヴァ書房、2009 年
⑥「『成果主義』先進企業の変革」（共著）中村圭介・石田光男（編）『ホワイトカラーの仕事と成果』東洋経済新報社、2005 年

【Outline (in English)】
【Course outline】
Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system. We are to focus on each area of HRM system respectively. Wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM. Both lecture and discussion is expected. Students are supposed to participate in the discussion actively. Making presentation is also required.
【Learning Objectives】
(1) To understand the breadth of the subject area and basic concepts of human resource management theory. (2) To understand the basic theories and discussions on individual areas of human resource management. (2) To understand the basic theories and debates on individual areas of human resource management (3) To learn how to consider familiar cases based on the above (3) To understand the basic theories and discussions on individual fields of human resource management (4) To learn how to critically review articles related to human resource management (5) To obtain hints for the theme of research for the master's thesis, etc.
【Learning activities outside of classroom】
A paper on an issue related to the theme of each session will be presented in class. Students are expected to read the papers in advance, understand the issues, and come to class with questions and comments. These will be discussed in class to deepen understanding of the topic. For each session, one or two representatives will be asked to prepare resumes for the assigned papers. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
【Grading Criteria/Policy】
Participation in class (20 points), reports on literature and case studies (30 points), contribution to discussions (30 points), final report (20 points)
Students will be assessed on their participation in the class, the quality of their reports in the sessions for which they are responsible, and their contribution to the discussions in the class. At the end of the course, students will be asked to submit a report on human resource management that is in line with their own problematic interests. The final evaluation will be based on the above factors.

MAN500F1 － 0069

キャリアマネジメント論

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
キャリアに関する基本的な考え方・理論を学ぶことを目的とします。理論と受講者自身や他の受講生のキャリア事例とを照らし合わせることで、自身のキャリアの展望を考える機会を提供します。

【到達目標】
授業を終えた段階で学生に期待するのは以下三点です。
①キャリアに関する主要理論を知っており、それら理論間の関係、発展のあり方を理解している
②個別具体の事例を理論と照らし合わせて、理論の意義や限界を考えることができる
③理論を参照しながら受講生自身のキャリア展望・開発を自律的に考えることができる
Students who complete the course will be expected to:
(1) recognize and recall major career theories and explain relationships among them or the developmental process of those theories,
(2) describe theoretical and practical contributions and limitations of each theory by applying the theories to your own and others' concrete examples of career history,
(3) reflect your own career history and consider prospects for your career development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
クラスの前半では、キャリアに関する諸理論の講義を行います。その中で適宜、課題や課題を踏まえた受講者同士の意見交換・共有の場を設ける予定です。
クラスの後半は、受講者自身のキャリアに関する事例報告とこれに基づく意見交換を行う予定です。
ただし、受講人数によって発表時間や形式は調整されます。授業内容のおおよそのスケジュールは下記の通りですが、進捗状況や参加者人数等によって順序や内容の大幅な変更もありえます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義方針や参加ルールの説明、発表順などを決めるので参加は必須です。
2	キャリア論の性質	経営学におけるキャリア論の位置づけについて
3-4	職業の決定①	社会学的職業決定の理論
5-6	職業の決定②	心理学的職業決定の理論
7-9	キャリア発達の理論	ライフサイクル論
10	キャリアの移行期	キャリア・トランジション論
11	キャリア初期	組織社会化、LMX、キャリア・ツリー
12-13	キャリア中期・後期	キャリア・プラトー、プロティアン・キャリア、バウンダリレスネス
14	近年のキャリア論	偶発性、構成理論等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほぼ毎回、その場で記入する課題と、次回までに準備する課題があります。いわゆるレポートも数回予定しています。事前に指示された本や論文（英文を含む）を読んできてもらうこともあります。最大の課題は、各自のキャリアについての発表準備です。
Readings, short reports, and other assignments that include reaction papers may be given before and after each class. In addition, you should give oral presentations on your own career using the materials you prepare (50 to 100 minutes).

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。
Not specified.

【参考書】
Greenhaus,J.H.,Callanan,G.A.,& Goldshalk,V.M.(1999). Career Management 3rd. Orlando,FL: Harcourt.
Gunz,H.&Peiperl,M.eds.(2007). Handbook of Career Studies. Thousand Oaks, California:Sage.
金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー　―自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル―職務と役割の戦略的プラニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】
以下の配分で総合的に評価します。
講義への参加:50 点
・出席や発言の頻度、議論への参加度や貢献度、課題の質など
・担当回における報告内容や資料・準備の度合い・質、提出物や質疑応答の内容等
レポート： 50 点
内容、形式、論理性、期限など
（レポート内容は講義内で指示します）
Your overall grade in the class will be decided on (1) attendance, contribution, and attitude in class (50%) and (2) assignments, reports, and the career presentation (50%).

【学生の意見等からの気づき】
スケジュールは昨年度のものであり、受講者数等によって講義内容や方法は変わることがあります。それらを理解したうえで参加して下さい。
また、科目履修生の方等も資料等の配布や連絡に授業支援システムを使いますので必ず登録し、適宜チェックして下さい。その方法は大学院事務で事前に確認しておいて下さい。
システムが使えない場合や緊急連絡は以下にメールしてください。
nogawa ■ hosei.ac.jp （■を@に変換）

【学生が準備すべき機器他】
対面の場合は、配布用に発表資料など人数分印刷して臨んで下さい。オンラインの場合は事前にメールで送ってください。授業支援システム経由で学生に配布されます。

【その他の重要事項】
・履修者は、初回講義での説明内容を踏まえ、これに同意したとみなします（初回講義の参加の有無は加味しませんので各自でフォローして下さい）。
・経営学研究科でのキャリア論という性質上、組織という文脈を前提とした議論が多いため、組織での仕事経験がない方にはあまり適したものではないかもしれません。したがって昼間の学生には適さない可能性があります。それを踏まえて参加して下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
経営管理論、組織行動論
＜研究テーマ＞
組織社会化、組織文化、人材採用等
＜主要研究業績＞
・Norihiko Ogawa, Osato,D. & K.Takahashi (2015) "Criteria for Screening Job Applicants in Japanese Companies: Policy Capturing Approach,"Journal of Academy of Business and Economics,Vol.15 (1), pp.101-109.

・Norihiko Ogawa, Takahashi,K. & D.Osato (2014) “The Empathetic Sorting Technique: Measuring Corporate Culture by Sorting Illustrated Value Statements” Business Studies Journal, Vol.6, pp.81-103.
・小川憲彦 (2013)「人材育成方針がもたらす若手従業員への影響」金井壽宏・鈴
木竜太編著『日本のキャリア研究組織人のキャリア・ダイナミクス』白桃書房，第Ⅲ部第 6 章, 169 - 196 頁.

【Outline (in English)】
The purpose of this class is to learn career theories and the relationships among theories. You are expected to participate in class discussions actively as well as to reflect your own career using theoretical approaches along with your work-experiences.

MAN500F1 － 0070

人事制度論

奥西　好夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に経済学的手法による日本企業の人事制度概論である。学生は、人事制度を設計、運用、評価するために必要な基礎理論（ミクロ経済学、社会心理学など）を簡単に学んだ上で、採用、訓練、昇進、賃金、人事評価、退職・定年、職務設計など人事制度の各パーツについて学ぶ。さらに、各パーツ相互の補完性を強調する戦略的、システム的なモノの見方、考え方を学ぶ。

【到達目標】
現実の人事制度が運用面も含めて、「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、そして（いっそう難しいことだが）「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
大きく「基礎理論」（①～④回）、「各論」（⑤～⑫回）、「応用」（⑬～⑭回）の 3 部からなる。「基礎理論」の授業は講義中心に行う。「各論」、「応用」の授業は、原則として、講義と受講者による報告・討論を合わせて行う。報告のノルマ、分担等については、受講者数や受講者の希望を勘案して決める。報告者は要点を記した簡単なハンドアウトを用意すること。
また、これらとは別に、学期末に各人の研究報告をレポートとして提出してもらう。この最終レポートは、受講者が本講義で学んだことの成果を総括するものとして、重要な位置を占める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	人事制度論の概要	・人事制度論の概要 ・関連領域、方法論の紹介
②	個人の行動原理	・経済合理性 ・経済非合理性 ・不完全情報
③	取引の効率性	・効率性 ・取引費用 ・コースの定理
④	組織の公正性、人々の福祉	・さまざまな公正観 ・組織内公正性 ・いくつかの福祉指標
⑤	雇用関係と労働市場	・雇用関係の特徴 ・雇用関係、労働市場の経済モデル
⑥	雇用形態・区分の多様化	・形態・区分多様化の背景 ・政策課題
⑦	採用・退職・定年	・採用量・質の決定 ・効率的な離職理論 ・定年制の理論と実際
⑧	人的資本と訓練	・一般訓練と特殊訓練 ・OJT とキャリア
⑨	昇進	・昇進の機能 ・トーナメント、アップ・オア・アウト ・キャリア・コンサーンズ
⑩	人事評価	・人事評価の目的 ・評価者、評価項目・方法 ・結果のフィードバック
⑪	賃金	・賃金決定要素 ・賃金水準・格差 ・賃金プロファイル ・福利厚生
⑫	職務設計	・職務設計の重要性 ・職務設計のポイント
⑬	多様性管理と雇用モデルの多様性	・背景と内容 ・日本の現状と課題 ・ケースと理論
⑭	日本の雇用・人事制度の課題	・賃金停滞問題と政策課題 ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
単一のテキストは用いない。各回の講義内容のレジュメ等は Hoppii を用いて事前に配付する。

【参考書】
講義全体にわたる参考書として、次の文献がある。ただし、講義ではこれらの逐語的な解説をする予定はなく、各自購入する必要はない。
①ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』（NTT 出版、1997 年）
②ラジアー、ギブス『人事と組織の経済学 実践編』（日本経済新聞出版社、2017 年）
③ Baron, James N. and David M. Kreps. Strategic Human Resources（John Wiley and Sons, 1999）
なお、日本の人事制度に関する副読本として、守島基博・大内伸哉『人事と法の対話』（有斐閣、2013 年）、海老原嗣生・荻野進介『人事の成り立ち』（白桃書房、2018 年）を挙げておく。

【成績評価の方法と基準】
全講義のうち出席が半分に満たない場合は、自動的に「未受講扱い」とする。成績評価は、授業参加（20%）、口頭報告（20%）、最終レポート（60%）に基づく。最終レポートの評価は、【授業の到達目標】で掲げた 3 つの目標（「どうなっているのか」、「なぜそうなっているのか」、「どうしたらもっとよくなるのか」を、自ら考え、理解し、提案する力）がどの程度達成されているかで判断する。

【学生の意見等からの気づき】
過去の経験では、内容が難しいとの評価が比較的多い。そこで、四則演算を超える数学は一切用いず、抽象的な概念は身近な実例を交えて説明するなどの努力をしているが、不明な点は講義中に（事後を含む）ぜひ積極的に質問して欲しい。率直で気軽な質問こそ、対面授業のメリットの一つと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii を授業外でのコミュニケーション・ツールとして多用するので、事前にシステムに授業登録するとともに（事務上の履修登録とはラグがあることに注意）、各自の連絡先メールアドレスも登録すること。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞　労働経済学、人事制度論
＜研究テーマ＞　人事制度、労働市場の統計分析、国際比較。特に雇用形態、賃金格差など。
＜主要研究業績＞下記サイトを参照されたい。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001419/profile.html

【Outline (in English)】
First, students study basic theories such as microeconomics and social psychology which are required to design, practice and evaluate HR policies. Then, they learn various aspects of HR policies such as hiring, training, promotion, wages, performance evaluation, separation, and job design. Furthermore, they learn strategic or systematic views to synthesize the above various aspects which may well be complementary each other.
It is required that students make a presentation and submit a report on a topic which is relevant to this course.
The grade of this course depends on class participation (20%), the presentation (20%), and the report (60%).

MAN500F1 － 0071

労働市場論

藤本　真

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業では、日本の労働市場の構造と現状について、制度的なアプローチから解明していきます。ここでいう「制度」とは、政府が法律などを通じて管理しつつ、求人者と求職者そして仲介者ら市場関係者の日々の参加によって作り上げられていく労働力需給調整システムを意味します。
現実の労働市場は、単純なマーケットメカニズムによって構造化されるものでは決してなく、その国・地域の社会・文化や政治・経済が色濃く反映され組み上げられた「制度」から数々の制約を受けつつ、長い経緯を経て形成されてきた社会システムであるからです。具体的には、職業紹介、労働者派遣、求人広告などの「制度（事業システム）」を舞台に、それらの事業マーケット担当者（公的機関の職業相談担当者や人材紹介コンサルタントなど）の目線を加えながら、その市場の構造と規模、法の規制と経緯、需給（求人者と求職者）双方の動向、情報化・国際化・高齢化の影響などについて検討していきます。

【到達目標】
現在、日本も含め、多くの先進諸国において労働市場は、政府の法制度によって管理されています。日本の政府はこれまで、日本の労働市場に対してどう関与してきたのか、そしてその関与によって現在のマーケットがどう動き、経済社会の変化とともに今後どこへ向かおうとしているのか。授業の到達目標は、こうした労働市場に関する洞察力を向上させることにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
１．本授業は、対面型授業として、実施します。
２．第１回から第３回までは、この授業の進め方などに関するイントロダクション、ガイダンスと、労働市場および日本の労働市場についての基本的な枠組みに関する講義を実施します。
３．第４回目以降は、日本の労働市場に関わる個別のテーマを取り上げ、そのテーマについての「講義」（６時限目）と「演習」（７時限目）を行ないます。
４．「講義」では、各回のテーマに関連して、これまでの傾向や近年の変化の動向、生じている課題や新たに進められている取り組みについてトピックを整理し、そのテーマに関する基本的な理解の促進を目指します。
５．「演習」では、各回のテーマに関連して、現状と課題及び個人的な問題意識をまとめた参加者作成のレポートの報告に基づき、ディスカッションを行います。
６．授業で取り上げる予定の個別テーマとしては、「授業計画」に挙げたものや、以下のようなものを考えています（「授業計画」には、2022 年度の授業で取り上げたテーマとそのテーマに関わるトピックを、取り上げた順に記しています）。今年度の授業で実際に取り上げるテーマと順番については、第２回のガイダンスの際に参加者の皆さんと協議の上、決定します。
＜取り上げる個別テーマの例：「授業計画」に挙げたもの以外＞
〇非正規化の進展と格差対策
〇専門職の労働市場
〇職業能力評価のための社会的枠組みと課題
〇社会保障・社会福祉・所得保障と労働市場
〇新型コロナの感染拡大と労働市場
７．授業期間中、マッチングや採用、労働市場の諸制度に関わる実務者の経験をうかがうことで、日本の労働市場についての理解をより深める機会を設ける予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的、取り上げるテーマ、進め方についての説明。
第 2 回	ガイダンス (６時限目)・労働市場論の基礎①「労働市場とは」(７時限目)	ガイダンス－参加者の問題関心の共有、取り上げるテーマの検討 労働市場論の基礎①－「労働市場」を捉える 3 つの観点、労働市場の参加者、労働市場の機能
第 3 回	労働市場論の基礎②③「日本の労働市場の基本的枠組み」「日本の雇用就業機会と賃金」	日本における雇用・就業機会、雇用・就業契約とその終了、労働市場の「セーフティネット」、賃金の推移と現状
第 4 回	日本の労働市場の現状と課題①「高卒・大卒の新卒労働市場」	新卒一括採用、就職協定、「就活」と「就活」エリート、エントリーシート、学校紹介制度、1 人 1 社制、「売り手」市場の影響
第 5 回	日本の労働市場の現状と課題②「労働市場に関わるビジョン・政策と規制緩和」	雇用対策法／雇用対策基本計画、積極的雇用政策、職業業紹介・労働者派遣事業の自由化、ポジティブ・リスト・ネガティブ・リスト
第 6 回	日本の労働市場の現状と課題③「ホワイトカラー労働市場の流動化と民間のマッチングビジネス、労働移動支援」	中途採用の増加、ミドル層ホワイトカラーの転職、変化、エンプロイヤビリティ、キャリア自律
第 7 回	日本の労働市場の現状と課題④「女性就業者をめぐる労働市場」	M 字カーブ、マミートラック、パートタイム労働、103 万円の壁・130 万円の壁、男女間賃金格差、女性の大学進学率、性別職域分離、統計的差別、男女雇用機会均等法、コース別採用、女性活躍推進法、アファーマティブ・アクション、ファミリー・フレンドリー、ワークライフバランス
第 8 回	日本の労働市場の現状と課題⑤「高齢化する労働市場」	高年齢者雇用安定法、年金制度改革、70 歳までの就業確保措置、長澤運輸事件、出向・転籍、早期退職、アウトプレースメント、産業雇用安定センター、シルバー人材センター、NPO ／ボランティア、高齢者の能力開発・意識改革
第 9 回	日本の労働市場の現状と課題⑥「国際労働力移動に関わる諸制度と課題」	日本国内で働く外国人雇用者の急増、外国人の採用と外国人労働者、日系人出稼ぎ労働者、労働許可制、入国管理制度、在留資格、技能実習生、特定技能制度
第 10 回	日本の労働市場の現状と課題⑦「労働市場における「差別」の問題」	採用差別、賃金差別、昇進・昇格差別、直接差別／間接差別、思想・信条による差別、ダイバーシティ・マネジメント、障がい者差別、「合理的配慮」
第 11 回	日本の労働市場の現状と課題⑧「中小企業・自営業・NPO・NGO セクターの労働市場」	中小企業の人手不足、二重構造、中小企業における働きがい／働きやすさ、中小企業と「働き方改革」、フリーランス、ウーバー、雇用類似の働き方、NPO セクターの就業と処遇
第 12 回	日本の労働市場の現状と課題⑨「労働市場における都市と地方」	都市・地方の労働市場の特徴、マッチング・プロセスの相違、人材サービスの活動状況、地方－都市間の労働移動
第 13 回	日本の労働市場の現状と課題⑩「就職・キャリア形成困難者に対する支援の取組み」	離職者訓練、求職者支援制度、ヤングハローワーク／マザーズハローワーク、サポートステーション、就職氷河期世代、障がい者に対する支援

第 14 回	日本の労働市場の現状と課題⑪「技術の変化・進化・革新と労働市場」	技術革新に伴う仕事の変化、AI と労働市場、デジタル化とリスキリング、「デジタル人材」、HR テクノロジー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2～3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義全般を通じての基本テキストは特には指定しません。

【参考書】
毎回、次の回のテーマの参考となる文献・資料等を、提示します。

【成績評価の方法と基準】
１．各回の出席を「授業における学習姿勢」として評価します。
（第 2 回以降。2 点 × 出席回数）
２．第 4 回目以降の各回におけるレポートの提出を評価します。
（3 点 × 提出回数）
３．出席、レポート提出に加えて、演習での「レポート報告」を評価します。
（15 点 × 担当教員の指名により授業内で報告した回数）
以上の３つの評価項目において
- ●「授業における学習姿勢」（上限 26 点）
- ●「演習時のレポート全提出」（上限 33 点）
- ●３回の「レポート報告」(45 点)

を達成すれば、100 点（Ａ＋）に到達するというイメージです。

【学生の意見等からの気づき】
１.「講義」では、日本の労働市場に関わる多種多様なテーマについて、①現状を左右する制度的な枠組み、②各テーマに関わる現象の経済・社会全体における位置付け、③それぞれのテーマに関わる当事者（企業、労働者、政策当局など）の活動・意向を、データに基づきながら、わかりやすく、具体的に説明し、労働市場の問題を立体的・複眼的にとらえるきっかけを提供していきます。
２.「演習」では、「講義」の内容と、参加者のこれまでの経験や関心を踏まえて、日本の労働市場の活性化やよりよいあり方につながる今後の取組みについて、活発に議論していきたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業社会学、人的資源管理論
＜研究テーマ＞
①転職・中途採用と能力開発・キャリア形成
②能力開発、労働市場に関する社会的インフラ（公共職業訓練制度、資格・検定制度など）の機能
③中小企業セクターで働く人々の意識とキャリア形成に向けての活動
④環境変化のもとでの日本企業における能力開発活動、キャリア管理
＜主要研究業績＞
（書籍 [共著]）
〇労働政策研究・研修機構編 [2012]『中小企業における人材育成・能力開発』, 労働政策研究・研修機構.
〇藤本真・佐野嘉秀・高見具広・山口塁 [2017]『日本企業における人材育成・能力開発・キャリア管理』, 労働政策研究・研修機構.
〇梅崎修・池田心豪・藤本真編著 [2019]『労働・職場調査ガイドブック』, 中央経済社.
〇藤本真・田中秀樹・清原悠［2022］『ミドルエイジ層の転職と能力開発・キャリア形成』, 労働政策研究・研修機構.
（論文）
〇藤本真 [2012]「民間教育訓練プロバイダーにおける教育訓練サービスの改善活動－サービス改善に向けた活動を規定する要因」, 日本労働研究雑誌 619 号.
〇藤本真 [2018]「「キャリア自律」はどんな企業で進められるのか」, 日本労働研究雑誌 691 号.
〇藤本真 [2019]「中小企業セクターで働くシニア労働者」, 日本政策金融公庫論集 44 号.

【Outline (in English)】
【Outline】
The actual labor market is never structured by a simple market mechanism. It has received numerous constraints from the "institution" that was reflected in the society, culture, politics and economy of the country/region. It is a social system that has been formed over a long process.
In the lesson, we try to understand the structure and current situation of Japanese labor market from an institutional approach. Specifically, with the theme of employment introduction, worker dispatch, matching business, and so on, we will consider the structure and scale of the market, the regulation, and the impact of globalization and aging.
【Learning Objectives】
By the end of the course, students are expected to understand the followings:
(1) How the Japanese government has been involved in the Japanese labor market to date.
(2) How the labor market is changing as a result of government involvement.
(3)How the Japanese labor market will change with economic and social changes.
【Learning activities outside of classroom)】
Students are required to prepare a short report on the topics to be covered in each class meeting. Your required study time is at least two or three hour for each class meeting.
【Grading Criteria /Policy】
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Short reports : 45% and in class contribution ： 55%

MAN500F1 － 0072

労使コミュニケーション論

呉　学殊

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本における労使コミュニケーションの実態と問題点を把握して望ましいあり方を探ってその実践に向けた企業、労働組合、政府のなすべき方向性を具体的に認識する。

【到達目標】
企業の労使コミュニケーションの実態を把握できる思考力を得る。
労使コミュニケーションの経営資源性の内容を把握できる。
労使コミュニケーションを中心に企業、労働組合、国のあり方を的確に認識できる。
社会の望ましいあり方を考える力を得る。
There are 4 goals of this class as follows. The first is to gain the ability to think about the actual state of labor-management communication in a company.
The second is to to understand the contents of management resources in labor-management communication.
The third is to accurately recognize the ideal state of companies, labor unions, and countries. focused on labor-management communication,
The fourth is to gain the ability to think about the desirable way of society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的に学生は講師の書いた本、論文、報告書を毎回読んで報告して議論する。講師は、論文等の執筆背景等を述べて議論を深めていく。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
授業形式は、オンライン授業 (リアルタイム配信型) を予定している。ただし、受講生の要望や状況によって変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション（1）	授業の基本的な方針について述べて学生からコメントを頂き方向性を確定する
第 2 回	オリエンテーション（2）	授業で取り上げる講師の本、論文、報告書について概略的にその内容を紹介する
第 3 回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（1）	日本の内部労働市場、国際比較等から労使コミュニケーションの問題点を明らかにする
第 4 回	日本の労使コミュニケーションの実態・問題点（2）	労働組合の組織率、従業員過半数代表制の問題点を明らかにする
第 5 回	日本の労使コミュニケーションの方向性（1）	問題点の解決に繋がる法的な措置のあり方を探る
第 6 回	日本の労使コミュニケーションの方向性（2）	諸外国の法制を紹介しながらより具体的に法的な組織の内容を考える
第 7 回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（1）	労働組合の結成の実態、結成に伴う労使関係の変化を確認する
第 8 回	労働組合結成と労使関係及び企業経営の変化（2）	労働組合結成効果を考える
第 9 回	パートタイマーの組織化と異見反映システム（1）	非正規労働者問題の実態と労働組合の組織化実態
第 10 回	パートタイマーの組織化と異見反映システム（2）	組織化戦略の違いがどう現れてその結果はどのようなものかを学ぶ
第 11 回	CSR と企業別組合の役割（1）	CSR の内容と動向
第 12 回	CSR と企業別組合の役割（2）	企業別組合が CSR におけるどのような役割を果たせるかを学ぶ
第 13 回	企業グループ連結経営と人事労務管理（1）	個別企業の事例を取り上げて、企業グループ経営の実態を把握する
第 14 回	企業グループ連結経営と人事労務管理（2）	企業グループ経営に伴う人事労務管理の変化や課題、また、労使関係の変化を学ぶ
第 15 回	純粋持株会社企業グループの労使関係（1）	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性を把握する
第 16 回	純粋持株会社企業グループの労使関係（2）	4 つの純粋持株会社企業グループにおける労使関係の多様性について議論と理解を深める
第 17 回	企業グループの労使関係の望ましい姿（1）	企業グループの労使関係の望ましい姿の事例を把握する
第 18 回	企業グループの労使関係の望ましい姿（2）	企業グループの労使関係の望ましい姿についての討論を通じて、その姿の波及可能性を探る
第 19 回	中小企業の労使コミュニケーション（1）	中小企業の労使コミュニケーションの実態についてアンケート調査結果から学ぶ
第 20 回	中小企業の労使コミュニケーション（2）	中小企業の労使コミュニケーションの多様性について議論を通じて理解力を高める
第 21 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（1）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例の実態を学ぶ
第 22 回	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例（2）	中小企業の労使コミュニケーションの最先進事例から労使コミュニケーションの経営資源性を理解する
第 23 回	個別労働紛争の実態と解決（1）	個別労働紛争の実態をヒアリング調査とアンケート調査から理解する
第 24 回	個別労働紛争の実態と解決（2）	個別労働紛争の解決・予防におけるユニオン・合同労組の役割・意義について討論を通じて理解度を高める
第 25 回	事例発表（1）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 26 回	事例発表（2）	受講生の事例を発表して、労使コミュニケーションの実態、経営資源性、課題等について認識を共有する
第 27 回	労使コミュニケーションの経営資源性（1）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために必要な課題を労使関係の実態、法制等の観点から探り、解決への認識を高める
第 28 回	労使コミュニケーションの経営資源性（2）	労使コミュニケーションの経営資源性を発揮するために想像力を高めて、その実現可能性を目指す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
翌週に発表する論文等を読むこと
To read the recommended papers for next week's class

【テキスト（教科書）】
呉学殊（2013）『労使関係のフロンティアー労働組合の羅針盤』（増補版）労働政策研究・研修機構、本体定価 3500 円。

労働政策研究・研修機構（2013）『労使コミュニケーションの経営資源性と課題』労働政策研究・研修機構。

【参考書】
下記、講師の勤め先 HP
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【成績評価の方法と基準】
授業発表内容（30 %）
授業への貢献度：出席、積極的な発言（30 %）
レポート（自分の事例発表をベースにしたもの）（40 %）
Content of class presentation (30%)
Contribution to class: Attendance, positive remarks (30%)
Report (based on own case study) (40%)

【学生の意見等からの気づき】
今後自分の職場における労使コミュニケーションの改善と日本の本質的な再生に向けた授業と考えて積極的に参加してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
ない。

【労使コミュニケーション論】
＜専門領域＞労使関係論、産業社会学
＜研究テーマ＞労使関係、CSR、労働組合の組織化、企業組織再編
＜主要研究業績＞次のサイトをご参照
http://www.jil.go.jp/profile/ohhs.html

【Outline (in English)】
This class aims to understand the actual conditions and problems of labor-management communication in Japan, and to explore desirable ways and specifically recognize the direction that companies, labor unions and governments should take for practicing.

MAN500F1 － 0074

組織行動論

西川　真規子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
組織という場における個人の態度や行動、人と人との関係性において生じるさまざまな問題・課題について、心理学、社会心理学、社会学等の学際的なアプローチを用いて理解を深め、解決・改善をはかるのが組織行動論である。この授業の目的は、このような組織行動論の基本的アプローチを理解し、組織行動に関わる主要概念・理論を学習した上で、組織の現場へ応用する力を身に着けていくことにある。

【到達目標】
①組織の現場で生じる「ひと」に関わる現象について、社会科学の概念・理論を通じて客観的に捉えられるようになる
②自らの職場における組織行動上の課題・問題を抽出し、関連する先行研究を参照し、課題・問題を分析（診断）できる
③②の分析（診断）結果をもとに、職場の「ひと」に関わる課題・問題の有効な改善・解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は以下 3 つの活動によって構成される
①　講義や専門文献の読解を通じて組織行動に関する基礎理論や応用を学ぶ
②　受講者自らの組織体験、他の受講生の体験の共有をはかり、これらに対する討議を通じて、現場での「ひと」に関わる現象を組織行動の視点から客観的に振り返る
③　受講者自らが所属する組織の「ひと」に関わる課題・問題について先行研究を参考にしつつ分析し、解決・改善策をレポートとしてまとめる
尚、授業で取り上げる専門文献＊は主に英語の文献であるが、授業（講義や発表、議論）、レポートは日本語を使用する。＊授業開始時に指定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	組織行動論とは
2	社会科学のアプローチ	社会科学（特に社会心理学、社会学）のアプローチを理解する
3	リーダーシップ	リーダーシップの主要論文を取り上げ読解・議論
4	モチベーション 1	モチベーションの主要論文を取り上げ読解・議論
5	モチベーション 2	モチベーションの主要論文を取り上げ読解・議論
6	中間発表	これまでの学習を踏まえて自らの課題を分析
7	集団	集団メンバーとしての個人のふるまいについて考察
8	集団間関係	集団間関係についての主要論文を読解・議論
9	チーム	チームについての主要論文を読解・議論
10	集団からの影響	集団が個人に及ぼす影響について分析
11	集団と個人の関係性	集団と個人の関係性について主要論文を読解・議論
12	パワーと影響力	パワーと影響力について主要論文を読解・議論
13	組織変革	組織変革に関する主要論文を読解・議論
14	まとめ レポート発表	これまでの学習のまとめ 自らの職場の課題についての分析結果と改善策を提示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
① 専門文献（論文）の読解：発表担当者を指定するので、担当者は資料を事前に準備する。担当者以外も事前に予習の上、分からない箇所、質問等を準備して討議に備える。
② 各回の学習内容を生かし、自らの組織課題の改善策を適宜修正する。
以上の準備や復習に必要な学習時間は 4 時間程度とする（但し、発表担当の場合はこれ以上の時間を要する）。

【テキスト（教科書）】
Classic Readings in Organizational Behavior, 4th edition by J. Stenven Ott, Sandra J. Parkes & Richard B. Simpson, Wadworth, 2008
(ISBN-10: 0495-09474-9 ISBN-13: 978-0-495-09474-6)
上記テキストの入手方法ついては、授業開始前に Hoppii を通じてのお知らせを参照のこと

【参考書】
（以下は参考書であり購入の必要はない）
『社会心理学キーワード』、山岸俊男 (編)、有斐閣双書、2001 年
『組織学説の偉人たち』、デリック・ピュー、デービッド・ヒクソン（著）、北野利信（訳）、有斐閣、2003 年
『はじめての組織行動論』、西川真規子 (著)、新世社、2021

【成績評価の方法と基準】
担当箇所の準備・発表・討議への参加 (授業への貢献)　50 点
レポート 50 点（レポートは、組織で生じる事象を客観的に捉えられているか、理論・概念を正確に理解・応用しメカニズムの解明がなされているか、メカニズムの解明に沿って実践可能な解決策が提示されているか、にて評価。）

【学生の意見等からの気づき】
専門知識の理解にとどまらず応用力が身につくという本授業のメリットをさらに強化していく。進行速度が速いとの指摘を受け、受講生の習熟度に合わせより丁寧な講義を心がける。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布や課題提出等に授業支援システムを利用するので受講者は授業開始後速やかに授業支援システムへ登録のこと。

【その他の重要事項】
この授業は就業経験を有する社会人院生を対象とする。授業では受講生のこれまでの就労体験の振り返りや実際の就労現場での生きたデータの参照を必要とする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　組織行動論、経済社会学
＜研究テーマ＞　ジェンダーと労働、労働と生活の質、職務態度
＜主要研究業績＞
① “(Re)defining Care Workers as Knowledge Workers”, *Gender, Work and Organization*, Vol.18 No.1 January 2011
②『ケアワーク 支える力をどう育むか：スキル習得の仕組みとワークライフバランス』日本経済新聞出版社 2008 年
③「感情労働とその評価」『大原社会問題研究所雑誌』2006 年 No.567

【Outline (in English)】
Organizational behavior seeks to understand human behavior in organizational contexts. Students will learn the approaches of organizational behavior, by studying concepts and theories mainly developed in the field of psychology, social psychology, and sociology. Students will also acquire the knowledge and skills to analyse problems found in their organizations and to propose prospective solutions to the problems. Before/after each class meeting, students will be expected to read the relevant paper(s). Required self-study time will be more than four hours each class. Evaluation will be based on 1) class contribution, including text-based presentation and discussion (50%), and 2) interim and final reports presentation/submission (50%)

MAN500F1 － 0075

経営情報論

岸　眞理子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営情報論は、企業をはじめとする様々な組織を対象とし、組織を何らかの目標を追求する、広い意味での情報処理システムとして捉え、検討する学問領域です。

この授業では、情報通信技術（ICT）が飛躍的に発展し続けている今日、企業をはじめとする組織にとって、いかに ICT やそれが生み出す多様で大量の情報によって、効率的・効果的に経営活動を行うかが、組織の存続や発展に関わる、変わらぬ根幹の課題であること、加えて、昨今の ICT の劇的な進展は、ICT や情報が、もはや競争優位や収益性を創出する手段であるだけでなく、その取扱いそのものが、「経営（マネジメント）」であるという課題について学習します。

【到達目標】

経営情報論が扱う領域は広範で、しかも激しく変化しているため、現象を追いかけると一体何を学んでいるのかが、わかりにくくなるという問題に直面します。これを克服するために、「システム的なものの見方」（システム思考）を採用することにより、複雑で混沌として、しかも激動する対象領域を、網羅的というより、むしろ整合的で体系的に捉えられることを学びます。

日々変化する経営情報を巡る現象を統一的な「ものの見方」に基づいて体系的に捉え、情報によっていかに経営するか、すなわち「情報で経営する」という基本的な課題について、現象を説明するための基礎となる理論やモデルを学習します。同時に、情報そのものをいかに経営するか、すなわち「情報を経営する」という新たな課題についても、現象を理解し、新たなモデルの構築へとつなぐ糸口を探します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

現段階（2023 年 2 月）では、対面による授業を予定しています。具体的な授業方法については、授業開始日までに、学習支援システムでお知らせします。受講を検討されている方は、必ず、学習支援システムで仮登録をするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容と方法の確認 経営情報論の学問領域 経営情報論への接近方法
2	システム思考	経営情報学の枠踏み
3	組織のシステムモデル	情報処理システムとしての組織
4	経営情報と組織（1）	組織の情報処理の実践を説明する経営組織論の基礎
5	経営情報と組織（2）	組織の情報処理の実践を説明する経営戦略論の基礎
6	組織と意思決定	情報処理システムとしての組織の中核機能
7	ケース・スタディ	ゲスト・スピーカーによる事例紹介と分析
8	組織とコミュニケーション	情報処理システムとしての組織を支える機能
9	組織と技術・情報システム	技術と情報技術の捉え方
10	ICT と問題解決	実践における問題解決を行う方法
11	ICT と組織変革	組織・人のネットワークと変革
12	ICT と価値創造	ICT による価値を生み出すプロセス
13	超スマート社会と情報経営	新しいビジネスモデルとマネジメント
14	課題についての報告会	課題報告、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の準備学習・復習時間は、各４時間を標準とします。理論や概念の理解と事例分析に積極的に参加できるよう、予め指定された教材を学習して授業に臨むことが求められます。

授業の詳細や報告会の課題については、初回のイントロダクションにおいて説明されます。

【テキスト（教科書）】

初回のイントロダクションにおいて、主要教材が指定されます。

【参考書】

初回のイントロダクションにおいて、各回ごとに参考教材一覧が提示されます。

【成績評価の方法と基準】

成績評価配分は基本的には下記のとおりです。

・授業への貢献度（発表と議論）： 50 %

・レポート内容： 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゲスト・スピーカーによるスピーチとディスカッションは好評により、状況をみながら、できるだけ取り入れます。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　経営情報論、経営組織論

＜研究テーマ＞　組織コミュニケーション、ICT と組織の情報処理

＜関連研究業績＞

①『経営情報学－理論と現象をつなぐ論理－』（共著、有斐閣、2023 年）

②『経営情報学入門（新訂）』（共編著、放送大学教育振興会、2023 年）

③『メディア・リッチネス理論の再構想』（中央経済社、2014 年）

④ Perceptions and use of electronic media: Testing the relationship between organizational interpretational differences and media richness, Information and Management 45(5), 2008.

⑤『情報技術を活かす組織能力－ IT ケイパビリティの事例研究－』（共編著、中央経済社、2004 年）

【Outline (in English)】

【Course outline】

Organizations and Information Management involves learning the theories and models of corporate information processing, applying it to practice and developing it, and at the same time obtaining practical knowledge from actual cases of organizational information processing activities to generalize into an academic field.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to learn about how an organization works as an effective information processing system on the premise of the ICT environment.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to search and examine relevant literature and materials. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on the quality of the student's class-performance(50%) and the term-end repot(50%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

木村　純子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least 4 or 5 hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

長谷川　翔平

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

猪狩　良介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

猪狩　良介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導 （日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

竹内　淑恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【その他の重要事項】
担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しており、その実務経験と学術的課題を融合させ、独自性の高い研究指導を行う。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete the master thesis regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

竹内　淑恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【その他の重要事項】
担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有しており、その実務経験と学術的課題を融合させ、独自性の高い研究指導を行う。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete the master thesis regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習（代表シラバス）

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	リサーチ・プロポーザルの作成指導①	テーマやスケジュールについての指導
2	リサーチ・プロポーザルの作成指導②	テーマの絞り込み
3	先行研究の検討①	先行研究の渉猟
4	先行研究の検討②	先行研究の整理
5	先行研究の検討③	先行研究の批判的検討
6	研究方法の検討①	研究方法についての指導
7	研究方法の検討②	研究方法の絞り込み
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	春季 中間報告会	中間報告会での指導 (日程は前後する可能性あり)
10	調査実施状況の確認①	調査計画やスケジュールについて指導
11	調査実施状況の確認②	調査内容の吟味
12	調査実施状況の確認③	調査実施方法の確認
13	調査実施状況の確認④	調査データの吟味
14	調査実施状況の確認⑤	調査データの分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性など。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
This seminar aims to complete the master thesis. Fusing practical research question with marketing theory is required for this aim.

MAN600F1 － 0078

マーケティング演習（代表シラバス）

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は、流通・マーケティングに関する修士論文作成の研究指導を行うものである。実務の問題意識と、マーケティング理論を融合させ、独自性の高い研究を行い、論文にしていく。

【到達目標】
本演習では、内容的に高度な修士論文を作成し、学会発表できる完成度を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
流通・マーケティングの包括的な領域でテーマが設定され、理論的アプローチから実証的アプローチまで、テーマに即した研究方法で論文を作成する。
研究内容ついては，各回の授業での受講生の報告へ指導教員がフィードバックを行うと同時に，年 2 回の中間報告会で指導教員以外からもフィードバックを行う。
授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の再確認	研究課題やスケジュールについての指導
2	調査実施状況の確認①	調査データの吟味
3	調査実施状況の確認②	調査データの分析
4	調査実施状況の確認③	分析結果の解釈
5	調査実施状況の確認④	理論的意義の検討
6	調査実施状況の確認⑤	実践的意義の検討
7	調査実施状況の確認⑥	限界と展望の確認
8	中間報告の準備	中間報告準備の指導
9	秋季 中間報告会	中間報告会での指導（日程は前後する可能性あり）
10	論文執筆指導①	全体構成の再確認
11	論文執筆指導②	レビューパートの指導
12	論文執筆指導③	分析枠組み・方法論パートの指導
13	論文執筆指導④	分析パートの指導
14	論文執筆指導⑤	論文全体の整合性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献探索やデータ収集などの調査活動をはじめ、調査対象への依頼、報告書作成、データ分析、執筆活動は、各自授業外で行うこと。毎週最低でも 4-5 時間必要になる。

【テキスト（教科書）】
適宜紹介する。

【参考書】
指導教員からの指示に従うこと。

【成績評価の方法と基準】
評価の項目は修士論文としての学術的説得力、実務への貢献、論理的一貫性である。論文の完成度の評価が 60%、演習への取り組み姿勢や努力 (平常点）を 40%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
スケジュール管理に留意する。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】This seminar aims to complete master theses regarding topics of marketing and distribution. Students pursue original research by fusing their own practical awareness of the issues and marketing theory.
【Learning activities outside of classroom】Data collection, data analysis and previous studies survey, etc. Students have to study at least four or five hours per week.
【Grading Criteria /Policy】The evaluation items are academic ability to persuade, practical contribution and logical consistency, etc. The grade is calculated by the completeness of a final paper(60%) and the attitude toward the class(40%).

MAN500F1 － 0079

ワークショップ（マーケティング）

朝岡　崇史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では『サステナビリティ時代における企業ブランディングの役割』について学びます。授業では環境・社会・経済の同時実現が企業経営に求められる時代、企業ブランドの役割の変化について学ぶと同時に、ビジネスの最前線で活躍されている実務家のゲスト講師をお招きして先端的な企業の取り組み事例についてのお話をうかがいます。また授業内容と密接に関係のある課題について複数のグループでワークショップを行い、多視点でのディスカッションにより新たな気づきや発見を得ることを目指します。

【到達目標】
サステナビリティが重要視される時代における企業ブランディングの本質的な役割の変化について、深く、実践的に「学ぶ」とともに「自分ゴト」として「問い」を立てられるようになることを目指します。
具体的には、授業・ワークショップでは以下の３つのステップで企業ブランディングの役割の変化が起きていることをリアリティを大切にしながら丁寧に見ていきます。
＜ステップ１＞デジタル時代に入ると SNS の普及などにより、企業とお客さまとの関係性に変化が生まれつつあった。さらに SDGs が地球規模の課題として共有されるようになると、企業には環境・社会・経済の同時実現が求められるようになり、必然的に企業ブランドの役割は大きく変わった。
＜ステップ２＞企業もこの変化を敏感に察知し、事業の持続可能性を前提に「人間の安全保障」を強く打ち出すことで企業価値を高め、ステークホルダーからの支持を取り付けるアプローチを行うようになった。
＜ステップ３＞サステナビリティを事業経営の基軸に置くアプローチは国/地域や業種/業態の垣根を超えて、数多くの有力企業に採用され始めている。先端的な企業の取り組みには組織文化やパーパスと密接に結びついた独自のアプローチがあり、今後の企業ブランディング構築を考える上で学びや気づきが多い。
「サステナビリティ時代の企業ブランディング」の考え方と具体的な先端企業の取り組みをセットで体得し、多視点でのワークショップを通じて自分の考えを周囲に共有・プレゼンできるようになることを授業の最終ゴールとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
秋学期の金曜日の夕方から、朝岡もしくはゲスト講師による講義と質疑応答（第 6 限）・ワークショップ（第 7 限）と 2 時限連続の授業となります。今年度（2023 年）も 14 週（2 回）の授業をすべて対面方式@大学院棟 201 教室での実施とします。ただし、一部の遠隔地のゲスト講師による講演はリモートで行われる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：「CES 2023」に見る企業ブランディングのゲームチャンジ（朝岡）	授業のテーマ『サステナビリティ時代における企業ブランディングの役割』や学習目標の共有
第 2 回	ワークショップ	サステナビリティ時代の企業ブランディングに関するワークショップ
第 3 回	『ブランド論』（D. アーカー）の基本原則（朝岡）	無形の差別化をつくる『ブランド論』の基本原則について
第 4 回	ワークショップ	ブランドパーソナリティ、ブランドポートフォリオなどに関するワークショップ
第 5 回	SNS と企業ブランディング（朝岡）	SNS の浸透が企業ブランディングに及ぼした変化について
第 6 回	ワークショップ	SNS 時代の企業ブランディングについてのワークショップ
第 7 回	インダストリーイノベーションと企業ブランディング（ゲスト講師①：京都先端科学大学 森一彦先生）	企業ブランドは認知系システムから活動系システムへ
第 8 回	ワークショップ	企業の活動系システムのブランディングについてのワークショップ
第 9 回	SDGs と企業ブランドコミュニケーション（ゲスト講師②：電通 Team SDGs 大屋洋子先生）	SDGs ストーリー構築の重要性
第 10 回	ワークショップ	SDGs ストーリーの重要性についてのワークショップ
第 11 回	SDGs ネイティブの作る未来（ゲスト講師③：元 WWF ジャパン事務局長 筒井隆司先生）	22 世紀の「SHINISE（老舗）」企業とは
第 12 回	ワークショップ	22 世紀の「SHINISE（老舗）」企業についてのワークショップ
第 13 回	地球規模で俯瞰した環境問題（ゲスト講師④：外務省 地球環境課題審議官 小野啓一先生）	SDGs における日本企業の役割
第 14 回	ワークショップ	SDGs における日本企業の役割についてのワークショップ
第 15 回	先端企業事例：資生堂ジャパン（ゲスト講師⑤：資生堂ジャパン CDO 笹間靖彦先生）	資生堂のサステナビリティ戦略
第 16 回	ワークショップ	資生堂のサステナビリティ戦略についてのワークショップ
第 17 回	先端企業事例：パナソニック（予定：ゲスト講師⑥は調整中）	パナソニックのサステナビリティ戦略（予定）
第 18 回	ワークショップ	パナソニックのサステナビリティ戦略についてのワークショップ（予定）
第 19 回	先端企業事例：サントリー（ゲスト講師⑦：サントリー サステナビリティ推進部長 北村暢康先生）	サントリーのサステナビリティ戦略
第 20 回	ワークショップ	サントリーのサステナビリティ戦略についてのワークショップ
第 21 回	先端企業事例：外資系製薬会社（企業、ゲスト講師⑧は調整中）	外資系製薬会社のサステナビリティ戦略（予定）
第 22 回	ワークショップ	外資系製薬会社のサステナビリティ戦略についてのワークショップ（予定）
第 23 回	先端企業事例：クボタ（予定：ゲスト講師⑨は調整中）	クボタのサステナビリティ戦略（予定）
第 24 回	ワークショップ	クボタのサステナビリティ戦略についてのワークショップ（予定）

第 25 回	先端企業事例：東レ（ゲスト講師⑩：東レ地球環境推進室長 野中利幸先生）	東レのサステナビリティ戦略
第 26 回	ワークショップ	東レのサステナビリティ戦略についてのワークショップ
第 27 回	最終まとめ（前半）	授業・ワークショップの振り返り（受講生によるプレゼンテーション）
第 28 回	最終まとめ（後半）	授業・ワークショップの振り返り（受講生によるプレゼンテーション）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備や復習に各々 2 時間ずつ程度の自主学習をお願いします。
・毎回の授業終了後に全体の振り返り・学び・気づきを個人レポートとして提出（PPT 形式のフォーマットを使用。A4 用紙で 1 枚程度、授業終了後 1 週間以内）していただきます。
・毎回の講義まとめの担当を受講生に割り振り、コースの最後にまとめの報告会（プレゼンテーション）を行っていただきます（プレゼンテーション資料は後日レポートとして提出いただきます）。

【テキスト（教科書）】
D. アーカーの『ブランド論』（プレジデント社、2014 年）は受講生に無償配布予定です。授業に関連する学びの機会として『なりわい革新 事業 × 組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2022 年）の購読をお勧めします。

【参考書】
・『なりわい革新事業　組織文化の変革で経営の旗印をつくる』 朝岡崇史ほか著、宣伝会議、2022 年
・『ブランド論』 D. アーカー著、ダイヤモンド社、2014 年
・『ジョブ理論』 クレイトン・クリステンセンほか著、ハーパー・コリンズ・ジャパン、2017 年
・『両利きの経営』 チャールズ・オライリーほか著、東洋経済新報社、2019 年
・『ダイナミック・ケイパビリティ戦略』 デビット・ティース著、ダイヤモンド社、2013 年
・『ワイズカンパニー』 野中郁次郎・竹内弘 著、東洋経済新報社、2020 年
・『ビジョナリーカンパニー』 ジム・コリンズほか著、日経 BP 出版センター、1995 年
・『ドーナツ経済学が世界を救う』 ケイト・ラワース著、河出書房新社、2018 年
・『SX の時代』 坂野俊哉、磯貝友紀著、日経 BP
・『2024 年からの提言』 筒井隆司著、大学教育出版、2023 年

【成績評価の方法と基準】
出席は取りませんが、授業後のレポート提出 8 回以上およびグループワーク/グループプレゼンの参加を前提にして授業レポート 50 %、ワークショップでのグループ別報告会、最終プレゼンテーションの成果 30 %、ディスカッションや質疑応答など授業へ貢献度 20 %の比率で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
ゲスト講師とのやり取りの時間をもう少し長くとって欲しい、との声があるため、ゲスト 講師との質疑応答やディスカッションの時間を必ず 30 分設けます。
ワークショップのグループ分けは 3 ～ 4 回変更し、異なるメンバーとディスカッションできるように配慮します。

【学生が準備すべき機器他】
7 限目のワークショップでは PPT 形式のテンプレートにグループワークの成果をまとめていただき、代表者にプレゼンテーションしていただきます。
授業へはオンライン会議システム（Zoom）への接続が可能なノート PC の持参をお願いします。

【その他の重要事項】
事業経営のスピードがますます速まる中、経験則に裏打ちされた絶対的な正解はありません。突破力のある仮説づくりのために、的確な「問い」を立てることが重要になります。
受講生の皆さまには、サステナビリティ時代における企業のブランディングのあり方について、可能性を探るための積極的な提言や議論への関与を期待します。

【担当教員の専門分野等】
客員教授　朝岡 崇史（あさおか たかし）
ブランド戦略とカスタマーエクスペリエンス（CX）戦略を専門とするコンサルタント、ファシリテーター。

【経歴】
（株）電通のコンサルティング室長を経て、2017 年に（株）ディライトデザインを起業。北京伝媒大学広告学院客員教授（2013 年）、日本マーケティング協会マーケティングマスターコース・マイスター（2011 年～現在）、新宿区 U35 ビジネスプランコンテスト・アクティベーター（2019 年～現在）などを歴任。

【主な研究業績】
『エクスペリンス・ドリブン・マーケティング』（ファーストプレス　2014 年）
『IoT 時代のエクスペリエンスデザイン』（ファーストプレス　2016 年）
『デジタルマーケティング成功に導く 10 の法則』（徳間書店　共著　2017 年）
『なりわい革新事業　組織文化の変革で経営の旗印をつくる』（宣伝会議　共著　2022 年）
*ウェブマガジン『JDIR』powered by JBpress に記事連載中。

【Outline (in English)】
【Outline & Objectives】
The theme of this class is "The Role of Corporate Branding in the Age of Sustainability". In the era where corporate management is required to simultaneously realize the environment, society, and economy, we learn about changes in the role of corporate brands, and guest lecturers who are active on the front lines of business will give a lecture about examples of cutting-edge corporate initiatives. In addition, workshops will be held in multiple groups on issues that are closely related to the content of the class, with the aim of gaining new awareness and discoveries through discussions from multiple perspectives.
【Learning activities outside of classroom】
Post-class report submissions and participation in group presentations(interim briefing and final debriefing session).
【Grading Criteria /Policy】
Although attendance will not be taken, we will evaluate lesson report 50%, group work briefing session, interim and final presentation results 30%, and the contribution to the lesson (discussion and Q & A) at a rate of 20%, assuming 8 or more post-class report submissions and participation in group work/group presentation.

MAN500F1 － 0080

マーケティング論

竹内　淑恵

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
製品やブランドを日常生活の一部にする消費者の、活発でインタラクティブなコミュニティづくりを行うことは、今日のマーケティング上の課題になっています。本講義では、顧客価値の創造とロイヤル顧客獲得の方法を学び、今日のマーケティングの本質を捉える顧客価値と顧客とのリレーションシップに関する革新的なフレームワークを理解します。また、発表の機会を通じてプレゼンテーション・スキルの向上を図るとともに、ディスカッションによって多面的な角度から問題を掘り下げる能力を身につけます。

【到達目標】
・マーケティングの基本概念や理論について、自ら説明できるレベルに達する。
・マーケティングの理論を実務に応用し、マーケティング戦略を検討できるようになる。
・ディスカッションの場において、実践的かつ批判的な視点から討議できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・本授業は対面で春学期の土曜日 1・2 時限に実施します。初回とオンラインに切り替える場合の Zoom の ID、パスコードは学習支援システムの「お知らせ」でお伝えします。
・2 時限続きで 14 回開講します。
・テキストの第 1 章～第 14 章はレクチャー形式で行います。
・受講生には各章末にある「ディスカッション」を担当していただきます。予めプレゼンテーションファイルを用意し、討議のためのケースを紹介してください。その後、クラス全員で発表内容などについて検討します。
・第 14 回授業ではグループワーク発表を予定しています。第 15 章「マーケティングと社会的責任」を参照するとともに、14 章までに学んだマーケティングの理論やフレームワークを用いて、革新的なマーケティング事例に関するグループワークをしてください。その内容を第 14 回授業でプレゼンテーションします。
・提出物やプレゼンテーションの内容に対して個別評価や全体講評を行い、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	①イントロダクション、オリエンテーション ②第 1 章：マーケティングの本質	①授業の進め方、文献の調査方法などを説明し、分担決定を行う。 ②マーケティングの定義、およびマーケティングの 5 つのステップについて学ぶ。
第 2 回	①第 2 章：企業とマーケティング戦略 ②第 3 章：競争優位の創造	①マーケティングのステップ 2「顧客主導型マーケティング戦略の設計」およびステップ 3「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。 ②競合分析と競争的マーケティング戦略に関して学ぶ。
第 3 回	①第 4 章：マーケティングの基本枠組み ②ディスカッション	①顧客主導型マーケティングの基本的枠組みである STP(セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング) について学ぶ。 ②ニッチマーケティング実践企業等のディスカッション。
第 4 回	①第 5 章：マーケティング情報とカスタマー・インサイト ②ディスカッション	①様々なマーケティング情報とその情報収集方法であるマーケティング・リサーチに関して学ぶ。 ②マーケティング・リサーチ等のケース・スタディとディスカッション。
第 5 回	①第 6 章：消費者の購買行動 ②ディスカッション	①消費者の購買行動に影響を与える文化的・社会的・個人的・心理的要因について学ぶ。 ②新製品の普及速度と製品特性等のディスカッション。
第 6 回	①第 7 章：製品、サービス、ブランド ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P、Product(製品・サービス・ブランド) 戦略に関して学ぶ。 ②ブランド拡張の成功例・失敗例等のディスカッション。
第 7 回	①第 8 章：新製品開発と製品ライフサイクル戦略 ②ディスカッション	① Product 戦略において重要な役割を担う新製品開発のプロセスについて学ぶ。 ②製品ライフサイクルの延命成功事例等のディスカッション。
第 8 回	①第 9 章：マーケティング・チャネルによる顧客価値の提供 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P、Place(チャネル) 戦略に関して学ぶ。 ②開放的流通、排他的流通、選択的流通の長所と短所等のディスカッション。
第 9 回	①第 10 章：価格設定 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P、Price(価格) 戦略に関して学ぶ。 ②コストベース、顧客価値ベース、競争ベースの価格設定の長所と短所等のディスカッション。
第 10 回	①第 11 章：コミュニケーションによる顧客価値の説得 ②ディスカッション	①マーケティングミックスの 4P、Promotion(コミュニケーション) 戦略に関して学ぶ。 ②購買準備段階に応じたマーケティング・コミュニケーション事例等のディスカッション。
第 11 回	①第 12 章：広告とパブリック・リレーションズ ②ディスカッション	① Promotion 戦略における広告、PR(パブリック・リレーションズ) について学ぶ。 ②消費者生成型広告の長所と短所等のディスカッション。
第 12 回	①第 13 章：人的販売と販売促進 ②ディスカッション	① Promotion 戦略における人的販売、販売促進について学ぶ。 ②モバイルを用いた消費者向けセールス・プロモーション事例等のディスカッション。
第 13 回	①第 14 章：ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング ②ディスカッション	①近年の ICT の進展に伴って急成長しているダイレクト・マーケティング、オンライン・マーケティングに関して学ぶ。 ②ダイレクト・マーケティングの消費者ベネフィットとマイナス面等のディスカッション。
第 14 回	グループワーク発表会	グループワークによる事例研究の結果をプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・テキストの予習をして内容を理解しておいてください。
・テキストにあるディスカッションテーマについて目を通し、ディスカッションに備えてください。

・プレゼンテーションを担当する回には pdf ファイルを作成し、遅くとも授業前日の 18 時までに、学習支援システムの「教材」ホルダーに提出してください。
・第 14 回のグループワーク発表会までに革新的なマーケティング事例を選定し、グループワークを行ってください。

【テキスト（教科書）】
フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング、恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版、2014/3/4. ISBN-10:4621066226 ISBN-13:978-4621066225 ￥5,184

【参考書】
・授業では原著を使用しません。以下の書籍を参考にしてください。
Kotler, Philip & Gary Armstrong, Principles of Marketing, Global ed, Pearson Education, 2015/4/2 ISBN-10:1292092483, ISBN-13:978-1292092485 ￥11,653
・マーケティング・コースの修了生 (OB・OG) が執筆した以下の書籍を修士論文 (研究) の参考にしてください。
竹内淑恵編著 (2014)『リレーションシップのマネジメント』文眞堂, 2014/4/8. ISBN-10:4830947977 ISBN-13:978-4830947971 ￥2,808

【成績評価の方法と基準】
・担当する各章のプレゼンテーション内容 (40%)
・クラス討議への参加度、貢献度 (30%)
・グループワークによる事例発表 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
本講義を受講した学生からの意見は以下の通りです。
・翻訳文をテキストとし、英語の原著は参考書とした方が良い。
・OB・OG をゲストスピーカーとして招き、修論への取り組み方や研究手法等について説明してほしい。
・毎回のディスカッションで実務との関連が明確になった。

【学生が準備すべき機器他】
繰り返しになりますが、担当回に使用する pdf ファイルを発表の前日 18 時までに、学習支援システムの「教材」ホルダーに提出してください。

【その他の重要事項】
・マーケティング・コースの学生は、ワークショップ (マーケティング)、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、流通システム論、サービス・マネジメント論、製品開発論を履修することをお勧めします。
・修士論文において、定量分析を活用した研究を計画している学生は、統計データ解析を履修することをお勧めします。
・担当教員は、メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計 20 年間勤務した経験を有します。その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて講義します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞マーケティング論、ブランド論、消費者行動論
＜研究テーマ＞広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、ソーシャルメディアにおけるブランド・コミュニケーション
＜主要研究業績＞
①竹内淑恵 (2021)「第 12 章　SNS のブランドページを研究する」田中洋・岸志津江・嶋村和恵編『現代広告全書－デジタル時代への理論と実践』有斐閣、pp.224-239。
②竹内淑恵 (2021)「Facebook ページにおけるネガティブ効果の発生とリレーションシップへの影響」『イノベーション・マネジメント』No.18, pp.55-88.
③竹内淑恵 (2020)「Facebook ページにおける消費者エンゲージメント行動：「いいね」とコメントの差異」『イノベーション・マネジメント』No.17, pp.59-88.
④竹内淑恵 (2019)「ブランド・コミュニティ研究へのマルチレベル分析の適用可能性－ Facebook ページへのリレーションシップがロイヤルティに及ぼす影響の検討－」『イノベーション・マネジメント』No.16, pp.53-78.
⑤竹内淑恵 (2018)「Facebook ページにおける消費者とブランドとのリレーションシップ構築」『イノベーション・マネジメント』No.15, pp.43-63.
他の研究業績等の詳細は以下を参照ください。
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001706/profile.html

【Outline (in English)】
Course outline: Today's marketing challenge is to create a lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. This course will help students learn how to create customer value and acquire loyal customers.
Learning Objectives: The students will understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing. They will develop the presentation skills through presentation opportunities and acquire the ability to delve into problems from a multifaceted angle through discussions.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
Grading Criteria /Policy: Final grade will be calculated according to the following process: mid-term presentation (40%), term-end presentation (30%,) and in class contribution (30%).

MAN500F1 － 0081

消費者行動論

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
消費者行動に関する体系的な知識の獲得ができるように講義をします。マーケティング戦略の策定と実施には、消費者に関する知識が不可欠となります。講義では、消費者の認知・態度・行動とマーケティング戦略との対応づけを意識しながら、また修士論文の作成に向けて必要となる基礎的な知識を組み込み構成します。
履修生は、消費者行動に関する基礎的な知識の獲得と、実践的なマーケティング戦略を意識した消費者知識の獲得を目指してください。

【到達目標】
消費者の認知側面と感情的な態度側面を意識し、実際の行動側面との関係を考えながら、理想的なマーケティング戦略の構築と実践を描けるよう努力して下さい。そのために履修者は、①消費者行動に関する体系的な知識を獲得できるよう、②消費者行動に関する概念や理論を理解することができるよう、③消費者行動とマーケティング戦略との関係が理解できるよう、努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本講義では、マーケティングの基礎となる消費者の理解を目的とするために、消費者に関する体系的な知識とこれまでの歴史的な展開を講義します。また、ケースディスカッションにより、実践的な消費者知識を体得します。さらに、修士論文の作成に向けて、消費者研究の論文について講読し考察します。消費者行動論では、単に消費者の顕示的な行動を捉えるだけではなく、潜在的な認知や態度を理解することによって、それらの連鎖的な関係を捉えていきます。これによって、消費者行動の規定要因とマーケティング戦略との関係を考察することができます。
第 1 回～第 2 回は、授業ガイダンスと本講義の体系を概説します。第 3 回～第 4 回は、マーケティングにおける消費者行動の位置づけを確認します。第 5 回～第 6 回は、消費者行動論の歴史的な展開を説明します。第 7 回～第 10 回は、消費者行動のモデルについて説明します。第 11 回～第 15 回は、具体的な情報処理とその規定要因について説明します。第 16 回～第 18 回は、消費者とブランドとの関係について説明します。第 19 回～第 24 回は、ケースディスカッションを行いながら、消費者の情報処理とブランドマーケティングについて理解します。第 25 回～第 26 回は、修士論文作成のための準備をします。第 27 回は、授業の総括を行います。第 28 回は、授業の理解度を確認する最終試験を行い、終了後に解説とフィードバックを行います。
毎回、資料やケースを配布する予定です。
課題等に対するフィードバックについては、授業中に解説します。
授業形式は原則として対面を予定しておりますが、オンラインの回も予定しております。オンラインの場合には事前にご案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	講義の進め方や学習の方法に関する説明をします。
第 2 回	消費者行動論の概説	当科目の体系的な解説をします。
第 3 回	消費者行動とマーケティング 1	マーケティングにおける消費者行動の位置づけを説明します。
第 4 回	消費者行動とマーケティング 2	消費者行動のマーケティングへの応用を説明します。
第 5 回	消費者行動研究の歴史 1	消費者行動研究の前史について説明します。
第 6 回	消費者行動研究の歴史 2	行動科学的な消費者行動研究の展開を説明します。
第 7 回	消費者行動のモデル 1	消費者行動モデルの概要について解説します。
第 8 回	消費者行動のモデル 2	刺激－反応モデルと態度モデルについて説明します。
第 9 回	消費者情報処理モデル 1	消費者情報処理モデルについて、その概要を説明します。
第 10 回	消費者情報処理モデル 2	消費者情報処理モデルのメカニズムについて解説します。
第 11 回	情報の探索	内部探索と外部探索とこれらの規定要因についての説明をします。
第 12 回	情報の解釈	情報の解釈メカニズムについて説明します。
第 13 回	情報の評価	評価方略について説明します。
第 14 回	情報処理の規定要因 1	規定要因である動機づけについて解説します。
第 15 回	情報処理の規定要因 2	規定要因である能力について解説します。
第 16 回	消費者とブランド 1	ブランドについての概説をします。
第 17 回	消費者とブランド 2	ブランド構築とその事例について詳解します。
第 18 回	消費者とブランド 3	ブランドのアイデンティティとイメージについて説明します。
第 19 回	ケース討議 1：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第 20 回	ケース討議 1：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第 21 回	ケース討議 2：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第 22 回	ケース討議 2：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第 23 回	ケース討議 3：ディスカッション	ケースディスカッションを行います。
第 24 回	ケース討議 3：フィードバック	ケースディスカッションのフィードバックをします。
第 25 回	修士論文作成に向けて	作成に向けた詳細な指導をします。
第 26 回	論文購読	消費者行動関連の論文を購読します。
第 27 回	講義全体のまとめ	これまでの授業内容の総括をします。
第 28 回	最終試験	解説とフィードバックをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 8 時間を標準とします。
初回に配布する文献リストに基づき、第 18 回までは、事前に該当する書籍を熟読して授業に臨んで下さい。第 19 回からのケース討議と論文講読では、事前に配布する資料を熟読して、自分なりに整理をして授業でのディスカッションに備えて下さい。
Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】
適宜案内します。

【参考書】
『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘他、有斐閣アルマ、2012 年）
『消費者行動の知識』（青木幸弘、日経文庫、2010 年）
『消費者行動論』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012 年）
『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士、千倉書房、2005 年）

【成績評価の方法と基準】
ケース討議への貢献（30 %）
　ケース討議・論文講読への貢献は、発言回数とその内容で判断します。
最終試験（70 %）
　最終試験では、講義とケースに関する理解度を確認します。

Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

【学生の意見等からの気づき】
進行速度に気をつけながら進める予定です。
配布資料に工夫をしながら進める予定です。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン

【その他の重要事項】
マーケティング論、マーケティング・リサーチ論を履修しておくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/25/0002435/profile.html

【Outline (in English)】
This course is a series of lectures and discussions, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.
To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.
Major course objectives are;
-To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
-To learn consumer information processing model.
-To understand the relationship between consumer and brand.

MAN500F1 － 0082

マーケティング・リサーチ論

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、マーケティングリサーチの知識は、実務や研究において必須ともいえるだろう。

本授業では、マーケティング・リサーチをはじめて学ぶ大学院生が理解しやすいように、定性調査と定量調査の方法論を理解した上で、実際にインタビューなどの定性調査をもとに仮説を設定し、アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査をもとにその仮説を検証することを通して、マーケティング・リサーチの基礎と方法を体系的・実践的に学ぶ。

【到達目標】

到達目標としては、以下の３点に整理できる。

①インタビューなどの定性調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

②アンケート作成やさまざまなデータ分析などの定量調査のスキルを身につけ、自ら実際に分析し、その結果を考察することができる。

③複数の定量調査を用いて、仮説を検証することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

リサーチプロセスは、課題定義にはじまり、リサーチデザイン、データと収集法の決定、サンプルデザインとデータ収集、データ分析・結果の解釈、レポート作成となる。しかし、授業では、受講生が全体像や最終レポートをイメージしやすいように、順番を入れ替えて学習する。

さらに、受講生が理解しやすよう、以下の工夫も行う。まず、データ分析・結果の解釈では、定量調査を実践的に学べるように、サンプルデータをもとに、マニュアルにそって無料ソフトの「R」を使ったミニ演習を多く実施する。レポート作成では、複数の最終レポート例をもとに、その手続きも含めて詳しく説明する。大事なプロセスでは、中間報告があり、受講生の理解状況の確認が行われつつ、指導が行われる。こうした進め方をするため、はじめてリサーチを実施する方でも大丈夫である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	マーケティングリサーチとは 課題定義とリサーチデザイン	**リサーチプロセス** ・R の操作、パソコン持参のこと（次週以降も同様）
第２回	データ分析・結果の解釈①	**平均・標準偏差と無相関検定** ・定量調査のミニ演習
第３回	データ分析・結果の解釈②	**χ^2 検定と t 検定** ・定量調査のミニ演習
第４回	データ分析・結果の解釈③	**回帰分析と因子分析** ・定量調査のミニ演習
第５回	データ分析・結果の解釈④	**分散分析とコンジョイント分析** ・定量調査のミニ演習
第６回	レポート作成	**最終レポートの説明** ・レポート例を提示
第７回	課題定義、データと収集法の決定①	**課題とリサーチクエスチョン、インタビュー、仮説** ・定性調査のミニ演習
第８回	第１回中間レポートの報告	**課題とリサーチクエスチョン、インタビュー、仮説の中間報告**
第９回	データと収集法の決定②、サンプルデザインとデータ収集	**アンケートとサンプリング** ・アンケートフォームを実際に作成 ・プレリサーチ
第10回	第２回中間レポートの報告	**アンケートとサンプリングの中間報告**
第11回	第２回中間レポートの再報告	**アンケートとサンプリングの再報告** ・修正して報告
第12回	リサーチの実際	**東浦和宏氏 (P&G、ユニリーバ、ニールセン、モンデリーズ等で調査を実践) 講演** ・講演と質疑
第13回	早期最終レポートの報告	**早期最終報告** ・早期最終レポートの提出・報告
第14回	最終レポートの報告	**最終報告** ・最終レポートの提出・報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習・復習および、データ収集、最終レポートの作成を行うこと。毎週２時間程度は必要となる。

【テキスト（教科書）】

テキストとして、レジュメを授業支援システムにアップするので、パソコンあるいはタブレット、スマホで閲覧できるようにすること。

【参考書】

①山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『R によるやさしい統計学』オーム社、2008 年.

②恩藏直人・冨田健司『1 からのマーケティング分析 (第 2 版)』碩学舎、2022 年

③マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：理論編』同友館、2006 年.

④マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践：技術編』同友館、2007 年.

⑤南風原朝和『心理統計学の基礎』有斐閣、2002 年.

⑥ベルク・フィッシャー・コジネッツ『消費者理解のための定性的マーケティング・リサーチ』碩学舎、2016 年.

【成績評価の方法と基準】

・中間レポート・報告（10 点 ×2 回=20 点）、講義や演習での発言・議論参加（50 点）、最終レポートおよび報告（30 点）

・早期最終レポートの報告者には、全員加点あり（早期レポート制度）。

・評価対象は講義回数の 3 分の 2 以上の出席が最低条件である。なお、遅刻は２回で１回の欠席扱いとなる。

【学生の意見等からの気づき】

①受講生の理解に差があるため、基本編と解説編を分けて、説明を行う。

②サンプルデータを用いたミニ演習を多くし、理解をしやすくする。

③レポート例をもとにイメージしやすい課題の説明をする。さらに、確実に課題を進めらるように、リサーチ・プロセスの途中段階での中間報告を実施する。

④全体レポートの質向上をはかるために、参加学生の優秀レポート報告が提出前に確認できる、早期レポート制度を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

各自、ノートパソコンを持参すること。なお、統計ソフトは、フリー・ソフトである R を使用するので、テキストを参考に、事前にパソコンにインストールしてくること。

【その他の重要事項】

受講生には断った上で、受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することは想定される。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

マーケティング論、ユーザー・イノベーション論、デジタル・マーケティング

＜研究テーマ＞

クラウドソーシング（消費者参加型新製品開発）

＜主要研究業績＞

著書に、『1 からのデジタル・マーケティング』（編著、碩学舎）、『ネット・リテラシー：ソーシャルメディア利用の規定因』（共著、白桃書房）、『１からの商品企画』（編著、碩学舎）、『１からの消費者行動 (第 2 版)』（編著、碩学舎）、『ソロモン消費者行動論』（共訳、丸善出版）など。

論文に、「新製品開発クラウドソーシングがもたらす複合的成果」（『組織科学』54(2)）、"The Value of Marketing Crowdsourced New Products as Such: Evidence from Two Randomized Field Experiments,"（共著、 *Journal of Marketing Research*, 54(4)）など。

＜研究室サイト＞
http://nlab.ws.hosei.ac.jp/

【Outline (in English)】
Currently, knowledge of marketing research can be said to be essential in practice and research.
In this lesson, to make it easier for graduate students to learn about marketing and research for the first time, they learn fundamentals and methods of marketing research systematically and practically to actually set up hypotheses based on qualitative surveys such as interviews, and test the hypothesis based on quantitative surveys such as questionnaire preparation and various data, after understanding the methodology of the qualitative survey and quantitative survey.

The learning objectives can be summarized in the following three points.
① To be able to acquire skills in qualitative research such as interviews, and to be able to actually analyze and discuss the results.
② To acquire skills in quantitative research, including questionnaire creation and various data analysis, and to be able to analyze and discuss the results.
③ To be able to test hypotheses using multiple quantitative surveys.

Students will be required to prepare and review for class, collect data, and prepare a final report outside of class. About 2 hours are required each week.

Grading will be as follows。
· Mid-term report and report (10 points x 2 times = 20 points), comments and participation in discussions in lectures and exercises (50 points), and final report and report (30 points).
· All students who report the final report early will receive points (early report system).
· Attendance of at least two-thirds of the lectures is the minimum requirement for evaluation. Two tardies will count as one absence.

MAN500F1 － 0083

製品開発論

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハイテク産業における製品開発のケース・スタディを通じて、戦略的意思決定とビジネスモデル構築の能力を磨く。
顧客の満足を高めるために、サイエンスを製品化することが製品開発である。サイエンスそのものを追求して研究することは理工系人材の仕事であるが、戦略上の位置づけを考えること、組織の設計や運営は、社会科学系人材の役割である。ハイテク産業のマネジメントについて理解を深めることが目標である

【到達目標】
具体的な目標は次のとおりである。
①イノベーション概念の理解
②イノベーションに成功するマネジメントの考察
③ビジネスプラットフォーム構築の理解
④産業別の製品開発プロセスの理解
⑤スタートアップと大企業のアライアンス
⑥ハイテク・スタートアップの起業プロセス

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
コロナの状況を見ながらではあるが、対面が難しい場合はオンラインとなる。
ケース・スタディでは、事業ドメインの設定、研究開発や製品企画、顧客獲得、上市、事業拡大というビジネスの流れを追いながら、どのように競合と差別化して顧客ターゲットを設定し、内部の組織編成や外部との連携（サプライヤーやディストリビューター）を行ったかを明らかにする。
ハイテク産業では、技術よりもむしろ、戦略およびマーケティングが競争優位性を決定していることがケース・スタディによって確認できるだろう。
ケースは、カメラ、時計のような古典的な事例と、スマートフォン、空調機、医療機器等の今日的事例まで、時代と業界を横断して用意している。製品や業界の理解を深めるために、視覚教材を極力使用する。
事前にケースを配布するので、質問に対する自分なりの考察を用意してメモを作成しておく。講義では、詳しい事例の説明と VTR によって理解を深めてから、グループで議論を行ってまとめを発表する。さらに、全員で議論を深めてから、最後に講師が総括する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ラディカル・イノベーションと 破壊的イノベーション	Kodak(カメラ)
2	コモディティ化	セイコー (時計)
3	非コモディティ化（ブランドの構築)	カシオ (時計)
4	技術蓄積	NKK（スイッチ）
5	組織変革と事業開発	テルモ（医療機器）
6	素材産業における事業ドメインの設定	東レ (炭素繊維)
7	ビジネス・プラットフォームの構築 1	シャープ (液晶)、ソニー (撮像素子)
8	ビジネス・プラットフォームの構築 2	Apple(携帯電話）他
9	グローバル化-電子機器	ダイキン工業（空調機）
10	グローバル化-素材産業	積水化学工業（フロントガラス用中間膜）
11	製品アーキテクチャー	ASML/ニコン（半導体露光機） パナソニック（半導体デバイス）
12	オープン・イノベーションとスタートアップ	米国、スウェーデン、日本の取り組み
13	日米のハイテク・スタートアップ 1	グラモ（IOT) Bizter Mobile(セキュリティシステム）
14	日米のハイテク・スタートアップ 2	アンジェス MG（創薬） Tercica (創薬）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にケースを読み、課題を期限までに提出する。予習と復習に最大各 2 時間を要する。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
①『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
②『オープン&クローズ戦略』小川紘一, 翔泳社,2014 年
③『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年
④『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005 年

【成績評価の方法と基準】
出席率、議論への参加、毎回の小課題を 3 分の 1 ずつで評価する。

【学生の意見等からの気づき】
概念の理解の時間、グループ討議の時間、概念を使った事例の掘り下げの時間のメリハリをつける。

【学生が準備すべき機器他】
PC

【専門領域】
経営戦略、技術経営

【研究テーマ】
イノベーション・マネジメントにおける戦略と組織行動」
「ハイテク・スタートアップの起業プロセス」
「ハイテク産業集積のエコシステム」

【主要業績】
①「大学生の起業意思形成モデルの検証」田路則子・藤村まこと・玉井由樹『組織科学』56 巻 3 号, 2023 年
②「新興国スタートアップの資金調達と新興企業向けの株式市場の役割-バルト三国のケース・スタディから」簗田優・田路則子 『ベンチャーズレビュー』日本ベンチャー学会, 第 37 巻, pp.73-77,2021.
③『起業プロセスと不確実性のマネジメント』田路則子 白桃書房 2020 年
④「アーキテクチャ進化における製品開発マネジメント・半導体露光機産業の事例から」榎波龍雄・田路則子『一橋ビジネスレビュー』第 65 巻号,pp172-184,2017 年.
⑤「IT ビジネスの興隆を支える移民のシリアル・アントレプレナー」田路則子・新谷優『研究技術計画』30 巻,pp.312-325,2016 年
⑥ “Resource Acquisition in High-Tech Startup Global Strategies,” Noriko Taji, Technology, Innovation, Entrepreneurship and Competitive Strategy, Emerald Publishing Group,Vol. 14,pp.263-287,2014
⑦『ハイテク産業における研究開発者のキャリア」田路則子『日本のキャリア論ー専門職編』金井壽宏・鈴木竜太編著　白桃書房,pp.133 ～ 159,2013 年.
⑧「WEB ビジネスの起業家像ーシリコンバレーのモバイル＆ソーシャルメディア・ビジネス」田路則子『赤門マネジメントレビュー』第 10 巻 10 号, pp.753-774.2011 年
⑨『ハイテク・スタートアップの経営戦略―オープン・イノベーションの源泉』田路則子・露木恵美子, 東洋経済新報社,2010 年
⑩「半導体商社の事業ドメイン拡大のメカニズム」田路則子・甲斐敦也,『赤門マネジメント・レビュー』東京大学, 第 8 巻,5 号,pp211-231,2009 年
『アーキテクチュラル・イノベーション』田路則子, 白桃書房,2005 年

【Outline (in English)】
[Learning Objectives]Students learn how to integrate technological knowledge and manage the process of product development. Product development is to commercialize science/technology in order to increase customer satisfaction. Research & development is a task of engineering people. On the other hand, making a strategy and designing and operating organization is a task of people related to social science. This class has an objective of deep understanding management in high-tech industries.
[Learning activities outside of classroom] Beforehand, students have to read business cases and make memos as assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.
[Grading Criteria/policy] Attendance (1/3), assignment (1/3), discussion (1/3)

MAN500F1 － 0087

流通システム論

木島　豊希

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、小売業を中心とした流通・商業の歴史的な動態と学術研究のテーマについて理解します。
流通・商業に関する文献（指定する教科書と学術論文）を用いて、受講生の報告形式で実施します。
受講生は、事前に決定した文献の内容をパワーポイントに整理して報告し、ディスカッションを通じて学びます。
加えて、授業を通して学んだことを活用した課題を発表する機会（課題発表会）を設け、理論を応用できる力を身につけます。

【到達目標】
小売業を中心とした流通・商業の歴史的な動態を説明できるようになる。
流通・商業に関する学術論文のテーマを読み解くできるようになる。
流通・商業に関する理論を応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は木曜日の 6・7 限に 2 限続きで 14 週（28 回）実施します。
第 1 回は、授業の概要等を説明するとともに、次週以降の報告担当者を決めますので必ず出席してください。
第 3 回以降は、主に受講生に報告していただきます（第 3-14 回は教科書を、第 15-26 回は学術論文の内容を報告していただく予定です）。
最終の第 27-28 回には課題の発表会を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。報告担当を決定する。
第 2 回	［教科書］序章：「だれもが商人になる」商業社会の到来	流通・商業の概要を学ぶ。
第 3 回	［教科書］第 1 章：コマースの３つの分水嶺―商業近代化の西欧モデル	商業倫理の確立、流通革命、既存流通の創造的破壊の 3 つの分水嶺を学ぶ。
第 4 回	［教科書］第 2 章：日本商業倫理思想の源流	商業倫理を学ぶ。
第 5 回	［教科書］第 3 章：流通革命への挑戦と挫折―中内功と渥美俊一の「同行二人」	流通革命を学ぶ。
第 6 回	［教科書］第 4 章：小売事業モデルの革新論―分析枠組みの提示	小売事業モデルを学ぶ。
第 7 回	［教科書］第 5 章：スーパーマーケットの業務システム革新―関西スーパー、サミット、ヨークベニマル	スーパーマーケットの事業モデルを学ぶ。
第 8 回	［教科書］第 6 章：コンビニエンスストアの創造的な連続適応―セブン- イレブン・ジャパン	コンビニエンスストアの事業モデルを学ぶ。
第 9 回	［教科書］第 7 章：製造小売業モデルの経営革新―ファーストリテイリング	製造小売業の事業モデルを学ぶ。
第 10 回	［教科書］第 8 章：流通革命期の総括―小売事業モデルの比較分析	小売事業の経営革新を学ぶ。
第 11 回	［教科書］第 9 章：流通のデジタルディスラプション―プラットフォーマーの出現	デジタル・プラットフォーマーによる既存流通の創造的破壊を学ぶ。
第 12 回	［教科書］第 10 章：小売事業モデルの融合と包摂	オムニチャネル小売業を学ぶ。
第 13 回	［教科書］第 11 章：経験価値の共創パラダイム	消費者の経験価値を学ぶ。
第 14 回	［教科書］終章：商業倫理と情報倫理の一体化	デジタル社会における商業を学ぶ。今後の課題発表会の説明
第 15 回	［論文］流通システム研究	流通システム一般に関する論文のテーマを学ぶ。
第 16 回	［論文］流通システム研究	流通システム一般に関する論文のテーマを学ぶ。
第 17 回	［論文］小売業研究	小売業に関する論文のテーマを学ぶ。
第 18 回	［論文］小売業研究	小売業に関する論文のテーマを学ぶ。
第 19 回	［論文］卸売業研究	卸売業に関する論文のテーマを学ぶ。
第 20 回	［論文］流通チャネル戦略研究	流通チャネル戦略に関する論文のテーマを学ぶ。
第 21 回	［論文］PB 戦略研究	PB 戦略に関する論文のテーマを学ぶ。
第 22 回	［論文］EC 研究	EC に関する論文のテーマを学ぶ。
第 23 回	［論文］流通政策研究	流通政策に関する論文のテーマを学ぶ。
第 24 回	［論文］流通の社会問題研究	流通の社会問題に関する論文のテーマを学ぶ。
第 25 回	［論文］SCM 研究	SCM に関する論文のテーマを学ぶ。
第 26 回	［論文］SCM 研究	SCM に関する論文のテーマを学ぶ。
第 27 回	課題発表会	授業を通して学んだことを活用した課題を発表する。
第 28 回	課題発表会	授業を通して学んだことを活用した課題を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習として、報告担当者は報告用のパワーポイント資料を作成し、報告担当者以外は教科書等を読んで当日のディスカッションに備えてください。
授業後は、文献とパワーポイント資料をもとに復習してください。

【テキスト（教科書）】
教科書：矢作敏行 (2021)『コマースの興亡史 商業倫理・流通革命・デジタル破壊』日本経済新聞出版。
学術論文は授業で指示します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
担当する報告内容： 40 %
ディスカッションへの参加度： 30 %
課題発表会の内容： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/kijima-toyoki

【Outline (in English)】
In this class, students will understand the historical dynamics of distribution and commerce centered on the retail industry and the themes of academic research.
The goals of this course are to explain the historical dynamics of distribution and commerce centered on the retail industry.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
report content: 40%、discussion participation: 30%、Contents of the assignment presentation: 30%

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

髙橋　美穂子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。さらに、各自が選択したテーマに関連する学術論文のレビューを行い、その上で具体的な研究課題を設定し、それを明らかにするための方法を学びます。これにより、修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択したテーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	修士論文作成のためのガイダンス①	学術論文の構成、参考文献の検索方法、さらに、それぞれの領域で検索の対象となりうる学術雑誌の紹介を行う。
2 回目	修士論文作成のためのガイダンス②	各自が選択したテーマに関連した最新の研究成果を検索して見つける。
3 回目	研究テーマの選択①	修士論文としての研究テーマの妥当性、また何を明らかにしたいのかという点を学生の報告に基づき検討する。
4 回目	研究テーマの選択②	研究テーマの検討を続ける。比較的短期間で書き上げなければいけない修士論文の性質上、テーマを具体的に絞る。さらに、データの入手可能性を検討する。
5 回目	先行研究のレビュー①	選択したテーマに関連した先行研究のレビューを行い報告する。
6 回目	先行研究のレビュー②	引き続き先行研究のレビューを行う。また、その結果として、何がどこまで明らかにされているのか、また各論文の研究手法などについても議論し、検討する。
7 回目	問題意識の具体化①	先行研究のレビューを通して、どのような問題がなお解明されていないのか、またどのようなアプローチを取ることで、それらの問題が解決される可能性があるのかを議論する。
8 回目	問題意識の具体化②	解明すべき問題と、解明するための方法を引き続き検討する。
9 回目	仮説の設定①	選択されたテーマについての文献レビューを通じて、検証すべき仮説の設定を行う。
10 回目	仮説の設定②	設定すべき仮説についての検討を続ける。
11 回目	研究方法論について①	各種の研究方法について全般的な説明を行う。
12 回目	研究方法論について②	各自の問題意識に適切な研究方法論について議論・検討する。
13 回目	データの入手方法、整理、また質問票などの作成	研究テーマに応じて、データの入手方法を検討する。質問票調査を行う場合、仮説に応じた質問項目の設定を行う。またケース研究を行う場合、リサーチ・クエスチョンの設定を行うとともに、リサーチサイトの決定を行なう。
14 回目	中間報告	中間報告を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に臨むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。
1～2 回目　各自の問題意識に基づいて、参考となりそうな学術論文を可能な限り読んでおく。
3～4 回目　自分の実務経験、またこれまでの学習に基づいて具体的な研究テーマを考えておく。その際、何をどこまで明らかにしたいかを明確に説明できるようにする。
5～6 回目　各人の研究テーマに応じて、紹介した学術論文などを参考に先行研究のレビューを行う。
7 ～ 8 回目　先行研究のレビューに基づいて、これまでの研究で明らかにされた点と残された課題を明確にする。
9～10 回目　先行研究のレビューに基づいて、これまでの研究で明らかにされた点、また各自の修士論文では何をどこまで明らかにすることが目的なのかを明確にする。
11 ～ 12 回目　これまでの文献で使用されていた研究方法について検討する。
13 回目　必要なデータを収集するための情報源を検討する。
14 回目　先行研究のレビューに基づいて仮説の設定を行い、レジュメを用いて報告する。仮説はこれまでの研究をふまえた上で論理的に構築すること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の問題意識に基づき基本的な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
議論への貢献度（40 %）および報告内容（60 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－、同文舘出版,『会計・監査研究の展開』、第 3 章所収、p57-71、2021 年 1 月

【Outline (in English)】
（Course outline）
This seminar is designed to help students complete their master thesis. Students are required to set a research question based on not only what they think is important following their working experience, but also on an academic perspective which they have studied in the MBA course. By reviewing previous studies and discussions with the instructor, students will clarify the purpose of their study and methodology that they will adopt in their thesis. In the final class of this course, students are required to report the progress of their thesis.
（Learning Objectives）

By the end of the course, students are expected to do the following:
-Clarify the research question
-Acquire common academic knowledge and research methodologies related to the topic
-Write a master thesis
（Learning activities outside of classroom）
Students study and review time are more than 2 hours for each class.
（Grading Criteria）
Grading will be decided based on in-class discussion (40%) and presentation/reporting (60%).

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

髙橋　美穂子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アカウンティング・ファイナンスコース演習では、これまで当コースで学習してきた内容および関連する他コースの授業での学習内容を基礎とし、各自の実務経験に基づく問題意識に沿って修士論文のテーマを設定してもらいます。さらに、各自が選択したテーマに関連した学術論文のレビューを行い、その上で具体的な研究課題を設定し、それを明らかにするための方法を学びます。これにより、修士論文にふさわしい内容の論文を作成することを目的とします。

【到達目標】
修士論文の作成者の問題意識を明確にします。関連した学術論文を読みこみ，理解することで、テーマに関連した基本的な学術成果および研究方法論を身につけます。それによって、学術的に修士論文に相応しい論文を仕上げることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
論文作成の方法、選択したテーマの研究領域における位置づけ、仮説の設定方法、分析手法、結果の解釈などについて説明を行うとともに、毎回学生の報告に基づいて議論を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	中間報告の follow-up	春学期に行った中間報告で教員または他の大学院生より指摘された点についてその結果を報告し、議論する。
2 回目	データの分析方法①	仮説の検定方法について説明する。
3 回目	データの分析方法②	引き続き、仮説の検定方法について説明する。
4 回目	データの分析①	各自が収集したデータを使い、その分析結果の検討を行なう。
5 回目	データの分析②	前回に引き続き、データの分析結果を議論する。
6 回目	データ分析の結果の解釈①	分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈を行なう。
7 回目	データ分析の結果の解釈②	前回に続き、分析の妥当性およびそこから得られた結果の解釈について議論する。
8 回目	修士論文のドラフトの作成①	提出されたドラフトに基づいて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
9 回目	修士論文のドラフトの作成②	引き続き、ドラフトについて、論文の構成や議論の展開などを中心に検討を行なう。
10 回目	修士論文のドラフトの修正①	前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
11 回目	修士論文のドラフトの修正②	引き続き、前回までのコメントに基づいて修士論文のドラフトの修正を行なう。
12 回目	修士論文の報告および議論①	修士論文の内容を報告してもらい、全体の構成を踏まえて議論を行う。
13 回目	修士論文の報告および議論②	引き続き、修士論文の内容について議論を行う。
14 回目	論文の修正および完成原稿の作成①	提出予定の論文について最終的な議論を行い、それに基づいて論文を修正する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文は各自の問題意識に基づいて作成していくものです。演習に臨むにあたって各回以下の準備を充分に行ってください。
1 回目　春学期に行った中間報告で要請された作業を行う。
2 ～ 3 回目　各自の研究に適当と思われる分析方法を検討・学習する。
4～5 回目　各自が得たデータに対して学習した分析方法を適用して分析を行なう。
6～7 回目　分析結果について解釈を行なう。
8～9 回目　修士論文の章立てを構成し、ドラフトを作成する。
10～11 回目　教員からのコメントに基づいてより詳しいドラフトを作成する。
12～13 回目　教員からのコメントに基づいて修士論文を加筆・修正する。
14～15 回目　教員からのコメントに基づいて修士論文の最終版を作成する。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。各自の研究テーマに沿って適切な文献を紹介します。

【参考書】
各自の研究テーマに合わせ、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
議論への貢献度（40 %）および報告内容（60 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本講義は演習課目であるため授業改善アンケートは実施していません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経営分析、企業価値評価
＜研究テーマ＞資産価格理論における会計情報の有用性の検討
＜主要研究業績＞
会計における割引計算－割引率と対応する将来キャッシュ・フローの検討－、同文舘出版,『会計・監査研究の展開』、第 3 章所収、p57-71、2021 年 1 月

【Outline (in English)】
大学院演習（秋学期）
（Course outline）
This seminar is designed to help students complete their master thesis. Students are required to set a research question based on not only what they think is important following their working experience, but also on an academic perspective which they have studied in the MBA course. By reviewing previous studies and discussions with the instructor, students will clarify the purpose of their study and methodology that they will adopt in their thesis. In the final class of this course, students are required to submit a final version of their master's thesis.
（Learning Objectives）
By the end of the course, students are expected to do the following:
-Clarify the research question
-Acquire common academic knowledge and research methodologies related to the topic
-Complete a master thesis
（Learning activities outside of classroom）
Students study and review time are more than 2 hours for each class.
（Grading Criteria）
Grading will be decided based on in-class discussion (40%) and presentation/reporting (60%).

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN600F1 － 0091

アカウンティング･ファイナンス演習

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN500F1 － 0093

管理会計論

福田　淳児

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
管理会計に関わる基本的な諸概念また理論を学習し、授業参加者の企業をはじめとする組織で採用されている管理会計実務について批判的に検討する力を獲得することを目的とする。さらに、近年新たに登場してきた管理会計の研究トピックについても、その登場の背景にある要因を理解するとともに、それらの議論における主張及び特徴を理解することを目的とする。

【到達目標】
管理会計の基本的な概念や用語について簡潔に説明ができる。管理会計研究の領域における新しい研究テーマについて理解する。また、自らが所属する企業をはじめとする組織の管理会計実務のあり方について理論的に評価・検討を行い、その問題点について指摘ができる。さらには、自社の管理会計システムについて必要に応じて改善案を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP0」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は対面で実施します。授業では、毎回，教員が各テーマに関連した基礎的な理論および研究について紹介を行います。その後、配布資料に基づいた報告を担当の学生に行ってもらいます。各テーマについての理論的な説明、また学生が行った報告に基づいて関連した質疑応答を行うことで毎回のテーマへの理解を深めます。議論のさいには、自社の状況とあわせて議論を行うことを意識してもらえばより実践的な議論になると思います。さらに、毎回、講義の終了時点で、短いケースを配布しますので、その回に学習した内容に基づいて、ケースを考えてくることを毎回の課題とします。このケースについての意見を次回の講義のはじめにそれぞれ発表してもらい，議論を行うことで、前回のテーマについての理解をより一層深めてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	会計学の二つの領域である管理会計と財務会計の相違点について説明する。また，企業における会計情報の利用のされ方について考える。
2	原価計算の基礎的知識の確認	原価計算の一連の計算手続きについて例題を交えながら確認する。さらに，管理会計の基本的な概念のいくつかについても説明する。
3	意思決定目的のための管理会計	意思決定目的での管理会計，特に設備投資における経済性計算の問題を取り上げる。
4	予算管理システム	予算管理に関するいくつかの論点を取り上げ検討する。さらに，授業参加者の所属する組織における予算管理実務について紹介してもらい，議論を行う。
5	製造間接費の配賦問題と Activity-Based Costing	伝統的な間接費の配賦方法の問題点を明らかにする。さらに、ABC の概念を理解する。
6	原価管理（原価維持・原価改善・原価企画）	原価管理の問題を取り扱う。主に、標準原価計算による原価管理、原価改善活動および原価企画活動の関連性およびその発展について、事例を交えながら考察を行う。
7	財務的な業績評価指標	伝統的な財務的な業績評価指標に対する批判および EVA など比較的近年提示された財務的な業績評価指標についてそのメリット、デメリットを検討する。
8	バランス・スコアカードの理論およびその実践	BSC の概念を中心に、非財務的な指標および財務的な指標との関係性について、これまでの研究の成果を交え検討する。
9	組織構造と管理会計	事業部制、カンパニー制および持株会社制における管理会計上の問題を特に分権化の程度との関係で議論する。
10	報酬システムの設計	報酬システムの設計とそれが企業の構成員の行動に与える影響を理論また実証の両面から議論する。
11	戦略的な管理会計	戦略的な管理会計の意義を明らかにするとともに実務での適用事例を取り上げつつ議論を行なう。
12	中小企業の管理会計	企業の規模に応じてそこで利用される管理会計実務に違いが見られるのか，見られるとすればどのような違いかについて議論する。
13	創造性と管理会計	管理会計システムが企業のメンバーまたそのグループの創造性に与える影響について考察する。
14	まとめとわが国における管理会計実務	授業の内容を振り返るとともに，我が国における管理会計実務の発展を近年行なわれたケース研究また郵送質問票調査に基づいて明らかにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の予習および復習のための時間は各 2 時間を標準とします。各回について以下のことを予習として考えてみてください。
1 回目　管理会計と財務会計の相違点について管理会計の大学レベルの基本的な文献を読み理解しておくこと。また、自社または実際の企業において、管理会計情報が果たしている役割を考えておくこと。
2 回目　原価計算の一連の手続きおよび用語について、大学レベルの教科書を復習しておくこと。
3 回目　意思決定に必要な原価概念を整理しておくこと。また設備投資の経済性計算の方法についても復習しておくこと。自社における設備投資案の評価において、どのような方法が利用されているのかも調べておくこと。
4 回目　配布資料に基づいて予算管理システムの組織内での役割について考察するとともに、自社の予算管理システムの運用について調べておくこと。
5 回目　配布資料に基づき、伝統的な間接費の配賦の背後にある考え方を明確にしておくこと。さらに、ABC の特徴を整理し、伝統的な間接費の配賦方法との相違点をまとめておくこと。
6 回目　原価管理の様々な技法の特徴を明らかにするとともにそれらの技法間の関連性を配布資料に基づいて考えておくこと。その上で、自社の原価管理の事例をまとめておくこと。
7 回目　配布資料に基づいて，EVA などの財務的な業績評価指標が事業単位の責任者の行動にもたらす影響を整理しておくこと。
8 回目　財務的な指標と非財務的な指標との間の関係を配布するケースに基づいて明確にすること。また、ケースに基づいて，自社の状況を考えておくこと。
9 回目　分権的な組織と集権的な組織の特徴の比較および事業部制組織、カンパニー制組織さらに持株会社制度における管理会計上の問題を明確にしておくこと。
10 回目 報酬システムの設計が組織における人間行動に及ぼす影響を考察すること。特に授業の参加者が所属する組織の報酬システムのありかたについて考察すること。

11 回目　配布資料に基づいて戦略的な管理会計と伝統的な管理会計との相違点をまとめておくこと。
12 回目 中小企業における管理会計実務について配布資料に基づいて考察を行うこと。特に，大企業との相違点を明確にすること。
13 回目 管理会計システムを中心とするマネジメント・コントロール・システムが創造性に及ぼすまたは及ぼすと考えられる影響を自社の事例に基づいて考察すること。
14 回目 自社の管理会計実務について本授業で取り上げた議論に基づいてレポートの形でまとめること。その際、理論との乖離が起きている場合、その理由を考えてみること。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。毎回必要な文献や資料を紹介します。

【参考書】
管理会計の入門書としては以下のものがあります。事前に読んでおくと良いと思います。
櫻井通晴『管理会計第 5 版』中央経済社
谷武幸『エッセンシャル管理会計第 2 版』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
講義での担当報告箇所の報告内容に基づく評価 30 点、講義中の議論への参加の状況 20 点、最終レポートの内容 50 点で評価を行います。講義中の議論への参加については回答の正しさよりも積極的に議論に参加する姿勢を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
他の企業の事例などをもっと知りたいという要望がありました。ディスカッションを通じて、お互いの企業の管理会計実務を学ぶとともに、様々な企業のケースを取り上げることで、できる限りこのような要望に応えるようにしたいと考えています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞管理会計論
＜研究テーマ＞マネジメント・コントロール・システムと組織学習
＜主要研究業績＞
①「スタートアップ企業における MCS の採用とその精緻化」『メルコ管理会計研究』第 11 号−Ⅱ，pp.3-23, 2019.
②「ambidextrous 組織におけるマネジメント・コントロールの設計について」『経営志林』第 55 巻第 4 号, pp.19-43, 2019.
③ Organizational Learning via Strategy Formulation and the Role of MCS in That
Process: The Case of Kikkoman Corporation. "Japanese Management and
International Studies, Management of Innovation Strategy in Japanese Companies", Vol.13. pp.159-175, 2016.

【Outline (in English)】
(Outline and objectives)The purpose of this class is to provide students with the basic concepts and theories of management accounting. It also include the development of students' abilities to examine critically their company' practices of management accounting. The other purpose of this class is to deal with emerging topics of management accounting with an aim to promote students' understandings on the environmental and theoretical backgrounds for the emergence and to equip students with knowledge of their characteristics.
(Learning activities outside of classroom)
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. You may think about the theme of each class in advance, taking into account your own company's situation.
(Grading criteria)
The evaluation will be based on the content of student's report of the paper for which the student is assigned (30 points), participation in the discussion during the lecture (20 points), and the content of the final report (50 points).

MAN500F1 － 0094

財務会計論

倉田　幸路

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
会計報告書を理解する上で重要な財務会計に関する基本的考え方が理解できるようになります。単に、現在の制度の会計規定を理解するだけでなく、どのように変わってきたのか、今はどのような規定かを理解できるようになります。

【到達目標】
現在の財務会計のルールはどのようになっているか、また現在の財務会計の規定はどのように変遷してきたかを理解することにより、将来どのように変わっていくかといことを理解できるようになります。また、国際会計基準やアメリカ基準との相違も理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は Zoom を用いて、オンラインで行います。授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、レジュメ、課題（コメントカード）等は、学修支援システム（Hoppii）を通して行います。授業は講義形式で行います。２コマ連続の講義ですので、各週ごとに（合計 14 回）コメントカードを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	Ⅰ財務会計の基礎 Ⅱ財務会計の理論１ 理論とは？	財務会計の定義、会計の種類、会計における測定と報告、企業を取り巻く利害関係者との関係、財務会計の機能、財務会計の精度性と公共性について講義します。 理論の方法論的基礎、実証的命題と規範的命題およびアメリカにおける会計理論の発展について講義します。
第２回	Ⅱ財務会計の理論２ Ⅱ財務会計の理論３	ドイツにおいて展開された静態論、動態論、新静態論の理論的展開の意義について講義します。 アメリカにおいて議論が進んだ、資産・負債アプローチと収益・費用アプローチについて講義します。
第３回	Ⅲ概念フレームワーク１ Ⅲ概念フレームワーク２	日本の概念フレームワークについて講義します。 IASB と FASB の共同作業による概念フレームワークの第 1 章「財務報告の目的」と第 2 章「有用な財務情報の質的特性」を講義します。
第４回	Ⅲ概念フレームワーク３ Ⅳ日本の会計制度１	IASB の概念フレームワークの第 3 章「財務諸表と報告企業」から第 8 章「資本維持」まで講義します。 日本の会計制度の特質、会社法における会計の特質、特に、株式会社における純資産の部の変革について講義します。
第５回	Ⅳ日本の会計制度２ Ⅳ日本の会計制度３	金融商品取引法における会計規制の特徴および税務会計における確定決算基準について講義します。 日本の会計基準審議会（会計基準委員会）による会計基準設定の問題、および各会計規定との関係について講義します。
第６回	Ⅴ収益費用１ Ⅴ収益費用２	収益費用の定義および費用の認識基準としての発生主義、収益の認識基準としての実現主義（リスクからの解放）について講義します。 収益認識基準の具体的形態、特に工事進行基準について講義します。
第７回	Ⅴ収益費用３ Ⅴ収益費用４	包括利益と純利益の定義および両者の関係について講義します。特に、リサイクリング（組替調整）の問題について講義します。 新たな収益認識基準について、具体的な収益認識のステップ、変動対価や契約資産、契約負債など新たに導入された概念について講義します。
第８回	Ⅵ資産の概念と測定１ Ⅵ資産の概念と測定２	資産の概念と測定および金融商品の時価評価について講義します。特に、金融商品の時価評価の経緯と内容、金融商品の時価評価の問題点について講義します。 棚卸資産の概念と測定および強制された低価評価の内容について講義します。
第９回	Ⅵ資産の概念と測定３ Ⅵ資産の概念と測定４	固定資産の減損について、減損の兆候、減損の認識と測定、減損損失の戻入れ、日本基準、アメリカ基準、国際会計基準との比較について講義します。 リース会計とは何か、日本基準におけるファイナンスリースとオペレーティングリースの区別、ファイナンスリースにおける借り手と貸し手の処理、新たな、IASB におけるリース会計について講義します。
第10回	Ⅵ資産の概念と測定５ Ⅵ資産の概念と測定６	日本における無形資産の会計処理、無形資産とのれんの定義、企業結合会計について講義します。 現在計上が認められている、5 つの繰延資産について講義します。
第11回	Ⅵ資産の概念と測定７ Ⅵ資産の概念と測定８	研究開発費に関する会計基準における研究と開発の範囲とそれぞれの会計処理およびソフトウェアの会計処理について講義します。 外貨換算会計基準について、外貨換算の方法、在外支店の会計処理、在外子会社の会計処理および国際会計基準との比較について講義します。
第12回	Ⅵ資産の概念と測定９ Ⅶ負債の概念と測定１	税効果会計の導入の経緯、税効果会計の具体的考え方、資産負債法による一時差異の認識、繰延税金資産と繰延税金負債の認識および具体的計算例について講義します。 負債の概念と測定、特に、引当金の目的および引当金の種類、債務性のない引当金の問題について講義します。

第 13 回	Ⅶ負債の概念と測定２ Ⅶ負債の概念と測定３	退職給付に係る会計基準について、基本的考え方、確定給付年金制度における退職給付債務の概念、退職給付制度の会計処理、米国基準および国際会計基準との比較について講義します。 資産除去債務について、基本的考え方、資産除去債務の会計処理、具体的計算例について講義します。
第 14 回	Ⅷ純資産の表示１ Ⅷ純資産の表示２	会計理論上の資本の分類と会社法における純資産の区分、株式会社の資本金、増資・減資の会計処理、自己株式、評価換算差額等、新株予約権について講義します。 株主資本等変動計算書の目的、区分、内容について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
桜井久勝著『財務会計講義』中央経済社

【成績評価の方法と基準】
各回のコメントカード（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ、国際的動向も含めて講義していきます。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom を用いて講義しますので、パソコン等が必要になります。学習支援システム（Hoppii）を利用して、授業のお知らせ（Zoom のアドレス）、レジュメ、課題をアップし、提出してもらいます。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
会計学、財務会計、国際会計
＜研究テーマ＞
財務諸表の表示、会計基準の国際的調和化
＜主要研究業績＞
・「純資産の部の会計と法務」成道秀雄編『純資産の部の総合的検討』日本税務研究センター、2019 年 7 月。
・「EU における会計制度改革」、「ドイツにおける会計制度改革」河崎照行編『会計制度のパラダイムシフト』中央経済社、2019 年 3 月。
倉田幸路編著『財務会計の現状と展望』白桃書房、2014 年 7 月。

【Outline (in English)】
(Course outline)
The understanding of what the current financial accounting rules are and how the current financial accounting rules have changed over the years will allow you to be able to understand how they will change in the future . In addition, you will be able to understand the differences between the International Financial Reporting Standards and US GAAP.
(Learning Objectives)
The goals of this course are to A,B and C.
(Learning activities outside of classroom)
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria/Policies)
Final grade will be calculated according to the following process. Each time comment card 50%, Term-end report 50%.

MAN500F1 － 0095

税務会計論

金子　友裕

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法人税法における課税所得計算は，確定決算主義により企業会計の利益計算に基づくことから税務会計と呼ぶことがある。税務会計論では，法人税法における課税所得計算の基礎となる租税法の考え方を確認した上で，法人税法における課税所得計算の各項目を学習し，税務会計の理論的内容の理解及び実践的技術の習得を目的とする。

【到達目標】
法人税申告書の別表四の作成を通じた課税所得計算を行うことができ、この課税所得計算の基礎となる法人税法の体系的な理解ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業形態としては、基本的に演習によるものとし、授業内での学生の発表に対し、議論を行うものとする。
なお、テキストのうち『法人税法入門講義』は大学生向けの概要のみ示しているものであるが、これを基礎として各自で制度の概要、学説、判例等を調べて発表するものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学生の現時点での理解度や授業の進め方の確認
第 2 回	税務会計とは何かに関する検討	租税法と会計学にまたがる税務会計という分野に関する特徴等の検討
第 3 回	税務会計と租税原則等	租税原則等に関する検討
第 4 回	税務会計と租税法律主義	租税法律主義に関する検討
第 5 回	税務会計と租税公平主義	租税公平主義に関する検討
第 6 回	法人税法の概要	法人税法の概要の確認
第 7 回	法人税法における課税所得計算の概要	法人税法における課税所得計算の概要の確認
第 8 回	法人税額の計算の概要	法人税額の計算の概要の確認
第 9 回	益金の額と損金の額	法人税法における益金の額と損金の額の概要の確認と概念の検討
第 10 回	交際費等	交際費等の概要の確認と検討
第 11 回	寄附金	寄附金の概要の確認と検討
第 12 回	同族会社に対する課税	同族会社に対する課税の概要の確認と検討
第 13 回	役員給与	役員給与の概要の確認と検討
第 14 回	租税公課	租税公課の概要の確認と検討
第 15 回	受取配当等	受取配当等の概要の確認と検討
第 16 回	有価証券	有価証券の概要の確認と検討
第 17 回	棚卸資産	棚卸資産の概要の確認と検討
第 18 回	減価償却資産	減価償却資産の概要の確認と検討
第 19 回	圧縮記帳	圧縮記帳の概要の確認と検討
第 20 回	繰延資産	繰延資産の概要の確認と検討
第 21 回	貸倒損失	貸倒損失の概要の確認と検討
第 22 回	貸倒引当金（廃止された引当金の議論を含む）	貸倒引当金の概要の確認と法人税法における引当金に関する検討
第 23 回	繰越欠損金	繰越欠損金の概要の確認と検討
第 24 回	法人税法における課税所得計算の実践	別表四の作成
第 25 回	組織再編税制	組織再編税制の概要の確認と検討
第 26 回	グループ法人税制	グループ法人税制の概要の確認と検討
第 27 回	国際課税	国際課税の概要の確認と検討
第 28 回	税務会計論のまとめ	税務会計論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金子友裕『法人税法入門講義』中央経済社（最新版）
金子宏『租税法』弘文堂（最新版）

【参考書】
金子宏他『ケースブック租税法』弘文堂（最新版）

【成績評価の方法と基準】
報告・質問などの授業中の発表・発言（50 %），レポート等の提出物（50 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞租税法、会計学
＜研究テーマ＞課税所得計算、利益概念と測定
＜主要研究業績＞ reserchmap 等を参照。

【Outline (in English)】
The calculation of taxable income under corporate tax law is sometimes called tax accounting because it is based on profit calculation of business accounting on the basis of the principle of final accounts. The purpose is to learn each item of taxable income calculation in corporate tax law through application of tax accounting basics and tax accounting theory, and acquire a theoretical understanding as well as practical skills in tax accounting by practicing basic tax return preparation.

MAN500F1 － 0096

会計情報論

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、会計データモデル論と事業報告言語である XBRL について学ぶ。

会計データモデルは、Sorter の事象アプローチをきっかけとして、主としてデータベース理論の一領域であるデータモデル論の展開とともに進展してきた。具体的には、階層モデル、網モデル、関係モデル、実体関連モデル、オブジェクト指向モデルなどのモデルが提唱されてきたが、これらの集大成である REA 会計モデルについて学習する。

また今日において、日本の金融庁による EDINET などの電子開示システムを通じて、財務会計情報が自由に入手できるようになり、会計情報の高度な利用が可能となっているが、ここに至るまでの技術的な展開を踏まえながら、財務会計情報を記述するために開発されたコンピュータ言語である XBRL の基本について学習する。

【到達目標】
会計データモデル論については、REA 会計モデルが開発されるに至るまでの展開を概観し、会計データモデルの意義と、その背後にあるデータベース理論の基礎を理解することを目標としている。

また XBRL については、電子開示システムの仕組みと、財務情報を記述する際に用いられる拡張可能な事業報告言語 XBRL の基礎概念である仕様、タクソノミ、インスタンス文書を理解し、実際の XBRL データを扱うための基礎知識を理解することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会計データモデル論へのイントロダクション	テキスト前半部分の会計データモデル論についての全体像と講義の進め方を解説する。
第 2 回	事象理論の形成	テキスト第 1 章「序論」および第 2 章「事象理論の形成」について学ぶ。
第 3 回	事象理論研究の展開	テキスト第 3 章「事象理論研究の展開」について学ぶ。
第 4 回	データモデリングの基本と ANSI/X3/SPARC の 3 層スキーマ	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」のデータモデルの基本について学ぶ。
第 5 回	階層モデルおよび網モデルによる会計データモデル論の展開	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の階層モデルおよび網モデルについて学ぶ。
第 6 回	関係モデルにおけるデータベースの構造	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの構造）について学ぶ。
第 7 回	関係モデルにおけるデータベースの一貫性	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データベースの一貫性）について学ぶ。
第 8 回	関係モデルにおけるデータ操作言語	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」の関係モデル（データ操作言語）について学ぶ。
第 9 回	オブジェクト指向モデルによる会計データモデルの展開	テキスト第 4 章「会計データモデル論の展開」のオブジェクト指向モデルについて学ぶ。
第 10 回	REA 会計モデル①－概念モデル研究の展開	テキスト第 5 章「REA 会計モデル」の概念モデル研究の展開について学ぶ。
第 11 回	REA 会計モデル②－REA 会計モデルの開発	テキスト第 5 章「REA 会計モデル」の REA 会計モデルの開発について学ぶ。
第 12 回	会計事象の体系化とオントロジー	テキスト第 6 章「会計事象の体系化とオントロジー」のオントロジーの基礎について学ぶ。
第 13 回	REA 会計モデルのオントロジー分析	テキスト第 6 章「会計事象の体系化とオントロジー」の REA 会計モデルのオントロジー分析について学ぶ。
第 14 回	会計データモデル論のまとめ	講義前半の会計データモデル論に関するまとめをおこなう。
第 15 回	電子開示システム論へのイントロダクション	会計データモデル論から電子開示システム論へのつながりと、電子開示システム論の全体像について説明する。
第 16 回	電子開示システムの始動と事象アプローチ	テキスト第 7 章「電子開示システムと事象アプローチ」について学ぶ。
第 17 回	EDGAR システムと EDINET システムの概要	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」の EDGAR システムと EDINET システムについて学ぶ。
第 18 回	事業報告言語 XBRL と 3 つの基礎概念	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」の XBRL の基礎概念について学ぶ。
第 19 回	XBRL タクソノミの基礎	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」のタクソノミの基礎について学ぶ。
第 20 回	EDINET タクソノミの構造	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」のタクソノミの構造について学ぶ。
第 21 回	XBRL インスタンスの基礎	テキスト第 8 章「電子開示システムにおける財務諸表データの記述」の XBRL インスタンスの基礎について学ぶ。
第 22 回	EDINET の XBRL インスタンス	別途プリント教材で、現在の EDINET システムにおける XBRL インスタンスについて学ぶ。
第 23 回	ディメンションの基本	テキスト第 9 章「ディメンションを用いた未集約情報の記述」のディメンションの基本構造について学ぶ。
第 24 回	ディメンションによる未集約情報の記述	テキスト第 9 章「ディメンションを用いた未集約情報の記述」のディメンションを用いた未集約情報の記述について学ぶ。
第 25 回	XBRL GL の基礎	テキスト第 10 章「XBRL GL による会計事象の記述」の XBRL GL の基礎について学ぶ。
第 26 回	XBRL GL データと財務報告との連携	テキスト第 10 章「XBRL GL による会計事象の記述」の XBRL GL データと財務報告との連携について学ぶ。
第 27 回	事象会計報告システムの実現可能性	テキスト第 10 章「XBRL GL による会計事象の記述」の SRCD による事象会計報告システムの実現について学ぶ。

第 28 回　本講義のまとめ　　会計データモデル論を含めた講義全体のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテキストを読んで、あらかじめ分からない点などを把握したうえで授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
坂上学（2016）『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』中央経済社。

【参考書】
増永良文（2003）『リレーショナルデータベース入門－データモデル・SQL・管理システム〔新訂版〕』サイエンス社。
坂上学（2011）『新版 会計人のための XBRL 入門』同文舘。

【成績評価の方法と基準】
授業へのコミットメント（質疑応答等）を総合的に判断して成績評価する。

【学生の意見等からの気づき】
テクニカルな用語がたくさん出てくるので、理解するのが大変かもしれないが、頑張ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特にはなし。

【その他の重要事項】
「IT パスポート」程度のコンピュータ全般に関する知識は、本授業の理解を大いに助けることになると思われるので、余裕があれば合わせて「基本情報技術者試験」「応用情報処理技術者試験」といった資格の取得も目指して欲しい。
また、本講義は「データベーススペシャリスト試験」に必要な内容を一部カバーしているので、将来データベーススペシャリストを目指す場合には、大いに役立つものとなるだろう。
・基本情報技術者試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/fe.html
・応用情報技術者試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/ap.html
・データベーススペシャリスト試験： https://www.jitec.ipa.go.jp/1_11seido/db.html

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞会計学、会計情報システム
＜研究テーマ＞事象アプローチによる会計情報開示システムの構築、機械学習を用いた企業評価方法の探索、財務諸表データのテキストマイニング。
＜主要研究業績＞
・『事象アプローチによる会計ディスクロージャーの拡張』、中央経済社、2016 年.（2016 年度経営分析学会森脇賞受賞）
・"The Impact of XBRL Adoption on the Information Environment: Evidence from Japan," The Japanese Accounting Review, Vol. 4 (January 2015), pp. 49-74. (with Bai Zhenyang and Fumiko Takeda)
・"Value Relevance of Profit Available for Dividend," (with Shin'ya Okuda, and Atsushi Shiiba) Asia-Pacific Journal of Accounting & Economics, Vol. 17, 2010, pp. 41-56.
・"Japanese Accounting Profession in Transition," (with Hiroshi Okano and Hiroshi Yoshimi) Accounting, Auditing & Accountability Journal, Vol. 12 No. 3, March 1999, pp. 340-357.
・『新版 会計人のための XBRL 入門』（単著）、同文舘、2011 年.
・『財務情報の利用可能性と簿記・会計の理論』（新田忠誓氏との共編著）、森山書店、2008 年.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The objective of this lecture is to acquire basic knowledge of the accounting data model and electronic disclosure system frameworks and of the extensible business reporting language (XBRL) that is used when describing financial information.
The design and development of accounting information systems proceeds on the premise of a fixed database management system (DBMS) and what is key at this time is the accounting data model. This lecture gives an overview of the development of accounting data model theory as represented by the REA accounting model with the objective of having students understand the fundamentals of accounting data models.
Today, financial accounting information can be freely obtained via electronic disclosure systems, such as EDGAR of the US SEC or EDINET of the Japanese Financial Services Agency, making it possible to use advanced accounting information, so in this course students will be given an overview of the history of electronic disclosure systems, including the technological developments to date, and will also learn the basics of XBRL, which is a computer language developed to write financial accounting information.
(Learning Objectives)
The goal of the course is to provide students with an overview of the development of the REA accounting model, the significance of the accounting data model, and the basic knowledge of the database theory behind it. The goal of this course is also to understand the basic concepts of specifications, taxonomies, and instance documents of XBRL, and to acquire basic knowledge for handling actual XBRL data.
(Learning activities outside of classroom)
This seminar will be based on the assumption that you have read the material in the textbook prior to class.
(Grading Criteria/Policy)
Students are expected to participate in class, take an active role in discussions, and submit term report. The evaluation will be made based on a comprehensive consideration of these activities.
Grading will be based on the following percentages:
100-90:S
87-89:A+
86-83:A
82-80:A-
79-77:B+
76-73:B
72-70:B-
69-67:C+
66-63:C
62-60:C-
59-0:D
No term report: E

MAN500F1 － 0097

経営分析

福多　裕志

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経営分析とは、企業会計システムを通して創出される会計情報に着目し、効率的な経営管理と合理的意思決定の促進を目的とし、創出された情報の意味内容を解釈するプロセスと技術である。本科目では、主として定量的財務諸表分析に焦点を絞り、日米の文献（およそ日本文献 8 ：米文献 2 の割合）を参照しながら、基礎統計学の理論を援用し、講義、問題演習、受講者による発表・討論をもって授業を進行する。特に、各種比率に関する業界の中心的傾向を探るために、財務諸表分析に推定・検定の統計手法の応用性の可能性を探りたい。有価証券報告書の中身を精査する授業とは異なるので注意されたい。

【到達目標】
1. 予備技術として、オンラインデータベースより必要とされる財務データを精確に検索すること。
2. 当該財務データを統計的に処理し（記述統計）、計算結果を評価すること。
3. 財務比率・指標を比較・検討するための平均値、分散を推定し（推測統計）、計算結果を評価し、合理的意思決定に供すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
オンライン上の財務データを積極的に利用し、データ分析（統計解析）の実行結果を経営分析の観点から参加者間で議論・評価する。

[重要]
現時点での基本方針として、キャンパス内での対面授業を予定しております ZOOM ID は、第 1 回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義計画と経営分析の目的	コース概要、経営分析の目的、機能等についての説明
第 2 回	財務諸表分析の枠組み：その 1	財務諸表分析の基本事項および基本統計量の確認と計算
第 3 回	財務諸表分析の枠組み：その 2	財務安全性、効率性、収益性、成長性の 4 領域の確認と問題演習
第 4 回	短期利益計画 1	損益分岐点分析の構造
第 5 回	短期利益計画 2	損益分岐点分析の現実データへの応用
第 6 回	中間発表	異なる業界の事例研究
第 7 回	経営分析への基礎統計学の応用 1	財務諸表分析において使用される主な分布－正規分布。問題演習
第 8 回	経営分析への基礎統計学の応用 2	財務諸表分析において使用される主な分布－ t 分布等。問題演習
第 9 回	経営分析への基礎統計学の応用 3	経営領域のいくつかの推定に関連する問題
第 10 回	経営分析への基礎統計学の応用 4	財務諸表分析において使用される主な分布－ χ^2 分布、F 分布等。問題演習
第 11 回	統計解析を応用した経営分析関連のケース発表	財務諸表分析における業界平均値の推定およびその有用性の検討
第 12 回	経営分析への基礎統計学の応用 5	複数業界の分散の推定
第 13 回	経営分析への基礎統計学の応用 6	推定・検定の事例研究、問題演習
第 14 回	最終試験	統計分析の応用に関し授業内で学習した事項の最終筆記試験および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
データベースにアクセスし、関心ある個別企業、業界の財務諸表分析を様々な角度から実施することを推奨する。

【テキスト（教科書）】
参考文献を基に独自に作成したスライドを学習支援システム上に掲載する。

【参考書】
1) Colin Drury(2008), Management and Cost Accounting 7th ed.,South-Western.
2) Ray H. Garrison(2008), Managerial Accounting, McGraw Hill International.
3) 青木茂男編著『要説　経営分析訂版』森山書店, 2022 年.
4) 大津広一『企業価値を創造する会計指標入門』ダイヤモンド社, 2005 年.
5) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会, 1995 年.
追加的英語、日本語の参考文献は学習支援システム上に掲載する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（議論への貢献度、事例発表）40%、最終試験 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が有する予備知識に応じて柔軟に対応したい。

【学生が準備すべき機器他】
最終試験の際、一般的電卓のみ使用可とする。授業では、インターネット接続および計算ソフト（エクセル等）の利用を推奨する。

【その他の重要事項】
感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への　切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii 上の「経営分析」内、「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞意思決定会計
＜研究テーマ＞財務体質の日米比較
＜主要研究業績＞
・「品川区中小企業グループと上場企業の収益性比較」東京都城南地域中小企業振興センター, 2000 年.
・「売上高経常利益率の 1 次元位相」（ワーキング・ペーパー）法政大学イノベーション・マネジメント研究センター, 2007 年.

【Outline (in English)】
[Course outline and objectives]
Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In particular, in order to ensure that comparisons with industrial means are practiced, estimation and testing of population means from samples of accounting data will be conducted and discussed. Please note that this course is not intended to provide detailed interpretation of the contents of financial statements.
[Learning activities outside of classroom]
Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments. The time required for preparation and review for one class is four hours.
[Grading criteria]
Contributions to class activities (40%), final exam (60%)

ECN500F1 － 0098

基礎ファイナンス

山嵜　輝

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ファイナンス理論の広範な研究成果は実社会に多大な影響を与えており、これなくして現代の金融ビジネスは成立しない。本授業では、ファイナンスを初めて学ぶ学生を対象に、証券分析や現代ポートフォリオ理論など、証券投資の理論を中心に講義を行う。また、個人の資産形成における投資理論の役割についても詳しく解説し、近年話題となっている老後 2,000 万円問題や FIRE（Financial Independence, Retire Early）、つみたて NISA の活用方法なども論じたい。多くのビジネススクールでは、ファイナンスは必修科目に指定されているため、ファイナンスが専門ではない学生でも一通りのファイナンスの基礎を学ぶのが一般的である。この授業ではそのような機会を提供したい。ビジネスでファイナンスの知識が必要な学生はもちろんのこと、個人投資家としての株式投資や資産運用に興味のある学生も歓迎である。

【到達目標】
次の４つを到達目標に掲げる。
（1）金融市場の基礎知識・用語を習得し、金融商品・金融取引のしくみを理解する。
（2）債券や株式の基本的な計量分析や価格評価ができる。
（3）効率的市場仮説や無裁定価格理論などのファイナンスの理論的概念を説明できる。
（4）証券投資の基本的な考え方を現代ポートフォリオ理論に沿って理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は教室での対面授業で実施するが、初回のみオンライン授業となる。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をすること。初回オンライン授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内する。授業は講義と Excel を用いた演習を交互に行うことで進んでいく。毎回、Excel の使えるノート PC を用意すること。ノート PC は大学で貸し出しているので、必ずしも自前の PC を持参する必要はない。Excel の使い方については、授業内で丁寧に説明する。授業中に演習課題に対する講評をすることで、個別のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとイントロダクション	講義の進め方等の説明
第 2 回	金融・証券市場	債券・株式市場を中心に市場の機能や分類の概説
第 3 回	キャッシュフローと現在価値	分析に必要な数学の予備知識および現在価値の概念の解説
第 4 回	債券分析入門 1	債券投資の収益率、スポットレート、フォワードレートの概念の解説
第 5 回	債券分析入門 2	金利の期間構造や債券投資のリスク分析の入門的な解説
第 6 回	債券分析入門 3	社債の信用リスクと債券格付けの入門的な解説および社債価格の評価
第 7 回	株式分析入門 1	配当割引モデルの概説とそれを活用した理論株価の分析
第 8 回	株式分析入門 2	株式評価のための財務分析、サスティナブル成長率、成長機会の現在価値などの解説
第 9 回	株式分析入門 3	同業他社間比較による株式分析
第 10 回	金融危機とファイナンス理論	リーマン・ショックなど、過去の金融危機に関するファイナンス理論の立場からの考察
第 11 回	ポートフォリオ理論入門 1	現代ポートフォリオ理論の紹介、ノーベル経済学賞を受賞した投資理論とは？
第 12 回	ポートフォリオ理論入門 2	個別株と株式ポートフォリオのリスクとリターンについての解説
第 13 回	ポートフォリオ理論入門 3	平均分散アプローチによる証券投資の意思決定
第 14 回	ポートフォリオ理論入門 4	CAPM（資本資産価格モデル）の導出およびベータとアルファの解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。講義資料の復習を十分に行うこと。知識や理論を積み上げることで授業が進んでいくので、途中で理解できなかった箇所は放置せずに質問すること。また、指定した参考書を活用して理解を深めることが好ましい。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。講義資料を用意するので、各自ダウンロードすること。ダウンロードの方法は初回授業で説明する。

【参考書】
（1）佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
（2）伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣、『新・証券投資論Ⅱ 実務篇』、2009 年、日本経済新聞出版社
（3）ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション
（4）小林孝雄、芹田敏夫、『新・証券投資論Ⅰ 理論篇』、2009 年、日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】
演習課題（50 %）と平常点（50 %）で評価する。授業中に基礎的な問題を解いたり、Excel 演習課題の発表を行ってもらうことで理解度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】
個人の資産形成に関心のある学生が多いので、個人投資家からみた株式投資や資産運用に関するトピックおよび Excel 演習を大幅に増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】
毎回 Excel を使うので、Excel が使えるノート PC を各自で用意すること。ノート PC は大学で貸し出しているので、必ずしも自前の PC を持参する必要はない。

【前提知識】
中学程度の数学の基礎知識（2 次方程式、連立方程式、関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）を使うが、極度の数学アレルギーでない限り心配は無用である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　ファイナンス
＜研究テーマ＞　金融テクノロジー、資産価格理論
＜主要研究業績＞
（1）“Recovering Subjective Probability Distributions,” *Journal of Futures Markets*, Vol.42, No.7, 2022, Wiley
（2）「取引コストを伴う最適消費・投資問題の進展について」, 『イノベーション・マネジメント』, No.18, 2021 年 3 月, 法政大学イノベーション・マネジメント研究センター
（3）“A General Control Variate Method for Levy Models in Finance,” *European Journal of Operational Research*, Vol.284, No.3, 2020, Elsevier

【実務経験のある教員による授業】
民間金融機関や中央銀行において、証券投資や金融商品開発などの金融実務に通算 14 年間携わった。授業では、金融機関などで用いられている実践的な分析手法をわかり易く解説する。

【関連科目】
コーポレート・ファイナンス、実証ファイナンス入門、デリバティブ入門 I/II、ポートフォリオ理論入門

【Outline (in English)】
[Course outline] This course provides fundamentals of modern finance theory and its applications to basic security analysis, investment decisions, financial asset pricing, and financial risk management. [Learning objective] The objectives of this course are to give: (1) basic knowledge of financial system, financial markets, and securities; (2) valuation methods of stocks and bonds; (3) methods for incorporating risk analysis into valuation models, including the mean-variance approach and the Capital Asset Pricing Model; and (4) applications to corporate financial decisions, including optimal capital structure, capital budgeting, and dividend policy. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Exercises: 50%, in class contribution: 50%.

ECN500F1 － 0099

実証ファイナンス入門

金　瑢晋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、主にファイナンスや会計関連分野で実証研究を行う上で必要とされる分析方法を身に付けることを目的とします。実証ファイナンスは、計量経済学と密接な関係があり、そのファイナンス関連分野への応用と、ファイナンス分野発祥の分析手法で成り立ちます。問題意識と符合する分析モデルの選択は、先行研究の理解及び研究遂行の上で、極めて重要なプロセスです。授業は、分析手法の学習、金融・財務データを用いた実習、関連文献の紹介で構成されます。アカウンティング・ファイナンスコース以外の学生の受講も歓迎します。

【到達目標】
・論文作成に必要な実証分析の基礎を身に付けることができます。
・仮説の立て方と検定について一定レベルの知識が培われます。
・企業と金融・資本市場から入手できるデータの加工能力が高まります。
・計量分析ソフトウェアの使い方を身に付けられます。
・ファイナンス・会計関連分野の先行研究について理解が深まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に講義と実習に基づきます。時間の制約上、直観的な理解と実際のデータ処理能力の向上に照準を合わせます。授業中には、計量分析ソフトウェアを用いた実習を行い、実践力を高めます。講義内容は、受講者の前提知識と要望などにより変更があり得ます。授業計画については、トピックの順序が前後する、または、時間の配分が流動的になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	株価データ分析例：マーケットモデル 1	収益率の理解、収益率データ（離散、連続）の計算（日次、月次）と統計量
第 2 回	株価データ分析例：マーケットモデル 2	マーケットモデルの推定と直観的理解、幾つかの分析ソフトウェアによる結果
第 3 回	企業分析のおさらい	B/S、P/L からの財務情報、株主価値、市場価値と簿価との関係
第 4 回	ファイナンスのおさらい	最適ポートフォリオ問題、CAPM の理解
第 5 回	計量ソフトウェアの使い方 1	インストール方法、基本統計量の計算
第 6 回	計量ソフトウェアの使い方 2	株価、財務データのハンドリング
第 7 回	計量ソフトウェアの使い方 3	マーケットモデルの推定（再訪）、実習
第 8 回	財務データの集計と可視化 1	財務データの処理、パネルデータの集計
第 9 回	財務データの集計と可視化 2	財務データのヒストグラム、ランク付け、可視化
第 10 回	株式データの集計と可視化 1	リターンの累積、BAH リターンの計算
第 11 回	株式データの集計と可視化 2	株式データと財務データの結合
第 12 回	株式データの集計と可視化 3	リターンデータに基づく統計的検定、線形回帰モデルの理解、可視化
第 13 回	ファクターモデル 1	ファクターの構築
第 14 回	ファクターモデル 2	CAPM の検証
第 15 回	ファクターモデル 3	Fama-French の 3 ファクターモデルの推定、アルファの計算
第 16 回	ファクターモデルの応用 1	資本コストの推定
第 17 回	ファクターモデルの応用 2	平均分散ポートフォリオの構築
第 18 回	イベント分析 1	イベント分析の概要
第 19 回	イベント分析 2	イベント分析の手順とそのプログラミング 1
第 20 回	イベント分析 3	イベント分析の手順とそのプログラミング 2
第 21 回	イベント分析 4	企業の財務行動分析への応用例
第 22 回	時系列分析の基礎 1	金融時系列の性質、定常性
第 23 回	時系列分析の基礎 2	古典的 ARMA モデルの理解、推定
第 24 回	時系列分析の基礎 3	ARMA 過程の予測
第 25 回	時系列分析の基礎 4	金融時系列データへの応用
第 26 回	ベクトル自己回帰モデル 1	グレンジャー因果性、インパルス応答関数、分散分解
第 27 回	ベクトル自己回帰モデル 2	国際株式市場分析
第 28 回	個人プロジェクトの報告	報告と討論、講師からのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
表計算や計量分析ソフトウェアの使い方に慣れるよう心かけましょう。

【テキスト（教科書）】
有力候補は、笠原晃恭・村宮克彦著、『実証会計・ファイナンス』、新世社、2022 ですが、参加者のニーズを踏まえた上で、初回の授業で確定します。

【参考書】
沖本竜義、『経済・ファイナンスデータの計量時系列分析』、朝倉書店、2010

【成績評価の方法と基準】
質疑応答、討論などの授業参加度 30 %、期末プレゼンテーション 40 %、期末レポート 30%。期末レポートは、期末プレゼンテーションをベースとしたもので構いません。

【学生の意見等からの気づき】
更に分かりやすい解説を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC を持参して下さい。

【その他の重要事項】
受講者にはアカウンティング・ファイナンスコース関連科目の履修を前提としませんが、統計学と合わせてこれらの科目を履修または並行受講する場合、より理解が深まります。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ファイナンス
＜研究テーマ＞企業の財務行動
＜主要研究業績＞
(1)J-REIT の IPO におけるスポンサーの役割、現代ファイナンス、45, 31-58, 2022(伊藤昌哉氏と共著) (2)Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages, Japan and the World Economy, 30, 1-9, 2014 (with N. Kishimoto). (3)Effects of Stochastic Interest Rates and Volatility on Contingent Claims, Japanese Economic Review, 58, 71-106, 2007 (with N. Kunitomo).

【Outline (in English)】
The course offers an introduction to empirical finance for those who plan to write master's theses on finance and related topics. It also discusses empirical results in some often-quoted finance literature to understand how those analytical methods are applied.
By the end of the course, students should be able to do the followings:
A. acquire an understanding about empirical methods needed to write theses.
B. deepen understanding of previous studies.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than eight hours for a class.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Class participation: 30%, Project presentation;40%, and Term paper: 30%.

ECN500F1 － 0102

コーポレート・ファイナンス

岸本　直樹

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は、企業財務上の重要な事項について知見を学ぶことにある。本年度は，金融実務に精通した著者によるコーポレートファイナンスの専門書（大垣尚司著『金融と法　企業ファイナンス入門』）を輪読する。

【到達目標】
本科目においては，次の 4 点を学ぶ。
(1) ファイナンスの要点
(2) 資本市場と金融機関
(3) デットファイナンスの様々な仕組みと制度
(4) エクイティファイナンスに関する制度

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
基本的には、教科書の指定箇所を輪読した後，ディスカッションを行うという形式で授業を進める。ただし、理解が難しい部分や、教科書が十分説明していない部分については、講師が講義したり，追加的な資料を提供したりする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイナンスの基礎（1）	教科書の第 1 章「金融の基本概念①　金融・現在価値・リスク」
2	ファイナンスの基礎（2）	教科書の第 2 章「金融の基本概念②　企業・バランスシート・金融仲介」
3	ファイナンスの基礎（3）	教教科書の第 2 章「金融の基本概念②　企業・バランスシート・金融仲介」
4	エクイティファイナンス（1）	教科書の第 3 章「株式会社におけるエクイティ型投資ファイナンス①　起業と株式の設計」
5	エクイティファイナンス（2）	教科書の第 5 章「株式会社におけるエクイティ型投資ファイナンス②　株式の流通と出口戦略」
6	エクイティファイナンス（3）	教科書の第 6 章「株式会社におけるエクイティ型投資ファイナンス②　自己金融と増資による資金調達」
7	デットファイナンス（1）	教科書の第 7 章「デットファイナンスの基礎」
8	金利入門	教科書の第 8 章「金利の基礎知識」
9	金融機関	教科書の第 9 章「間接金融機関」
10	デットファイナンス（2）	教科書の第 10 章「市場型デットファイナンス」
11	デットファイナンス（3）	教科書の第 11 章「市場型間接金融①　シンジケートローン」
12	デットファイナンス（4）	教科書の第 12 章「市場型間接金融②　ローンセール市場」
13	投資ファンド（1）	教科書の第 13 章「市場型間接金融③　投資ファンドと投資理論のつかみ」
14	投資ファンド（2）	教科書の第 13 章「市場型間接金融③　投資ファンドと CIV」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修生全員が各回で指定された部分についてテキストをしっかり予習することを履修要件とする。 なお，本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
大垣尚司,『金融と法　企業ファイナンス入門』有斐閣（有斐閣に在庫がないので，Amazon 等で購入してください。なお，同じ著者による『金融と法　II』が出版されているが，それはこの授業の教科書ではないので買わないこと。）

【参考書】
特にない。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、授業中の発表，ディスカッションにおける発言の内容，さらに，期末に実施する小テストに基づく。評価における各要素への配分は，授業中の発表とディスカッションが 70%，小テストが 30%。

【学生の意見等からの気づき】
さらに授業内でのディスカッションを活性化する。

【学生が準備すべき機器他】
特にない。

【その他の重要事項】
本科目を履修する前に「基礎ファイナンス」を履修することが望ましい。また，ファイナンス，あるいは，ファイナンスに近い分野で修士論文を書く計画を立てている履修者は,「実証ファイナンス」も履修することが必須である。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> ファイナンス
< 研究テーマ> 債券、先物、オプション、デリバティブ、証券化商品、住宅ローンの期限前償還。
< 主要研究業績>
①『入門・証券投資論』（池田昌幸氏との共著），有斐閣，2019. ② "Prepayment Behaviors of Japanese Residential Mortgages," Japan and the World Economy, No. 30 (2014), pp. 1-9. ③"Pricing Path-Dependent Securities by the Extended Tree Method," Management Science, Vol. 50 No. 9 (2004), pp. 1235-1248.

【Outline (in English)】
Course outline: The main objective of this course is to learn finance and the financial theory. This year, we will read a textbook on corporate finance with a strong emphasis on institutional aspects surrounding financing activities.
Learning objectives: In this course, students will learn the following four points.
(1) Finance in a nutshell
(2) Introduction to capital markets and financial institutions
(3) Introduction to instruments used in debt financing
(4) Introduction to equity financing
Learning activities outside of classroom: All students are expected to prepare the summary of an assigned part of the textbook. I expect that it will take about four hours to prepare the summary.
Grading criteria/policy: Grading will be based on presentations in class, comments in discussions, and a quiz at the end of the semester. 70% of the grade will be based on class presentations and discussions, and 30% on the quiz.

MAN500F1 － 0107

経営学基礎

福島　英史

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，修士論文・リサーチペーパーを翌年に書くための準備として関連する経営学研究の基礎的な知識を習得し，論文の読み方（基本的な構成・各研究の問題設定・方法・結論・研究間の関係）を学ぶことにあります。経営学は幅広い研究領域を持ちますが，本年度は，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマに据えます。

【到達目標】
一般に，修士課程学生は大きな問題意識・志はあるものの，論文・リサーチペーパーとしてのフォーカス・問題設定に時間がかかる傾向にあると思われます。そこで先人達の問題設定と答えを見ていくことで，自分の論文の位置づけ，論文構成イメージを構築できることが到達目標です。基礎的な経営学研究を現代の経営問題につなげて考えられることが，期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
授業では研究の基礎となる文献（英語または日本語の論文等）の輪読を行います。受講者全員が，文献を読んでレジュメを準備します。人数によってはレポーター制とします。レジュメには内容の要約とディスカッション・ポイントをまとめていただき，授業ではこれらについて議論します。概念と現実の往復を念頭に，現象面の関心事にひき付けて理解し，議論します。教員のコメントや解説が行われます。できれば Academy of Management Journal や Strategic Management Journal などの定評ある論文を読みたいと考えます。受講生の関心と学力に応じて調整します。以下に，イノベーションと戦略（組織）を基本的なテーマとした授業計画を示します。各トピックスはそれ自体修士論文・リサーチペーパーのテーマになるような研究の広がりを持ちます。文献・論文は受講者の関心も聞いた上で決定したいため，第１回目の授業に必ず参加して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	問題意識の共有と文献の選定
第 2 回	新規事業開発	内部開発と買収
第 3 回	ドミナントロジック	経営層の信念
第 4 回	多角化戦略	多様化と収益性
第 5 回	アンビデクスタリティ	イノベーションのための組織
第 6 回	探索と活用	組織学習
第 7 回	垂直統合と水平分業	事業の範囲
第 8 回	イノベーションとステークホルダー	資源依存アプローチ
第 9 回	イノベーションと認知	資源能力と分業構造
第 10 回	イノベーションと補完的資産	市場地位への影響
第 11 回	資源戦略論・動的企業能力	広義のシナジー効果
第 12 回	オープンイノベーション	ＣＶＣ・スピンオフ
第 13 回	事業プラットフォーム	多面市場・競争と協調
第 14 回	まとめ，最終課題	学習成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
議論する論文を事前に読み，レジュメにおいて，要約を書き，疑問点や問題点を明確にしておきます。準備学習に 4 時間・復習に 1 時間を要します。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。教材として論文を輪読します。

【参考書】
イノベーションと戦略に関する基本的な知識を補いたい場合は，以下のテキストをご参照下さい。
Grant, R. M. 2016. Contemporary Strategy Analysis, 9th ed., Wiley.（加瀬公男監訳『現代戦略分析第２版』中央経済社, 2019）
Burgelman. R. Christensen. C. Wheelwright S. 2008. Strategic Management of Technology and Innovation, 5th ed., McGraw-Hill.（青島矢一監修『技術とイノベーションの戦略的マネジメント 上下』翔泳社, 2007）

【成績評価の方法と基準】
レジュメの評価（35 %），授業中の発言（35 %），最終課題（30 %）をあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時，ディスカッション時間をしっかりとります。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに，急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は，予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】
授業外でどうしても教員へアクセスが必要な場合，fksmhs@gmail.com へご相談ください.

【担当教員の専門分野】
経営戦略とイノベーション

【研究テーマ】
戦略とイノベーション，産業発展とグローバル化，経営学説史など

【主要研究業績】
・「グローバル・ストラテジー 国際的な市場機会と競争優位の実現」『学史から学ぶ経営戦略』（文真堂）, 2022.5. ・「オープン・イノベーション・ワールド探訪-概念検討と画像半導体産業揺籃期」『経営志林』53 (1), 2016. ・“Inside Cooperative Innovation: Development and Commercialization of Sodium-Sulfur Batteries for Power Storage,” IIR Case Studies (Hitotsubashi University), 13 (1), 2013. ・「アンソフ戦略論への批判」『経営学史叢書 IX アンソフ』（文真堂）, 2012. ・「技術開発プロジェクトの国家支援と成果」『経営志林』47(3),2010. ・「事業の多様化と経営成果―時間展開と企業間相互作用」『経営志林』46(3), 2009.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with essential knowledge on business administration. We focus on the management of innovation and strategies. (Learning Objectives) The goal of this course is to learn essential academic concepts and theories related to the management of innovation and strategies. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to consider real life businesses from academic concepts and theories. The study time will be five hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on regular assignments (35%), in-class contribution (35%) and
semester-end assignment (30%).

MAN500F1 － 0108

会計学基礎

川島　健司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では財務諸表の「作り方」と「使い方」を体系的に学習する。財務諸表の作り方を学ぶには、取引の実態を知り、簿記の技術を学び、会計処理の手続きに関する基本的な原理・原則や思考法を学ぶことが必要である。一方、使い方を学ぶには、伝統的な財務諸表分析の技法を知り、さらには企業価値の評価に必要な基礎的なファイナンスの知識を習得して応用することが必要である。

本講義では、こうした財務諸表の理解に必要な諸要素である「複式簿記」「会計学」「財務分析」「価値分析」について、それぞれのもっとも基礎的な内容と各要素間の相互関係について解説し、会計について総合的に理解することを目的とする。

【到達目標】

①簿記の技術と会計学における基礎的な語彙（概念）を習得し、その技術と語彙を用いて、経済活動をどのように会計的に表現しうるかを考察し、適切な財務諸表を作成する能力をつける、②財務諸表分析の技法とファイナンスの知識を用いて、会社が公表する財務諸表と各種 IR 情報を利用しながら、企業活動の実態を推論する能力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP2」「DP3」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【授業の構成】

本授業は、対面授業と YouTube による授業録画配信（オンデマンド型授業）を併用する予定している。講義全体を以下の４つのパートに分割する。

第 1 部「複式簿記」（第 1 回～第 3 回）
第 2 部「会計学」（第 4 回～第 6 回）
第 3 部「財務分析」（第 7 回～第 9 回）
第 4 部「価値分析」（第 10 回～第 12 回）

第 1 部と第 2 部は財務諸表の作り方、第 3 部と第 4 部は財務諸表の使い方に関する内容である。第 4 部の基礎的なファイナンスの内容は、財務諸表の読み方のみならず、近年では財務諸表を作成するためにも必要な知識である（例えば、社債償却、リース会計、減損会計、退職給付会計、ストック・オプション会計等）。

【仮想ではないリアルな教材】

会計という「ビジネスの言語」の仕組みを理解し、会計を通して会社のリアルを見たり表現したりする方法を学ぶために、教材は仮想ではなく、リアルの会社・人物・取引を用いる。授業の終盤では、その当事者と実際に対話する機会も設ける予定である。ルールを暗記するしかないと思われがちな会計を、理屈・実話・実データによって学習する。会計を学ぶにつれて、会社の実態の見え方が変わっていく感覚を体験してもらえるはずである。

【本講義で学習する主な財務指標】

売上高利益率、流動比率、自己資本比率、固定長期適合率、インタレスト・カバレッジ・レシオ、総資本回転率、棚卸資産回転率、総資産利益率、自己資本利益率 (ROE)、1 株当たり当期純利益 (EPS)、時価簿価比率 (PBR)、経済的付加価値 (残余利益)

【問題意識の共有と質疑応答】

受講生の理解度の確認と受講生間の問題意識の共有化を目的として、質疑応答の機会を設定する。受講生は受講する中で理解できなかった点や関心をもった点などを作文し、その内容を一覧にして共有し、それに対して受講生間で意見交換を行う。このため、受講にあたっては、原則的にスマートフォン、タブレット、または PC などによって、オンラインに接続可能であることとする（ただし、それらの機器を会場に持参する必要はない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	会計を学ぶ意義、有効な方法、学習の目標、成績評価などについて説明する。
第 2 回	会社経営と財政状態	会社の経営に関わる利害関係者との権利・義務の関係を財政状態として記録し、貸借対照表を作成する方法を学ぶ。貸借対照表から利益を計算する「財産法」という利益計算式を理解する。
第 3 回	収支計算と損益計算	現金の記録と要約である収支計算を基礎に、経営の成果・努力の観点から「損益法」という利益計算式を学ぶ。その利益計算から貸借対照表を導出する過程を理解する。
第 4 回	複式簿記の方法	財産法と損益法を結合させて複式簿記の原理を導出し、収支計算書、損益計算書、貸借対照表の 3 書類を効率的に作成するための体系的な記録と要約の方法を学ぶ。
第 5 回	利益計算の会計	利益の概念について、会計に期待される役割や機能の観点から考察したうえで、利益計算の方法や、その構成要素である収益と費用の認識・測定の考え方について理解する。
第 6 回	資産の会計	資産の基礎概念を理解したうえで、その認識・測定の考え方について考察する。時価評価（有価証券）、原価配分（固定資産）、繰延処理（税効果会計）の具体例について学習する。
第 7 回	負債と資本の会計	負債と資本の基礎概念を理解したうえで、会計的負債としての引当金や、準備金と剰余金の概念整理、新株予約権の処理などについて学ぶ。また、連結財務諸表の考え方も学習する。
第 8 回	貸借対照表の分析	貸借対照表の様式と分析方法を理解する。項目の並び順、分類基準、金額の意味を踏まえた上で、流動比率や自己資本比率などの代表的な分析指標について学ぶ。
第 9 回	損益計算書の分析	損益計算書の様式と分析方法を学習する。段階的利益の意味を理解し、ROS や損益分岐点などの分析指標の他、貸借対照表のデータを併用する ROA、回転率、ROE などの指標を学ぶ。
第 10 回	キャッシュ・フローの分析	キャッシュ・フロー計算書の様式と分析方法を学習する。営業活動・投資活動・財務活動に分類した収支データの見方のほか、CCC 分析により資金回収の速さを可視化する方法を学ぶ。
第 11 回	会社の価値と資本コスト	会社の価値を金額として測定・評価する基本的な考え方を理解する。そこで鍵になる概念である資本コストの概念や計測方法について学習する。
第 12 回	DCF モデル	割引現在価値（DCF）モデルとよばれるキャッシュ・フローにもとづく価値評価モデルを学習する。このモデルを用いた会計処理である減損会計や退職給付会計についても解説する。

第 13 回　残余利益モデル	残余利益モデルとよばれる損益計算書と貸借対照表のデータにもとづく価値評価モデルを学習する。モデルの利用にあたり、インプットの会計情報の性質についても理解を深める。
第 14 回　期末試験と解説	重要な内容について復習し、発展的な学習について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業では有価証券報告書や IR 資料を副教材として用いる。これらは受講生が各自、会社のホームページからダウンロードして持参することとする。入手方法の詳細は授業内で説明する。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
川島健司『起業ストーリーで学ぶ会計』中央経済社,2021 年

【参考書】
1 伊藤邦雄『新・現代会計入門』日本経済新聞社, 2023 年 4 月現在の最新版.
2 桜井久勝『財務会計講義』中央経済社, 2023 年 4 月現在の最新版.
3 飯野利夫『財務会計論』三訂版, 同文舘, 1993 年.
4 佐藤信彦他『スタンダードテキスト財務会計論Ⅰ・基本論点編』第 9 版, 中央経済社, 2015 年. 同『スタンダードテキスト財務会計論Ⅱ・応用論点編』第 9 版, 中央経済社, 2015 年.
5 W・H・ビーヴァー著・伊藤邦雄訳『財務報告革命』第 3 版, 白桃書房, 2010 年.
6 W・R・スコット著・太田康広他訳『財務会計の理論と実証』中央経済社, 2008 年.
7 Craig, D. Financial Accounting Theory, 3rd, McGraw-Hill, 2009.
8 Kieso, D.E. et al. Intermediate Accounting, 15th, Wiley, 2013.

【成績評価の方法と基準】
以下の 4 点にもとづいて評価する（括弧内はウエイト）。
①対面授業の出席状況（10 %）
②対面授業時の発言状況（20 %）
③各授業回の確認テスト（40 %）
④各授業回の質問票への記述状況（30 %）
質問票は、各回の授業終了後に受講生は質問や感想を Google Form を通じて提出する。その内容は全受講生に匿名で公表する。その提出状況と記述内容は、授業への参画と貢献に対する評価として、成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】
オンデマンド授業動画については、受講生の学習リズムを乱さないよう、定時配信します。また、受講生間の繋がりが持てるように、受講生の考えをクラス全員で共有しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】
授業動画の視聴に必要なパソコン、および分析に用いる表計算ソフト（Excel）。

【その他の重要事項】
簿記を学んだことがない受講生は、予め日商簿記検定 3 級の内容を学んでおくことが望ましい。その場合、各種専門学校（TAC, 大原簿記学校等）が出版する簿記検定の教科書を購入し自習しておくことを薦める。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　財務会計論
＜研究テーマ＞　会計用語の使用法に関する研究
＜主要研究業績＞
1. 川島健司.2022.「「収益」という用語の定義は、なぜ多様に存在するのか」『會計』第 202 巻, 第 1 号, pp.67-79.
2. 川島健司.2020.「「収益」という用語は、いつからどのように使われてきたか」『會計』第 198 巻, 第 6 号, pp.43-56.
3. 川島健司.2011.「なぜ, 損益計算書で「営業収入」と表記されるのか―勘定科目の使用法に関する定性的調査」『経営志林』48 (1):131-148.

【Outline (in English)】
This lecture provides knowledge of "How to make" and "How to read" corporate financial statements. In order to learn how to prepare financial statements, it is necessary to learn the realities of transactions, learn techniques of bookkeeping, and learn basic principles and thought methods concerning accounting procedures. On the other hand, in order to learn how to read, it is necessary to learn the traditional method of financial statement analysis and further to acquire and apply basic knowledge of finance necessary for evaluating corporate value.
In this lecture, students study the most fundamental elements for understanding such financial statements, "bookkeeping" "accounting principle and accounting principle" "financial statement analysis" and "corporate finance necessary for accounting practice". It explains mutual relations among those elements and aims to comprehensively understand modern accounting practices.
The goals of this course are the following four points. (1) Acquire bookkeeping skills and basic vocabulary (concepts) in accounting, consider how economic activities can be expressed in terms of accounting, and create appropriate financial statements using these skills and vocabulary (2) Acquire the ability to understand the actual state of corporate activities using financial statement analysis techniques and knowledge of finance, using financial statements and various types of IR information published by the company.
Securities reports and IR materials are used as supplementary teaching materials in class. Each student should download these from the company's website. Details on how to obtain them will be explained in class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.
Grade evaluation is based on the following four points (weights are in parentheses).
① Attendance at face-to-face classes (10%)
(2) Speech during face-to-face classes (20%)
③ Confirmation test for each class (40%)
④ Description status in the questionnaire for each class (30%)

FRI500F1 － 0114

情報学特論

児玉　靖司

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
次の項目に沿って講義を行い、簡単な演習として学生独自の問題発見、解決を行うことを目標とする。①情報学とは、②コンピュータと経営学、③人工知能と経営学、④最近の情報システム、⑤経営戦略と情報システム、⑥経営戦略と OR（オペレーションズリサーチ）、⑦線形計画法とゲーム理論、⑧その他の話題、以上のテーマに関する講義を行う。

【到達目標】
できるだけ最新の話題（情報学）から経営学との関係についてまとめ、考察を行う方法を身につける。
特に AI や ICT と経営学の関わりについて、専門的な基礎知識を得て、新しい研究テーマに関して、その有用性や実現性について考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
情報学は、現在の経営学にとっても重要な学問領域である。本講義では、コンピュータの仕組みから学問としてのコンピュータの話題について幅広く解説し、さらに、情報システムと OR を用いた経営戦略のあり方について考察を行う。(1) コンピュータの仕組み、(2) ソフトウェア工学、(3) 人工知能とコンピュータ、(4) 経営戦略と情報システム、(5) 経営戦略と線形計画法、(6) OR を用いた経営戦略、以上をテーマとした講義と議論を行う。全体を通して、経営戦略を意識したコンピュータシステムに関する知識、使い方、情報システムのあり方について触れる。情報学と経営学との接点に関する学問的考察は一般的にはほとんどないと考えられるので独自の考察を行う。さらに、論文講読、外書講読を希望する学生が多い場合は、最近の情報システムやコンピュータ科学に関する論文を選択し輪読することがある。PC の画面をプロジェクタに投影しながら解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報学とは	情報学の基礎と経営学の関わりについて学ぶ。
第 2 回	コンピュータ科学について	コンピュータ科学の基礎から応用について学ぶ。
第 3 回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第 4 回	ソフトウェア工学（2）	要求工学を中心としたソフトウェア工学について学ぶ。
第 5 回	ソフトウェア工学（3）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第 6 回	線形計画法（1）	線形計画法について学ぶ。
第 7 回	線形計画法（2）	線形計画法全般について学ぶ。
第 8 回	線形計画法（3）	線形計画法の応用について学ぶ。
第 9 回	モデル検査（1）	モデル検査の基礎について学ぶ。
第 10 回	モデル検査（2）	モデル検査について学ぶ。
第 11 回	人工知能概説	人工知能と経営学について考察をする。
第 12 回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論の基礎について学ぶ。
第 13 回	ゲーム理論（2）	ゲーム理論の基本定理を中心として学ぶ。
第 14 回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論の応用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義の中で、1 回以上プレゼンテーションを行ってもらうため、準備を行うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。パワーポイント資料を別途配布する。

【参考書】
開講後に指定する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（60%）、レポートまたはプレゼンテーション（40%）。

【学生の意見等からの気づき】
学生の研究内容に関連したディスカッションを多用する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域> 情報学
< 研究テーマ> ディープラーニング、学習解析、コンピュータ科学
< 主要研究業績>
・Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Machine Learning, Learning Analytics & Knowledge Conference (LAK18).
・Estimating Grades from Students' Behaviors in Programming Exercises using Deep Learning, Proc. of 4th Annual Conference on Computational Science and Computational Intelligence (CSCI 2017).
・Using Deep Learning to Predict Students' Programming Performance from Behavioral Features, Proc. of LASI-Asia 2017, JASLA, 2017.
・Data Mining of Students' Behaviors in Programming Exercises, Proc. of 3rd International KES Conference on Smart Education and E-learning (KES-SEL-16), June 2016.
・Reports on the Practice Toward the Self-Regulatory Learning using Google Forms, Proc. of 5th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2016), July 2016.
・JMOOC: MOOC from Japan, Our Challenges and Perspectives, Proc. of Regional Expert Meeting on MOOCs, July 2015.
・http://kenkyu-web.i.hosei.ac.jp/Profiles/18/0001745/theses_e1.html

【Outline (in English)】
[Course Outline]
This course is aimed at students to do student's own problem finding and solution as simple exercises. (1) Information sciences (2) Computer and management (3) Artificial Intelligence and management, (4) Recent information systems, (5) Management strategy and information system, (6) Management strategy and OR (operations research), (7) Linear programming and game theory, ⑧ Miscellaneous topics and lectures on the above themes.
[Learning Objectives]
Learn how to summarize and consider the relationship with business administration from the latest topics as much as possible.
[Learning Activities Outside of Classroom]
To to prepared to give at least one presentation during the lecture. It is advisable to read the reference books introduced during the class. The standard preparatory / review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria /Policy]
Ordinary attitude score (60%), report or presentation (40%).

ECN500F1 － 0117

統計データ解析

猪狩　良介

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、「ビッグデータ」と呼ばれるデータ環境が整備され、「データサイエンティスト」という言葉が生まれるなど、ビジネスの現場でも統計学とデータ分析を行うニーズは高まっています。また、ビジネスの場面で意思決定を適切に行うには、統計理論とデータに基づいて客観的に判断する必要があり、そのためには統計学の知識が必要です。本講義は、統計学の基礎理論と代表的な分析手法を学ぶとともに、それを経営分野、特にマーケティングやビジネスに応用することを目的としています。前半は統計学の基礎を中心に、後半は統計モデリングと多変量解析を中心に学習します。また、フリーの統計ソフト R を利用して実際のデータ分析を行うことで、実践力を身につけます。

【到達目標】
・統計分析の理論を習得する。
・統計ソフト R の使い方を習得し、実際のデータ分析を行うことができる。
・分析結果を解釈し、他の人に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
・講義と統計ソフトを利用したデータ分析演習の双方を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要について説明します。
2	R の基本操作	統計ソフト R のインストールと基本操作について学びます
3	記述統計 (1)	平均値などの代表値と、分散や標準偏差などのばらつきの指標について学びます。
4	記述統計 (2)	散布図と相関係数・共分散について学習します。
5	確率と確率変数	確率変数について学習します。また、確率変数の期待値と分散について学びます。
6	確率分布 (1)	2 項分布や正規分布などの代表的な確率分布を紹介します。
7	確率分布 (2)	大数の法則と中心極限定理について学びます。
8	標本分布	母集団と標本について学習します。また、正規母集団に関する標本分布と中心極限定理を利用した標本分布について学びます。
9	統計的推定	点推定と区間推定について学習します。
10	仮説検定 (1)	統計的仮説検定について学習します。また、正規母集団と中心極限定理を利用した仮説検定について学びます。
11	仮説検定 (2)	2 つの正規母集団の平均の差の検定と分散の比の検定について学びます。
12	分散分析 (1)	一元配置分散分析について学習します。
13	分散分析 (2)	二元配置分散分析について学習します。
14	回帰分析 (1)	相関と回帰の違いについて学習します。また、単回帰分析とその推定法である最小 2 乗法について学びます。
15	回帰分析 (2)	単回帰分析の推定と決定係数について学びます。また、重回帰分析について学びます。
16	回帰分析 (3)	多重共線性やモデル選択について学びます。
17	ロジスティック回帰分析 (1)	2 値データを目的変数としたロジスティック回帰分析について学習します。また、最尤法について学習します。
18	ロジスティック回帰分析 (2)	予測値や的中率の算出方法、AIC によるモデル選択について学びます。
19	ポアソン回帰分析	計数データ (件数や個数) を目的変数とするポアソン回帰分析について学習します。
20	多項ロジットモデル (1)	多項選択データを目的変数とした多項ロジットモデルについて学習します。
21	多項ロジットモデル (2)	条件付ロジットモデル・混合ロジットモデルを学習します。
22	クラスター分析 (1)	データを分類するためのクラスター分析について学びます。特に、階層クラスター分析について学習します。
23	クラスター分析 (2)	非階層クラスター分析について学習します。
24	因子分析 (1)	観測データの背後にある共通因子を抽出するための因子分析について学びます。また、探索的因子分析と確認的因子分析について学習します。
25	因子分析 (2)	因子回転や推定法について学びます。また、主成分分析について学びます。
26	共分散構造分析 (1)	パス解析について学習します。また、複数の構成概念間の関係を分析する共分散構造分析について学習します。
27	共分散構造分析 (2)	共分散構造分析の推定法やモデル評価などについて学習します。
28	まとめ	秋学期に扱った内容を復習します。また、発展トピックについて紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内に出題した演習課題をレポートとして提出します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・本橋永至 (2015)「R で学ぶ統計データ分析」オーム社.
・里村卓也 (2014)「マーケティング・データ分析の基礎 」共立出版.

【参考書】
・金明哲 (2017)「R によるデータサイエンス -データ解析の基礎から最新手法まで　第 2 版」森北出版.
・豊田秀樹 (2012)「因子分析入門」東京図書.
・豊田秀樹 (2014)「共分散構造分析 [R 編] 」東京図書.

【成績評価の方法と基準】
・宿題および演習レポート (2～3 回を予定) ： 40 %
・期末レポート： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
様々な分野のデータ分析を扱います。

【学生が準備すべき機器他】
各自、ノートパソコンを持参して下さい。なお、この授業ではフリーの統計ソフトである R と R Studio を使用します。

【その他の重要事項】
実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。
経営学研究科に所属する学生以外の履修は認めません。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マーケティング・サイエンス、広告論、経営統計学
＜研究テーマ＞
統計モデルを用いた消費者行動の分析、広告効果測定、メディア利用行動分析
＜主要研究業績＞
・猪狩良介・竹内真登 (2023).「COVID-19 の脅威とメディア利用行動の変化－消費者セグメントの遷移の把握－」『オペレーションズ・リサーチ』68(3), 138-146.
・猪狩良介・星野崇宏 (2023).「異質性の動的変化を考慮した競合リスクモデルによる購買間隔のモデリング：複数チャネルにおける消費者購買行動の分析 」『日本統計学会誌』52(2), 269-293.
・Igari, R. and Takeuchi, M. (2023). A Dynamic Model for Ranking-Based Conjoint Analysis with No-Choice Options. Behaviormetrika, 50(1), 263 – 286.
・竹内真登・猪狩良介 (2021).「文脈効果を考慮したコンジョイント分析による購買予測」『流通研究』24(2), 17-32.
・Igari, R. and Hoshino, T. (2018). A Bayesian Data Combination Approach for Repeated Durations under Unobserved Missing Indicators: Application to Interpurchase-Timing in Marketing. Computational Statistics & Data Analysis, 126, 150-166.

【Outline (in English)】
[Course outline]
Recently, the data environment called "big data" has been improved, the word "data scientist" has been penetrated. Here, the need to deal with statistical and data analysis is growing very much in business. Also, in order to properly make decisions in business situations, it is necessary to judge objectively based on statistical theory and data, and for that purpose knowledge of statistics is necessary. This lecture aims to learn the basic theory of Statistics and empirical analysis methods and to apply it to management fields, especially marketing and business. The first half of the course focuses on the basics of Statistics, while the second half focuses on statistical modeling and multivariate analysis. Also, practical skill is acquired by performing actual data analysis using free statistical software R.
[Learning Objectives]
Students learn statistical theory and various statistical models, and can explain them to others.
Students learn how to use the statistical software R, and can perform actual data analysis.
Students can interpret the results of analysis and explain them to others.
[Learning activities outside of classroom]
Students are required to submit reports on the exercises given in the class.
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
[Grading Criteria/Policy]
Exercise reports (several times): 40%.
Final report: 60%.

MAN500F1 － 0054

国際経営論

洞口　治夫

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際経営論とは、企業経営の国際化に伴う諸問題を解決するための学問的アプローチの総称です。企業の海外進出は、大企業のみならず中小企業にとっても採用される経営戦略になっています。しかし、本国での戦略やプラクティスを海外で追求しようとしても、本国と外国との様々な相違のために競争優位を得られない場合も多いでしょう。ＭＢＡ学生諸君が国際経営論を学ぶことによって、企業経営の国際化に伴うどのような課題があるのかを理解することができます。職能部門を超えた上位の経営管理者に必要な基礎知識を確認し、最先端の話題に触れます。

【到達目標】
この授業を通じて MBA の学生諸君が、国際経営の理論に基づいて企業経営の実態を理解することで、海外における事業活動を分析する能力を身につけます。参加学生は、多国籍企業の理論を学習し、国際経営における諸問題の理解に役立てます。ＭＢＡの共通言語としての経営戦略・経営組織・経営管理の基礎を学習するとともに、英文でのケースを読み、理解し、議論できる能力を身につけます。
学生諸君は自らの研究関心に応じて、『国際ビジネス研究』、『アジア経済』、Journal of International Business Studies、Strategic Management Journal、Research Policy など、国際経営理論を用いて書かれた学術論文を読むスキルを身につけ、さらに高度な研究能力の育成を目指すことができるようになります。学生諸君には、修士論文作成のための様々な研究手法を紹介し、具体例とともに研究の手順を説明していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
この授業は、講義、ケースの読解、論文の読解、学生相互の議論、学術的な研究方法の紹介、ビデオ教材の理解といった内容から構成されています。国際経営を理解するために必要な理論を講義した後、ケースや論文の内容を確認し、意思決定課題を学生相互で議論します。講義の中盤では、学生が課題についてプレゼンテーションを行い、それについて議論する場合があります。参加学生の英語力に応じて、それを高める形式での会話やリスニングも随時行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要と国際経営論のオリエンテーション。教科書、資料の紹介。評価方法の説明。教科書第 1 章。
2	国際経営の研究方法	質的調査方法と量的調査方法。近年の話題と研究アプローチの特色。英語学習の方法。教科書第 2 章。
3	国際経営を研究するための経済理論	取引コスト理論、限定された合理性、エージェンシー理論、モラルハザード、機会主義。教科書第 2 章、第 3 章。
4	国際経営を研究するための経営理論	リソース・ベースト・ビュー、経営資源、制度理論。教科書第 3 章。
5	企業の国際化理論	内部化理論、OLI パラダイム、PLC 理論、ボーングローバル。教科書第 2 章、第 3 章。HBS ケース、Rakuten.
6	エントリー戦略としての輸出・輸入	インボイス、輸出信用状と取引費用の関係性、ロジスティックス産業の役割。教科書第 1 章、第 2 章、第 3 章。HBS ケース、Rakuten.
7	直接投資とコーポレート・ガバナンス	エントリー・モードの類型、グリーンフィールド、M＆A、エントリー・タイミング。教科書第 2 章。
8	ライセンシングとＯＥＭ	特許、フランチャイズ、ブランド・マネジメント、コンテンツビジネス。教科書第 2 章。
9	国際経営とリスク	国家と政治体制。テロリズム、気候変動、パンデミック。貸借対照表と損益計算書。教科書第 4 章。
10	競争と協力	ゲーム理論入門。ジョイント・ベンチャー、出資比率の意味、商社の役割、現地企業の配当政策。教科書第 2 章、第 4 章。
11	国際提携戦略	グローバル戦略的提携のマネジメント、アライアンス、ネットワーク構築。教科書第 2 章。HBS ケース、PayPal.
12	投資意思決定	フィージビリティ・スタディ、経済環境、収益性評価、ＮＰＶ、ＩＲＲ。参考書 (4) 洞口・行本『入門経営学』第 7 章。HBS ケース、PayPal.
13	国際M＆A	国際M＆Aの動機、デューデリジェンス、Post Merger Integration、減損、参入と退出。教科書第 8 章。
14	資産評価と収益性評価	有形資産、無形資産、不確実性とリスク、ＲＯＥ、ＲＯＡ。教科書第 8 章。
15	知識管理の理論。前半の復習と中間試験	暗黙知、形式知、集合知。教科書第 6 章。基礎概念の復習と学習成果の確認。
16	グローバル・ビジネス環境	企業が海外で直面する外部環境、Liabilities of foreignness、文化的距離。教科書第 5 章、第 9 章。
17	外国為替レートの基礎理論	購買力平価、金利平価、オーバーシューティング、ニュースの役割、ランダムウォーク。教科書第 13 章。
18	外国為替レートの変動要因	直物、先物、オプション、利子率。2019 年から 2020 年における為替レートの動向。教科書第 13 章。
19	確率的変動の理解	二項分布、正規分布、指数関数、ランダムウォークへのドリフト。教科書第 13 章。
20	オプションとリアルオプション	延期の意味、先物への保険、オーバーシューティングの構造。教科書第 13 章。
21	国際企業戦略の類型	ＥＰＲＧの類型。グローバル戦略、マルチ・ドメスティック戦略、インターナショナル戦略。教科書第 9 章。HBS の英文ケース： Levendary Café
22	ホフステッド理論の理解に向けて	ホフステッド論文 (1980) の輪読。教科書第 5 章。HBS の英文ケース： Levendary Café
23	イノベーション・マネジメント	生産管理理論の進化、要素技術開発と製品開発。教科書第 6 章、第 10～12 章。HBS の英文ケース： Levendary Café

24	海外子会社の人的資源管理	海外子会社の人材戦略、海外派遣ローテーションとモチベーション。教科書第 14 章。ホフステッド論文 (1980) の輪読。
25	国際マーケティング戦略の基礎	事例研究。教科書第 9 章。HBS の英文ケース： Levendary Café
26	国際マーケティング戦略の応用	現地適応とグローバル統合。HBS の英文ケース： Levendary Café。ホフステッド論文 (1980) の輪読。
27	ダイバーシティ・マネジメント	ハーシュマンの退出・発言・忠誠、CSR、ESG、SDGs と国際経営。企業倫理。
28	講義全体の理解確認	筆記試験ないしレポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 200 分間を標準とします。半期集中の授業のため、準備学習を夏休み期間に行うことをお薦めします。準備学習としては、①教科書の購入と構成の理解、②国際経営戦略の研究に活用される理論に関する文献の講読、③指定文献・配布ケースの講読、④グローバル戦略的提携に関する事前調査、⑤統計学の学習、などが必要となります。復習としては、毎回の講義の後と、試験前の全講義の復習などが必要となります。

【テキスト（教科書）】
(1) 原田順子・洞口治夫編著 (2019)『改訂新版　国際経営』放送大学教育振興会。
＜アマゾンなどで購入できます。なお、まったく同じタイトルで同じ著者による、原田順子・洞口治夫編著 (2013)『新訂　国際経営』放送大学教育振興会、がありますが、内容が異なるので間違えないように。＞
(2) ハーバード・ビジネススクールの英文ケース：
① Language and Globalization: "Englishnization" at Rakuten(A).
著者 Tsedal Neeley. 製品番号 9-412-002.
② PayPal: The Next Chapter.
著者 Michael Porter、Mark Kramer、Annelena Lobb. 製品番号 9-721-378.
③ Levendary Café: The China Challenge.
著者 Christopher A. Bartrett and Arar Han. 製品番号 4357.
これらのケースを購入するためには、http://hbr.org/store のサイトから case を選択し、タイトルを記入して検索します。7 ドル前後でＰＤＦを購入できます。購入にはクレジットカードが必要です。登録ユーザーとなるには http://cb.hbsp.harvard.edu/cb/register のサイトから Higher Education Individual に必要事項を記入して register をします。その後、上記のタイトルを入力し、show detail からＰＤＦを購入します。著作権が保護されていますのでコピーでの入手は避けて下さい。また、そのほかのケースを利用する場合には授業内で指示します。
(3)Hofstede, Geert. "Motivation, leadership, and organization: Do American theories apply abroad?", Organizational Dynamics, Volume 9, Issue 1, Summer 1980, Pages 42-63. 法政大学のサーバーに接続して Google Scholar で論文名を検索するとＰＤＦファイルへのリンクから論文をダウンロードできます。

【参考書】
(1)Haruo H. Horaguchi, Foreign Direct Investment of Japanese Firms: Investment and Disinvestment in Asia, c.1970-1989. Academic Research Publication, 2022.
(2) 洞口治夫『日本企業の海外直接投資』東京大学出版会、1992 年。
(3) 洞口治夫『グローバリズムと日本企業』東京大学出版会、2002 年。
(4) 洞口治夫『集合知の経営－日本企業の知識管理戦略－』文眞堂、2009 年。
(5) 洞口治夫・行本勢基『入門　経営学』第 2 版、同友館、2012 年。
(6)John Daniels, Lee Radebaugh, Daniel Sullivan, International Business: Environments and Operations, 2011, Pearson Education; Global ed of 14th revised ed 版, 2012.
(7) Ａ．Ｃ．チャン、Ｋ．ウエインライト『現代経済学の数学基礎（上）』シーエーピー出版、2010 年。
(8) 東北大学統計グループ『これだけは知っておこう！ 統計学』有斐閣、2002 年。
(9) 岩田暁一『経済分析のための統計的方法』東洋経済新報社、1983 年。
(10)P.G. ホーエル『初等統計学』培風館、1981 年.
(11) 山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎『Ｒによるやさしい統計学』オーム社、2008 年.
(12) フィリップ・コトラー他著『ＡＳＥＡＮマーケティング－成功企業の地域戦略とグローバル価値創造－』洞口治夫監訳、マグロウヒル・エデュケーション、2007 年.

【成績評価の方法と基準】
授業参加（出席と議論への参加）： 28 %
宿題ないしプレゼンテーションなどクラスへの貢献： 12 %
中間試験： 20 %
期末試験： 40 %
中間試験および期末試験は、筆記試験ないしターム・ペーパーないしレポートによって行います。その評価にはペーパー自体の評価だけでなく、パワーポイントによるプレゼンテーションの評価を含む場合があります。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートからの示唆を要約すると、より高度な理論をよりわかりやすく講義し、学生相互のディスカッションの時間をとることによって記憶に定着させることが要望されているようです。英語での講義、輪読やディスカッションを望む声と、それを難しいと感ずる声が混ざっています。英語でのディスカッションを増やしていきたいと思いますが、同時に、基礎的な英語の学力を錬成して応用に結びつけていくことを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】
インターネットを検索・閲覧できるスマホ、授業支援システムにワード・ファイルやパワーポイント・ファイルをアップロードできるパソコンなど。

【その他の重要事項】
この授業を履修する学生諸君には経営学基礎、統計データ解析、経営戦略論、経営組織論の授業を履修することをお薦めします。英語については高校生修了レベルの文法知識と大学生修了レベルの語彙（ボキャブラリー）能力を期待していますが、課題を熱心にこなすことで良い成績を獲得した学生諸君もいます。本授業を通じて英語のリスニング、スピーキングの能力養成を試みていきます。洞口は法政大学経営学部経営戦略学科の教授です。また、東証プライム市場に上場する企業の社外取締役を務めており、日本企業の経営実務にも接している教員です。この授業で実務と経営理論とのつながりを理解してもらいたいと願っています。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞国際経営論
＜研究テーマ＞海外直接投資論、多国籍企業論。
＜主要研究業績＞
①＜単著＞ Collective Knowledge Management: Foundations of International Business in the Age of Intellectual Capitalism, Edward Elgar Publishing, 2014.
②＜共編著＞ Japanese Foreign Direct Investment and the East Asian Industrial System: Case Studies from the Automobile and Electronics Industries, 2002 年版ペーパーバック, Springer, 2014.
③＜論文＞ Horaguchi, H.H., Susumago, T.(2022) Global R&D Location Strategy of Multinational Enterprises: an Agent-Based Simulation Modeling Approach. Journal of Industry, Competition and Trade vol.22, pp.457 – 479. https://doi.org/10.1007/s10842-022-00391-x

【Outline (in English)】
"International Business" is the general term for an academic approach to solving various problems associated with the internationalization of corporate management. The overseas expansion of companies has become a management strategy adopted by small and medium-sized enterprises as well as large enterprises. However, many companies may not be able to gain a competitive advantage by pursuing the same strategies and practices in their home countries abroad due to various differences between their home and foreign countries. By studying International Business, MBA students can understand the challenges associated with the internationalization of corporate management. This course will review the fundamentals necessary for business managers at the upper echelons of their functional divisions and will touch on cutting-edge topics.
[Goal]
This course is designed to provide MBA students with an understanding of the realities of corporate management based on international management theory and the ability to analyze overseas business activities. Students will learn the theory of multinational corporations and use it to understand various issues in international management; learn the fundamentals of business strategy, business organization, and business management as the common language of MBAs; and acquire the ability to read, understand, and discuss cases in English.
Students will acquire the skills to read academic articles published in Kokusai Bijinesu Kenkyu (International Business Studies), Asian Economy, the Journal of International Business Studies, Strategic Management Journal, Research Policy, etc., according to their own research interests. Students will be able to acquire skills and aim to develop more advanced research capabilities. Students will be introduced to a variety of research methods for writing a master's thesis and will be guided through the research process with specific examples.
[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
The standard preparation and review time for this class is 200 minutes each. Since this is an intensive semester-long class, it is recommended that students do their preparatory work during the summer vacation. The preparatory study requires (1) purchasing and understanding of the structure of the textbook, (2) reading of the literature on theories of the study of international business strategy, (3) reading of assigned literature and distributed cases, (4) prior research on global strategic alliances, and (5) study of statistics. A review will be required after each lecture and before the exam.
[Grading criteria]
Class participation (attendance and participation in class discussions): 28%
Contribution to class (homework, presentations, etc.): 12%
Mid-term exam: 20%.
Final exam: 40%
The mid-term exam and final exam will be based on a written exam, term paper, or report. Evaluation will be based not only on the paper itself but also on the presentations using PowerPoint in the class.

ECNe500F1 － 0057

地域経済研究（アジア）

苑　志佳

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は東アジアおよび中国経済を中心にこの地域経済の発展過程と発展条件、経済発展の背景と要因、経済発展の特徴・形態などについて様々な視点から研究する。授業内容が前半と後半によって構成される。授業の前半は、東アジア地域の経済発展に関わる内容であり、理論から実証研究まで東アジア経済を徹底検証する。後半では、世界の新興経済大国―中国を中心にして講義する。具体的には「改革・開放」方針の導入を境に中国経済はどのように経済大国になったかを問題意識とし、中国経済の過去・現在および今後について分析・研究する。

【到達目標】
①アジア経済の研究視点、方法について理解する；
②アジア経済の発展に関わる諸仮説および理論をマスターする；
③中国経済の発展メカニズムおよび移行過程を理解することができる；
④中国経済の高度成長の背景・要因および特徴についてマスターすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
本授業は教員講義を中心に出席者による討論という方式を採用する。毎回の授業は、1 つのテーマを中心に教員がまず講義して論点を絞り出し、出席者全員参加の形式で討論することによって内容への理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体に関する説明
第 2 回	アジア地域研究にあたって	東アジア・中国経済の現状と問題提起
第 3 回	東アジア経済の研究視点	東アジア経済の研究方法
第 4 回	アジア経済研究の歴史	アジア経済研究の理論
第 5 回	東アジア経済発展の背景	経済・社会の背景
第 6 回	戦後の東アジア経済発展の条件	内部・外部条件
第 7 回	政府か、市場か	反新古典派型モデル
第 8 回	東アジア経済発展と政府の役割	経済の発展戦略
第 9 回	東アジア経済発展の担い手	東アジア型の特徴
第 10 回	鼎構造	〔公企業・外資系企業・地場資本〕の三位一体型構造の検証
第 11 回	対内直接投資と途上国経済	外資と東アジアの経済発展
第 12 回	何故、外資が必要か	対内直接投資の役割・意義の検証
第 13 回	華人・華僑とは	東アジア地域の華人・華僑の歴史と所在国の経済発展への役割
第 14 回	東アジア経済と華人・華僑資本	東南アジアを中心とする検証
第 15 回	「チャイナ・ミラクル」	中国経済をどう捉えるか
第 16 回	改革・開放	制度移行の背景と過程
第 17 回	中国経済の発展モデル	「北京コンセンサス」
第 18 回	漸進主義的市場化改革	比較制度分析による検証
第 19 回	中国経済制度の改革（1）	農業改革
第 20 回	中国経済制度の改革（2）	工業改革
第 21 回	中国経済制度の改革（3）	国有企業をめぐる改革
第 22 回	中国経済制度の改革（4）	民営企業の発展
第 23 回	対外開放の狙いと効果	対外開放の過程と結果
第 24 回	国際分業へ関わり	経済発展への対外貿易の役割
第 25 回	海外資本の「引進来」（外資導入）	外資の対中進出の意義
第 26 回	中国の経済発展と対内直接投資の役割	中国経済成長への外資の貢献
第 27 回	中国資本の「走出去」（海外進出）	中国企業の対外直接投資
第 28 回	中国経済のグローバル化	世界経済へのインパクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。
①週の授業終了後に参考文献や予習資料などを指定するので、これを予習する。
②授業時に配布される教材や資料を復習し、次回の授業時に問題提起を考える。
③授業の予定テーマに関連する資料を自ら収集し、これを持って授業討論に臨む。

【テキスト（教科書）】
少数の教科書を持って本授業の内容をカバーしきれないため、テキストを使用しない方針。その替わりに教員が用意する独自の教材を使用する。

【参考書】
（1）北原　淳・西澤信善編著 [2004]『アジア経済論』ミネルヴァ書房。
（2）星野妙子・末廣昭編 [2006]『ファミリービジネスのトップマネジメント』 岩波書店。
（3）末廣昭著 [2000]『キャッチアップ型工業化論－アジア経済の軌跡と展 望』名古屋大学出版会。
（4）渡辺利夫編 [1997]『アジア経済読本』東洋経済新報社。
（5）南　亮進・牧野文夫編 [2012]『中国経済入門』（第 3 版）日本評論社。
（6）加藤弘之・上原一慶編 [2011]『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
（7）毛里和子 [1997]『改革・開放時代の中国』日本国際問題研究所。
（8）苑　志佳著 [2009]『現代中国企業変革の担い手－多様化する企業制度とその焦点』批評社。
（9）苑　志佳［2014］『中国企業対外直接投資のフロンテア―「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開―』創成社。
（10）苑　志佳［2023］『世界進出する中国型多国籍企業』創成社。
（11）加藤弘之［2016］『中国経済学入門―「曖昧な制度」はいかに機能しているか』名古屋大学出版会

【成績評価の方法と基準】
配分方針
（1）出席（40 点）：出席状況は成績評価の最重要指標の 1 つ。
（2）平常点（30 点）：予習状況、報告準備状況、問題提起のレベルなどを考慮する。
（3）クラス討論への貢献点（30 点）：クラス討論への参加を強く勧める。質問の有無やコメントの質をも重視する。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善にかかわるご意見、アイデアなどあれば、教室内だけでなく、メールなどを通して率直に発言してください。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン、プロジェクタ、スクリーンが必要（教員による用意）。学生による PC、i-Pad などの持ち込みと使用（事前にダウンロードしたファイルを表示 する電子機器）を薦める。

【その他の重要事項】
やむを得ない事情によって欠席する場合、必ず事前に連絡してください。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済論（アジア経済、中国経済）
＜研究テーマ＞
中国の産業・企業、中国経済の制度改革、中国対外直接投資の研究
＜主要研究業績＞
①『現代中国企業変革の担い手―多様化する企業制度とその焦点』（単著、批評社、2009 年）
②『中国社会主義市場経済の現在』（共著、御茶ノ水書房、2011 年）。
③『中国多国籍企業の海外経営』（共著、日本評論社、2013 年）
④『中国企業対外直接投資のフロンテア――「後発国型多国籍企業」の対アジア進出と展開――』（単著、創成社、2014 年）
⑤『グローバル競争下の自動車産業――新興国市場における攻防と日本メーカーの戦略』（共著、日刊自動車新聞社、2014 年）
⑥『21 世紀資本主義世界のフロンティア－経済・環境・文化・言語による重層的分析－』（共編、批評社、2017 年 4 月）
⑦『世界進出する中国型多国籍企業』（単著、創成社、2023 年）

【Outline (in English)】
Course outline
This course will concentrate the research on East Asian and Chinese economic development by taking different point of views. The special attention will be given to the concerns like, why economic high growth in the area has been realized so successfully, what backgrounds, conditions and characteristics existed there, and so on. The course is consisted of two parts. The first part focuses on the study of the whole East Asia. Various theories, models and hypothesis will be introduced and demonstrated. The second part will concentrate on the newly emerging economic power in East Asia – China. The “China miracle” will be discussed in detail.
Learning objectives
1.Understand the research perspectives and methods of Asian economy.
2.Master the hypotheses and literatures regarding Asian economic development.
3.Be able to understand development mechanism and transitional process of China’s economy.
4.Master the background, causes and characteristics of China’s economy.
Learning activities outside of classroom
The necessary time of preparation and review for this course usually needs 2 hours for each.
1.The reference reading materials will be directed by the end of every week’s class and participants are required to preview them.
2.Review the reading materials and textbooks obtained in the class and prepare to ask questions in the following class.
3.Participants are encouraged to collect reference materials, papers and books regarding the topics of the next class and raise questions.
Grading Criteria /Policy
1.Participation 40%. Class attendance will be regarded as the most important evidence for evaluation.
2.Commitment 30%. Your preview, presentation and question asking will be taken into consideration for grade assessment.
3.Contribution to class discussion 30%. Participants are strongly encouraged to engaged in class debating. Your comments and questions are evidence for grade evaluation.

MAN700F1 － 0001

博士演習ＩＡ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第１段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第３回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第４回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第５回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第６回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第７回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第８回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第９回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがあります。

【Outline (in English)】
(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ A, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ A.
(Leaning activities outside of classroom) You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
（Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0002

博士演習ＩＢ（履修登録用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第１段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第３回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第４回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第５回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第６回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第７回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第８回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第９回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがあります。

【Outline (in English)】
(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ B.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
(Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡＡ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第３回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第４回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第５回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第６回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第７回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第８回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第９回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ A will be carried out.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, Ⅱ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0004

博士演習ⅡＢ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ⅡＢでは、博士コースワークショップの「第２段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第３回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第４回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第５回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第６回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第７回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第８回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第９回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介しま

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠA will be carried out.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, ⅡA, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, Ⅲ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop(step three or the third step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ（シラバス用代表コード）

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.
博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習Ⅲ B では、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】
(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the third step or step three" of Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria）
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0001

博士演習ＩＡ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第１段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第３回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第４回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第５回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第６回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第７回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第８回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第９回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.

Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, Ⅰ A, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ A.

(Leaning activities outside of classroom) You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0002

博士演習ＩＢ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第１段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。
教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第３回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第４回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第５回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第６回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第７回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第８回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第９回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】
指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがあります。

【Outline (in English)】
(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.
Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅰ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ B.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
(Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0001

博士演習ＩＡ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、また博士コースワークショップで示された三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ＩＡでは、博士コースワークショップＩＡの「第１段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗およびその成果を報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第３回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第４回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第５回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第６回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第７回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第８回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第９回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況等によってここで示された授業計画は修正することがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.

Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, Ⅰ A, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ A.

(Leaning activities outside of classroom) You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0002

博士演習ＩＢ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習ＩＢでは、博士コースワークショップＩＢの「第１段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

研究テーマに基づく、主要先行論文のサーベイ、研究方法、博士論文の構成などの報告を行い、指導教員による批評と助言を受け、博士コースワークショップＩ（ステップ１）のクリアに求められる水準の「研究計画書」の執筆を目指す。

教員によっては修士課程の学生等との合同指導やディスカッションなどが行われることもある。実施形式等は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究の進捗度およびその成果を報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告①	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第３回	主要先行論文サーベイの報告②	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第４回	主要先行論文サーベイの報告③	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイの報告
第５回	研究方法の報告①	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第６回	研究方法の報告②	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第７回	研究方法の報告③	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法の報告
第８回	博士論文の構成の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第９回	博士論文の構成の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成の報告
第10回	論文執筆指導①	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第11回	論文執筆指導②	研究テーマ、論文サーベイ、研究方法、論文構成等に基づき、（博士論文を構成する１章に相当する）論文執筆の指導をうける
第12回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針や受講生の要望あるいは進行状況によって適宜授業計画が修正されることがあります。

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation.

Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, Ⅰ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the first step or step one" of Doctoral Workshop Ⅰ B.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0001

博士演習ＩＡ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN700F1 － 0002

博士演習ＩＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡＡ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＡでは、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＡでは、博士コースのステップ２の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第３回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第４回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第５回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第６回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第７回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第８回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第９回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【参考書】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参して、適宜、文献や Web 等を参照できるような状況を整えることを強く推奨する。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 － 0004

博士演習ⅡＢ

坂上　学

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＢでは、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースの３段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の輪読あるいは報告に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＢでは、博士コースのステップ２の「サーベイ論文と構成章（論文）」で求められる、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）を完成させる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準の「サーベイ論文と構成章（論文）」の完成を目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第３回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第４回	先行論文サーベイと、研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第５回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第６回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第７回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第８回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第９回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【参考書】

事前に指定するテキストは特になし。適宜、論文等を指定する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参して、適宜、文献や Web 等を参照できるような状況を整えることを強く推奨する。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topic and research design, writing a proposal, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡＡ

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡＡでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goal of the present seminar, Ⅱ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第３回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第４回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第５回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第６回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第７回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第８回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第９回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar Ⅰ A will be carried out.

MAN700F1 － 0004

博士演習ⅡB

北田　皓嗣

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップの三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅡBでは、博士コースワークショップⅡ（ステップ２）のクリアに求められる水準の「先行研究のサーベイ論文と構成章（論文）」の執筆を目指す。さらに、指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を進める。

ただし、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ⅠBのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goal of the present seminar, Ⅱ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

ステップ１で承認・再検討された「研究計画書」に基づき、先行研究に関するサーベイ論文と、博士論文を構成する章（少なくとも１章）に該当する研究の報告を行い、指導教員による批評および助言を受け、博士コースのステップ２のクリアに求められる水準を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討の結果報告	「研究計画書」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	先行論文サーベイと研究報告①	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第３回	先行論文サーベイと研究報告②	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第４回	先行論文サーベイと研究報告③	「研究計画書」に基づく、先行論文サーベイと、研究の位置付けの報告
第５回	博士論文を構成する章の報告①	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第６回	博士論文を構成する章の報告②	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第７回	博士論文を構成する章の報告③	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第８回	博士論文を構成する章の報告④	「研究計画書」に基づく、博士論文を構成する章（少なくとも１章）の報告
第９回	論文執筆指導①	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第10回	論文執筆指導②	執筆したサーベイ論文と、博士論文を構成する論文に対する指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practices of dissertation seminar ⅠB will be carried out.

MAN700F1 － 0003

博士演習ⅡA

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 － 0004

博士演習ⅡB

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】
特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】
(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.
(Lerning Objectives)
The goal of the present seminar, Ⅲ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop(step three or the third step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.
(Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

長岡　健

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.
博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習Ⅲ B では、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the third step or step three" of Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

金　瑢晋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, Ⅲ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop(step three or the third step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

金　瑢晋

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.
博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習Ⅲ B では、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

(Couse outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.
However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.
(Lerning Objectives)
The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the third step or step three" of Doctoral Workshop.
The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.
A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.
In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.
(Leaning activities outside of classroom)
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria）
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

田路　則子

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式はオンライン授業として、必要に応じて対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】
Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる。

【Outline (in English)】
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

新倉　貴士

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式はオンライン授業として、必要に応じて対面で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。
博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。
なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】
博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。
なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】
「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
適宜、論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】
指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際経営戦略
＜研究テーマ＞
多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁
＜主要研究業績＞
① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. In press. International Business Review. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)
② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.
③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.
Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. Students should submit a certificate showing that they are the principal author when the publication is co-authored.
However, unless they passed the first step or step one of Doctoral Workshop I, the same practice of Dissertation Seminar I will be conducted. Similarly, the same practice of Dissertation Seminar II will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop II as well.
(Learning objectives)
The goals of the doctoral seminar, III A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to make presentations at academic conferences on the contents of their doctoral dissertation and submit related papers to peer-reviewed journals following the advice of their instructor.
(Grading criteria/policies)
Grading will be decided on the basis of research achievements and/or progress such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

安藤　直紀

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文を完成させる。加えて、博士論文全体の完成を目指す。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員と相談しつつ、博士論文を構成する内容での学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿に向けての計画・準備を進める。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

適宜、論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習での報告や論文の進展をはじめ、日頃の研究姿勢、学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿の状況などを総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

国際経営戦略

＜研究テーマ＞

多国籍企業の地理的多角化、多国籍企業の新興経済への参入、多国籍企業内の言語障壁

＜主要研究業績＞

① Discontinuity of required oral and literacy skills across job roles in achieving high work performance: An fsQCA approach. In press. International Business Review. (with Suzuki M. and Nishikawa, H.)

② Human capital, cultural distance and staffing localization. 2021. Multinational Business Review, 29(3): 420-439.

③ Seeing the tree and the forest: Japanese auto firm multinational dispersion, cultural distance, and foreign manufacturing subsidiary ownership levels. 2021. Asian Business & Management, 20(2): 163-187. (with Powell, K.S. and Lim, E.)

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. Students should submit a certificate showing that they are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless they passed the first step or step one of Doctoral Workshop I, the same practice of Dissertation Seminar I will be conducted. Similarly, the same practice of Dissertation Seminar II will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop II as well.

(Learning objectives)

The goals of the doctoral seminar, III A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

(Learning activities outside of classroom)
Students are expected to make presentations at academic conferences on the contents of their doctoral dissertation and submit related papers to peer-reviewed journals following the advice of their instructor.
(Grading criteria/policies)
Grading will be decided on the basis of research achievements and/or progress such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progress and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。
特に，博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は修正されることもあります

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

(Lerning Objectives)

The goal of the present seminar, Ⅲ A, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop(step three or the third step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

西川　英彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

博士演習の目的は、博士コースワークショップの３つのステップの各評価に当たって合格レベルに達する学識・技術の高度な専門性を習得することである。

特に，博士演習Ⅲ B では、博士コースワークショップの「第３段階」の審査に合格するレベルの研究計画書をまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指導教員の助言に基づき、博士論文の内容について学会で発表し、関連する論文を査読付き雑誌に投稿するための準備を行うことが期待されます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が指定します。

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて指導教員が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、学会発表、査読付き雑誌への論文投稿などの研究成果や進捗状況、セミナーへの出席や論文発表などの研究活動、研究の進捗状況や態度によって決定されます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

(Couse outline)

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination. Students may be also required to make provision for presentation of papers at conferences and/or posting to peer-reviewed academic journals, if instructed.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

(Lerning Objectives)

The purpose of the series of doctoral dissertation seminars(Ⅰ, Ⅱ, and Ⅲ) is to acquire advanced expertise on academic knowledge and skills to reach the acceptable level for each examination of the three steps of the Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to wrap up a research proposal reaching the level to pass the examination of "the third step or step three" of Doctoral Workshop.

The goal of the present seminar, Ⅲ B, is to satisfy the following two requirements for Doctoral Workshop Ⅱ (step two or the second step). The first is to write a review paper covering the fields you study for a doctoral dissertation. The second is to write at least one (empirical) study equivalent to one chapter of your doctoral dissertation.

A requirement for the doctoral dissertation of our graduate school is to include at least one published or to be published article passing peer-reviews, or a paper equivalent a to be published article in peer-reviewed journals.

In the case the article was co-written, a certificate indicating that you were the principal author should be submitted to the examination committee.

(Leaning activities outside of classroom)

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and prepare for submission of a related paper to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

（Grading Criteria)
Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢＡ

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員からの助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＡでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＡのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＡのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ A, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

小川　憲彦

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士演習は、博士論文執筆を計画的かつ着実に進めていくために、博士コースワークショップ三段階の各ステップの水準に達するよう、毎回の報告や輪読等に対する指導教員による助言および批判をうけつつ、高度な専門知識を習得していくことを目的とする。

博士演習ⅢＢでは、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」論文の執筆を目指す。

なお、ステップ１をクリアしていない場合は、博士演習ＩＢのシラバスの内容を、ステップ２をクリアしていない場合は、博士演習ⅡＢのシラバスの内容を実施する。

【到達目標】

The goals of the doctoral seminar, Ⅲ B, are to write an article equivalent to the principal chapter of the doctoral dissertation and to complete the overall doctoral dissertation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

「研究計画書」や「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体構成の提示と、博士論文を構成する主要な章となる論文などの報告を行い、指導教員による助言および批判をうけつつ、博士コースワークショップⅢ（ステップ３）のクリアに求められる水準の「全体構成の提示と主要章（論文）」の完成を目指す。授業形式（対面，オンライン授業等）は受講生と指導教員で相談して決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章（論文）」の再検討の結果報告、およびそれに基づく、現状の研究成果を報告する
第２回	全体構成の提示①	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第３回	全体構成の提示②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第４回	全体構成の提示③	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章（論文）」に基づき、博士論文全体の構成について報告
第５回	主要章の報告①	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第６回	主要章の報告②	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第７回	主要章の報告③	全体構成に基づく、博士論文の主要章の報告
第８回	論文執筆指導①	執筆した主要章の指導をうける
第９回	論文執筆指導②	執筆した主要章の指導をうける
第10回	論文執筆指導③	執筆した主要章の指導をうける
第11回	博士コース中間報告会の準備①	提出論文および、発表スライドの報告
第12回	博士コース中間報告会の準備②	提出論文および、発表スライドの報告
第13回	博士コース中間報告会の準備③	提出論文および、発表スライドの報告
第14回	博士コース中間報告会のフィードバック	博士コース中間報告会での指摘事項の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to make presentations at academic conferences on the contents of your doctoral dissertation and submitting related papers to peer-reviewed journals along with the advice of your instructor.

【テキスト（教科書）】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【参考書】

Instructions will be given by supervisors as necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on research achievements and/or progresses such as conference presentations, paper submissions to peer-reviewed journals, and engagement in research activities including attendance, giving papers, and other research progresses and attitudes at the seminar.

【学生の意見等からの気づき】

『博士コースワークショップ』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

指導教員の方針、受講生の要望、および進行状況等によって授業計画は適宜修正されうる

【Outline (in English)】

The Dissertation Seminar is intended for doctoral students in the Department of Business Administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Over the course of the seminar, students may be developing their dissertation topics and research design, writing proposals, collecting and analyzing data, writing concluding chapters, or preparing for the final oral examination.

Students should also be required to post to peer-reviewed academic journals because a doctoral dissertation should include one or more peer-reviewed publications or papers to be published. You should submit a certificate showing that you are the principal author when the publication is co-authored.

However, unless you passed the first step or step one of Doctoral Workshop Ⅰ, same practice of Dissertation Seminar Ⅰ will be conducted. Similarly, same practice of Dissertation Seminar Ⅱ will be conducted in the case of failure in the second step or step two of the Doctoral Workshop Ⅱ as well.

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢA

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 － 0005

博士演習ⅢA

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
(Course outline)
(Learning Objectives)
(Learning activities outside of classroom)
(Grading Criteria /Policy)

MAN700F1 － 0006

博士演習ⅢＢ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】授業形態：

回	テーマ	内容
第 1 回		
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞

【Outline (in English)】
（Course outline）
（Learning Objectives）
（Learning activities outside of classroom）
（Grading Criteria /Policy）

MAN700F1 － 0007

博士コースワークショップＩＡ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップＩＡでは、中間報告会での報告内容が、ステップ１のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

この授業の目標は、学位論文審査の第一段階あるいはステップ１に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野に関する先行研究の批判的文献調査に基づく課題と研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求されます。

優れた論文執筆のためには、担当教員や副指導教員、他学部の教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第３回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第４回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第５回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第６回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、７月第１土曜日に開催予定である。
第７回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、７月第１土曜日に開催予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究を計画的かつ着実に進めてください。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿の準備も大事です。ワークショップでの発表後、アドバイス、批評、その他のフィードバック、自分の考えなどを整理しておくこと。それをもとに課題を整理し、学位論文に向けた継続的な研鑽を積むことが必要とされます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(A マイナス) 以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅡA、ⅡB を受講することができます。なお、論文ワークショップＩＡの合格者は、論文ワークショップＩＢを受講する必要はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

(Leaning activities outside of classroom)

You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅱ A and/or Ⅱ B. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅰ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅰ B.

MAN700F1 － 0008

博士コースワークショップＩＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容である。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員による質疑及び助言を受ける良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップＩＢでは、中間報告会での報告内容が、ステップ１のクリアに求められる「研究計画書」の水準に達するように、指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

この授業の目標は、学位論文審査の第一段階あるいはステップ１に合格することである。そのためには、提出された研究計画書に基づき、（1）対象分野に関する先行研究の批判的文献調査に基づく課題と研究課題、（2）採用する研究方法、（3）論文の構成、（4）執筆スケジュールなどを含めて発表することが要求されます。

優れた論文執筆のためには、担当教員や副指導教員、他学部の教員や院生、参加者からの質疑応答によるアドバイスやコメントから多くを学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員による批判や助言をもらい、報告会参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生も研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	研究テーマと計画の報告	研究テーマや計画、現状の研究成果を副指導教員に報告する
第２回	主要先行論文サーベイの報告	研究テーマに基づく、主要先行論文サーベイを副指導教員に報告する
第３回	研究方法の報告	研究テーマ・論文サーベイに基づく、研究方法を副指導教員に報告する
第４回	博士論文の構成の報告	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第５回	プロポーザル論文執筆指導	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法、博士論文構成に基づいたプロポーザル論文執筆の指導を副指導教員からうける
第６回	博士コース中間報告会①	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している
第７回	博士コース中間報告会②	博士コース中間報告会に参加し、「研究計画書」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究を計画的かつ着実に進めてください。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿の準備も大事です。ワークショップでの発表後、アドバイス、批評、その他のフィードバック、自分の考えなどを整理しておくこと。それをもとに課題を整理し、学位論文に向けた継続的な研鑽を積むことが必要とされます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(A マイナス) 以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅡ A、Ⅱ B を受講することができます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

(Leaning activities outside of classroom)

You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅱ A and/or Ⅱ B.

MAN700F1 － 0009

博士コースワークショップⅡA

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡＡでは、中間報告会での報告が、ステップ２のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けた有意義な助言を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第２回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第３回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第４回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第５回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第６回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している。
第７回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、7 月第 1 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

研究を計画的かつ着実に進めてください。コース・ワークショップでの発表に必要な準備を行うとともに、学会発表や査読付き雑誌への投稿の準備も大事です。ワークショップでの発表後、アドバイス、批評、その他のフィードバック、自分の考えなどを整理しておくこと。それをもとに課題を整理し、学位論文に向けた継続的な研鑽を積むことが必要とされます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(A マイナス) 以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅢ A、Ⅲ B を受講することができます。なお、論文ワークショップⅡ A の合格者は、論文ワークショップⅡ B を受講する必要はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅠ A またはⅠ B において、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

The requirements of Dissertation Workshop Ⅱ A are to write (1) a review article of previous studies and (2) at least one (empirical) article equivalent to one chapter that will constitute your dissertation.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the second step or step two of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on the submitted papers including both a literature review study and at least one (empirical) study equivalent to one chapter of dissertation.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments of your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students and participants through Q and A sessions.
(Learning objectives)
The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.
For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.
(Leaning activities outside of classroom)
You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅲ A and/or Ⅲ B. Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅱ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅱ B.

MAN700F1 － 0010

博士コースワークショップⅡＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会での報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数教員からの批判、助言、質問等を受けられる良い機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅡＢでは、中間報告会での報告が、ステップ２のクリアに求められる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ２となる「先行研究のサーベイ論文と博士論文を構成する章（少なくとも１章分）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会における複数の教員あるいは博士課程大学院生等からの質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けた有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に向けた中間的な成果を中間報告会において報告し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生、研究生は、研究科長の許可を得たうえで参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「研究計画書」の再検討及び現状の研究成果の報告	「研究計画書」の再検討の結果、及びそれに基づく研究成果を副指導教員に報告する
第２回	先行論文サーベイと、研究報告①	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第３回	先行論文サーベイと、研究報告②	「研究計画書」に基づく先行論文のサーベイと、研究の位置づけを副指導教員に報告する
第４回	博士論文を構成する章の報告①	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第５回	博士論文を構成する章の報告②	研究テーマ・論文サーベイ・研究方法に基づく、博士論文構成を副指導教員に報告する
第６回	博士コース中間報告会①	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。
第７回	博士コース中間報告会②	博士論文の中間報告会に参加し、提出した「サーベイ論文と構成章(論文)」に基づいて報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(A マイナス) 以上の単位を取得した合格者は、次のクラスの論文ワークショップⅢ A、Ⅲ B を受講することができます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップＩＡまたはＩＢにおいて、A-評価以上の修得者のみ、履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The series of Dissertation Workshop classes (Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ) aim at students who have been writing a doctoral dissertation. Each workshop requires that students make a mandatory presentation at the mid-year interim debriefing at least once during an academic year. The debriefing is carried out in accordance with the three-step-system encouraging completion of the doctoral dissertation steadily and in a planned way.

The debriefing session will give you a good opportunity to get comments, advice, questions, and other feedbacks from various professors, as well as a place to improve yourself via friendly competition with other students and by sharing useful information including research methods and different points of views.

The requirements of Dissertation Workshop Ⅱ A are to write (1) a review article of previous studies and (2) at least one (empirical) article equivalent to one chapter that will constitute your dissertation.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the second step or step two of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on the submitted papers including both a literature review study and at least one (empirical) study equivalent to one chapter of dissertation. For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments of your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students and participants through Q and A sessions.

(Learning objectives)

The goal of this class is to pass the first step or step one of the dissertation examination. In order to do that, you are required to make a presentation based on a submitted research proposal including (1) issues and research questions based on the critical literature review of previous studies on your fields of subjects, (2) methods you will adopt, (3) the dissertation organization, (4) the writing schedule.
For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.
(Leaning activities outside of classroom)
You should steadily progress your research in a planned way. Preparation for the requisite presentation in the workshop as well as making provisions on academic conferences and posting to peer-reviewed journals is needed. After the workshop presentation, you should organize advice, criticisms, other feedbacks, and your thoughts. Based on those works, you should sort tasks and improve your studies continuously for your dissertation.
(Grading Criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, presentations, responses in the Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to take the next class of Dissertation Workshop Ⅲ A and/or Ⅲ B.

MAN700F1 － 0011

博士コースワークショップⅢＡ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢＡでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程大学院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第２回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第３回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第４回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第５回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第６回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、７月第１土曜日を予定している。
第７回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、７月第１土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(A マイナス) 以上の単位を取得した合格者には、博士論文を提出する権利が与えられます。

なお、博士論文ワークショップⅢ A の合格者は、博士論文ワークショップⅢ B を受ける必要はありません。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者のみが履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

In addition, all doctoral students in the Graduate School of Business Administration who will not be reporting on the mid-year interim debriefing should also participate in the workshop. The master's course graduate students and research students may participate the workshop with the permission of the Dean of the Graduate School.

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and hold a presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

(Learning objectives)

The student is required to submit a "Research that corresponds to the overall concept and main part (chapter) of the doctoral dissertation", which is Step 3 of the doctoral dissertation, and to submit a report based on this thesis.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

The doctoral dissertation must include at least one paper that has been published (or is scheduled to be published) in a peer-reviewed journal or equivalent. If the thesis is co-authored, a document certifying that the primary author of the thesis is the person submitting the doctoral thesis must be submitted.

(Learning activities outside of classroom)

The students will systematically and steadily prepare for the interim report by presenting their research at academic conferences as well as doctoral exercises and submitting papers to peer-reviewed academic journals. After the interim report, the students will organize advice and criticisms from faculty members and graduate students, and provide feedback to improve the dissertation.
(Grading criteria)
Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentation, responses in Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to submit a doctoral dissertation.
Note that students who passed the Dissertation Workshop Ⅲ A examination do not have to take Dissertation Workshop Ⅲ B.

MAN700F1 － 0012

博士コースワークショップⅢＢ

経営学専攻　専任教員

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士コースワークショップは、経営学専攻における博士論文執筆中の学生を対象としており、中間報告会における報告が主たる内容となる。中間報告会は、博士論文執筆が計画的かつ着実に進むように設定された３段階のステップ制に基づいて行われる。中間報告会は、複数の教員からの指導、助言、あるいは批判や疑問を受けることができる機会であると同時に、博士課程大院生が互いの研究の技法や情報を共有することで、相互に研鑽が積める場でもある。

博士コースワークショップⅢＢでは、中間報告会での報告で、ステップ３のクリアに求められる「博士論文の全体構成と主要な部分（章）に該当する研究」の水準に達するように、主指導教員および副指導教員による指導が行われる。

【到達目標】

博士論文のステップ３となる「博士論文の全体構想と主要な部分（章）に該当する研究」論文の提出と、それに基づいた報告が求められる。

主指導教員および副指導教員による指導のみならず、中間報告会に参加した複数の教員あるいは博士課程大学院生等との質疑応答を通じて、質の高い博士論文執筆に向けて有意義な助言を得ることができる。

なお、博士論文には、査読雑誌あるいはこれに準ずる雑誌に掲載された（掲載予定を含む）論文を１本以上含む必要がある。論文が共著の場合は、論文の主たる執筆者が博士論文の提出者であることを証明する文書の提出が必要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連、特に「DP1」は強く関連している。

【授業の進め方と方法】

博士後期課程の学生は、クリアすべきステップに向けて、論文もしくはそれに準ずる文書を作成し、主指導教員および副指導教員より随時指導を受ける。そして、博士論文完成に至るまでの中間的な成果を中間報告会で発表し、複数の教員から批判や助言をもらい、参加者との質疑応答を経て、ステップ判定を受けることになる。

なお、中間報告会には、報告しない博士課程大学院生も全員参加すること。修士課程の大学院生や研究生は研究科長の許可を得て参加することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第１回	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果報告	「サーベイ論文と構成章 (論文)」の再検討の結果、及びそれに基づく現状の研究成果を副指導教員に報告する
第２回	博士論文全体構成の提示と検討	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第３回	博士論文全体構成の提示と検討②	「研究計画書」と「サーベイ論文と構成章 (論文)」に基づき、博士論文全体の構成について副指導教員に報告する
第４回	主要章の報告①	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第５回	主要章の報告②	全体構成に基づく博士論文の主要章を副指導教員に報告する
第６回	博士コース中間報告会①	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。
第７回	博士コース中間報告会②	博士コースの中間報告会に参加し、博士論文の「全体構成」を提示するとともに、主要章の論文を報告する。原則、12 月第 3 土曜日を予定している。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

博士演習はもとより学会での研究発表や査読付き学術誌への論文投稿を通して、中間報告に向けた事前準備を計画的かつ着実に進める。中間報告会終了後には、教員および大学院生からの助言や批判点を整理した上で、論文改善へのフィードバック作業を進める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、提出された論文、発表、質疑応答等を考慮して、主指導教員、副指導教員、研究科長が評価し、経営学研究科教授会で審議して決定します。

A-(A マイナス) 以上の単位を取得した合格者には、博士論文を提出する権利が与えられます。

【学生の意見等からの気づき】

『博士演習』授業との連携を高め、より効果的に博士論文が執筆できるよう努める。

【その他の重要事項】

博士コースワークショップⅡＡまたはⅡＢにおいて、A-評価以上の修得者（ステップ２の合格者）のみが履修可能である。

受講生の要望や進行状況によって適宜授業計画を修正することが想定される。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The Dissertation Workshop is intended for doctoral students in the department of business administration who are in the process of writing a doctoral dissertation. Each student will prepare a dissertation research proposal and hold a presentation at colloquium. Research proposals are examined and assessed by supervisors and judged whether required step is cleared or not.

(Learning objectives)

The student is required to submit a "Research that corresponds to the overall concept and main part (chapter) of the doctoral dissertation", which is Step 3 of the doctoral dissertation, and to submit a report based on this thesis.

For the writing of a superior dissertation, you will be able to learn a lot from the advice and comments from your instructor and sub-instructor, as well as those of other faculties, graduate students, and participants through Q and A sessions.

The doctoral dissertation must include at least one paper that has been published (or is scheduled to be published) in a peer-reviewed journal or equivalent. If the thesis is co-authored, a document certifying that the primary author of the thesis is the person submitting the doctoral thesis must be submitted.

(Learning activities outside of classroom)

The students will systematically and steadily prepare for the interim report by presenting their research at academic conferences as well as doctoral exercises and submitting papers to peer-reviewed academic journals. After the interim report, the students will organize advice and criticisms from faculty members and graduate students, and provide feedback to improve the dissertation.

(Grading criteria)

Grading will be decided by deliberation in the faculty meeting of the Graduate School of Business Administration based on the evaluation assessed by your main instructor, sub instructor, and the dean considering submitted papers, qualities of presentation, responses in Q and A sessions, and others.
Successful applicants given higher than A-(A minus) credit will be entitled to submit a doctoral dissertation.

法政大学
HOSEI University